

千葉県八千代市

# 殿内遺跡 b 地点

— 公共事業関連遺跡発掘調査報告書Ⅳ —

2009

八千代市教育委員会

千葉県八千代市

とのうち  
殿内遺跡 b 地点

— 公共事業関連遺跡発掘調査報告書Ⅳ —



2009

八千代市教育委員会

# 凡 例

- 1 本書は、八千代市村上1170-2に所在する殿内遺跡b地点の発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査は、(仮称)八千代市歴史民俗資料館建設(平成2年当時)に先行して、八千代市教育委員会が平成2年度から4年度発掘調査事業として実施した。
- 3 発掘調査・本整理は以下のとおり実施した。

## 確認調査

期 間 平成2年8月20日～8月27日  
面 積 466.5㎡/4,800㎡  
担 当 朝比奈 竹男

## 第1次本調査

期 間 平成2年10月22日～平成3年7月11日  
面 積 4,800㎡  
担 当 朝比奈 竹男・森 竜哉

## 第2次本調査

期 間 平成4年6月19日～9月10日  
面 積 550㎡  
担 当 秋山 利光

## 本整理

期 間 平成15年2月1日～平成21年1月30日  
担 当 森 竜哉  
伊藤 弘一(平成16年3月31日まで)

- 4 本書の編集は森が、執筆は、中野修秀が第2章第1節・第2節・第3節の一部・第4節～6節をそれ以外を森がおこなった。
- 5 現場の遺構、遺物写真は朝比奈、秋山が、報告書掲載の遺物は高屋が撮影した。
- 6 本書の作成・刊行については、下記の調査員・整理補助員と森が協力して行い、森が統括した。  
[調査員] 伊藤弘一 中野修秀  
[整理補助員] 居井杏子 小林孝彰 小林未奈 小弓場直子 高屋麻里子 立松紀代美 寺澤洋子 野中則子 山下千代子
- 7 出土遺物、実測図等の資料は、八千代市教育委員会が保管している。
- 8 本書の遺構番号は第1次の50Pを33Dに、第2次の1Dを31D、2Dを32D、P-01を56P、P-02を57P、M-04を58P、P-07を59P、P-08を60Pとした。それら以外は発掘調査時の番号を使用している。
- 9 遺構・遺物の縮尺は下記のとおりに統一しているが、位置図、全体図等は別記した。  
[遺構] 竪穴住居跡(D)・掘立柱建物跡(H)・方形周溝墓(HS) 1/80 ビット(P) 1/40  
[遺物] 土器1/4 石製品・土製品・鉄器1/2 石鏃・剥片類2/3
- 10 遺物実測図中の土器断面のヒゲ線は、切離さないしへら削り調整の範囲を示している。
- 11 土器実測図の中軸線サイドの空きは、復元実測を示している。
- 12 遺構・遺物のスクリーントーンは下記のとおりに統一している。



焼土・赤彩



カマド袖・須恵器・黒色処理

- 13 本書使用の地形図等は、下記のとおりにある。  
第1図 参謀本部陸軍部測量局発行 1/20,000第一軍管区地方迅速測図(明治15年発行)  
第3図 八千代市発行 1/2,500八千代都市計画基本図
- 11 発掘調査から整理作業において下記の諸氏・機関にご指導、ご協力いただきました。記して感謝いたします。(敬称略)  
田中裕 藤岡孝司 (故)松田礼子 松本太郎 道上文 千葉県教育庁文化財課  
八千代市教育委員会

# 本文目次

## 凡例

### 第1章 序説

第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査の方法と経過	1
第3節 周辺の遺跡	1

### 第2章 検出された遺構と遺物

第1節 旧石器時代	7
第2節 縄文時代	8
第3節 古墳・奈良・平安時代の堅穴住居跡	8
第4節 掘立柱建物跡 (H)・方形周溝墓 (HS)・ピット (P)	90
第5節 中世以降	99
第6節 遺構外出土遺物	102

### 第3章 まとめ

第1節 旧石器時代	104
第2節 縄文時代	104
第3節 弥生時代	104
第4節 古墳時代	104
第5節 奈良・平安時代	104
第6節 奈良・平安時代の時間軸について	105

# 挿図目次

第1図 周辺の遺跡	2	第17図 05D出土遺物	20
第2図 遺跡周辺の地形	3	第18図 06D遺構実測図 (1)	22
第3図 遺跡の位置	5	第19図 06D遺構実測図 (2)	23
第4図 版内遺跡遺構配置図	6	第20図 06D遺物分布図	23
第5図 旧石器時代出土遺物	7	第21図 06D出土遺物	23
第6図 縄文時代出土遺物	7	第22図 07D遺構実測図	24
第7図 02D遺構実測図	9	第23図 07D遺物分布図	25
第8図 02D出土遺物	10	第24図 07D出土遺物 (1)	25
第9図 04D遺構実測図 (1)	12	第25図 07D出土遺物 (2)	27
第10図 04D遺構実測図 (2)	13	第26図 08D遺構実測図	28
第11図 04D遺物分布図	14	第27図 08D出土遺物 (1)	28
第12図 04D出土遺物 (1)	15	第28図 08D出土遺物 (2)	29
第13図 04D出土遺物 (2)	17	第29図 08D出土遺物 (3)	30
第14図 04D出土遺物 (3)	18	第30図 09D遺構実測図	31
第15図 05D遺構実測図 (1)	19	第31図 09D遺物分布図	32
第16図 05D遺構実測図 (2)	20	第32図 09D出土遺物	32



第33图	10D 遺構実測図	33	第82图	22D 出土遺物 (2)	68
第34图	10D 遺物分布図	34	第83图	23D 遺構実測図	69
第35图	10D 出土遺物	34	第84图	23D 遺物分布図	69
第36图	11D 遺構実測図	35	第85图	23D 出土遺物	69
第37图	11D 出土遺物 (1)	35	第86图	24D 遺構実測図	71
第38图	11D 出土遺物 (2)	36	第87图	24D 遺物分布図	71
第39图	12D 遺構実測図	37	第88图	24D 出土遺物 (1)	71
第40图	12D 出土遺物 (1)	37	第89图	24D 出土遺物 (2)	72
第41图	12D 出土遺物 (2)	38	第90图	25D 遺構実測図	73
第42图	12D 出土遺物 (3)	39	第91图	25D 遺物分布図	73
第43图	13D 遺構実測図	40	第92图	25D 出土遺物 (1)	73
第44图	13D 遺物分布図	41	第93图	25D 出土遺物 (2)	74
第45图	13D 出土遺物 (1)	41	第94图	26A B D 遺構実測図	75
第46图	13D 出土遺物 (2)	42	第95图	26A B D 遺物分布図	76
第47图	14D 遺構実測図	43	第96图	26A B D 出土遺物	76
第48图	14D 遺物分布図	44	第97图	26C D 遺構実測図	78
第49图	14D 出土遺物	44	第98图	26C D 遺物分布図	78
第50图	15D 遺構実測図 (1)	45	第99图	26C D 出土遺物 (1)	78
第51图	15D 遺構実測図 (2)	46	第100图	26C D 出土遺物 (2)	79
第52图	15D 遺物分布図	46	第101图	27D 遺構実測図 (1)	79
第53图	15D 出土遺物 (1)	46	第102图	27D 遺構実測図 (2)	80
第54图	15D 出土遺物 (2)	47	第103图	27D 出土遺物	80
第55图	16D 遺構実測図	48	第104图	28D 遺構実測図	81
第56图	16D 遺物分布図	49	第105图	28D 出土遺物	81
第57图	16D 出土遺物	49	第106图	29A B D 遺構実測図	82
第58图	17D 遺構実測図 (1)	50	第107图	29A B D 遺物分布図	83
第59图	17D 遺構実測図 (2)	51	第108图	29A D 出土遺物	83
第60图	17D 遺物分布図	51	第109图	29B D 出土遺物 (1)	83
第61图	17D 出土遺物 (1)	51	第110图	29B D 出土遺物 (2)	84
第62图	17D 出土遺物 (2)	52	第111图	30D 遺構実測図	85
第63图	18D 遺構実測図	53	第112图	30D 遺物分布図	86
第64图	18D 遺物分布図	54	第113图	30D 出土遺物	86
第65图	18D 出土遺物	54	第114图	31D 遺構実測図	87
第66图	19D 遺構実測図	55	第115图	32D 遺構実測図	87
第67图	19D 遺物分布図	56	第116图	33D 遺構実測図	88
第68图	19D 出土遺物	56	第117图	33D 出土遺物	89
第69图	20D 遺構実測図	58	第118图	01H 遺構実測図	91
第70图	20D 遺物分布図	59	第119图	01H S 遺構実測図	91
第71图	20D 出土遺物 (1)	59	第120图	05P ~ 15P 遺構実測図	93
第72图	20D 出土遺物 (2)	60	第121图	16P ~ 29P 遺構実測図	95
第73图	20D 出土遺物 (3)	62	第122图	31P ~ 39P 遺構実測図	97
第74图	21D 遺構実測図	63	第123图	41P ~ 49P 遺構実測図	98
第75图	21D 遺物分布図	64	第124图	53P · 55P 遺構実測図	99
第76图	21D 出土遺物 (1)	64	第125图	56P · 57P 遺構実測図	100
第77图	21D 出土遺物 (2)	65	第126图	58P · 59P 遺構実測図	101
第78图	21D 出土遺物 (3)	66	第127图	59P 出土遺物	101
第79图	22D 遺構実測図	67	第128图	60P 遺構実測図	101
第80图	22D 遺物分布図	67	第129图	60P 出土遺物	101
第81图	22D 出土遺物 (1)	67	第130图	遺構外出土遺物	103

第131図	八千代市内の壹田Ⅰ期以前の遺物 ………	107
第132図	八千代市内の壹田Ⅱ期の遺物 ………	109
第133図	八千代市内・周辺の壹田Ⅲ期の遺物 ………	110
第134図	八千代市周辺の壹田Ⅳ期以降の遺物 ………	110

附図1	八千代市域における谷津名称 (暫定版)
附図2	八千代市域における台・谷・支台・支谷名称
附図3	八千代市域における小支台・小支谷名称

## 写真図版目次

図版1	02D 遺物出土状態 同左拡大	図版7	25D 完掘 カマド完掘
	04D 遺物出土状態 同左拡大		26D A・B・C・D完掘
	完掘 Aカマド完掘		A・B・D完掘
	Bカマド完掘		B・C・D完掘
	Cカマド完掘		B・Dカマド完掘
図版2	05D 完掘 カマド完掘		27D 完掘
	06D 完掘 カマド完掘		28D 完掘
	07D 完掘 カマド完掘	図版8	29D A・D完掘
	08D 完掘 カマド完掘		B・D完掘
図版3	09D 完掘 カマド遺物出土状態		A・B・30D完掘
	カマド袖部除去状態		B・Dカマド完掘
	10D 完掘		掘立柱建物跡 完掘
	12D A・B・D完掘		方形周溝墓 完掘
	BD完掘	図版9	6P・16P・17P・18P 完掘
	BDカマド遺物出土状態		23P・27P・28P・31P 完掘
	BDカマド完掘	図版10	32P・34P・42P 完掘
図版4	13D 完掘 カマド完掘		41P・45P・46P・48P 完掘
	14D 完掘 カマド完掘	図版11	旧石器・縄文式土器・縄文石器
	15D 完掘 カマド完掘		02D・04D出土遺物
	16D 完掘 カマド完掘	図版12	04D(2)~07D出土遺物
図版5	17D 完掘 カマド完掘	図版13	08D~12D出土遺物
	18D 完掘 カマド完掘	図版14	13D~17D出土遺物
	19D 完掘 カマド完掘	図版15	17D(2)~20D出土遺物
	20D 完掘 カマド完掘	図版16	20D(2)~22D出土遺物
図版6	21D 完掘 カマド完掘	図版17	22D(2)~26D出土遺物
	22D 完掘 カマド完掘	図版18	26D(2)~33D出土遺物
	23D 完掘 カマド完掘	図版19	42P・緑釉陶器・鉄製品・石製品
	24D 完掘 カマド完掘		炭化種子・近世土製品 (泥団子)

### 台地名・谷名の呼称に関して

従来の報告書の多くが、遺跡の地理的環境を述べる際に、「○○水系」や「○○川右岸」などの表現を採用していた。また、「台地」「谷」「支台」「支谷」という用語を用いる場合は、総称としてであったり、報告者が個人的に仮称したりする他はなかった。地名・字名や道跡名と同様に、台地名や谷名もまた、固有名であることが望ましいと思われる。

そこで今回、八千代市域における台地名・支台名・小支台名、谷名・支谷名及び小支谷名を、命名することにした。

命名法は、台地の場合は知名度が高いか、広い面積を有する字名を用い、○○台 (例 村上台) とし、支台及び小支台は、小字名を用いた。谷の場合は河川名を用い、○○川谷 (例 新川谷) としたが、その他では小字名の○○谷津 (例 相女谷津) としたのものを含む。支谷及び小支谷は、そのほとんどが小字名を用いた。これら命名の成果として、2枚の図 (折込図) を付したので、参照されたい。

時を同じくして、環境保全課の水資源調査の一環で、市内に所在する谷に対する命名が行われていた。谷の区分や命名法など、本書の内容とは必ずしも一致しないが、八千代市における公式名称であるため、付図にて掲載した。

# 第1章 序 説

## 第1節 調査に至る経緯

昭和58年8月、八千代市長から（仮称）八千代市郷土資料館建設のため当該地にかかる埋蔵文化財の有無について、八千代市教育委員会にて照会文書が提出された。これを受け市教育委員会が現地踏査を実施し、千葉県教育委員会に照会地及び周辺において土師器等散布している状況を届申した。二者において更に現地踏査を行った結果、全域に遺跡が所在している可能性が高い旨結論を得た。昭和59年3月八千代市長に遺跡が所在する旨を回答した。

その後、予定地に変更がなく事業を進める旨の判断があり、事業計画が具体化した平成2年度において発掘調査を実施することとなった。確認調査は、土木工事にかかる発掘の通知が平成2年6月に提出された後、平成2年8月に着手した。その結果、学校跡地であった校舎の基礎によるカクランは著しかったものの、カマドを伴う堅穴住居跡等の遺構や土師器・須恵器等遺物が全域に確認された。

## 第2節 調査の方法と経過

確認調査の成果から、表土下がソフトロームという基本層序であり、遺物包含層については部分的に遺存する境界付近を考慮することとし、基本的にソフトローム層上面を確認面とした。

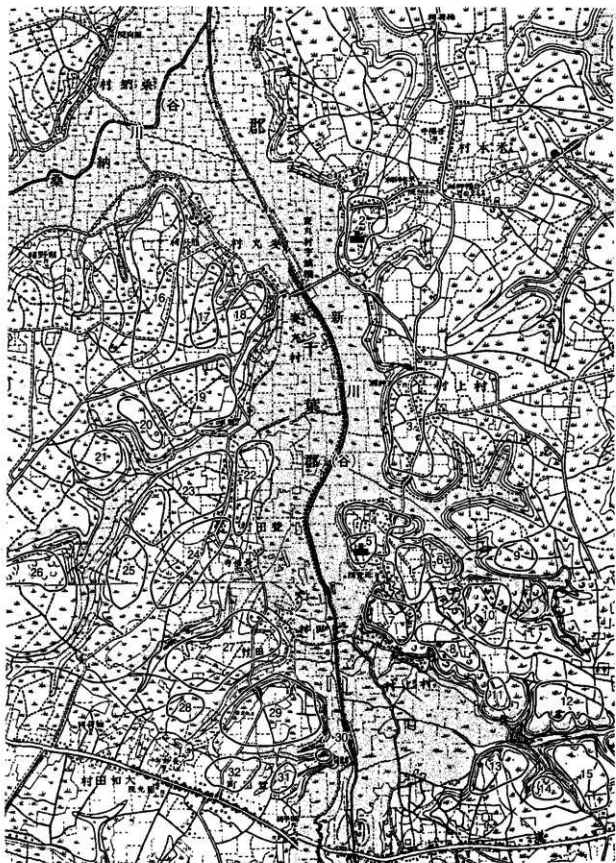
調査区の設定は、公共座標系に沿って10m方眼を設定し1グリッドとした。1グリッド内を5m方眼として四分割し小グリッドとした。呼称方法は東西にアルファベット、南北にローマ数字とし、A-1-1～4Gというように5m範囲をもって遺構外出土遺物の取り上げや遺構位置を呼称した。

1次・2次の本調査期間等については凡例に示したとおりであり、2次調査は進入路の取り付けに際して行ったものである。

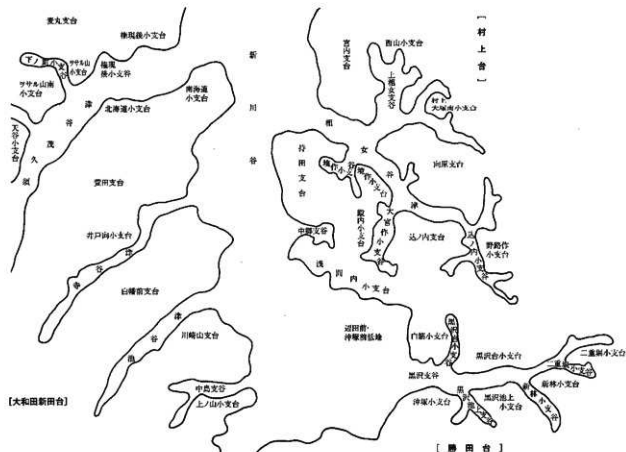
## 第3節 周辺の遺跡（第1図）

八千代市は千葉県の北半を占める下総台地上に位置する。台地の標高は総じて20～50mであるが、市域では20～30mである。市内での標高の最高点は南西部の39.1m、最低点は北部の神崎川と新川の合流地点の1.1mである。台地の形状は、おおまかに南西部が高く、東から北に向って高度を減じている。このため、河川の流れる方向も東ないし北となる傾向がみられる。台地を開析する河川は、市域中央を北流していた新川を核として、東流して新川に合流する神崎川、桑納川、高津川、北流して花見川と新川の分水嶺付近に至る勝田川、北流して印旛沼南岸に至る井野川に分類される。また、台地はおおむね3枚の段丘からなり、標高25～30mの下総上位面、標高20～25mの下総下位面、標高11～15mの千葉段丘面に分けられる。5m以下は沖積地である。市内の遺跡はこの3枚の段丘上に位置し、殿内遺跡は新川東岸の下総下位面に占地している。

新川（谷）に面した村上地区、対岸の爰丸・萱田地区の遺跡について概観してみる。1は今回調査を行った殿内遺跡である。2は米本城跡で、舌状台地を利用した直線連郭式の縄張りを持つ。3は村上宮内遺跡で、過去2回の確認調査において縄文時代中・後期の土器片、古墳時代前期の堅穴住居跡群、奈良・平安時代の須恵器・土師器片の遺物等が検出された。4の持田遺跡では、過去2回の確認及び本調査において古墳時代後期後半の堅穴住居跡12軒が検出されている。5は正覚院館跡で、台地末端部の造成によって、空堀・土塁を巡らしている。昭和59年から平成16年に亘る4回の調査において、主として遺物から13世紀後半から16世紀代に至る宗教の場・防御性をもつ館としての性格が想定された。6の境作遺跡では、昭和60年の本調査において、奈良平安時代を中心として13軒の堅穴住居跡が検出された。7の浅間内遺跡は平成2年から平成16年に亘る土地区画整理事業に伴う発掘調査で、多大な成果を得て



第1図 周辺の遺跡 (S=1/20,000)



第2図 遺跡周辺の地形

おり、縄文時代から中近世に亘る複合遺跡である。縄文時代で特筆されることは、中期中ばの竪穴住居跡・土坑等の遺構や同時期の土器がまとめて発見されたことである。また、中近世では正覚院館跡関連と想定できる地下式坑・火葬墓・溝等の遺構が検出された。8の白筋遺跡・根上神社古墳も同事業に伴う調査等によって一角の土地利用が明らかとなった遺跡である。古墳周辺には奈良・平安時代の竪穴住居跡は希薄で、白筋遺跡では特殊な掘立柱遺構が検出されており、古墳の聖域化が図られた可能性がある。9は名主山遺跡で、昭和46年の市教育委員会の調査において、竪穴住居跡では弥生時代後期1軒、奈良・平安時代6軒、掘立柱建物跡では奈良・平安時代6棟で、その内総柱式4棟を含んでいる。10は村上込の内遺跡で、台地上を面的に調査し、その成果が公表されており著名である。遺構は、弥生時代後期の竪穴住居跡14軒、古墳時代終末期の方墳1基、奈良・平安時代の竪穴住居跡155軒・同掘立柱建物跡24棟等が検出された。11の村上第1塚群は、古墳を含む14基で構成される。12の黒沢台遺跡・黒沢台古墳では、方墳1基が調査され、他に土師器が出土した。13の沖塚遺跡・沖塚古墳は、旧石器時代遺物集中地点、縄文時代早・後期炉穴1・陥穴10・ピット82、古墳時代前期鍛冶工房跡1、奈良・平安時代方形周溝遺構1、平安時代竪穴住居跡1軒が検出されている。古墳は23mの円墳で、貝化石岩の横穴式石室の主体部をもつ。墳頂部及び斜面から須恵器壺甕類が出土している。出土遺物から7世紀中ばの築造と想定されている。14の黒沢池上遺跡、15の新林遺跡では、縄文時代前期後半から中期中ば、中期後半から末葉の竪穴住居跡、土坑等が集中して検出された。16は麦丸遺跡で、縄文時代早、前、中期の遺物、早期炉穴が検出された。17の麦丸宮前上遺跡では、奈良時代の竪穴住居跡4軒が散発的に検出されている。菅地ノ台遺跡、権現後遺跡の分村と考えたい。18の菅地ノ台遺跡は、縄文時代では陥穴1基と少ない成果だが、弥生時代後期、古墳時代前期から中期、奈良・平安時代の竪穴住居跡が発見されている。また、奈良・平安時代では、掘立柱建物跡も検出された。19. 20. 23. 24. 25. 27の

各遺跡は土地区画整理事業にかかる発掘調査を実施し、多大な成果をあげた萱田遺跡群である。19の権現後遺跡では、旧石器時代遺物集中心地点27カ所、弥生時代後期、古墳時代前・中・後期、奈良・平安時代にわたる堅穴住居跡、方形周溝墓、方形周溝遺構等の遺構が検出されている。20のヲサル山遺跡では、旧石器時代遺物集中心地点29カ所、縄文時代では早期後半の炉穴19基、陥穴、中期の堅穴住居跡等、弥生時代終末期から古墳出現期の堅穴住居跡が34軒とまとまって検出された。奈良・平安時代ではわずかに堅穴住居跡2軒・掘立柱建物跡1棟である。21はヲサル山南遺跡で、2地点の発掘調査において、縄文時代中期堅穴住居跡8軒・土坑7基等、奈良・平安時代堅穴住居跡4軒が検出されている。22は南海道遺跡で、現在まで調査事例はないが、低台地上の千葉段丘面における遺跡立地として興味深い。23の北海道遺跡では、旧石器時代ブロック63カ所、縄文時代の空白期を経て、弥生時代後期、古墳時代中・後期、奈良・平安時代の堅穴住居跡や掘立柱建物跡が検出された。古墳時代中・後期には中期を中心に石製模造品工房跡が発見されている。24は井戸向遺跡である。旧石器時代ブロック34カ所、弥生時代後期6軒、古墳時代前期31軒、奈良・平安時代95軒の堅穴住居跡、奈良・平安時代では他に掘立柱建物跡44棟・井戸跡10基が検出された。25は坊山遺跡で、旧石器時代ブロック31カ所、縄文時代堅穴住居跡（中期か）1軒が発見されたのみである。須久茂谷津対岸の26の向山遺跡では、旧石器時代剥片、縄文時代前期後半から中期中ばの遺物包含層を中心として、遺構では土坑が検出された。全体に遺構密度は薄い。27は白輪前遺跡で、旧石器時代ブロック56カ所、堅穴住居跡では弥生時代後期17軒、古墳時代後期5軒、奈良・平安時代279軒で、奈良・平安時代では他に掘立柱建物跡150棟が検出されており群を抜いている。以上、萱田遺跡群では、須久茂谷津やや奥部で縄文時代を中心とした遺構が展開し、須久茂谷津中程から開口部及び寺谷津兩岸において、弥生時代後期以降の遺構が展開していることが理解されよう。28の池の台遺跡では、過去6地点の調査において縄文時代土坑1基・縄文早・中期の土器片、平安時代堅穴住居跡6軒・土坑2基等が検出された。29の川崎山遺跡は平成21年2月現在で、14地点の調査を行っており、ほぼ遺跡範囲の60～70%程度についての知見が得られている。縄文時代では、エリア全体に陥穴39基、他に土坑が、遺物では遺跡の位置する川崎山支台の西側部分で、西谷津に面した縁辺部において中期中ばから中期中ばの土器類が出土する。堅穴住居跡は同様に西側部分において、中期阿玉台式期4軒が検出された。縄文時代中期以降空白期があり、弥生時代後期、古墳出現期、古墳時代中期の各時期に遺構が集中する。立地としては、新川（谷）に面した支台東側である。この時期以降、平安時代に数軒程度の規模で人の足跡が見られた後、川崎山支台から人の痕跡は途絶える。30の上の山古墳は、円墳2基からなる古墳群である。沖塚・辺田前低地を囲む形で沖塚古墳、根上神社古墳が所在しており何らかの関連性が想定されよう。31は上の山遺跡で、3地点の調査が実施され、弥生時代後期の堅穴住居跡5軒が検出された。32の北裏畑遺跡は、縄文時代陥穴1基が検出されているが、近世以降の大和田宿の土地利用にかかる炭窯・土坑墓・区画溝等が発見された。

#### 参 考 文 献

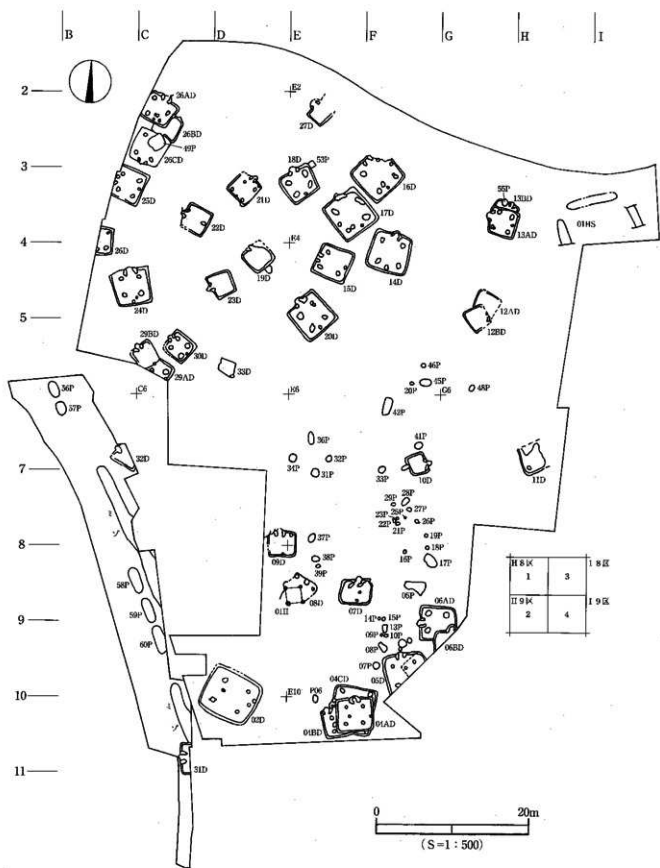
- 1 殿内遺跡 2007 八千代市教育委員会『千葉県八千代市市内遺跡発掘調査報告書 平成18年度』
- 2 米本城跡 ①1976 八千代市教育委員会・八千代市中野城跡調査団『八千代市中野城跡調査報告書』  
②2008 八千代市・八千代市史編さん委員会『八千代市の歴史 通史編 上』p.362～p.372
- 3 村上富内遺跡 ①1987 八千代市教育委員会『千葉県八千代市埋蔵文化財発掘調査報告集』  
②2002 八千代市教育委員会『千葉県八千代市市内遺跡発掘調査報告書 平成13年度』
- 4 持田遺跡 1997 八千代市教育委員会『平成6年度八千代市埋蔵文化財調査年報』
- 5 正覚院縮跡 ①4同上  
②2008 八千代市・八千代市史編さん委員会『八千代市の歴史 通史編 上』p.376～p.384
- 6 境作遺跡 1987 千葉県教育庁文化課『千葉県埋蔵文化財発掘調査抄報 昭和60年度』
- 7 浅間内遺跡 ①2003 八千代市教育委員会『千葉県八千代市市内遺跡発掘調査報告書 平成14年度』  
②2007 八千代市教育委員会『千葉県八千代市市内遺跡発掘調査報告書』  
③2007 八千代市遺跡調査会『千葉県八千代市浅間内遺跡・自防遺跡・沖塚遺跡』
- 8 白筋遺跡・根上神社古墳 ①7浅間内遺跡の③に同じ  
②2008 八千代市教育委員会『千葉県八千代市白筋遺跡b地点発掘調査報告書』



第3図 遺跡の位置 (S=1/5,000)

③2008 八千代市・八千代市史編さん委員会『八千代市の歴史 通史編 上』p160～p161

- 9 名主山遺跡 1971 八千代市教育委員会『名主山遺跡』  
 10 村上込の内遺跡 1974 (財)千葉県都市公社『八千代市村上遺跡群』  
 11 村上第一塚群 1972 千葉県教育委員会『八千代市村上所在古墳発掘調査概報』  
 12 黒沢台遺跡 1991 八千代市・八千代市史編さん委員会『八千代市の歴史 資料編 原始・古代・中世』p335～p337  
 13 沖塚遺跡・沖塚古墳 ①1991 八千代市・八千代市史編さん委員会『八千代市の歴史 資料編 原始・古代・中世』p340～p351  
 ②1994 (財)千葉県文化財センター『八千代市沖塚遺跡・上の台遺跡』  
 ③2007 八千代市遺跡調査会『千葉県八千代市浅間内遺跡、白鶴遺跡・沖塚遺跡』  
 14 黒沢池上遺跡 2003 八千代市遺跡調査会『黒沢池上・新林遺跡発掘調査報告書』  
 15 新林遺跡 ①141に同じ。  
 ②2007 八千代市遺跡調査会『新林遺跡c地点発掘調査報告書』  
 ③2007 八千代市遺跡調査会『二重堀遺跡・新林遺跡-千葉県八千代市埋蔵文化財発掘調査報告書』  
 ④2003 八千代市教育委員会『千葉県八千代市市内遺跡発掘調査報告書 平成14年度』  
 16 妻丸遺跡 ①1991 八千代市・八千代市史編さん委員会『八千代市の歴史 資料編 原始・古代・中世』p508  
 ②2007 八千代市教育委員会『千葉県八千代市市内遺跡発掘調査報告書 平成18年度』  
 17 妻丸宮前上遺跡 平成20年度確認調査後に本調査実施。塚穴位置跡4軒を検出したが、ほぼ奈良時代初期頃の時期に限定される。未整理。  
 18 各地ノ台遺跡 2005 八千代市教育委員会『千葉県八千代市市内遺跡発掘調査報告書 平成16年度』  
 19 権現後遺跡 ①1984 (財)千葉県文化財センター『八千代市権現後遺跡』  
 ②1994 (財)千葉県文化財センター『八千代市権現後遺跡・北海道遺跡・井戸向遺跡』  
 ③2007 八千代市教育委員会『千葉県八千代市権現後遺跡』  
 20 ツサル山遺跡 1986 (財)千葉県文化財センター『八千代市ツサル山遺跡』  
 21 ツサル山南遺跡 2008 八千代市教育委員会『千葉県八千代市逆水遺跡f地点 北高塚遺跡b地点 高津新田遺跡c地点 西山遺跡b地点 西山遺跡c地点 内野遺跡b地点 役山遺跡a地点 川崎山遺跡k地点 ツサル山遺跡b地点』  
 22 南海遺跡 1983 八千代市教育委員会『八千代市遺跡-千葉県八千代市埋蔵文化財包蔵地所在調査報告書』No.182弥生時代後期。平安時代の土器片が散見。  
 23 北海道遺跡 1985 (財)千葉県文化財センター『八千代市北海道遺跡』  
 24 井戸向遺跡 1987 (財)千葉県文化財センター『八千代市井戸向遺跡』  
 25 坊山遺跡 1993 (財)千葉県文化財センター『八千代市坊山遺跡』  
 26 向山遺跡 2009 八千代市教育委員会『千葉県八千代市市内遺跡発掘調査報告書 平成20年度』  
 27 白幡前遺跡 1991 (財)千葉県文化財センター『八千代市白幡前遺跡』  
 28 遊の台遺跡 2005 八千代市教育委員会『千葉県八千代市市内遺跡発掘調査報告書 平成16年度』  
 29 川崎山遺跡 2008 八千代市教育委員会『千葉県八千代市川崎山遺跡m地点発掘調査報告書』  
 30 上の山古墳群 1987 八千代市教育委員会『千葉県八千代市埋蔵文化財発掘調査報告書』p37  
 31 上の山遺跡 2008 八千代市遺跡調査会『千葉県八千代市上の山遺跡』  
 32 北高塚遺跡 21に同じ。



第4図 殿内遺跡遺構配置図



## 第2章 検出された遺構と遺物

### 第1節 旧石器時代

今回の野外調査では、下層調査を行っていない。しかし、整理作業になり、出土遺物の分類・接合を行う過程で、旧石器2点が抽出されたため、以下に報告したい。

なお、岩種鑑定は行っていないため、石材は報告者の判断によったことを、予めお断りしておく。

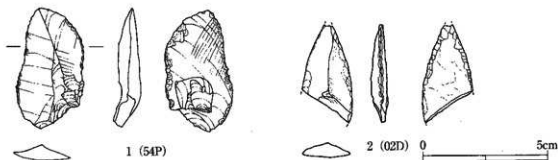
#### 石器 (第5図 図版11)

1は掻器。石刃技法により、石核から剥取された縦長剥片を素材とする。両側縁に細かな剥離調整を加えて、使用面としている。完存品。石材は黒曜石である。

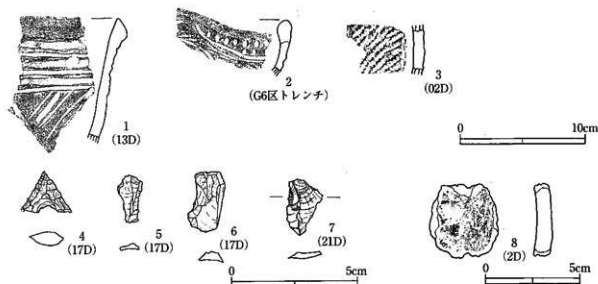
長さ4.7cm、幅2.6cm、厚さ0.6cm、重量8.2g。

2は槍先形尖頭器。石刃技法により、石核から剥取された縦長剥片を素材とする。周縁のみに細かな押圧剥離を加えて、木葉形に整形している。全体の $\frac{1}{4}$ 程度の残存で、基部を欠く他、先端部をわずかに欠損する。石材は黒色緻密安山岩で、表面の風化が認められ、その色調は暗灰色を呈する。

長さ(3.8)cm、幅1.9cm、厚さ0.55cm、重量4.1g。



第5図 旧石器時代出土遺物



第6図 縄文時代出土遺物

## 第2節 縄文時代

今回の野外調査で、縄文時代の遺構は検出されなかった。しかし、整理作業になり分類・接合を行う過程で、縄文式土器・石器類が抽出されたため、以下に報告したい。

### 縄文式土器・石器類・土製品（第6図 図版11）

1は田戸下層式土器。口縁部は外厚気味に立ち上がり、口唇部は外削ぎ状。太沈線と細沈線を交互に引いて意匠を描く。2は加曾利EⅤ式土器。波状口縁で、口縁下を沈線で画し、2列の円形刺突を充填する。その下は地文縄文2段R L施文後、磨消縄文を描くもの。3は地文縄文2段R Lを施文後、胴部磨消懸垂文を施した加曾利EⅡ式土器の胴部片である。

4は石鏃で、鋏形鏃。5～7は剃片。石材は7が黒曜石で、4～6はチャートである。

8は土器片鏃で、阿玉台I b式土器の胴部片を素材とする。長軸中央に索溝を刻む。

## 第3節 古墳・奈良・平安時代の竪穴住居跡

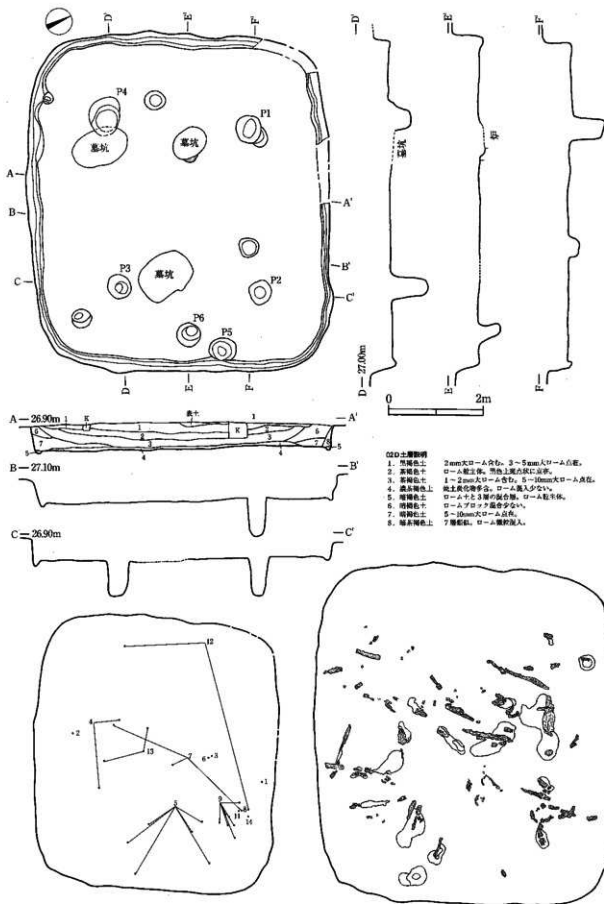
今回の調査において、主体となる遺構が検出された時期である。古墳時代では、前期前半が1軒のみであるが、他住居跡覆土からの遺物出土もあり調査区外に遺構が展開する可能性は高い。奈良時代は7世紀末葉の遺物を含めて21軒、平安時代は13軒となっている。奈良時代・平安時代共に時期差が見られる。奈良時代では7世紀末葉から8世紀前半の時期にピークが見られる。平安時代では10世紀代にピークが見られる。

### O2D（第7・8図 図版1・11）

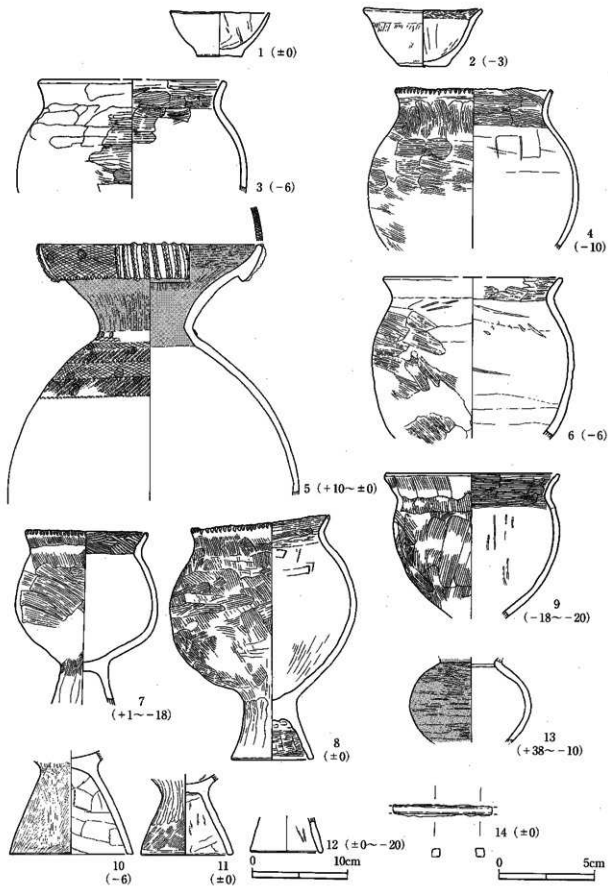
位置 D10区-1, 3Gで検出。主軸方位 N-70°-Wで西に傾く。重複関係 床面上に近世以降の墓坑が掘られる。平面形 やや東西に長い隅丸方形である。規模 6.42m×5.56m。遺構確認面からの深さ0.55m。壁 周溝からほぼ垂直に立ち上がる。床 ハードローンを掘り込んで床面としている。周溝 全周する。幅15～20cm、深さ10cmでローム土主体の暗褐色土である。炉 近世以降の墓坑に大半を切られている。P1, P4間に位置し、両者を結ぶ線の内側に作られる。ピット P1～P4が主柱穴で、深さ34cmから70cm。P6が出入口ピットで斜め方向に40cm掘り込まれる。P5は本跡に伴うと想定されるが、性格不明。覆土 8層に分層できる。1～3層が自然埋没層、5～8層が人為的埋没層である。経過としては、住居廃絶時に家屋廃材の焼却処理（4層）を行い、5～8層を埋め戻す。その後は時間的経過で自然に埋まったと想定される。炭化材はおおよそ2方向の直交状態で検出された。併せて粉状の炭化材が、本体周辺で範囲として捉えられた。遺物出土状態 ほぼ住居廃絶時の廃棄遺物である。4, 5, 7, 12は離れた位置での接合状態を示す。器種は埴・甕・台付甕・裝飾埴・埴で、口唇部刻み目の台付甕や裝飾埴に古い要素が見られる。13の埴はやや後出か。建て替え 見られない。

### O2D遺物観察表

器種	部位	計測値 (cm)			色 質	備 考	調査・文様等
		長さ	口径	底径			
1 土器類	L1辺部1-底部中央	4.7	10.4	4.8	黒茶褐色 雲母鱗片	口縁部内外面横文で 体部外側面が状の磨き。内ハケなで。 底部内面刺突みられる。	
2 土器類	L1辺部1,2-底部2/3	6.1	12.3	5	黒灰色 雲母 白色砂 黒石	口縁部内面ハケなで。 体部外側ハケは磨消磨消状なで。内ハケなで。 底部内面刺突みられる。	
3 土器類	L1辺部片-胴中央部1/5	11.9	19	—	灰褐色 白色砂 石英 雲母鱗片	口縁部外側面、内面ハケなで。 胴部内面ハケなで、部分的に磨消。内ハケなで。 底部下ハケなで。	
4 土器類	L1辺部1/4-胴下部	15.5	16.2	—	暗褐色 黒石 小石粒	口縁部外側面内面のみ。 口縁部内面ハケ目。外側面ハケ目。胴部外側ハケ目。 内ハケなで。胴部外側面が磨消状態にある。	
5 土器類	L1辺部全面-胴体上部	19.5	24 型高5.3	—	暗褐色 一層褐色 (赤砂)	外側面磨消状態横文以上に全周に12方向の磨消印文。 口縁部刻み線状横文8本1単位が4つ所。地文は磨消状横文。 磨消印文間に2層1単位の磨消印文8個。L1辺部は磨消状 ハケ目。磨消印文おおよそ15方向の磨消印文。胴部は磨消状 横文+早期横文+土状粒状文+磨消文を含む。	
6 土器類	口辺部1-胴下部1/5	17	18.6	—	灰褐色 片状 石英 雲母鱗片	L1辺部外側面なで、ハケなで。内面ハケなで。 胴部外側ハケなで、部分的に磨消。内面ハケなで。	



第7図 O2D遺構実測図



第8圖 O2D出土遺物

## 02D遺物観察表(2)

番号	部位	寸法(cm)			色 調	形 状	調査・文書等	
		長さ	幅	厚さ				
7	土師器 小壺付付 蓋	口辺部-脚部 脚部未満	18.3	12.5	—	暗褐色 ～ 暗褐色	実体 白色粒	口縁部外縁面のみ。口辺部内縁ハケ目。外縁ハケ目。 脚部外面中央部ハケ目。 脚部縁面へつ張り。側・脚部内面まで。ハケ目浅い。
8	土師器 内付壺	口辺部-脚部	26.6	14.2	脚部付 脚部未満 口辺部 先赤褐色	白色粒 暗褐色	脚部外面のみ。口辺部内縁ハケ目。外縁ハケ目。 脚部外面中央部ハケ目。内面ハケ目。 脚部外面ハケ目縁面へつ張り。内面ハケ目。ハケ目浅い。	
9	土師器 内付壺小	口辺部全縁-脚部下半部	15.3	15	—	外縁赤褐色 内縁褐色	白色粒 赤色スクリュー 雲母	口辺部外縁面ハケ目縁面まで。内面ハケ目。 脚部外面ハケ目は斜ハケ目縁面10cm。内縁ハケ目。 ハケ目浅い。
10	土師器 内付壺	脚部全縁	10.9	脚部付 12.9	—	淡褐色	黒い白色粒 雲母	脚部外面中央部以上による(浅い縁面)。 内面ハケ目。
11	土師器 付付壺	脚部全縁	7.6	—	9.4	暗赤 ～ 淡褐色	雲母細片 白色粒	脚部外縁面縁面ハケ目まで。磨き状の面。内面ハケ目。 脚部内面ハケ目。
12	土師器 付付壺	脚部1/2周	3.6	—	7.8	淡褐色	白色粒 石英	外面で脚部。内面ハケ目。
13	土師器 小壺丸 蓋	底部 一部-脚部下半部	6.9	脚部付 6.4 最大径 12.7	—	赤褐色	雲母 白色粒 石英	底部-脚部内面縁面ハケ目まで。 下部へつ張り縁面。内面ハケ目。 赤褐色。
14	漆器 紡錘車輪		6.2	厚さ0.4 cmの四角	—	～	重さ47g	紡錘車輪部

## 04D(第9～14図 図版1・11・12)

3軒の重複である。CD→BD→ADの新旧関係が捉えられる。

## [04AD]

位置 F10区-1Gを中心に検出。主軸方位 N-2°-Wでほぼ北方位。重複関係 04BD, 04CDを切る。平面形 やや東西に長い方形である。規模 4.5m×4.15m, 遺構確認面からの深さ0.5m。

壁 周溝からはほぼ垂直に立ち上がる。床 ハードローンを掘り込んで床面としている。周溝 北東コーナーと南辺部を除いて周回する。幅15～20cm, 深さ10cmでローム土主体の暗褐色土である。

カマド 北壁中央に壁を掘り込んで作られる。袖部前面に焼土散る。火床はそう焼けてない。煙道部は火床奥から角度をもって立ち上がる。カマド位置は周溝掘削時に火床部を決定し、作られた。ピット P1～P4が支柱穴で、深さ40cm。P5は出入口ピットである。覆土 9層に分层できる。暗褐色土主体の自然埋没層と想定される。遺物出土状態 住居構築時の他住居跡の遺物混入が見られるため、遺物の出土位置からは帰属遺構の特定はむずかしい状況である。カマド内出土須恵器甕類22.31～34が確実に本跡に伴う遺物である。建て替え 見られない。

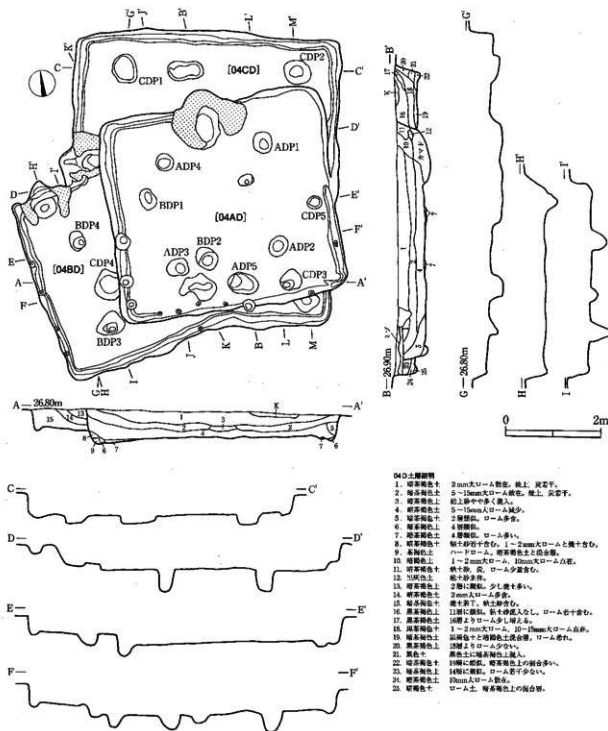
## [04BD]

位置 E10区-3Gで検出。主軸方位 N-14°-Wでやや西に振れる。重複関係 04ADに切られ、04CDを切る。平面形 方形に想定される。規模 4.0m×4.0m, 遺構確認面からの深さ0.4m。

壁 周溝からはほぼ垂直に立ち上がる。床 ソフトローム中で床面としている。周溝 東壁側はADに切られているため不明だが、ほぼ全周すると想定される。幅15～20cm, 深さ10cmでローム土主体の暗褐色土である。カマド 北壁西隅に北壁を掘り込んで作られる。火床は焼けて、焼土の堆積は厚く使い込まれている。煙道部は火床奥から角度をもって立ち上がる。カマド位置は周溝を全掘した後に火床部を決定し、作られていた。ピット 西側に偏ったP3.4が支柱穴で、深さ40cm。P1.2は明確とはいえないが、本跡に伴うか。また、西壁周溝内に小ピットが等間隔に掘られる。覆土 ADに切られているため詳細不明。暗褐色土主体の自然埋没層か。遺物出土状態 遺構の遺存状態が悪いため、情報は少ない。本跡においてもカマド内出土遺物の39.42により帰属時期を判断したい。建て替え 見られない。

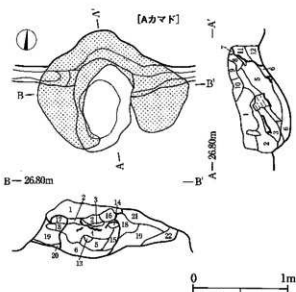
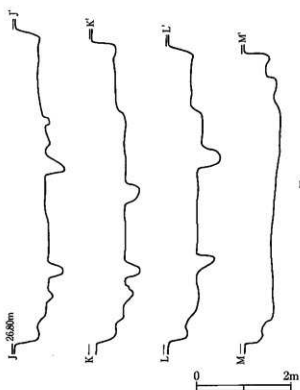
## [04CD]

位置 F10区-1, 3Gを中心に検出。主軸方位 N-80°-Wでほぼ西に傾く。重複関係 04ADに中央部分を切られ、04CDにカマド左袖を切られる。平面形 南北にやや長い長方形。規模 6.01m×4.45m, 遺構確認面からの深さ0.45m。壁 周溝からはほぼ垂直に立ち上がる。床 ハードローンを掘り込んで床面としている。周溝 遺存部分ではほぼ全周する。幅15～20cm, 深さ10cmでローム土主体の暗



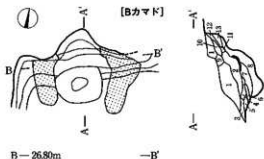
第9図 O4D遺構実測図(1)

褐色土である。カマド 西壁中央に掘り込んで作られる。火床の掘り込みは浅いが、焼土の堆積は厚く使い込まれている。煙道部は火床奥から角度をもって立ち上がる。カマド位置は周溝を全掘した後に火床部を決定し、作られていた。ピット 全体に浅いがP1~4が支柱穴で、P5が出入り口ピットか。また、P12間、34間の楕円形ピットも本跡に伴うか。覆土 黒色土主体の自然埋没層に想定される。遺物出土状態 遺構の遺存状態が悪いため、情報は少ない。本跡においてもカマド内出土遺物の50により帰属時期を判断したい。建て替え 見られない。



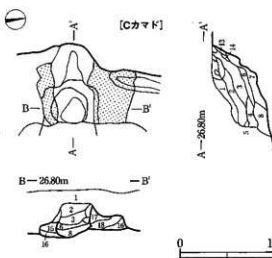
04DAカマド土層説明

1. 焼赤褐色土 2-3mm穴ローム若干含む。粘土砂混入。
2. 焼赤褐色土 2-20mm穴ローム多量。
3. 焼赤褐色土 焼土砂混入。焼土砂多量。焼土砂多量。
4. 焼赤褐色土 2-5mm穴ローム土。灰を含む。
5. 赤褐色土 焼土砂多量。
6. 赤褐色土 焼土砂多量。2-20mm穴ローム含む。
7. 赤褐色土 焼土。焼土砂の割合多。
8. 赤褐色土 焼土砂少く少量含む。
9. 赤褐色土 粘土砂多量。焼赤褐色土混入。
10. 赤褐色土 焼赤褐色土。焼土砂多量。2-3mm穴ローム。石灰質。1-3mm穴ローム若干含む。
11. 赤褐色土 1-3mm穴ローム。石灰質。1-3mm穴ローム。石灰質。1-3mm穴ローム。石灰質。
12. 赤褐色土 1-3mm穴ローム。石灰質。1-3mm穴ローム。石灰質。
13. 赤褐色土 焼土砂多量。5割に灰多量。
14. 赤褐色土 焼土砂多量。焼土砂多量。
15. 赤褐色土 石灰質。焼土砂多量。
16. 赤褐色土 粘土砂多量。焼土砂多量。
17. 赤褐色土 焼土砂多量。焼土砂多量。
18. 赤褐色土 焼土砂多量。焼土砂多量。
19. 赤褐色土 焼土砂多量。焼土砂多量。
20. 赤褐色土 焼土砂多量。焼土砂多量。
21. 赤褐色土 焼土砂多量。焼土砂多量。
22. 赤褐色土 焼土砂多量。焼土砂多量。



04DBカマド土層説明

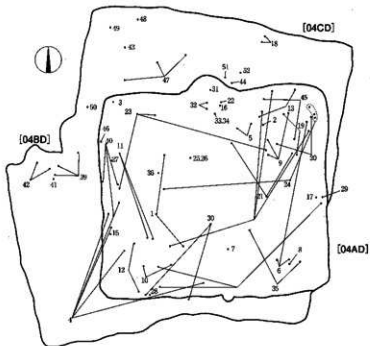
1. 赤褐色土 2-3mm穴ローム多量。2-20mm穴ローム土を含む。
2. 赤褐色土 焼土。5mm穴ローム多量。
3. 赤褐色土 ローム層を含む。
4. 赤褐色土 2-3mm穴ローム土。石灰質。
5. 赤褐色土 4層構造。赤褐色土混入。
6. 赤褐色土 8層より焼土多量。
7. 赤褐色土 焼土。石灰質。石灰質。
8. 赤褐色土 10-50mm穴ロームブロック多量。
9. 赤褐色土 焼土。焼土砂多量。
10. 赤褐色土 2-5mm穴ローム。石灰質。焼土砂多量。
11. 赤褐色土 9層に焼土。焼土砂多量。
12. 赤褐色土 焼土。ローム層を含む。
13. 赤褐色土 ローム層。石灰質。石灰質。石灰質。
14. 赤褐色土 焼土。石灰質。石灰質。石灰質。
15. 赤褐色土 焼土。石灰質。石灰質。石灰質。
16. 赤褐色土 1層構造。焼土。焼土砂多量。
17. 赤褐色土 8層より焼土多量。焼土。焼土砂多量。
18. 赤褐色土 1-2mm穴ローム多量。10-20mm穴ロームブロック含む。
19. 赤褐色土 焼土砂多量。
20. 赤褐色土 焼土砂多量。
21. 赤褐色土 2-10mm穴ローム含む。焼土砂多量。
22. 赤褐色土 焼赤褐色土。焼土砂多量。
23. 赤褐色土 焼赤褐色土。焼土砂多量。
24. 赤褐色土 焼赤褐色土。焼土砂多量。



04DCカマド土層説明

1. 赤褐色土 石灰質。ローム多量。赤褐色土。焼土混入。
2. 赤褐色土 1層に灰多量。焼土砂多量。
3. 赤褐色土 焼土多量。焼土砂多量。
4. 赤褐色土 焼土。焼土砂多量。焼土砂多量。
5. 赤褐色土 焼土。焼土。焼土。焼土。
6. 赤褐色土 焼土。焼土。焼土。焼土。
7. 赤褐色土 20-50mm穴ローム含む。ローム。焼土。焼土。
8. 赤褐色土 石灰質。ローム若干含む。
9. 赤褐色土 焼土。ローム若干含む。
10. 赤褐色土 1-2mm穴ローム若干含む。
11. 赤褐色土 10層構造。焼土。焼土。
12. 赤褐色土 10層構造。赤褐色土混入。
13. 赤褐色土 3層構造。焼土。焼土砂多量。
14. 赤褐色土 焼土。焼土。焼土。焼土。
15. 赤褐色土 15-30mm穴ローム多量。焼土。焼土。焼土。焼土。
16. 赤褐色土 2-30mm穴ローム多量。焼土。焼土。焼土。焼土。
17. 赤褐色土 1-3mm穴ローム含む。焼土。焼土。焼土。焼土。
18. 赤褐色土 焼土。焼土。焼土。焼土。

第10図 04D遺構実測図(2)

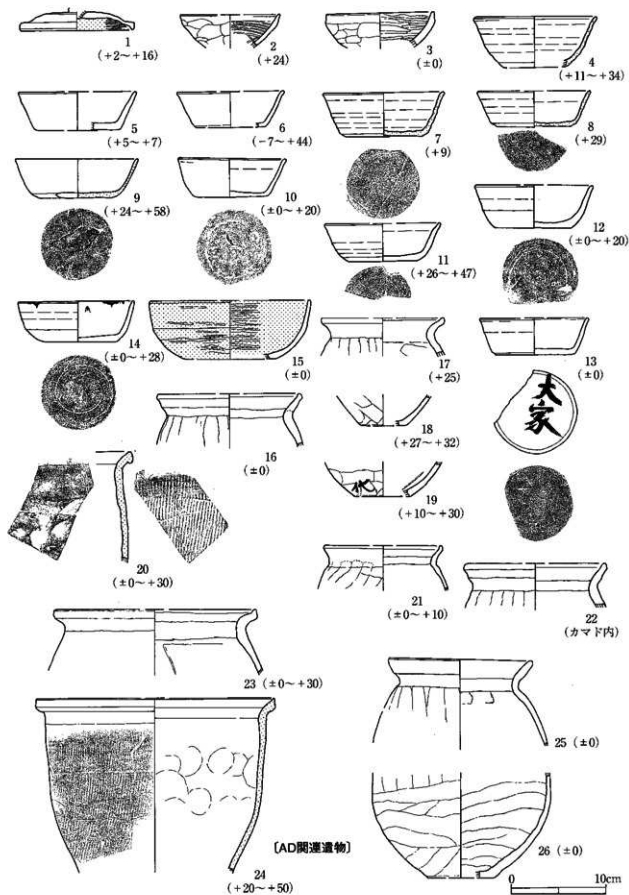


第11図 O4D遺物分布図

04D遺物観察表

順	遺物	部位	計測値 (cm)		色 質	粘 土	観察・文献等
			長さ	口径			
1	土師器 土師鉢	つまみ穴縁1/5	2	11.6	黄褐色 白色粒	黄砂 白色粒	ロクロ成形。大形器縁にヘリ取り残ヘリ跡。内面ヘリ跡は僅かに見られる。
2	土師器 土師鉢	口辺部～体縁1/4～体縁	3.5	10.4	黄褐色 白色粒多量	黄砂 白色粒多量	輪郭み成形。口辺部内外縁で、体部外縁縁にヘリ取り。内面縁にヘリ跡。口縁部内縁で削られる。
3	土師器 土師鉢	口辺部～体縁1/3	3.7	11.2	黄褐色	黄砂 黄砂	輪郭み成形。口辺部外縁で、体部外縁縁にヘリ取り。内面縁にヘリ跡。
4	土師器 土師鉢	口辺部1/2～体下部	5.4	13	黄褐色	黄砂 白色粒多量	ロクロ成形。切縁し不明。底縁は平縁にヘリ取り調整が。体部下縁は手持ちヘリ取り調整。
5	土師器 土師鉢	口辺部～体縁1/3	4.1	12.3	黄褐色	黄砂 白色粒多量	ロクロ成形。切縁し不明。内外ロクロで。口・底縁比1.4。
6	土師器 土師鉢	口辺部～底縁	3.8	11.2	黄褐色	黄砂 白色粒多量	ロクロ成形。切縁し不明。底縁は平縁にヘリ取り調整が。切縁し不明。底縁にヘリ取り調整が。
7	土師器 土師鉢	口辺部1/2～体縁	4.7	12.8	黄褐色	黄砂 黄砂	ロクロ成形。切縁し不明。底縁と体部下縁にヘリ取り調整。
8	土師器 土師鉢	口辺部1/4～体縁	3.8	12	黄褐色	黄砂 白色粒 少量 黄砂	ロクロ成形。切縁し不明。底縁と体部下縁にヘリ取り調整。内面縁に赤色付着物が点状にみられる。
9	土師器 土師鉢	全体1/3	4.2	12.5	黄褐色 黄砂	黄砂 白色粒多量	ロクロ成形。切縁し不明。底縁と体部下縁にヘリ取り調整。内面縁に赤色付着物が点状にみられる。
10	土師器 土師鉢	口辺部～底縁2/3	4.3	11.2	黄褐色	黄砂 白色粒 少量	ロクロ成形。切縁し不明。内外縁にヘリ取り調整が。口・底縁比1.4。
11	土師器 土師鉢	口辺部～底縁1/3	4	12.2	黄褐色	黄砂 白色粒 少量	ロクロ成形。切縁し不明。底縁と体部下縁にヘリ取り調整。
12	土師器 土師鉢	口辺部～底縁1/5	4.5	12.4	黄褐色	黄砂 白色粒 少量	ロクロ成形。切縁し不明。底縁と体部下縁にヘリ取り調整。
13	土師器 土師鉢	口辺部～底縁2/3	3.9	11.4	黄褐色	黄砂 白色粒	ロクロ成形。切縁し不明。底縁と体部下縁にヘリ取り調整。
14	土師器 土師鉢	口辺部1/2～底縁全面	4.4	11.9	黄褐色	黄砂 白色粒 少量	ロクロ成形。切縁し不明。底縁と体部下縁にヘリ取り調整。
15	土師器 土師鉢	口辺部～底縁1/5	6.2	16.6	黄褐色	黄砂 白色粒	ロクロ成形。切縁し不明。底縁と体部下縁にヘリ取り調整。
16	土師器 土師鉢	口辺部～胴上半部1/2	6.7	14.8	黄褐色	黄砂 白色粒	ロクロ成形。切縁し不明。底縁と体部下縁にヘリ取り調整。
17	土師器 土師鉢	口辺部～胴上半部1/5	4	12.6	黄褐色	黄砂 白色粒	ロクロ成形。切縁し不明。底縁と体部下縁にヘリ取り調整。
18	土師器 土師鉢	胴下半部～底縁1/2	3.1	—	黄褐色	黄砂 白色粒多量	ロクロ成形。切縁し不明。底縁と体部下縁にヘリ取り調整。

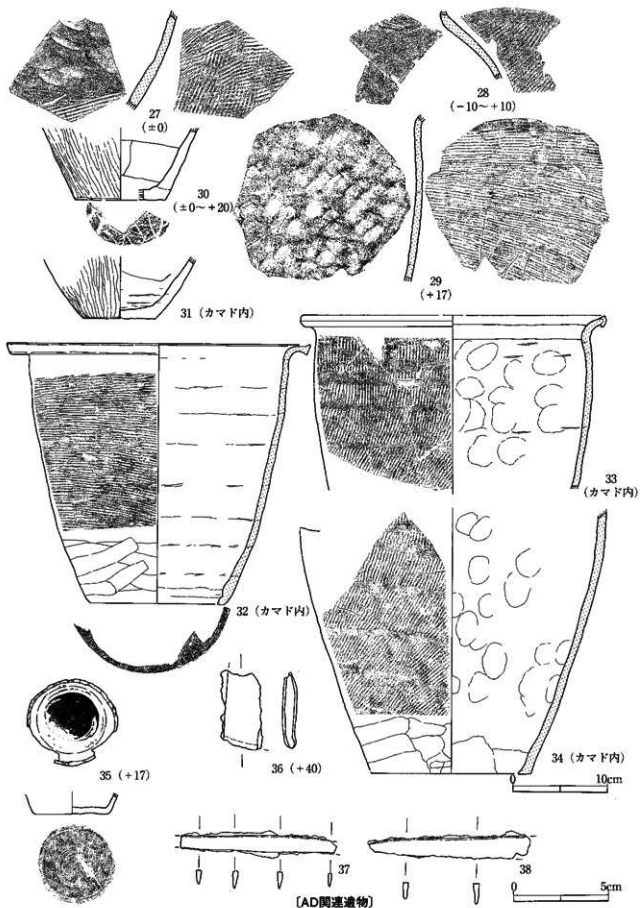




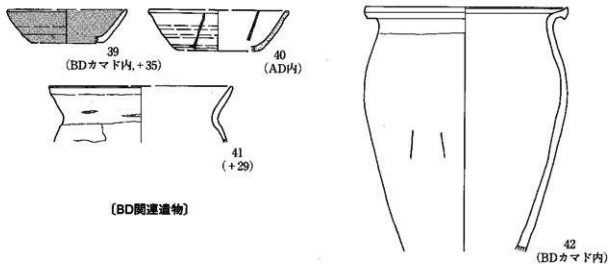
第12図 04D出土遺物(1)

04D 遺物観察表 (2)

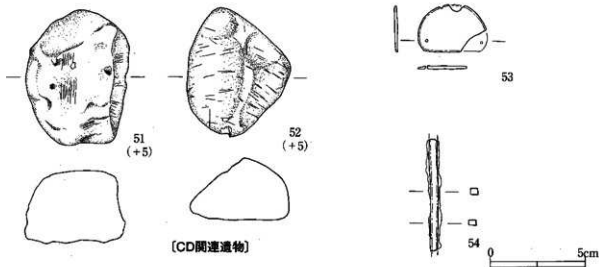
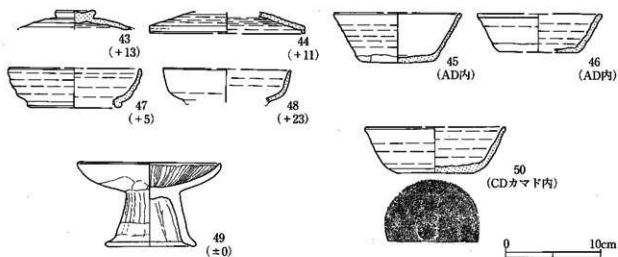
番号	形状	部位	計測値 (mm)			色 調	材 質	調査・文様等
			長さ	口径	直径			
20	銅器器	口辺部一断面	—	—	—	灰色 ～黄褐色	黄褐色多角 赤色スロコヤ	口辺部まで、断面外周平行向き。内側面は直線。断面二次曲線状。
21	土師器	口辺部一断面1/2	47	12.2	—	黄褐色 ～黄褐色	白色粒 赤色スロコヤ	口辺部内外線まで。口縁部つまみ上げ。断面外周平行向き。内側面は直線。断面二次曲線状。
22	土師器	口辺部一断面	46	15	—	黄褐色	白色粒 赤色スロコヤ	口辺部内外線まで。断面外周平行向き。内側面は直線。断面二次曲線状。
23	土師器	口辺部一断面1/2	69	20.6	—	黄褐色	赤色スロコヤ	口辺部内外線まで。断面外周平行向き。内側面は直線。断面二次曲線状。
24	銅器器	口辺部1/4一断面	18.5	25	—	黄褐色 ～黄褐色	赤色スロコヤ	口辺部内外線まで。断面外周平行向き。内側面は直線。断面二次曲線状。
25	土師器	口辺部一断面1/2	94	15	—	黄褐色	白色粒 赤色スロコヤ	口辺部内外線まで。断面外周平行向き。内側面は直線。断面二次曲線状。
26	土師器	断面中央部一断面1/3	11.1	—	6.8	黄褐色	白色粒多角 赤色スロコヤ	断面中央部一断面1/3。断面外周平行向き。内側面は直線。断面二次曲線状。
27	銅器器	断面片	—	—	—	黄褐色	赤色スロコヤ	断面片。断面外周平行向き。内側面は直線。断面二次曲線状。
28	銅器器	断面片	—	—	—	黄褐色	赤色スロコヤ	断面片。断面外周平行向き。内側面は直線。断面二次曲線状。
29	銅器器	断面片	—	—	—	黄褐色	赤色スロコヤ	断面片。断面外周平行向き。内側面は直線。断面二次曲線状。
30	土師器	断面片	7.6	—	9.4	黄褐色	白色粒多角 赤色スロコヤ	断面片。断面外周平行向き。内側面は直線。断面二次曲線状。
31	土師器	断面片	6.5	—	7.5	黄褐色	白色粒多角 赤色スロコヤ	断面片。断面外周平行向き。内側面は直線。断面二次曲線状。
32	銅器器	断面片	27.8	31.6	13.8	黄褐色 ～黄褐色	赤色スロコヤ	断面片。断面外周平行向き。内側面は直線。断面二次曲線状。
33	銅器器	断面片	18.3	32	—	黄褐色	赤色スロコヤ	断面片。断面外周平行向き。内側面は直線。断面二次曲線状。
34	銅器器	断面片	28	—	16.7	黄褐色	赤色スロコヤ	断面片。断面外周平行向き。内側面は直線。断面二次曲線状。
35	土師器	断面片	2.3	—	7.6	黄褐色	赤色スロコヤ	断面片。断面外周平行向き。内側面は直線。断面二次曲線状。
36	銅器器	断面片	3.8	2.2	0.7	黄褐色	赤色スロコヤ	断面片。断面外周平行向き。内側面は直線。断面二次曲線状。
37	銅器器	断面片	8.1	0.8cm	2cm	黄褐色	赤色スロコヤ	断面片。断面外周平行向き。内側面は直線。断面二次曲線状。
38	銅器器	断面片	8.5cm	1.6cm	3cm	黄褐色	赤色スロコヤ	断面片。断面外周平行向き。内側面は直線。断面二次曲線状。
39	土師器	口辺部一断面1/3	3.5	12.6	7.6	黄褐色	赤色スロコヤ	口辺部内外線まで。断面外周平行向き。内側面は直線。断面二次曲線状。
40	銅器器	口辺部一断面1/2	4.3	14.7	8.4	黄褐色	赤色スロコヤ	口辺部内外線まで。断面外周平行向き。内側面は直線。断面二次曲線状。
41	土師器	口辺部一断面1/3	5.9	19.2	—	黄褐色	赤色スロコヤ	口辺部内外線まで。断面外周平行向き。内側面は直線。断面二次曲線状。
42	土師器	口辺部一断面1/3	25.6	21.4	—	黄褐色	赤色スロコヤ	口辺部内外線まで。断面外周平行向き。内側面は直線。断面二次曲線状。
43	銅器器	断面片	—	つまみ幅 4.2	—	黄褐色	赤色スロコヤ	断面片。断面外周平行向き。内側面は直線。断面二次曲線状。
44	銅器器	断面片	2.3	16	—	黄褐色	赤色スロコヤ	断面片。断面外周平行向き。内側面は直線。断面二次曲線状。
45	銅器器	断面片	5.3	13.4	7.7	黄褐色	赤色スロコヤ	断面片。断面外周平行向き。内側面は直線。断面二次曲線状。
46	銅器器	断面片	4	13.2	8.3	黄褐色	赤色スロコヤ	断面片。断面外周平行向き。内側面は直線。断面二次曲線状。
47	銅器器	断面片	4.2	14	10	黄褐色	赤色スロコヤ	断面片。断面外周平行向き。内側面は直線。断面二次曲線状。
48	銅器器	断面片	3.5	13.2	—	黄褐色	赤色スロコヤ	断面片。断面外周平行向き。内側面は直線。断面二次曲線状。
49	土師器	断面片	9	15.1	脚縁径 9.5	黄褐色	赤色スロコヤ	断面片。断面外周平行向き。内側面は直線。断面二次曲線状。
50	銅器器	断面片	4.9	14.5	7.8	黄褐色	赤色スロコヤ	断面片。断面外周平行向き。内側面は直線。断面二次曲線状。
51	銅器器	断面片	2.1	5.5	3.8	黄褐色	赤色スロコヤ	断面片。断面外周平行向き。内側面は直線。断面二次曲線状。
52	銅器器	断面片	6.7	3.4	3.3	黄褐色	赤色スロコヤ	断面片。断面外周平行向き。内側面は直線。断面二次曲線状。
53	銅器器	断面片	3.6	6.5	3.5	黄褐色	赤色スロコヤ	断面片。断面外周平行向き。内側面は直線。断面二次曲線状。
54	銅器器	断面片	3.9	0.36~0.4	—	黄褐色	赤色スロコヤ	断面片。断面外周平行向き。内側面は直線。断面二次曲線状。



第13図 04D出土遺物 (2)



[BD関連遺物]

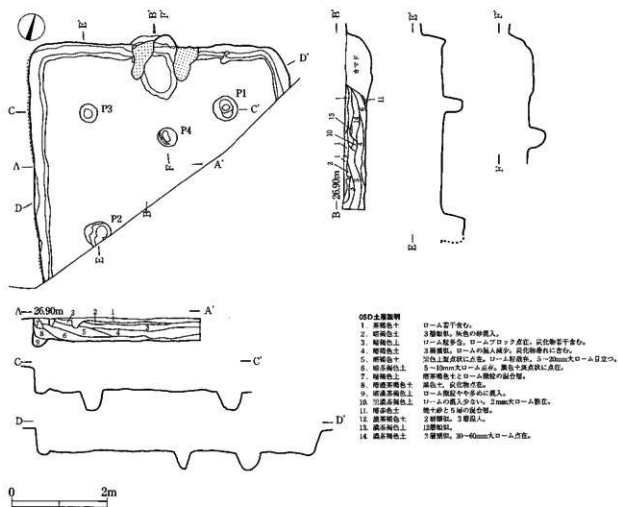


[CD関連遺物]

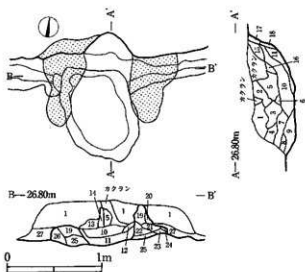
第14図 04D出土遺物 (3)

05D (第15~17図 図版2・12)

位置 F9区-24Gで検出。主軸方位 N-16°-Eでやや東に振れる。重複関係 見られない。  
 平面形 やや南北に長い方形に想定される。遺構が調査区外に及ぶため明確ではないが、柱位置からの復元として妥当と考える。規模 4.95m×(5.4)m。遺構確認面からの深さ0.5m。壁 周溝がややオーバーハング気味で、ほぼ垂直に立ち上がる。床 ハードローンを掘り込んで床面としている。周溝 ほぼ全周すると想定される。幅20~30cm、深さ10cmで黒色土混じりの暗褐色土である。カマド 北壁中央に煙道を若干掘り込んで作られる。火床は焚口部前面が若干焼けている。焼土の堆積は明瞭ではない。煙道部は火床奥から角度をもって立ち上がる。この部分には焼土が薄く堆積している。構築は周溝全掘後、焚口の掘り込みで位置を決定し、袖部をつくりあげていると判断される。ピット P1.2.3が主柱穴で、深さ42~46cm。P4は性格不明。覆土 中層以下においてロームブロック混じりの暗褐色土が見られ、埋め戻されている状況である。遺物出土状態 カマド内及びその周辺からの出土が多い。建て替え 見られない。

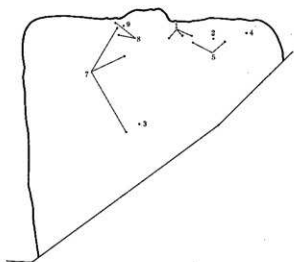


第15図 05D遺構実測図(1)

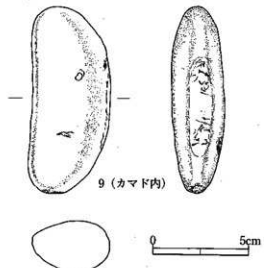
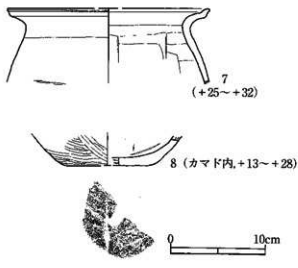
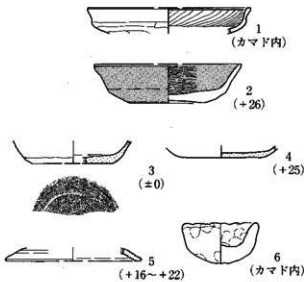


05Dカマド土層説明

- 1 茶褐色土 5~10mm火ローム多量中、焼土、粘土砂少量含む。
- 2 茶褐色土 2~5mm火ローム少量中、焼土、粘土砂少量含む。
- 3 茶褐色土 1~3mm火ローム、5~10mm火ローム少量含む。
- 4 茶褐色土 2~3mm火ローム少量含む、粘土砂、焼土やや多い。
- 5 暗褐色土 1~3mm火ローム少量含む。
- 6 茶褐色土 3層砂土、粘土層入。
- 7 緑黄色土 焼土砂土、茶褐色土と粘土砂の層。
- 8 暗褐色土 焼土砂土、ロームごく少量含む。
- 9 暗茶褐色土 10mm火ローム少量含む。
- 10 緑黄色土 焼土砂土、灰質土含む。
- 11 暗茶褐色土 粘土砂、焼土含む。
- 12 暗茶褐色土 焼土、粘土層入。
- 13 暗茶褐色土 暗茶褐色土中、粘土多い。
- 14 暗茶褐色土 10層砂土、焼土主体。
- 15 暗茶褐色土 10層砂土、粘土層多量入。
- 16 暗茶褐色土 茶褐色土、粘土層入。
- 17 暗茶褐色土 10層砂土、焼土主体。
- 18 暗茶褐色土 ローム土層。
- 19 暗茶褐色土 粘土砂土層、暗茶褐色土層0。
- 20 暗茶褐色土 10層砂土、粘土砂土層少量含む。
- 21 暗茶褐色土 山砂土層、暗茶褐色土層少量入。
- 22 暗茶褐色土 10層砂土、粘土層少量含む。
- 23 赤灰色土 山砂、白色粘土層含む。
- 24 赤灰色土 山砂、白色粘土層含む。
- 25 赤灰色土 山砂、白色粘土層含む。
- 26 暗茶褐色土 暗茶褐色土5~10mm火ロームブロックの表層部、粘土砂少量含む。
- 27 暗茶褐色土 焼土砂、ローム塊含む。



第16図 O5D遺構実測図(2)



第17図 O5D出土遺物

## 05D 遺物観察表

設備	部位	計測値 (m)			色 調	助 土	調査・文様等
		幅高	口径	底径			
1 土師器 杯	口辺部～底部1/4	27	172	—	灰褐色	石英 赤色スロリキ も書	赤ロクロ成形。口辺部破損など。 内面細かい単位へう磨き後、一枚斜方材破文を施す。口縁部内側細 い瓦割が走る。体部外周縁位へう磨り。焼色V
2 土師器 杯	口辺部～底部1/4	41	153	76	赤褐色	灰石 白色粒 赤色スロリキ	ロクロ成形。 外面磨きで。内面縁位へう磨き。内外赤磨される。
3 土師器 杯	底部1/3	24	—	86	灰褐色	灰石 白色粒多量 赤色スロリキ	ロクロ成形。 右回転へう磨き。後面縁と体部下部回転へう磨り調査。 炭成。前面面削。
4 土師器 杯	底部全面	13	—	9	暗灰色	灰石・白粒 赤色スロリキ	ロクロ成形。 底面外側の割磨きしい。
5 土師器 杯	口辺部1/5	14	145	—	灰色	黄砂 少量の 赤色スロリキ	ロクロ成形。外面上部へう磨り調査。 内面縁位かきりが見られる。
6 手づくね	口辺部～底部1/2部	42	8	—	淡褐色褐色	黄砂 赤色スロリキ	手づくね。指頭片痕跡。 後にへうなでないへう磨りの痕跡。
7 土師器 杯	口辺部～胴上部1/5	78	213	—	淡褐色	黄砂 灰石 白色粒多量	輪模み成形。口辺部内外磨きで。 後面縁位でへうなで（割文）。内周縁位へうなで、 口縁部は、胴部上へう磨り。
8 土師器 杯	胴下部～底部1/2	315	—	9	外面灰褐色 内面淡褐色	灰石多量 黄砂 石英	輪模み成形。底面磨き。 外面外周縁位へう磨き。内面へうなで。
9 使用痕あ る石	全体の3/4	縦 9.8	横 1.1	厚さ 27	長さ 161.6		右側面と下面に縁状の磨り跡が見られる

## 06 D (第18～21図 図版2・12)

## 〔06AD〕

位置 G9区-1Gを中心に検出。主軸方位 N-82°-Wで大きく西に傾く。重複関係 06BDに切られる。平面形 やや南北に長い方形である。規模 4.3m×4.0m、遺構確認面からの深さ0.36m。

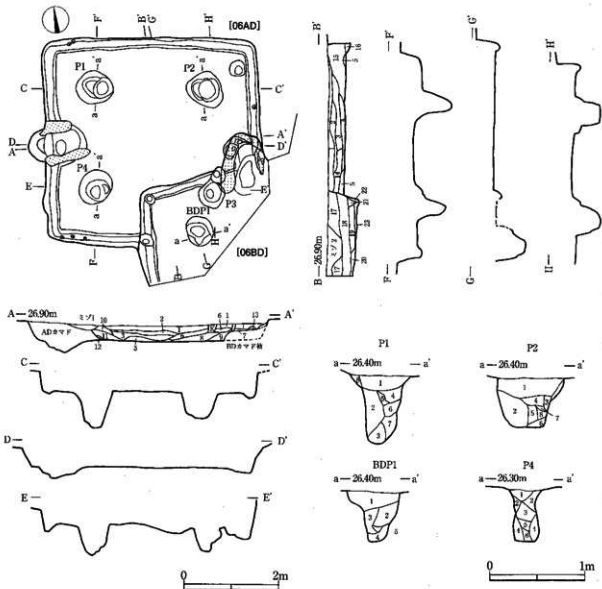
壁 周溝からはほぼ垂直に立ち上がる。床 ハードルームを掘り込んで床面としている。周溝 全周する。幅20cm、深さ10cm。カマド 西壁中央に壁を掘り込む。焼土の堆積顕著。煙道部は火床奥で平坦面をつくりそこから角度をもって立ち上がる。ピット P1～P4が支柱穴で、深さ60～70cm。出入口ピットはBDカマド下に想定されるが明確ではない。覆土 褐色土主体の埋め戻し層と想定される。遺物出土状態 埋め戻し時の廃棄遺物主体で、浮いた状態で出土している。建て替え 柱位置の変更が見られ、東西方向での拡張が想定される。

## 〔06BD〕

位置 G9区-1G。主軸方位 N-2°-Eではほぼ南北方位。重複関係 06ADを切る。平面形 調査区外に及ぶため不明。規模 不明。遺構確認面からの深さ0.6m。壁 周溝からはほぼ垂直に立ち上がる。床 ハードルーム中で床面としている。周溝 遺存部分で全周する。幅15cm、深さ5cm。カマド 北壁中央に作られる。焼土の堆積顕著。煙道部は火床奥で平坦面をつくりそこから角度をもって立ち上がる。06ADと同様である。ピット P1のみ検出された。深さ50cm。覆土 ローム混じりの褐色土で埋め戻し層と想定される。遺物出土状態 本跡に伴う遺物は明確な範囲では不明である。建て替え 不明。

## 06D 遺物観察表

設備	部位	計測値 (m)			色 調	助 土	調査・文様等
		幅高	口径	底径			
1 土師器 杯	口辺部小片	—	—	—	淡赤褐色	黄砂、白色粒 赤色スロリキ	口縁部外側クシバ状工具による破の削文。 口辺部同工具による磨ハケ目。内面同上の磨ハケ目。
2 土師器 杯	口辺部小片	—	—	—	暗赤褐色	出色粒 赤色スロリキ	口縁部外周縁と内側の工具による磨ハケ目。 口辺部内周縁工具による磨ハケ目。 裏面は磨ハケ目。内面磨ハケ目。
3 土師器 杯	口辺部～底部1/4	43	126	—	暗褐色 黒灰	黄砂 砂粒	輪模み成形。口辺部内外磨きで。 体部外周縁位へう磨り。内周木口状工具によるなど。
4 土師器 杯	口辺部1/4	31	129	—	赤褐色 黒灰	黄砂細片 砂粒	輪模み成形。 口辺部内外磨きで。体部外周縁位へう磨り。内面内側で。 赤色スロリキ
5 土師器 杯	口辺部～底部2/3	78	134	—	淡灰色	白色粒	輪模み成形。口辺部内外磨きで。体部内周縁位へう磨り。 底面へう磨り。内面と外周縁部へう磨り。
6 土師器 杯	口辺部1/5～体部	36	122	—	暗赤褐色	少量の黄砂	輪模み成形。口辺部内外磨きで。体部外周縁位へう磨り。 内面も磨きへう磨り。黒色粒も。
7 土師器 杯	胴上部～底部1/4	82	—	—	白色粒 赤色スロリキ 黒灰	白色粒 赤色スロリキ	輪模み成形。外面へう磨り。内面へうなで。 内面磨き付着と外面全体に二次焼成の割磨きしい。
8 土師器 杯	口辺部1/4～体部2/3	2	142	—	淡赤褐色	黄砂 白色粒多量 赤色スロリキ	ロクロ成形。天舟磨き回転へう磨り調査。 内面のかきりは比較的明確。ロクロで、炭成
9 土師器 杯	口辺部1/5	22	16	—	灰白色	黄砂 灰石多量	ロクロ成形。内周のかきりは、やや磨りか。天舟磨りへう磨り。 10と同一制法か。



06D土層説明

1. 黄赤褐色土 2-3mm大ケム若干含む。
2. 黄赤褐色土 15-20mm大ローム散在。
3. 黄赤褐色土 上部部。2層に比べローム減じる。
4. 黄赤褐色土 ケム多量に散在。
5. 黄赤褐色土 100mm大ケムケム散在。
6. 黄赤褐色土 3層に黄赤土層下透入。
7. 黄赤褐色土 散在土層。6層部。
8. 黄赤褐色土 5-20mm大ケム散在。炭化粒。炭土含む。
9. 黄赤褐色土 8層部。鉄土層下透入。
10. 黄赤褐色土 3層部。砂鉄土層下透入。
11. 黄赤褐色土 A Dケム下の鉄土。炭土の散入。

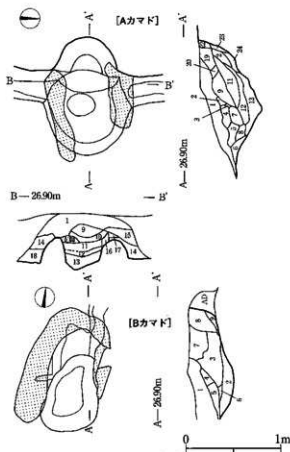
12. 黄赤褐色土 ロームブロック。
13. 黄赤褐色土 黄赤砂。
14. 黄赤褐色土 50mm大ローム若干含む。
15. 黄赤褐色土 4層部。ローム散在少くない。
16. 黄赤褐色土 15層に散在。ローム多量。
17. 黄赤褐色土 30-50mm大ローム散在。ローム群集。炭化粒若干。
18. 黄赤褐色土 1-5mm大ロームを多量に。
19. 黄赤褐色土 10-20mm大ローム若干。
20. 黄赤褐色土 1層部。
21. 黄赤褐色土 1-3mm大ローム多量に。
22. 黄赤褐色土 2層部。ローム散在に散入。
23. 黄赤土 ロームアロウタ土層。若干黄赤土散入。

第18図 06D遺構実測図(1)

06D遺物観察表(2)

番号	場所	部位	寸法 (cm)		色調	断面	特徴	備考・文庫等
			高さ	径				
10	横山跡	つまみ金切	1.5	横径 3.8	灰白色	雲母	ロクロ成形。	
11	横山跡	口辺部1/5	1.8	15.5	外面灰色 内面暗灰色	雲母 石片、砂粒	扁平なつまみを備えている。口と同一形状か。	
12	横山跡	口辺部一底部1/2	4.3	12.6	灰色	灰土、内包層 雲母多量	ロクロ成形。切磨し不細。 断面へう割り状態。底面上部部の境不明瞭。炭成。	
13	横山跡	口辺部一底部1/2	3.4	12	淡灰色	白色粘土多量	ロクロ成形。切磨し不細。 内外ロクロなど。なめらかな仕上がり。炭成。	
14	上野跡	口辺部1/2一底部	3.7	6.9	黄褐色	雲母、白色粘 土色スワリヤ	平づくね。 内外で整形。底面本蓋。	





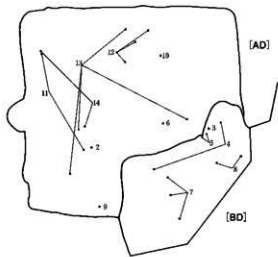
第19図 O6D遺構実測図(2)

O6D Aカマド土層説明

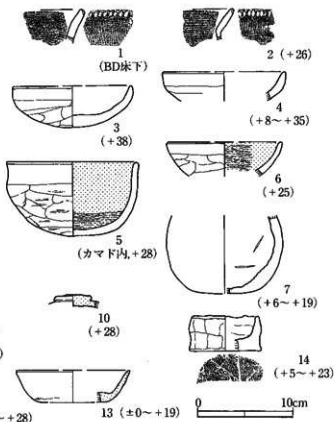
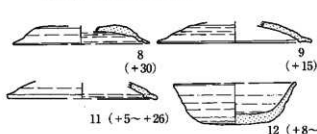
1. 暗赤褐色土 粘土状、2-5mm大硬土多量、褐色土粒多量。
2. 暗赤褐色土 暗赤褐色土と粘土状の硬土層、黄土層を含む。
3. 赤褐色土 粘土質アロク、暗赤褐色土層。
4. 赤褐色土 暗赤褐色土多量、粘土層を含む。2-5mm大硬土粒多量。
5. 赤褐色土 4層類似、粘土層を含む。
6. 暗赤褐色土 30-40mm大ロームアロクを含む。
7. 暗赤褐色土 粘土質硬土。粘土質硬土多量。
8. 暗赤褐色土 粘土質硬土、ロームを含む。
9. 暗赤褐色土 5mm大硬土を含む。粘土層を含む。
10. 暗赤褐色土 9層類似。
11. 暗赤褐色土 粘土質硬土層。
12. 赤褐色土 黄土層。
13. 暗赤褐色土 粘土。暗赤褐色土の層。
14. 暗赤褐色土 ローム層入りの硬土、ロームアロクを含む。
15. 暗赤褐色土 1層類似、粘土層、硬土多量。
16. 赤褐色土 カマド内層。
17. 赤褐色土 5-10mm大硬土多量。
18. 暗赤褐色土
19. 赤褐色土 暗赤褐色土と粘土層。
20. 暗赤褐色土 粘土層入りの硬土。
21. 赤褐色土 粘土層多量、暗赤褐色土層を含む。
22. 赤褐色土 ローム層多量を含む。
23. 暗赤褐色土 ローム上。
24. 暗赤褐色土 ローム白色硬土層。

O6D Bカマド土層説明

1. 暗赤褐色土 2-5mm大硬土、ローム多量。
2. 暗赤褐色土 暗赤褐色土、ローム多量。
3. 赤褐色土 暗赤褐色土、硬土層を含む。
4. 赤褐色土 粘土多量、10mm大硬土アロクを含む。
5. 暗赤褐色土 1層4層の硬土層、粘土層を含む。
6. 赤褐色土 粘土層多量を含む。
7. 暗赤褐色土 2-30mm大ロームを含む。粘土層多量。
8. 暗赤褐色土 硬土と暗赤褐色土層を含む。
9. 暗赤褐色土 粘土層多量硬土層。



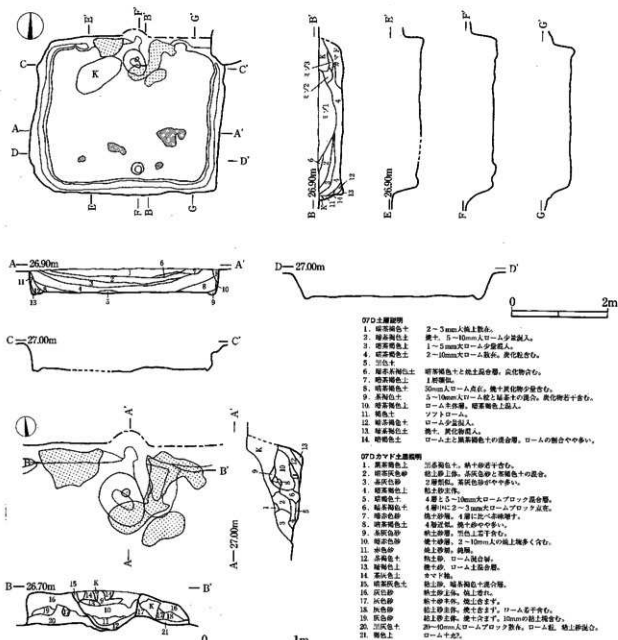
第20図 O6D遺物分布図



第21図 O6D出土遺物

07D (第22~25図 図版2・12)

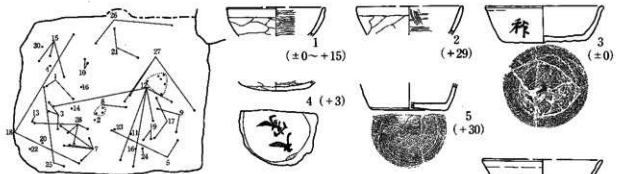
位置 F8区-2Gで検出。主軸方位 N-10°-Eでほぼ南北方向。重複関係 見られない。  
 平面形 東西やや長い長方形。規模 3.74m×2.93m。遺構確認面からの深さ0.5m。壁 周溝からほぼ垂直に立ち上がる。床 ハードロームを掘り込んで床面としている。床はほぼ平坦である。周溝 北東部でやや不明瞭だがほぼ全周する。幅15~25cm、深さ5cm程度でローム土主体の褐色土である。  
 カマド 北壁中央に作られる。上面からカマド部分においてカクランが著しいため、煙道部の形状は不明である。火床の掘り込みは浅い。袖部の遺存状態は悪いが、天井部の崩落が見られる。煙道部は火床奥から角度をもって立ち上がる。カマド位置は、周溝が火床部まで及んでいないことから当初から決定されていたと判断される。ピット 出入り口ピットがカマド対面に検出された。深さ8cmで浅い。  
 覆土 褐色土主体の埋め戻しが想定される。また、焼土・炭化物が下層から検出されており、家屋廃材の処理と考えられる。遺物出土状態 覆土中の遺物が多いが、ほぼ本跡に伴うと判断される。差で替え 見られない。



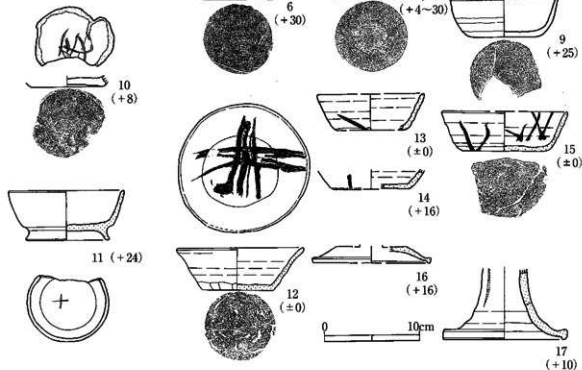
- 07D土層説明
1. 褐色褐色土 2~5mm大粒上散土。
  2. 暗茶褐色土 焼土、5~10mm大ローム少量混入。
  3. 暗茶褐色土 1~5mm大ローム少量混入。
  4. 暗茶褐色土 2~10mm大ローム散在。炭化粒含む。
  5. 白色土
  6. 暗茶褐色土と焼土混合層、炭化物含む。
  7. 暗茶褐色土 1層厚。
  8. 暗茶褐色土 20mm大ローム点石。焼土炭化物少量含む。
  9. 赤褐色土 5~10mm大ローム粒と暗茶褐色土の混合。炭化物若干含む。
  10. 暗茶褐色土 ローム若干混入。暗茶褐色土混入。
  11. 暗茶褐色土 ツツシローム。
  12. 暗茶褐色土 ローム少量混入。
  13. 暗茶褐色土 焼土、炭化物混入。
  14. 暗茶褐色土 ローム土と暗茶褐色土の混合層。ロームの割合やや多い。

- 07Dカマド土層説明
1. 暗茶褐色土 焼土中粒を含む。
  2. 暗茶褐色土 焼土中粒。炭化粒散在。暗茶褐色土の混合。
  3. 赤褐色土 2層厚。炭化粒散在がやや多い。
  4. 暗茶褐色土 焼土中粒。
  5. 暗茶褐色土 4層5~10mm大ロームブロック混在層。
  6. 暗茶褐色土 4層10に2~3mm大ロームブロック混在層。
  7. 暗茶褐色土 焼土中粒。4層に比べ中粒増す。
  8. 暗茶褐色土 4層中粒。焼土中粒の多い。
  9. 暗茶褐色土 焼土中粒。白色土上下含む。
  10. 暗茶褐色土 焼土中粒。2~10mm大の焼土塊多く含む。
  11. 赤褐色土 焼土中粒。暗茶褐色土。
  12. 赤褐色土 焼土中粒。ローム土混在層。
  13. 暗茶褐色土 焼土中粒。ローム土混在層。
  14. 赤褐色土 カマド壁。
  15. 暗茶褐色土 焼土中粒。暗茶褐色土混在層。
  16. 赤褐色土 焼土中粒。焼土中粒。焼土中粒。
  17. 赤褐色土 焼土中粒。焼土中粒。
  18. 赤褐色土 焼土中粒。焼土中粒。ローム若干含む。
  19. 赤褐色土 焼土中粒。焼土中粒。20mmの粒上層含む。
  20. 赤褐色土 20~100mm大ロームブロック散在。ローム粒。焼土中粒混在。ローム土中粒。
  21. 暗茶褐色土

第22図 07D遺構実測図



第23図 07D遺物分布図



第24図 07D出土遺物(1)

07D遺物観察表

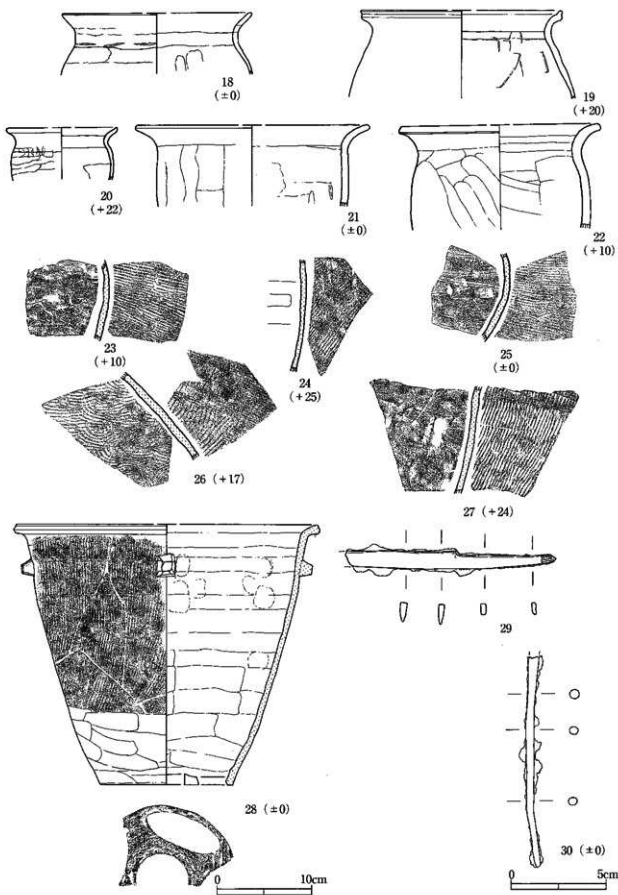
種類	部位	特徴値 (cm)			色 調	動 上	調査・文様等
		器高	口径	底径			
1 土師器 環	口辺部1/4~全体	31	30.4	—	淡褐色 赤色スコリヤ 黄緑、白色灰	輪郭み成形。 口辺部僅かなで、底部外周縁位へ張り、内面縁位へ張り。	
2 土師器 環	口辺部~全体1/2	3	11.2	—	淡褐色 黒灰 白色灰	輪郭み成形。口辺部外周縁位で、 底部外周縁位へ張り、内面縁位と縁位へ張り。	
3 土師器 環	ほぼ完全	3.9	12.5	6.9	淡褐色 白色灰、黒 色灰 赤色スコリヤ 少量母片	ロクロ成形。切縁は縁輪へ切りか？ 底面本調整。 内外面ロクロなどで底部が平外周正位に「溝」の溝が見られる。	
4 土師器 環	底部2/3	1	—	7	暗褐色	輪郭み成形。底面外周縁位へ張り、内面縁位へ張り。 底面外周中央に「大家」ないし「天家」の溝あり。	
5 土師器 環	底部~全体1/2	2.9	—	8	淡褐色 赤色スコリヤ	ロクロ成形。 右側縁位切縁し後縁部縁輪へ張り調整、内外ロクロなどで。	
6 土師器 環	口辺部~底部全周2/3	4	10.8	7.2	淡褐色 赤、黒灰、 石灰 白色灰	ロクロ成形。 底面縁位切縁し後縁部縁輪へ張り調整、内外ロクロなどで。	
7 土師器 環	ほぼ完全	4	11.6	7.7	淡褐色 白色灰、黒 母少量 赤色スコリヤ	ロクロ成形。 底面縁位切縁し後縁部縁輪と底部下縁部縁輪へ張り。	
8 土師器 環	口辺部1/4~全体	4	12.6	7.8	暗褐色 白色灰、黒 母少量 赤色スコリヤ	ロクロ成形。切縁し不明。 底面全周と底部下縁部縁輪へ張り調整、内外ロクロなどで。	
9 土師器 環	口辺部1/6~全体	4.1	11.2	7.8	淡褐色 白色灰、黒 母少量 赤色スコリヤ	ロクロ成形。 切縁し不明。底面全周と底部中央~下縁部縁輪へ張り。	

## 07D 遺物観察表 (2)

品類	部位	計測値 (cm)			色調	新土	調査・文様等	
		長さ	幅	厚さ				
10	土師器 土師器 土師器	底面1/8	1.2	—	7.6	外面黄褐色 内面黄褐色	内色粒 石英・雲母 赤色スロリヤ	ロクロ成形。 口部糸割出し底面縁手持ちへつ張り。底部下へつ張り。 口部内側に「正」のへつ張り。
11	灰雲部 共合体	全体の2/3	5.3	12.2	8.6	淡青灰色	白色粒	ロクロ成形。切出し不明。両面粘付。内外面ロクロなで。 内面底面内白が混濁。底部外側にへつ張り「正」。
12	灰雲部 片	ほぼ方形	4.5	13.4	7.5	青灰色	黒石・雲母 白色粒多量	ロクロ成形。切出し不明。底部全面と底部下縁手持ちへつ張り。 口部内側に4-5本程度。底部一口辺り外側に3-4本程度のへつ張りが見られる。
13	灰雲部 片	口辺り破片	3.8	11.4	7.2	淡青灰色	白色粒主に 雲母少量	ロクロ成形。切出し不明。 底部下縁へつ張り調整。火だきず。断面中心部青褐色。
14	灰雲部 片	底部一伴部1/3	2	—	8.2	淡青灰色	白色粒多量 雲母	ロクロ成形。切出し不明。底部外縁手持ちへつ張り調整。 内面ロクロなで。外表面部一帯黒いへつ張り。
15	灰雲部 片	口辺り1/5-底部	4.1	13.2	8.6	黄褐色	白色粒多量	ロクロ成形。切出し不明。底部全面と底部下縁手持ちへつ張り。 内外面の1辺一帯黒いへつ張り。又他の火だきず。
16	灰雲部 片	口辺り1/4	1.8	12.2	—	やや暗い 青灰色	黒石多量 雲母・白色粒	ロクロ成形。口辺りの破片は明確に混濁。 天押部は混濁へつ張り。やや小ぶりな器。
17	灰雲部 片	脚部一部欠損	7.5	—	12.8	黄褐色	白色粒多量 雲母	ロクロ成形。内面へつなで。 端み込の透しは外側に寄るところより見られる。
18	土師器 片	口辺り一側上半部1/4	6.4	19.8	—	淡青褐色	雲母・白色粒 赤色スロリヤ	輪轆み成形。口辺り内外粘なで。 脚部外縁混濁へつ張り。内面へつなで。武器型。
19	土師器 片	口辺り1/3-腕し半部	9.3	21	—	淡青褐色	黒石・雲母 白色粒多量	輪轆み成形。口辺り内外粘なで。脚部外縁で、内面へつなで。 口部縁部つまみ上げ。武器型。
20	土師器 片	口辺り一伴部	5.5	11.6	—	黄褐色	白色粒 雲母	輪轆み成形。口辺り内外粘なで。 脚部外縁混濁から混濁へつ張り。内面へつなで。
21	土師器 片	口辺り一側上半部1/5	8.5	24	—	淡青褐色	雲母・白色粒 赤色スロリヤ 赤土	口辺り内外粘なで。 脚部外縁混濁へつ張り調整。内面縁部へつなで。 脚部へつなで。
22	土師器 片	口辺り一側1/4半部2/5	11.1	21.2	—	赤褐色	白色粒多量 雲母・赤土	輪轆み成形。口辺り内外粘なで。 脚部外縁混濁へつ張り。内面へつなで。外周被膜。
23	灰雲部 片	脚部片	—	—	—	青灰色	内色粒	切出し不明。外周縁部平打り目。 内面混濁と共輪とまで混濁。2と同一個体。
24	灰雲部 片	脚部片	—	—	—	黄褐色	雲母 白色粒	切出し不明。外周縁部平打り目。内面へつなで。 2と同一個体。
25	灰雲部 片	脚部片上半	—	—	—	青灰色	白色粒	切出し不明。外周縁部平打り目。内面へつなで。 2と同一個体。
26	灰雲部 片	脚部片	—	—	—	外面黄褐色 内面淡灰色	黄色粒 全体に赤	切出し不明。外周縁部平打り目。内面混濁と共輪とまで混濁。2と同一個体。
27	灰雲部 片	脚部1/4片	—	—	—	外面淡青灰色 内面淡青褐色	雲母と白色粒 赤土 赤色スロリヤ	輪轆みロクロ成形。 外周縁部平打り目。 内面混濁と共輪とまで混濁。2と同一個体。
28	灰雲部 片	口辺り一帯1/3	27.5	31.5	13.8	黒灰色	白色粒 赤色スロリヤ	口辺り内外粘なで。脚部外縁混濁と共輪とまで混濁と共輪とまで混濁。2と同一個体。 内面へつなで。切出し不明。外周縁部平打り目。
29	鉄器 刀子	先端部分欠損	長 11.1	柄部幅 5.4	縁部厚さ 2.5mm		重さ 9.8g	新部欠損本質部残存。
30	鉄器 破片	上部欠損	縦 11.1	輪部 3-5mm			重さ 8g	輪部は円形の断面形状。 おそらく鉄輪と軸の分離タイプ。

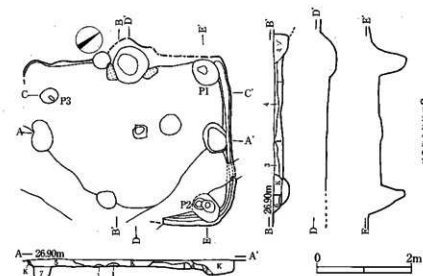
## 08D (第26~29図 図版2・13)

位置 E8区-2Gで検出。主軸方位 N-43°-Wで西に傾く。重複関係 01H。近世以降の溝に切られる。平面形 東西にやや長い長方形。規模 4.01m×3.53m。遺構確認面からの深さ0.2m。壁遺存状態は悪いが、ほぼ垂直に立ち上がる。床 ソフトローンを掘り込んで床面としている。床はほぼ平坦である。周溝 東壁・南壁側で周回する。幅15cm、深さ7cm程度である。カマド 北壁中央に作られるが遺存状態は悪い。焚口部の掘り込みは15cmとやや深い。煙道部は焚口奥から角度を変えて緩



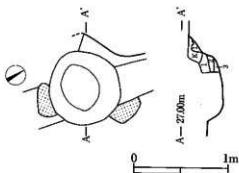
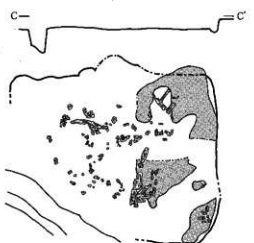
第25图 07D出土遺物(2)

やかに立ち上がる。ピット P1.2.3が検出された。支柱穴と考えている。深さ50cm程度である。覆土  
 焼土・炭化材主体の暗褐色土である。家屋廃材の処理と考えられる。遺物出土状態 カマド内出土の5  
 を標準に見ると、他の遺物もほぼ本跡に伴うと判断される。建て替え 見られない。



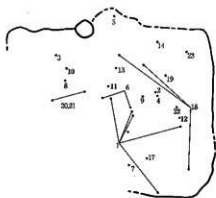
**O8D土層説明**

1. 赤系褐色土 炭化物多量、上部出土品多量。
2. 暗赤褐色土 焼土層、炭化物多量。
3. 暗赤褐色土 焼土層、小炭化物混入。
4. 暗赤褐色土 炭化物、ローム状物多量。
5. 暗赤褐色土 ローム状物多量、焼土炭化物多量。
6. 暗赤褐色土 暗赤褐色土に焼土混入。炭化物若干あり。
7. 暗赤褐色土 01号焼土柱礎土、焼包土混入。

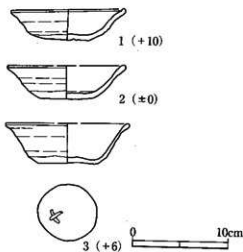


**O8Dカマド土層説明**

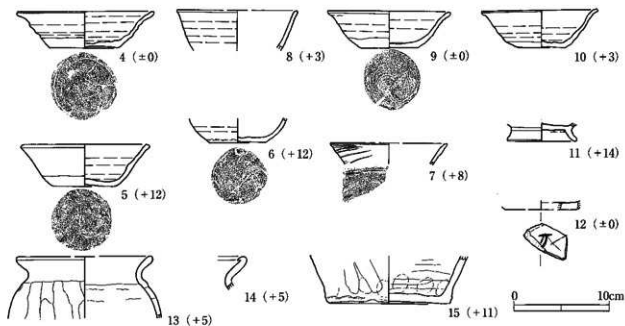
1. 暗赤色土 焼土多量、炭化物少量を含む。
2. 暗赤色土 灰下焼土多量、ローム土混入。
3. 暗赤褐色土 火室底土。



第26図 O8D遺構実測図



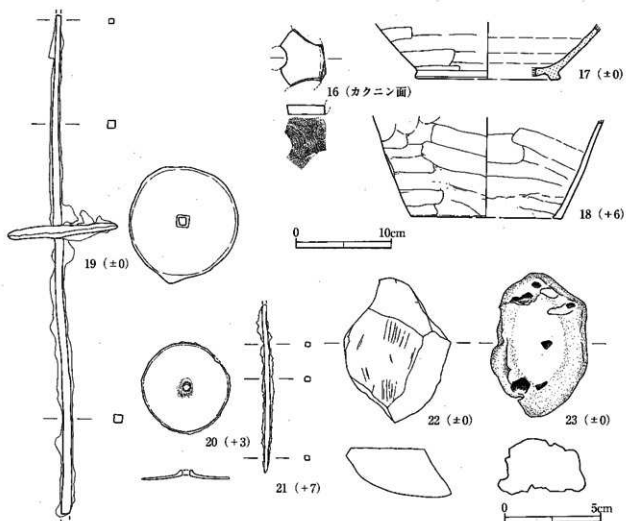
第27図 O8D出土遺物 (1)



第28図 O8D出土遺物(2)

08D遺物観察表

品目	部位	計測値 (cm)			色 質	胎 土	調査・文様等
		唇高	口径	底径			
1 土師器 坏	変形一断欠	5.5	12.1	4.7	黄褐色 一黄灰色	白色粘多含 雲母。小石粒	ロクロ成形。切縁し不明。底縁と体部下縁同軌へつ削り。 口縁部断面の十字状。内側に縦溝。
2 土師器 坏	口辺部～胴部1/4	3.5	12.4	5.8	暗灰色	白色粘 雲母	ロクロ成形。内径ロクロなで。 口縁部切縁し後縁線と体部下縁同軌へつ削り調整。
3 土師器 坏	口辺部2/3～底部	4.2	13	6.3	淡褐色	白色粘 雲母。黒石	ロクロ成形。口縁部切縁し後縁線と体部下縁同軌へつ削り。 内外径ロクロなで。底部外周中央に「×」のナゾツ。
4 土師器 坏	変形一断欠	3.9	14.2	7.2	灰白色	灰石 雲母。白色粘	ロクロ成形。口縁部切縁し後縁線と体部下縁同軌へつ削り調整。 ロクロ目切縁。
5 土師器 坏	口辺部1/3～底部全周	4.4	13.5	4.5	暗茶褐色 ～黒灰色	赤色スロリヤ 白色粘。黄 母少量	ロクロ成形。 口縁部切縁し後縁線と体部下縁同軌へつ削り調整。縦溝を付。
6 土師器 坏	体部下1/2～底縁	2.5	—	6	暗灰褐色	白色粘 雲母。黒石	ロクロ成形。 口縁部切縁し後縁線。
7 土師器 坏	口辺部破片1/5	2.3	12.2	—	一 灰白色	黄母	ロクロ成形。 泥底痕へつ書き体部外面に見られる。
8 土師器 坏	口辺部～体部中央1/4	4.3	12.6	—	淡褐色褐色	白色粘 雲母。赤石 スロリヤ	ロクロ成形。 泥底痕へつ書き体部外面に見られる。 縦溝あり。
9 土師器 坏	変形	3.9	12.8	6	暗褐色 ～黒色	白色粘 雲母。黒石	ロクロ成形。口縁部切縁し後縁線と体部下縁同軌へつ削り調整。 口縁部断面外見。内面。外面に黒溝。
10 土師器 坏	口辺部2/5～底縁全周	4	12.4	5	淡褐色 ～暗褐色	雲母。白色粘 赤色スロリヤ	ロクロ成形。切縁し不明。底縁と体部下縁同軌へつ削り調整。 口縁部断面外見。内面。外面に黒溝。
11 土師器 器行付地	高台部1/4	1.9	—	7.6	淡茶褐色	白色粘。石 灰石。赤石 小石粒	ロクロ成形。 口縁部切縁し後縁線へつ削り。赤台部縁に付。
12 土師器 坏	底縁1/5	1	—	7.6	淡茶褐色	赤色スロリヤ 雲母。石灰 石	ロクロ成形。 底縁外側に「日」の蓋書と「×」の彫付。
13 土師器 坏	口辺部～胴上平壁1/2程度	6.5	14	—	赤茶褐色 ～赤褐色	白色粘 赤色スロリヤ 雲母。黒石	輪轆み成形。 口辺部内外縁なで。 胴外周縁位へつ削り。内面なで。
14 土師器 坏	口辺部片	—	—	—	淡黄褐色	白色粘	輪轆み成形。 口辺部断面外見。内面に輪轆筋に付。
15 土師器 坏	変形一断部1/4	5	—	12.8	淡黄褐色	雲母。石灰 石。赤石 赤色スロリヤ	輪轆みロクロ成形。 胴部1/2内面に黒泥環。外面へつ削り。内面なで調整。
16 土師器 坏	変形破片	縦 6	横 4.8	厚 1	淡黄褐色	灰石。雲母 白色粘。石灰 石	ロクロ使用。口縁部切縁し後縁線へつ削り。 孔数は不明。
17 土師器 器	胴下平壁1/7～底縁	3.8	—	15.2	灰白色	灰石。石灰 石	ロクロ成形。高台部縁に付。 胴部下縁～下底縁位へつ削り。内径部自然。
18 土師器 器	胴部1/4～底縁	10.6	—	75.8	暗褐色	白色粘。石 灰石。赤石 赤色スロリヤ 雲母	輪轆み成形。口縁部切縁し後縁線へつ削り。 外周部中央まで断面へつ削り。下唇～下底縁位一斜位へつ削り。 内面へつ削りなで。なお切縁しは断面も別り未調整。



第29図 08D出土遺物 (3)

08D遺物観察表 (2)

品名	部位	計測値 (cm)			重量	出土	調査・文献等
		長さ	口径	底径			
鉄器 鉄鉢水	内境穴縁	縦長 26.5	口径 5.7cm	底径	重さ 44.5g		輪郭、上半部2.5mm中心部4mm下半部4.5mmの両内面。
鉄器 鉄線鉄釘	ほけ定	縦 5.4	横 4.7	幅径 0.35cm	重さ 15.1g		ほけ定形。 ややいびつな付け部。輪郭とセット。
鉄器 鉄線鉄釘	F部欠	縦 8.9		—	重さ 4.3g		上部欠損。輪郭とセットになる。 3~3.5mmの円内断面をもつ。F部欠る。
磁石		縦 7.7	横 6.6	高さ 2.6	重さ 92.3g		磁石の層が見られる。 下面に磁鉄屑。
磁石		縦 7.6	横 5	高さ 2.9	重さ 25.1g		使用痕はとりたてて見られない。

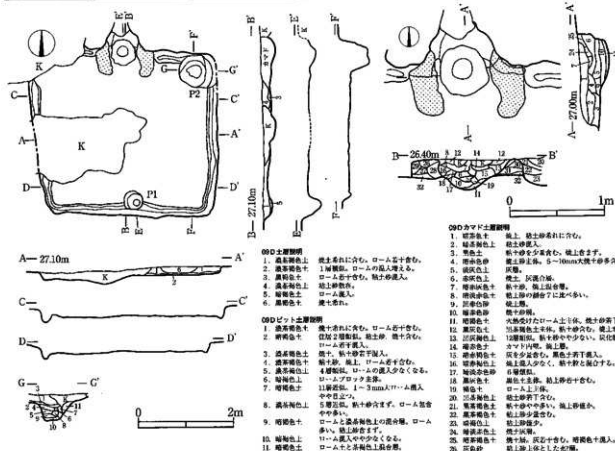


09D (第30~32図 図版3・13)

位置 D8区-4Gで検出。主軸方位 N-2°-Eではほぼ南北方向。重複関係 見られないが、カクランによる消失がある。平面形 北壁でやや広がる方形を呈する。規模 3.33m×3.24m。遺構確認面からの深さ15~20cm。壁 周溝からやや緩やかに立ち上がる。床 ソフトロームを掘り込んでも床面としている。床はほぼ平坦である。周溝 ほぼ全周する。幅20cm、深さ12cm程度である。カマド 北壁中央に作られる。焚口は袖部やや奥に位置し、深さ14cmとやや深い。袖部は両袖がやや離れて構築される。煙道部は立ち上がり部でカクランを受けるが火床奥から緩やかに立ち上がるようである。カマドP1は出入り口ピットで深さ30cmである。P2は位置、形状から貯蔵穴か。深さ43cmを測る。覆土 褐色土主体層だが、浅いため埋め戻しか否かの判断はむずかしい。遺物出土状態 カマド内及び東壁南側の廃棄遺物で、両者共に隔たりはなく、ほぼ本跡に近い時期の遺物に想定される。建て替え 見られない。

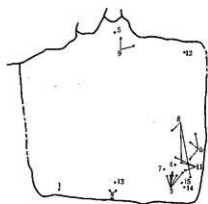
09D遺物観察表

階層	層位	計画値 (cm)			色調	備考	調査・分析等
		器高	口径	底径			
1 土層 床	口辺部1/7	3.1	17	—	淡褐色	赤色スクリヤ 内色は褐色	ロクロ成形。各部下部4mmへ削り削る。内へ削り込ませた。
2 土層 床	口辺部1/3 器部全面	3	12.7	5	淡褐色	赤色スクリヤ 白色。少量	ロクロ成形。器部全面削り削る。器部全面削り削る。内面底部に「工」の痕あり。
3 土層 床	口辺部一底部2/3	3.7	12.4	4.4	淡褐色	赤色スクリヤ 白色。少 量	ロクロ成形。削り削る。底部全面と器部下縁削り削る。内外ロクロなで。
4 土層 床	ほぼ完形	3.7	13	5.3	淡褐色	内色。少量 赤色スクリヤ	ロクロ成形。削り削る。底部全面と器部下縁削り削る。内外ロクロなで。
5 土層 床	口辺部一底部2/3	6.2	13.8	5.6	淡褐色	白色。少量	ロクロ成形。削り削る。器部全面と器部下縁削り削る。内面底部一底部削り削る。
6 土層 再仕埋	ほぼ完形	6.5	14.2	7	褐色	白色。小 石 混在。赤 色 スクリヤ	ロクロ成形。 器部削り削る。内外ロクロなで。

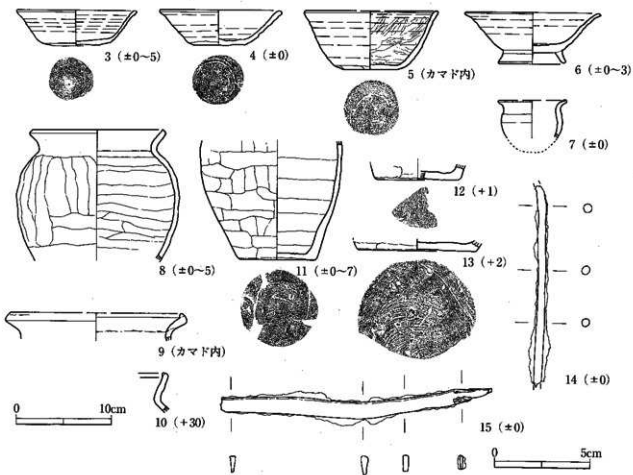
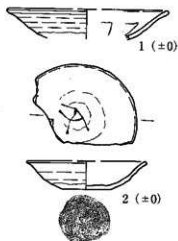


- 09D土層説明
1. 褐色土 埋土層に含む。ローム若干含む。
  2. 淡褐色土 1層厚。ロームの混入増える。
  3. 黒褐色土 ローム若干含む。灰土混入。
  4. 赤褐色土 1層厚。ローム混入。
  5. 黒褐色土 埋土層。
  6. 黒褐色土 埋土層。
- 09Dピット土層説明
1. 淡褐色土 埋土層に含む。ローム若干含む。
  2. 褐色土 埋土層。ローム若干含む。
  3. 淡褐色土 埋土層。ローム若干含む。
  4. 赤褐色土 埋土層。ロームの混入少くなる。
  5. 黒褐色土 埋土層。ローム若干含む。
  6. 黒褐色土 埋土層。ローム若干含む。
  7. 褐色土 埋土層。ローム若干含む。
  8. 黒褐色土 埋土層。ローム若干含む。
  9. 褐色土 埋土層。ローム若干含む。
  10. 褐色土 埋土層。ローム若干含む。
  11. 褐色土 埋土層。ローム若干含む。
  12. 褐色土 埋土層。ローム若干含む。
  13. 褐色土 埋土層。ローム若干含む。
  14. 褐色土 埋土層。ローム若干含む。
  15. 褐色土 埋土層。ローム若干含む。
  16. 褐色土 埋土層。ローム若干含む。
  17. 褐色土 埋土層。ローム若干含む。
  18. 褐色土 埋土層。ローム若干含む。
  19. 褐色土 埋土層。ローム若干含む。
  20. 褐色土 埋土層。ローム若干含む。
  21. 褐色土 埋土層。ローム若干含む。
  22. 褐色土 埋土層。ローム若干含む。
  23. 褐色土 埋土層。ローム若干含む。
  24. 褐色土 埋土層。ローム若干含む。
  25. 褐色土 埋土層。ローム若干含む。
  26. 褐色土 埋土層。ローム若干含む。
  27. 褐色土 埋土層。ローム若干含む。
  28. 褐色土 埋土層。ローム若干含む。
  29. 褐色土 埋土層。ローム若干含む。
  30. 褐色土 埋土層。ローム若干含む。
  31. 褐色土 埋土層。ローム若干含む。
  32. 褐色土 埋土層。ローム若干含む。

第30図 09D遺構実測図



第31図 09D遺物分布図



第32図 09D出土遺物

09D遺物観察表(2)

種別	部位	計測値 (cm)			色調	胎土	調査・文様等
		器口	口径	底径			
7 土師器 罎	山口部 ～体部上半部1/4	4	6.8	—	淡赤灰褐色	白色胎 紫色、小点註	ロクロ成形。 内外輪ロクロで。
8 土師器 罎	口辺部～胴下部	14	13.8	—	暗褐色	白色胎、紫 赤色スリヤ	輪挽ミロクロ骨用。口辺部内外縦で。 胴部外面上半～中央部位へラ張り。中央～下半縦位へラ張り。 内面肌力力のついたなどで調整。(細かな調整)
9 土師器 罎	口辺部1/4	3	17.8	—	暗褐色	白色胎 紫、石灰	輪挽ミロクロ成形。 口縁部突起付け内張りせる。

09D遺物観察表(3)

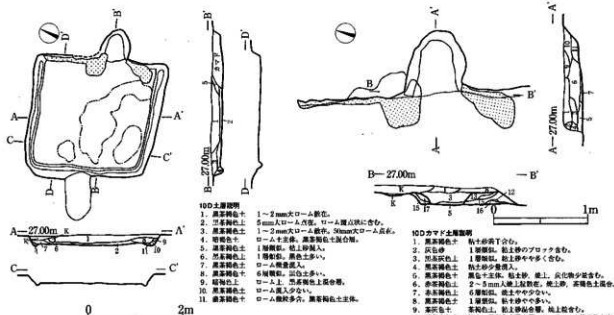
器種	部位	計測値(cm)			色調	胎土	調査・文様等
		器高	口径	底径			
10 土師器 盃	口辺部 ～底縁2/3	—	—	—	淡褐色	露出 長石	口縁部貼り付けて内張させる。胴部外縁面へつ割り。
11 土師器 類	胴中央部 ～底部	12.7	—	8.2	褐色	白色粒 黒石粒 赤色スロリヤ	輪状ミクロロコ群。底部切離し(内面転写あり)。 口縁部中央部へつ割り。胴部外縁面へつ割り後縁位へつ割り。 内面転写のついたやで調製。(産から縁取)
12 土師器 盃	近縁1/4部	1.7	—	8.6	淡茶色	白色粒 少量の赤色 スロリヤ	ロクロ成形。 停止未切離し後周縁と胴部下縁へつ割り調製。 内面ロクロなどで。
13 土師器 盃	底縁3/4	1.2	—	12.4	淡茶褐色	白色粒、右側 黒石、小石粒	ロクロ成形。胴部切離し後、輪状へつ割り。 胴部下縁へつ割り。内面転写に跡あり。
14 土師器 粘鉢 三輪 形	上半部	10.7	横 4mm	—	褐色	重量 11.4g	口径4mmの円形断面をもつ。 輪状上半部で、1部のカーブは粘鉢に移行する部分小。
15 土師器 刀子	両側部欠損	—	横 7～9mm	縦 厚 上縁3mm 外1mm	—	重量 15.3g	先端3mm分厚1mmの厚さをもつ。 両側部欠損。 胴部分に木炭が付着。

10D (第33～35図 図版3・13)

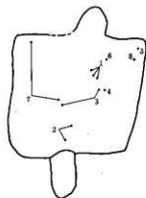
位置 F6区-4Gで検出。主軸方位 N-66°-Eで大きく東に傾く。重複関係 見られない。  
平面形 東壁でやや広がらうびつな方形を呈する。規模 2.38m×2.71m。遺構確認面からの深さ15～20cm。壁 周溝からやや緩やかに立ち上がる。床 ソフトローム中。ほぼ平坦で、カマド前面から西壁際に硬化面が見られる。周溝 カマド壁側を除いて全周する。幅10cm、深さ5cm程度。カマド 東壁南側に偏って作られる。焚口の掘り込みは見られない。袖部は、左袖が袖本体とは別に、壁際に粘土を貼り付けた形状をもつ。煙道部は住居壁を大きくU字状に掘り込む。焼土の堆積は顕著で使い込まれる。カマド位置は、遺存状態から当初から決定されていたと判断される。ピット 検出されなかった。  
覆土 黒褐色土主体層であり、自然埋没と判断される。遺物出土状態 カマド前面出土の6を標準とすると、その他の遺物も時間的に隔たりはなく、本跡に近い時期の遺物である。建て替え 見られない。

10D遺物観察表

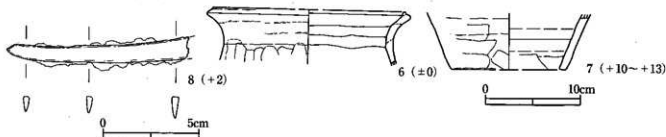
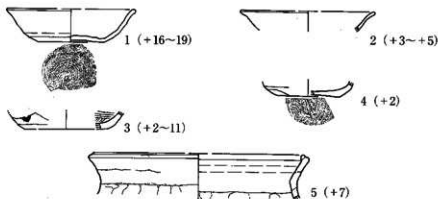
器種	部位	計測値(cm)			色調	胎土	調査・文様等
		器高	口径	底径			
1 土師器 杯	口辺部1/2部 ～底縁2/3	3.5	13.6	6.8	褐色	白色粒 石片、小石粒	ロクロ成形。左側縁未切離し無調製。 底部下縁に転写へつ割り調製。
2 土師器 杯	口辺部 ～胴部上縁1/6	2	14	—	黒灰色	黒色粒、白 色粒 赤色スロリヤ	ロクロ成形。



第33図 10D遺構実測図



第34図 10D遺物分布図



第35図 10D出土遺物

10D遺物観察表(2)

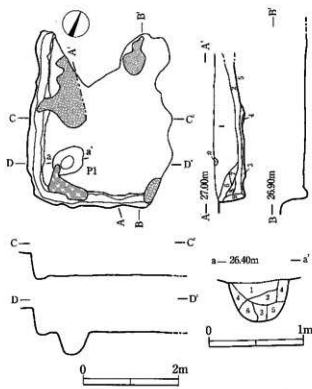
器種	部位	計測値 (cm)		色調	胎土	観察・文様等	
		器高	口径				
3 土師鉢 鉢	高部1/3	1.7	—	8 黄褐色	白色粒	ロクロ成形。口縁糸切跡し後周縁と体部下着面同へつ張り。体部下着面に「J」蓋音。	
4 土師鉢 鉢	底部1/3周	1.7	—	6 淡褐色	黄砂、砂粒、赤色スロリヤ	ロクロ成形。口縁糸切跡し黄褐色。体部下着面同へつ張り。	
5 土師鉢 鉢	口辺部1/4	4.8	2.3	—	淡茶褐色	輪郭み成形。口縁部張り付け内張させる。口辺部内外縁などで、胴部外周縁同へつ張り。内面ヘラナデ。	
6 土師鉢 鉢	口辺部 ～胴上半部	5.8	2.0	—	淡茶褐色	白色粒	輪郭み成形。口縁部張り付け内張させる。口辺部内外縁などで、胴部外周縁同へつ張り。内面同へつ張り。
7 土師鉢 鉢	胴下半部1/5	6	—	12 黄褐色	白色粒	孔数不明。外周縁同へつ張り。内面下着へつ張り。全て。	
8 鉄器 刀子	基部欠損	—	横	幅 0.8-1.1	重量 11.6g	基部欠損。錆化をしい。	

11D (第36～38図 図版13)

位置 H6区-2Gで検出。主軸方位 N-17°-Wでやや西に傾く。重複関係 見られないが、カクランが著しい。平面形 不明。規模 3.46m以上×2.36m以上。遺構確認面からの深さ46～53cm。壁 周溝からはほぼ垂直に立ち上がる。床 ハードローンを掘り込んで床面とする。ほぼ平坦である。周溝 遺存部分で周回する。幅20～25cm、深さ10cm。カマド 不明だが、北壁側か。ピット P1のみ。貯蔵穴か。深さ45cm。覆土 1～3層は黒褐色土であり、自然埋没と判断される。焼土の出土状況から、住居廃絶時に焼却行為を行い、多少の埋め戻しをしている。遺物出土状態 住居廃絶時後すぐの廃棄遺物と考えられ、遺物は本跡に近い時期である。建て替え 見られない。

11D遺物観察表

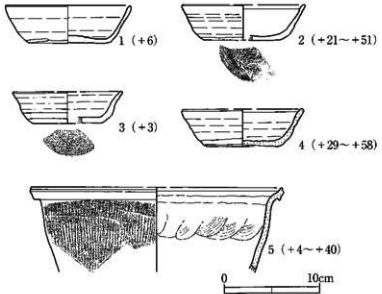
器種	部位	計測値 (cm)		色調	胎土	観察・文様等
		器高	口径			
1 土師鉢 鉢	口形	4	13.2	8 黄褐色	赤色スロリヤ 白色粒	ロクロ成形。切跡し不明。口縁部張り付け内張させる。外周縁同へつ張り。内面同へつ張り。
2 土師鉢 鉢	口辺部 ～胴1/4	3.7	12.6	8 淡褐色	黄砂	ロクロ成形。口縁部張り付け内張させる。口辺部内外縁などで、胴部外周縁同へつ張り。
3 土師鉢 鉢	口辺部1/4 ～底部	3.3	11.6	7 淡褐色	黄砂	ロクロ成形。口縁部張り付け内張させる。体部下着面同へつ張り。



- 11D土層説明**
1. 汚土層 黄土、ローム状若干含む。
  2. 埋藏層 10mm大ローム多数、幾十ローム1層より多い。
  3. 埋藏層 10~50mm大ローム多数。
  4. 埋藏層 黄土に片づやみ多い。
  5. 埋藏層 埋藏層に黄土が多量に混入。
  6. 埋藏層 2層状、10mm大ローム混入。
  7. 埋藏層 2~5mm大ローム少し多い。
  8. 埋藏層 2層状、ローム状が多い。
  9. 埋藏層 2層状、ローム混入。

- 11D P 1土層説明**
1. 埋藏層 2mm大ローム多数、10~30mm大ローム、黒色土若干含む。
  2. 埋藏層 1層に2~4cm大少量あり、50mm大ローム、黄色土若干含む。
  3. 埋藏層 5mm大ローム多数、黒色土若干含む。
  4. 埋藏層 30~50mm大ローム含む、灰土若干含む。
  5. 埋藏層
  6. 埋藏層 ローム状混入、黒色土若干。

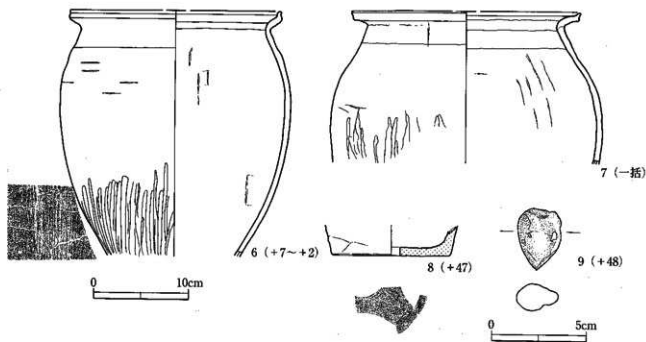
第36図 11D遺構実測図



第37図 11D出土遺物 (1)

11D遺物観察表 (2)

器種	部位	計測値 (cm)			色調	胎土	調査・文様等
		器高	口径	奥行			
4 環状土 環	口辺部 ~底部1/2	3.9	12.6	7.4	黄褐色	石灰、白色粘 土	ロクロ成形。切縁し不明。 底面全無。底部下縁部へタ張り。ロクロ全で。
5 環状土 環	口辺部1/4 ~側上半部	8.9	26.4	-	黄褐色	玉石 黄砂、白色 粘	形を認め成形。口縁部つまみ上げる。口辺部内外縁全で。 側部外面に環状平目あり。内面同心円状に具直。
6 土師器 壺	口辺部2/3 ~側下半部	25.8	22	-	黄褐色 ~赤褐色	雲母、石英 長石多数	輪削み成形。口辺部内外縁全で。 側部外面へタ全で。中央へ下縁部へタ張り。内面へタ全で。
7 土師器 壺	口辺部1/2 ~側中央部	16	24	-	黄褐色 ~暗褐色	片石、雲母 小石片	輪削み成形。口辺部内外縁全で。 側部外面全で。中央から下縁部へタ張り。内面へタ全で。
8 土師器 瓶	底部1/5	0.9	-	12	黄褐色 赤褐色	白色粘、黄砂 赤色スロコヤ	5孔式 側部下半へ下縁部へタ張り。焼き跡まわっている。
9 磁石	底	3.2	2.2	1.4	厚 重さ 1.8g	-	焼き等の痕跡は見られない。



第38図 11D出土遺物(2)

12D (第39~42図 図版3・13)

[12AD]

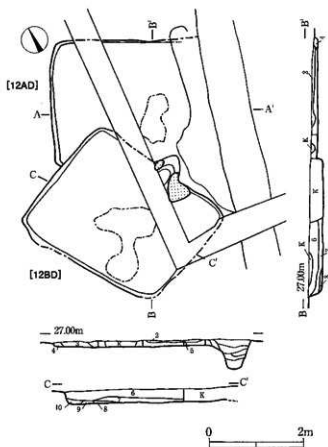
位置 G4区-2Gで検出。主軸方位 N-30°-E方向か。重複関係 12BDを切る。平面形 長方形か。規模 2.5m×2.3m以上、遺構確認面からの深さ0.1m。壁 垂直に立ち上がる。床 ソフトルーム中。硬化面が遺存。周溝 確認されない。カマド 不明。ピット 確認されない。覆土 黒褐色土主体の自然埋没か。遺物出土状態 南側、北壁に出土している。建て替え 見られない。

[12BD]

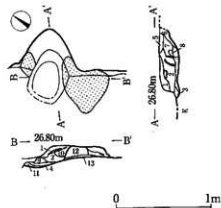
位置 同上。主軸方位 N-64°-Eで東に傾く。重複関係 ADに切られる。平面形 不整長方形。規模 3.21m×2.5m、確認面から深さ0.3m。壁 垂直に上がる。床 ハードルーム中。硬化面が中央から西壁際に遺存。周溝 確認されず。カマド 東壁中央に構築。左袖カクラン受ける。焚口部浅い掘り込み。煙道部緩やかに立ち上がる。ピット 確認されず。覆土 暗褐色土主体の自然埋没。遺物出土状態 全体に出土する。東壁北コーナー付近ではADの遺物が混入する。建て替え 見られない。

12D遺物観察表

図録	部位	片断長 (cm)		色調	胎土	調査・文録等
		径長	口径			
1 土師砂 坏	口辺部1/6	4.1	13.3	淡赤褐色	凝結 白色粒	ロクロ成形。内面削いへう磨き。 外側ロクロで。
2 土師砂 埴	口辺部1/4 ~体部ト端	3.5	14	暗褐色 黒褐色	凝結。白色粒 赤色スロリヤ	ロクロ成形。口縁部厚く外反する。二次焼成による器面の荒れが内 外面に顕著。
3 土師砂 埴	口辺部1/5	3.9	12.8	淡黄褐色	白色粒 少量の凝結	ロクロ成形。体部下半へう削り顕著。 内外ロクロで。
4 土師砂 坏	口辺部1/5	3.9	14.3	淡黄褐色	凝結 赤石	ロクロ成形。体部下半へう削り。 内外ロクロで。口縁部厚く外反する。
5 土師砂 高台付埴	口辺部1/5 ~底部全周	3.5	14.4	2.3 凝褐色	赤石 灰石、凝結	ロクロ成形。高内面削り。 内外ロクロで。
6 土師砂 埴	口辺部 ~胴上1/3部1/3	6.3	17.8	2.4 凝褐色	凝結 白色粒、赤石	口辺部磨きで。胴部外側削いへう削り顕著。内面まで。 内外二次焼成による割磨きしい。
7 土師砂 坏	口辺部 ~体部1/4	3.2	11.6	暗褐色	凝結 白色粒	ロクロ成形。 内外ロクロで。口縁部厚く外反する。
8 土師砂 埴	口辺部1/4 ~体部下半	3.6	14	暗褐色	白色粒 赤石、砂粒	ロクロ成形。 口縁部厚く外反する。
9 土師砂 坏	口辺部1/4 ~体部ト端	3.5	14.6	2.4 凝褐色	白色粒 石瓦	ロクロ成形。 体部下半へう削り顕著。内外ロクロで。



第39図 12D遺構実測図

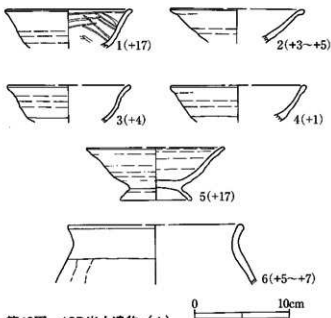


12D土層説明

1. 黄褐色土 ローム状、灰色土層混合層。
2. 黄褐色土 1層厚。地上粘土。
3. 黄褐色土 ローム状、黄色土層混合層。
4. 黄褐色土 ローム状、灰色土層混合層。
5. 黄褐色土 ローム状、黄色土層混合層。
6. 黄褐色土 ローム状、灰色土層混合層。2-4mm大ローム状、地上粘土。
7. 黄褐色土 黄褐色土層。地上粘土。
8. 黄褐色土 ローム状、灰色土層混合層。
9. 黄褐色土 灰色土層に黄褐色土層。
10. 黄褐色土 黄褐色土層。ローム状粘土。
11. 黄褐色土 ローム状粘土。

12Dカマド土層説明

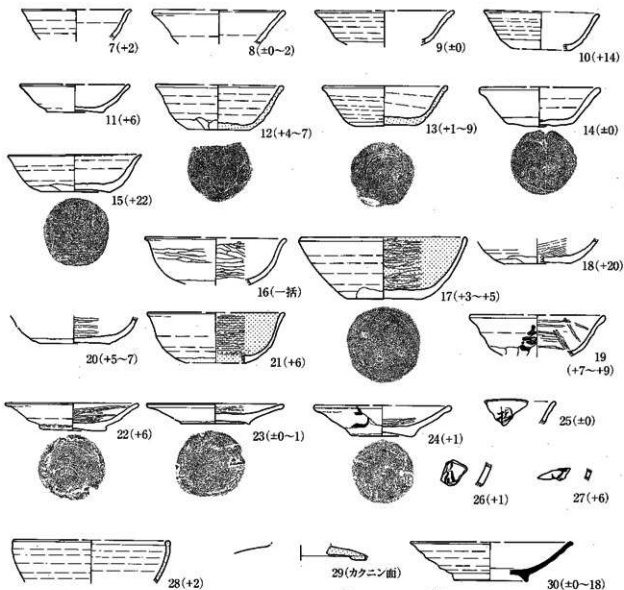
1. 黄褐色土 地上砂層。粘土層。粘土層。
2. 黄褐色土 地上砂層。粘土層。粘土層。
3. 黄褐色土 1と4の中間層。地上砂層。
4. 黄褐色土 黄褐色土層。地上砂層。
5. 黄褐色土 粘土層。
6. 黄褐色土 ローム、粘土層。地上砂層。粘土層。粘土層。
7. 黄褐色土 黄褐色土層。地上砂層。粘土層。
8. 黄褐色土 地上砂層。カマド土層の混合層。
9. 黄褐色土 粘土層。地上砂層。
10. 黄褐色土 黄褐色土層。地上砂層。粘土層。
11. 黄褐色土 黄褐色土層。地上砂層。粘土層。
12. 黄褐色土 地上砂層。



第40図 12D出土遺物(1)

12D遺物観察表(2)

遺物	部位	寸法(cm)		色調	胎土	調査・文様等
		高さ	口径			
10 土器鉢 環	口辺部L/4 ~底部	4	12	5.9	黄褐色	黒クワ成形。内外口ロ空。 体下部縮切へう閉り調整。
11 土器鉢 環	底部全周 L1/3部L/4	2.9	11.4	6.4	茶褐色	黒クワ成形。 底部右側縮切り無し調整。

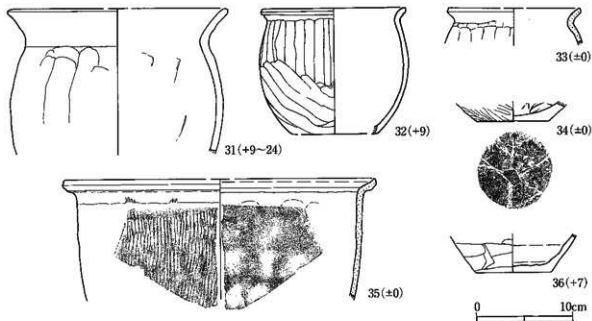


第41図 12D出土遺物(2)

12D遺物観察表(3)

器種	部位	計測値 (cm)			色 産	胎 土	装飾・文様等
		器高	口径	底径			
12 煎茶鉢 環	口辺部1/2部 ~底部	47	134	6.6	黄褐色 赤柿 灰白、白色	口クロ成形。切欠し不明。底部及び底部下縁手持ちヘラ削り調整。 内面全体一度彫削ヘラ磨き。	
13 煎茶鉢 環	略定形 (1/4欠)	43	131	6.7	黄褐色 赤柿厚薄片 赤柿 砂筋、黒色 砂筋片	底部内縁赤削り後内縁斜削ヘラ削り。 底部下縁彫削ヘラ削り。底部内縁口クロ成形。	
14 土師器 環	口辺部1/2部 ~底部全周	41	127	6.9	黄褐色 白色灰、少 量赤筋 赤色スロリヤ	口クロ成形。口縁部厚く外反する。 内縁赤削削し後内縁と底部下縁彫削ヘラ削り。	
15 土師器 環	口辺部 ~底部3/4	39	139	7.2	赤褐色 白色灰	口クロ成形。切欠し不明。底部取(口縁部)外反する。 底面全周手持ちヘラ削り。底部下縁も同様。	
16 土師器 環	口辺部1/3 ~底部	49	14.8	—	黄褐色 赤褐色 白色灰、黒筋 少量赤色スロ リヤ	おそく口クロ成形。 底部下縁彫削ヘラ削り。 体部部分的に横削ヘラ磨き。内面横削ヘラ磨き後黒色灰厚小。	
17 土師器 環	口辺部2/3 ~底面	6.5	17.6	7.7	黄褐色 ~黄褐色 赤褐色	口クロ成形。内縁赤削削し後内縁及び底部下縁手持ちヘラ削り。 内面横削ヘラ磨き後黒色灰厚小。	
18 土師器 環	体部 ~底部1/4	2.6	—	7	白色灰 赤褐色 内面黄褐色	口クロ成形。 内面横削削し後内縁及び底部下縁手持ちヘラ削り。 内面横削削し後内縁と底部下縁手持ちヘラ削り。	
19 土師器 環	口辺部 ~体部1/3	4.3	14	—	白色灰 黄褐色	口クロ成形。底部下縁手持ちヘラ削り。 内面横削削し後内縁と底部下縁手持ちヘラ削り。	





第42図 12D出土遺物 (3)

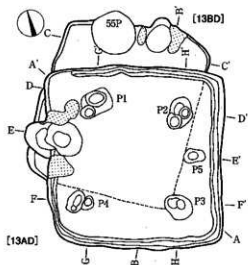
12D遺物観察表 (4)

番号	器種	部位	計測値 (cm)			色 調	材 質	観 察	調査・文献等
			器高	口径	底径				
20	土師器 碗	唇部 ～底径2/3	2.9	—	7	淡黄褐色	長石 凝灰	白色	口クロ成形。唇部赤褐色し縁部屈折し底部屈折と唇部下縁凹縁へつ張り調整。体部～底径内側面へつ張り。
21	土師器 鉢	口辺部 ～底径1/4	5.3	14.2	6.4	外縁茶褐色 内縁褐色	赤灰、白色 赤灰、小石粒	白色	口クロ成形。唇部下縁へつ張り。内面側面へつ張り。底面外縁「X」の割書
22	土師器 皿	ほぼ完形	3	14	7	茶褐色	白色	赤灰	口クロ成形。石粒赤褐色し調整。外周クロなどで。内面側へつ張り。底面外縁「X」の割書
23	土師器 皿	口辺1/9 ～底径全周	21	14.4	7.2	切粉色 ～赤褐色	白色	赤灰	口クロ成形。唇部赤褐色し調整。内面側面へつ張り。
24	土師器 皿	口辺部1/4 ～底径全周	3.2	14.2	6.4	淡褐色	白色	赤灰	口クロ成形。唇部赤褐色し調整。内外口クロなどで。内面側面へつ張り。体部外縁中央に不明器書
25	土師器 杯	口辺部 ～体部	—	—	—	淡褐色	白色	赤灰	口クロ成形。体部外縁「田」の割書
26	土師器 杯	唇部片	—	—	—	褐色	白色	赤灰	口クロ成形。体部外縁に不明器書
27	土師器 杯	唇部片	—	—	—	淡褐色	白色	赤灰	唇部外縁に不明器書あり
28	土師器 鉢	口辺部1/6	4.5	16.4	—	淡黄褐色	白色	赤灰	口クロ成形。口辺部赤褐色し調整。内外口クロなどで。底面はサンドイッチ状
29	土師器 鉢	唇部片	1.5	16.4	—	淡褐色	白色	赤灰	口クロ成形。自然焼
30	土師器 碗	口辺部1/2 ～底径	4	17	7.9	淡灰色	長石 白色	赤灰	口クロ成形。唇部赤褐色し調整。内面側面へつ張り。内面側面へつ張りによる調整。
31	土師器 鉢	口辺部 ～体部	13.3	23	—	茶褐色	白色	赤灰	口辺部外縁などで。唇部外縁側面へつ張り。内面へつ張り。
32	土師器 鉢	口辺部 ～体部	13.3	14.8	8.8	淡黄褐色 ～茶褐色	白色	赤灰	口辺部唇部土質はりつ。口辺部内側面などで。唇部外縁側面へつ張り後中央へつ張り調整。内面側面へつ張り。内面側面へつ張り。内面側面へつ張り。
33	土師器 鉢	口辺部 ～体部	3.9	13.8	—	淡灰色	赤灰	白色	口クロ成形。口辺部側面へつ張り。内面側面へつ張り。
34	土師器 鉢	底径全周	21	—	7.5	茶褐色	赤灰	白色	口辺部側面へつ張り。内面側面へつ張り。
35	土師器 鉢	口辺部 ～体部	12.7	22.4	—	淡褐色	白色	赤灰	口辺部側面へつ張り。内面側面へつ張り。
36	土師器 鉢	口辺部 ～体部	4.1	—	8	淡褐色	白色	赤灰	口辺部側面へつ張り。内面側面へつ張り。

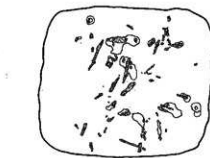
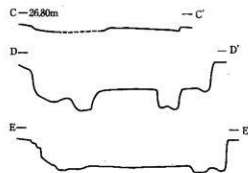
13D (第43～46図 図版4・14)

[13AD]

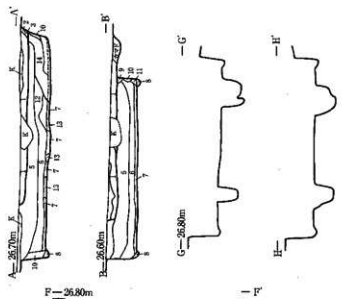
位置 G3区～4Gで検出。主軸方位 N-70°-Wで大きく西に傾く。重複関係 13BDに切られる。平面形 方形。規模 3.4m×3.4m、遺構確認面からの深さ0.6m。壁 周溝から垂直に立ち上がる。



[13AD]



[13AD炭化物出土状況]



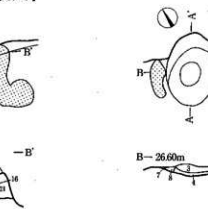
130D土層説明

1. 瓦葺陶器土
2. 硝土
3. 硝土
4. 硝土
5. 硝土
6. 硝土
7. 硝土
8. 硝土
9. 硝土
10. 硝土
11. 硝土
12. 硝土
13. 硝土
14. 硝土
15. 硝土

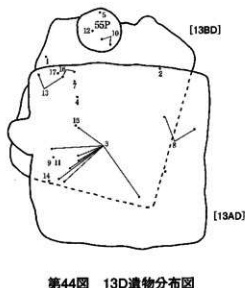
130Bカマド土層説明

1. 硝土
2. 硝土
3. 硝土
4. 硝土
5. 硝土
6. 硝土
7. 硝土
8. 硝土
9. 硝土
10. 硝土
11. 硝土
12. 硝土
13. 硝土
14. 硝土
15. 硝土
16. 硝土
17. 硝土
18. 硝土
19. 硝土
20. 硝土
21. 硝土
22. 硝土
23. 硝土
24. 硝土
25. 硝土
26. 硝土
27. 硝土
28. 硝土
29. 硝土
30. 硝土
31. 硝土
32. 硝土
33. 硝土
34. 硝土
35. 硝土
36. 硝土
37. 硝土
38. 硝土
39. 硝土
40. 硝土
41. 硝土
42. 硝土
43. 硝土
44. 硝土
45. 硝土
46. 硝土
47. 硝土
48. 硝土
49. 硝土
50. 硝土
51. 硝土
52. 硝土
53. 硝土
54. 硝土
55. 硝土
56. 硝土
57. 硝土
58. 硝土
59. 硝土
60. 硝土
61. 硝土
62. 硝土
63. 硝土
64. 硝土
65. 硝土
66. 硝土
67. 硝土
68. 硝土
69. 硝土
70. 硝土
71. 硝土
72. 硝土
73. 硝土
74. 硝土
75. 硝土
76. 硝土
77. 硝土
78. 硝土
79. 硝土
80. 硝土
81. 硝土
82. 硝土
83. 硝土
84. 硝土
85. 硝土
86. 硝土
87. 硝土
88. 硝土
89. 硝土
90. 硝土
91. 硝土
92. 硝土
93. 硝土
94. 硝土
95. 硝土
96. 硝土
97. 硝土
98. 硝土
99. 硝土
100. 硝土

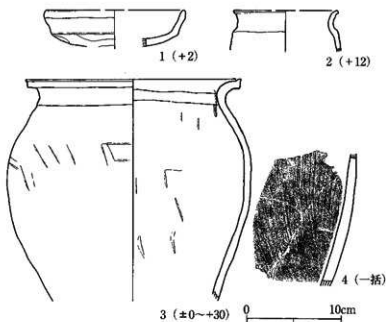
[アカマド]



第43図 13D遺構実測図



第44図 13D遺物分布図



第45図 13D出土遺物(1)

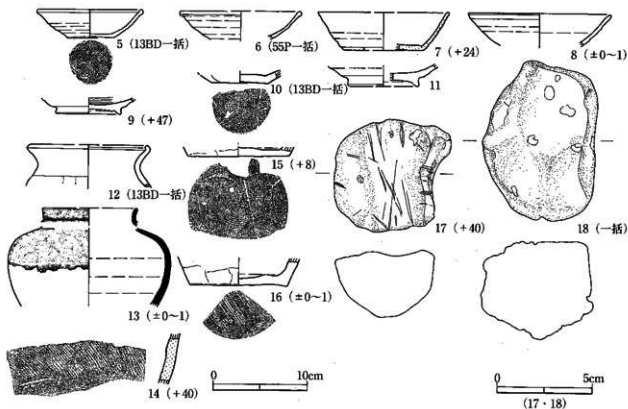
床 ハードルームを掘り込む。周溝 15~20cm、深さ10cm。カマド 袖部良好。焚口は10cmと浅い掘り込み。煙道部は焚口奥で緩やかに上がり、角度を変え急傾斜で立ち上がる。ピット P1~4が主柱穴、P5が出入り口ピット。覆土 褐色土主体の埋め戻し土。最下層で炭化材・焼土が出土し、家屋廃材の処理である。遺物出土状態 BDの混入遺物があり、位置の妥当性も考慮しなければならないが、1~4が本跡に伴うと判断される。建て替え 柱の位置替えが見られ拡張か。

[13BD]

位置 同上。主軸方位 N-30° -Eで東に傾く。重複関係 ADを切り、55Pに切られる。平面形状 方形。規模 3.1m×3.1m、確認面から深さ0.1m。壁 垂直に上がる。床 ソフトルーム中。周溝 なし。カマド 北壁東に偏って構築。焼土の堆積顕著。煙道部緩やかに上がる。ピット なし。覆土 黒褐色土主体の自然埋没。遺物出土状態 7~9.11.13.14.16等が本跡に伴う。建て替え 見られない。

13D遺物観察表

図例	部位	計画量 (m)		底径	色 調	土 質	調査・文様等
		径高	口径				
1 土師器 杯	口辺部1/4強 ~身部	3.8	14.6	—	暗褐色	白色土、石灰 質、赤色 スコリヤ	輪縁み成形。口辺部内外縁で、身部外縁面へウ張り。内面に絞。
2 土師器 类	口辺部1/4 ~胴上部	4.4	11	—	暗褐色 ~淡褐色	白色土	輪縁み成形。口辺部内外縁で、 外面二次焼成による剥離多い。
3 土師器 壺	口辺部全周 ~腹下半部1/4	23.3	22.6	—	淡褐色褐色	石灰多量 雲母、赤土	口辺部内外縁で、身部外面で。口縁部つまみあげ。 内面へウ張り。
4 土師器 壺	胴部片	—	—	—	外表面暗褐色 内表面褐色	長石 雲母 多量	胴部下半部断面へウ張り。 内面へウ張り。で、なで。
5 土師器 杯	底部	3.1	11.2	4.8	暗茶褐色	長石 雲母、白色粒	口辺部全周。磨み切跡見られ。口縁部厚く、内面に絞。 スス状付着物をかきとった痕跡が内面に見られる。
6 土師器 杯	口辺部1/4 ~身部	3	12.8	—	暗褐色 ~淡茶褐色	白色土、雲母 赤色スコリヤ	口辺部内外縁。内外口辺部で。 口縁部厚く見れ、互鎖状となっている。
7 埴輪器 杯	口辺部1/3	4	13.8	8.4	灰白色	雲母 長石、石英	口辺部全周。 切磨し不明。断面及び体部下端子持ちへウ張り調整。
8 土師器 杯	口辺部1/4 ~胴部1/4	3.4	15	—	灰色	雲母 長石	口辺部全周。 内外口辺部で。
9 土師器 両台付皿	底部全周	1.7	—	6.9	淡褐色	石灰、長石 赤色スコリヤ	口辺部全周。 互合調整付。内面へウ張り調整。
10 土師器 壺	胴部3/4	1.4	—	6.2	暗褐色	白色土、雲母 赤色スコリヤ	胴部全周見れ調整跡半持ちへウ張り。 胴部全周へウ張り調整。内面で。
11 土師器 高外付皿	体部1/3 ~底部	2.3	—	7.4	淡褐色	雲母、白色粒 赤色スコリヤ	口辺部全周。 高台部貼り付け。
12 土師器 壺	口辺部1/4	4.4	12.6	—	淡褐色	白色土 長石、石英	口辺部内外縁で、内面に絞をつくる。 口辺部内外縁で、断面外縁へウ張り調整。



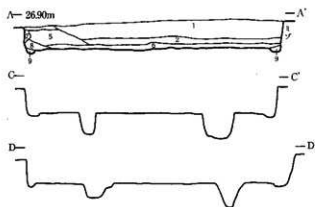
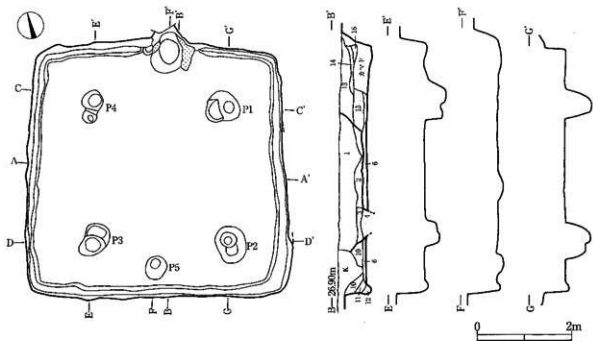
第46図 13D出土遺物(2)

13D遺物観察表(2)

13	部種	形状	寸法値 (cm)			色 調	胎 土	観察・文様等
			幅高	口径	直径			
13	灰物向蓋 短距離 割下半部	口辺厚1.5～縁部 割下半部	1.9	1.9	—	緑灰色	布唐、石英	ロクロ成形。円面状。口辺部隆立。 内側ロクロ面。
14	灰草器 茶	割下半部片	—	—	—	外赤茶灰色 内淡黄褐色	灰石 雲母、石英	右どがり斜位の平行印さ目。下は傾位へつ周り。 内面全て紫色。
15	土器器 茶	底厚4.5mm	—	1	10.6	靑褐色 ～暗褐色	赤色スロリヤ ～暗褐色	ロクロ成形。面粗面切離し後へつ削り調整。 胴部外側へつ削り調整。内面全て。
16	土器器 茶	割下半部 ～底厚1/4	—	3	10.2	暗褐色 赤色スロリヤ ～暗褐色	赤色スロリヤ ～暗褐色	ロクロ成形。面粗面切離し後へつ削り調整。 胴部外側へつ削り調整。内面全て。
17	磁石	磁石	縦 6	横 6.3	高 3.5	淡灰色	赤さ 30.7g	片断上の断面及び断面の磨削が露出した3面及び下面に見られる。
18	磁石	磁石	縦 8.4	横 6.1	内 5.2	赤灰色	黒さ 11.4g	断面の磨削が露出した面を中心に見られる。

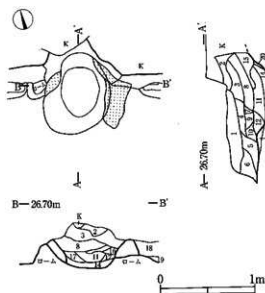
14D (第47～49図 図版4・14)

位置 F3区-2Gを中心に検出。主軸方位 N-24°-Eでやや東に傾く。重複関係 見られない。平面形 南壁でやや広がる方形を呈する。規模 4.91m×5.29m。遺構確認面からの深さ51cm。壁 周溝からはほぼ垂直に立ち上がる。床 ハードロームを掘り込んで床面としている。床はほぼ平坦である。周溝 全周する。幅15～20cm、深さ8cm程度である。カマド 北壁若干東寄りに作られる。焚口はやや浅めに掘られる。袖部は左袖がやや貧弱である。煙道部は立ち上がり部でカクランを受けるが焚口部奥から角度をもって立ち上がる。カマド位置は、周溝が袖部手前で立ち上がっており、当初から決定されていたと判断される。ピット P1～4が主柱穴で、40～50cmの深さである。P5が出入り口ピットで深さ13cmである。覆土 南および西壁際に褐色土層(5.10層)が埋め戻され、その後は自然埋没している。遺物出土状態 カマド前及び北壁東側の廃棄遺物が主で、やや浮いて出土するが、廃絶時に近い時期の遺物に想定される。建て替え 柱の位置替えが見られ拡張か。



#### 14D 土層説明

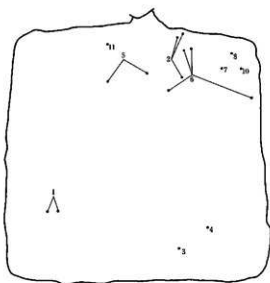
1. 暗褐色土 ローム状砂状含む。
2. 暗褐色土 1層砂状、当面上部の砂質多い。
3. 暗褐色土 ローム状、暗褐色土の混合層。
4. 暗褐色土 ローム状、褐色土の混合層。
5. 暗褐色土 ローム状、当面上部少量含む。
6. 暗褐色土 灰化土少量混入。
7. 暗褐色土 ツブツブローム状、暗褐色土少量含む。
8. 暗褐色土 ローム状、褐色土混合層、20mm径ロームブロック含む。
9. 暗褐色土 ローム状、ロームブロック含まず。
10. 暗褐色土 5層砂状、灰化土含まず、褐色土状下部多い。
11. 暗褐色土 ローム状下部含む。
12. 暗褐色土 ロームブロック少量含む。
13. 暗褐色土 灰化土混入、ローム状、灰化土含む。
14. 暗褐色土 1層砂状、褐色土含む。
15. 暗褐色土 灰色砂、砂状含む、部分的に上部混入。
16. 暗褐色土 ローム状、ロームブロック、暗褐色土混合層。



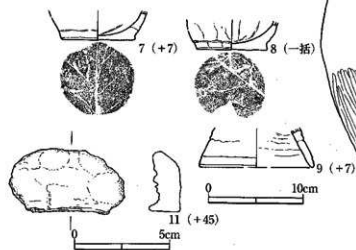
#### 14D カマド土層説明

1. 赤褐色土 ローム状、塊上、当面上、粘土少量含む。
2. 暗褐色土 ローム上、暗褐色土の混合層。
3. 暗褐色土 ローム上、暗褐色土の混合層。
4. 暗褐色土 ローム上、2層以上粘土砂質、粘土混入。
5. 暗褐色土 1層以上ロームを塊状に含む。
6. 赤褐色土 1層砂状、ローム混入やや多。
7. 赤褐色土 粘土少量含む。ローム混入、褐色土含む。
8. 暗褐色土 2層砂状、塊上、ローム認められず。
9. 暗褐色土 ローム状若干含む、黄土、褐色土粒混入。
10. 暗褐色土 粘土中やや多い、ローム混入、塊上砂質。
11. 暗褐色土 2層以上ローム混入多い、塊上、粘土少量含む。
12. 暗褐色土 ローム、褐色土混合層、灰化土、塊上砂質。
13. 暗褐色土 ローム上、粘土層。
14. 暗褐色土 褐色土主体、粘土砂質。
15. 暗褐色土 ローム、粘土少量含む、粘土混入。
16. 暗褐色土 1層砂状、黄土、ローム多い。
17. 暗褐色土 ローム、暗褐色土の混合層、塊上若干含む。
18. 暗褐色土 灰化土混入層上、ローム上。
19. 暗褐色土 ローム上に粘土若干混入。
20. 暗褐色土 ローム上、褐色土若干含む、塊上砂状。
21. 暗褐色土 2層砂状、ローム上。
22. 暗褐色土 1層砂状、ローム上。

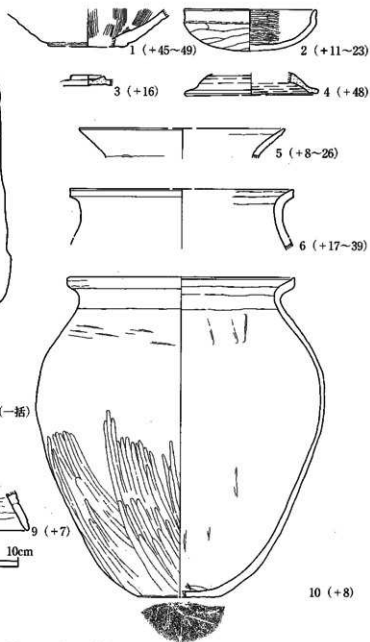
第47図 14D遺構実測図



第48図 14D遺物分布図



第49図 14D出土遺物



14D遺物観察表

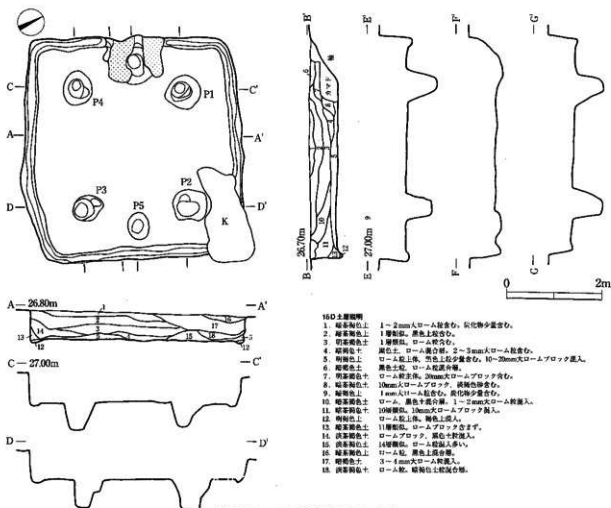
図種	部位	計測値 (cm)		色 調	胎 土	調査・文献等
		長さ	直径			
1 陶器 すり鉢 ～底板1/3		4.1	—	8.2 暗茶褐色	ち密	11年単位の検体数が47に3単位の異層で層位に施文される。
2 土器 鉢 碗定形		4.3	14	— 茶褐色	白色粒、茶褐色 赤色スロリヤ	輪縁み成形 口辺部外縁溝などで、外部外縁部へラ張り、内面横ばへラ焼き。
3 土器 鉢 鉢金形		0.7	3.3	— 灰色	灰色粒 雲母	ロクロ成形。
4 土器 鉢 鉢金形 ～大弁部		2.3	14	— 茶褐色	白色粒、茶褐色 赤色スロリヤ	ロクロ成形。内面かえりは、ややしっぺりしている。 大弁部外縁へラ張り、裏ね残しによる色の変化あり。 内面にケール状付着物みられる。
5 土器 鉢 鉢金形		3.2	21.6	— 茶褐色	茶褐色、白色粒 赤色スロリヤ	口辺部外縁溝などで、外部へラ張り、内面へラなどで覆なで、 内面内面に強い焼がめぐる。
6 土器 鉢 鉢金形		6.3	23.4	— 茶褐色	茶褐色、赤色 雲母多量、 小石片	口辺部外縁溝などで、 外部へラ張り、内面へラなどで、 内面内面に強い焼がめぐる。
7 土器 すり鉢 すり鉢 ～底板中間		3.1	—	7.8 淡茶褐色 黒灰	白色粒 赤色スロリヤ 雲母、石英	輪縁み成形。底面木炭灰 外縁などで、内面へラなどで。 底面縁部に施文するが、外縁溝から平づくおをした。

### 14D 遺物観察表 (2)

部位	部位	計測値 (cm)			色 調	材 土	調査・記録等
		長さ	口徑	高さ			
8 上部部 手づくね	底部 一帯部全周	3.2	—	7.4	黒灰褐色 白色粒 赤色スロイヤ 雲母、石英	7と隣接の成肌、調査によりつらされる。 中や粒が多い。	
9 上部部 不明	唇台部か、1/3	4.1	—	11.8	淡褐色 ～茶褐色 黒片、赤灰	口辺部腐んで、 内外腐んで、 内外腐んで。	
10 土師器 蓋	胴部から底部にかけて 1/3程度	33.7	23.8	8.6	淡褐色 ～茶褐色	口辺部内外腐んで、口縁部もつまみ上げ、 胴部内外上半部へつまで、中央～口縁部へつまで、 底部未焼成。底面へつまで、割壊へつまで。	
11 灰層		縦 3.1	横 6.1	巾 重さ 1.6 30g		灰山白色砂状層。 砂質内灰化部部分に見られる。焼成なし	

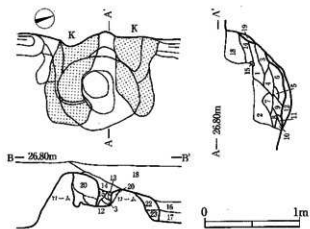
### 15D (第50～54図 図版4・14)

位置 E4区-3Gを中心に検出。主軸方位 N-62°-Wで大きく西に傾く。重複関係 見られない。  
平面形 東壁側にやや長い方形を呈する。規模 4.04m×4.59m。遺構確認面からの深さ60cm。  
壁 周溝からほぼ垂直に立ち上がる。床 ハードロームを掘り込んで床面としている。ほぼ平坦である。  
周溝 全周する。幅20cm。深さ5cm程度である。カマド 西壁中央に壁をこくわずか掘り込んで作られる。焚口部は14cm程度掘られる。袖部は良好に遺存する。煙道部は焚口部奥から角度をもって立ち上がる。カマド位置は、ロームの掘り残しを袖の核としており、当初から決定されていたと判断される。  
ピット P1～4が主柱穴で、55～60cmの深さである。P5が出入り口ピットで深さ13cmである。覆土  
ほぼ自然埋没している。遺物出土状態 カマド内及び前面の床面直上の遺物が主で、本跡に伴う遺物  
である。建て替え 柱の位置替えが見られ拡張か。



第50図 15D遺構実測図 (1)

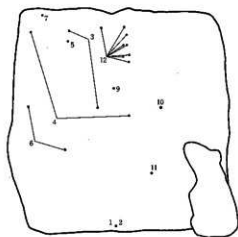
- 14D土層説明
1. 砂土層
  2. 砂土層
  3. 砂土層
  4. 砂土層
  5. 砂土層
  6. 砂土層
  7. 砂土層
  8. 砂土層
  9. 砂土層
  10. 砂土層
  11. 砂土層
  12. 砂土層
  13. 砂土層
  14. 砂土層
  15. 砂土層
  16. 砂土層
  17. 砂土層
  18. 砂土層



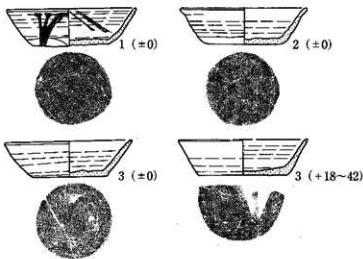
第51図 15D遺構実測図(2)

15Dカマド土器群

1. 別荘上 灰白色土、焼干状少量含む。
2. 別荘上 灰白色土、灰白色、2-3mm大ローム粒少量。
3. 別荘上 灰白色土、灰白色、焼土混入少量。
4. 別荘上 3層構造、粘土混入少ない。
5. 別荘上 粘土質、焼土粒、ロームブロック混合層。
6. 別荘上 焼土粒、灰白色土、少量混入。
7. 別荘上 灰白色土、焼土粒、少量混入。
8. 別荘上 灰白色土、焼土粒、少量混入。
9. 別荘上 灰白色土、焼土粒、少量混入。
10. 別荘上 灰白色土、焼土粒、少量混入。
11. 別荘上 灰白色土、焼土粒、少量混入。
12. 別荘上 灰白色土、焼土粒、少量混入。
13. 別荘上 灰白色土、焼土粒、少量混入。
14. 別荘上 灰白色土、焼土粒、少量混入。
15. 別荘上 灰白色土、焼土粒、少量混入。
16. 別荘上 灰白色土、焼土粒、少量混入。
17. 別荘上 灰白色土、焼土粒、少量混入。
18. 別荘上 灰白色土、焼土粒、少量混入。
19. 別荘上 灰白色土、焼土粒、少量混入。
20. 別荘上 灰白色土、焼土粒、少量混入。
21. 別荘上 灰白色土、焼土粒、少量混入。
22. 別荘上 灰白色土、焼土粒、少量混入。
23. 別荘上 灰白色土、焼土粒、少量混入。



第52図 15D遺物分布図

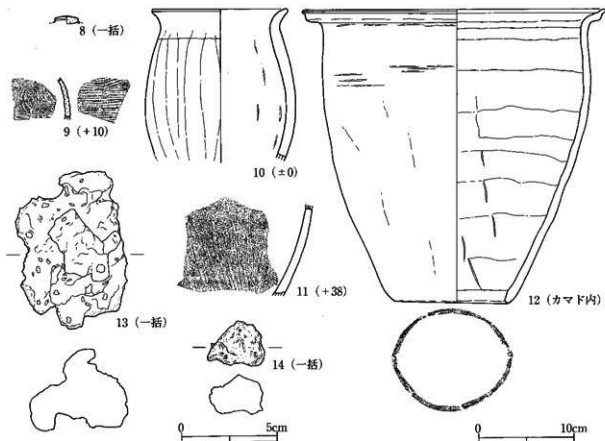


第53図 15D出土遺物(1)

15D遺物観察表

器種	部位	寸法 (cm)		色	土質	調査・特徴
		高さ	口径			
1 灰白色土	略方形	4	13.6	7.8	灰白色	ロクロ成形、切縁し不明。底部全面手持ちへつ張り溝なし。作部下縁も手持ちへつ張り溝なし。内外面穴だすき見られる。
2 灰白色土	口辺部1/5 ～底部中央	3.8	13.3	7.8	灰白色	ロクロ成形。底部切縁し不明。底部全面手持ちへつ張り。作部下縁も手持ちへつ張り。内外面穴だすき見られる。
3 灰白色土	口縁1/4次 略方形	3.7	13.3	7.8	灰白色	底部切縁し不明。全面手持ちへつ張り。内外面穴だすき見られる。
4 灰白色土	口辺部 ～底部1/2	3.8	13.4	9.2	灰白色	ロクロ成形。底部切縁し不明。底部全面手持ちへつ張り。内外面穴だすき見られる。
5 土脚部	口辺部 ～底部1/4	3.2	15.4	10.4	赤褐色	ロクロ成形。底部切縁し不明。内外面穴だすき見られる。
6 土脚部	口辺部 ～底部1/3	3.6	14.4	8.9	赤褐色	ロクロ成形。底部切縁し不明。内外面穴だすき見られる。
7 土脚部	底部 断面下部1/3	1.2	—	8.4	赤褐色	ロクロ成形。底部切縁し不明。内外面穴だすき見られる。





第54図 15D出土遺物(2)

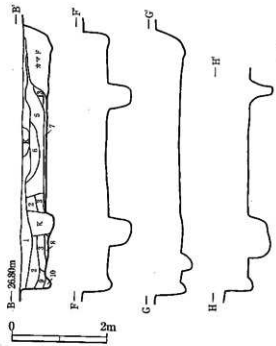
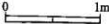
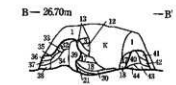
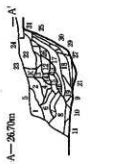
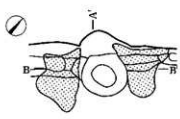
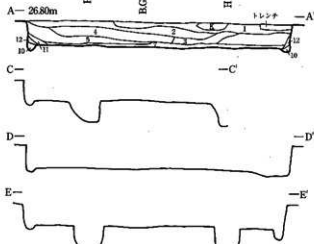
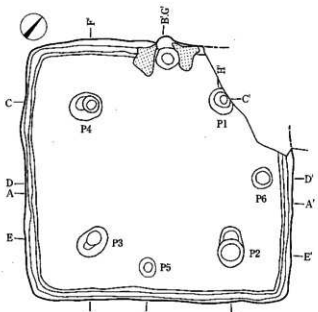
15D遺物観察表(2)

図番	名称	部位	計測値 (mm)			色 澤	胎 土	調査・文様等
			断面	口径	底径			
8	須臾部 破片	釜蓋	0.8	2.5	—	淡緑灰色	ち密	ロケテ成形。 接部分、ガラス質の自然釉が全体をおおう。
9	須臾部 破片	胴下子部	—	—	—	淡青灰色	ち密	胴部外面横位平行の厚き片 内面同心円文当て長直
10	土師器 類	口辺部 ～胴部下	16.2	14	—	褐色褐色 ～赤褐色	長石 石灰多量 小石片	口辺部内外磨んで。 胴部外面横位ヘラ磨り。内面ヘラで。
11	土師器 類	胴下子部	—	—	—	外層褐色 内面淡褐色	灰母 長石多量 石灰	胴部外面横位ヘラ磨き。内ヘラで。
12	土師器 類	輪定形 口縁部1/2欠損	30.9	32.2	12	褐色色	長石、灰母 石灰、白色點	輪縁み成肌。口辺部内外磨んで。胴部上半で。 中央～下半部ヘラ磨き。内面ヘラで。胴縁部の使用痕あり。 外面中央～上縁部磨き及び張り着。
13	破片		長さ 8.4	幅 3.35	厚さ 4.3	重さ 156.1g		気泡全体に著しい。 焼完全し。

16D (第55～57図 図版4・14)

位置 F3区-1Gで検出。主軸方位 N-18°-Wで西方向に傾く。重複関係 見られない。

平面形 ほぼ方形だが、東西方向やや長い。規模 5.12m×5.3m。遺構確認面からの深さ0.5m。壁 垂直に立ち上がる。床 ハードローンを掘り込む。周溝 20cm、深さ10～15cm。覆土はローム細粒を含む暗茶褐色土である。カマド 北壁ほぼ中央に緩く壁を掘り込んで構築する。袖部良好。焚口は10cmと浅い掘り込み。煙道部は焚口奥から急傾斜で立ち上がる。袖部は右袖が灰色粘土、左袖が砂質粘土により作られている。ピット P1～P4が支柱穴、P5が出入り口ピットである。覆土 褐色土主体の埋め戻し層が確認される。遺物出土状態 カマド内出土の89を標準として、覆土中の他の遺物を見るとほぼ同時期であり、埋め戻し時の廃棄を考慮すると本跡に伴う遺物である。建て替え 柱の位置替えが見られ拡張が想定される。



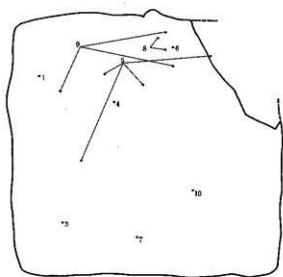
**16D土層説明**

- 1. 黒茶褐色土 ローム層下層心。
- 2. 黒茶褐色土 2~5mm大ローム散乱。1~2mm大ロームやや多い。
- 3. 褐色土 ロームブロック散乱。暗茶褐色土混入。
- 4. 黒茶褐色土 暗茶褐色土にローム層下層心。
- 5. 暗茶褐色土 5~10mm大ローム。1~2mm大ローム点在する。
- 6. 暗茶褐色土 大きめにまとまりのないローム含む。
- 7. 暗茶褐色土 暗茶褐色土。ローム含む。
- 8. 暗茶褐色土 ローム少ない。
- 9. 暗茶褐色土 ローム若干含むが少なく。
- 10. 暗茶褐色土 ローム散乱。
- 11. 黒茶褐色土 暗茶褐色土。ローム若干含む。
- 12. 暗茶褐色土 ローム上。暗茶褐色土成分多。塊上若干含む。
- 13. 暗茶褐色土 5層部。塊土砂層下層心。

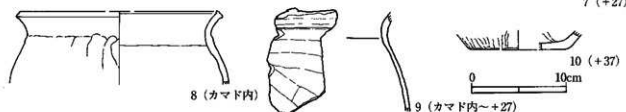
**16Dカマド土層説明**

- 1. 暗茶褐色土 1~3mm大ローム多量。塊土混。砂混入。
- 2. 褐色土 5~15mm大ローム散乱。褐色土若干含む。
- 3. 茶褐色土 ローム散乱含む。塊土砂少ない。
- 4. 暗茶褐色土 塊土砂散乱含む。塊土砂少ない。
- 5. 茶褐色土 褐色土上層互層。塊土塊点。
- 6. 茶褐色土 砂土砂散乱。2~5mm大塊土散乱。
- 7. 茶褐色土 支那小片散乱。暗茶褐色土混入。
- 8. 暗茶褐色土 塊土砂含む。2~4mm大ローム散乱。
- 9. 茶褐色土 塊土砂若干含む。2~5mm大ローム散乱。
- 10. 暗茶褐色土 塊土混入やや多い。1~3mm大ローム含む。
- 11. 茶褐色土 砂散乱。塊土砂少ない。
- 12. 茶褐色土 砂土。暗茶褐色土混入。塊土。塊土混まれ。
- 13. 茶褐色土 12層部。塊土混やや多い。
- 14. 茶褐色土 砂散乱。塊土少し混入。
- 15. 茶褐色土 塊土上層。1~3mm大塊土散乱。砂散乱。
- 16. 茶褐色土 砂土砂散乱。砂土混。やや塊多。
- 17. 茶褐色土 塊土砂土層。塊土砂散乱。
- 18. 暗茶褐色土 塊土上層。暗茶褐色土。塊土散乱。
- 19. 暗茶褐色土 褐色土散乱。塊土散乱。塊土散乱。
- 20. 暗茶褐色土 褐色土散乱。塊土散乱。塊土散乱。
- 21. 暗茶褐色土 褐色土散乱。塊土散乱。塊土散乱。
- 22. 暗茶褐色土 褐色土散乱。塊土散乱。塊土散乱。
- 23. 暗茶褐色土 褐色土散乱。塊土散乱。塊土散乱。
- 24. 暗茶褐色土 褐色土散乱。塊土散乱。塊土散乱。
- 25. 暗茶褐色土 褐色土散乱。塊土散乱。塊土散乱。
- 26. 暗茶褐色土 褐色土散乱。塊土散乱。塊土散乱。
- 27. 暗茶褐色土 褐色土散乱。塊土散乱。塊土散乱。
- 28. 暗茶褐色土 褐色土散乱。塊土散乱。塊土散乱。
- 29. 暗茶褐色土 褐色土散乱。塊土散乱。塊土散乱。
- 30. 暗茶褐色土 褐色土散乱。塊土散乱。塊土散乱。
- 31. 暗茶褐色土 褐色土散乱。塊土散乱。塊土散乱。
- 32. 暗茶褐色土 褐色土散乱。塊土散乱。塊土散乱。
- 33. 暗茶褐色土 褐色土散乱。塊土散乱。塊土散乱。
- 34. 暗茶褐色土 褐色土散乱。塊土散乱。塊土散乱。
- 35. 暗茶褐色土 褐色土散乱。塊土散乱。塊土散乱。
- 36. 暗茶褐色土 褐色土散乱。塊土散乱。塊土散乱。
- 37. 暗茶褐色土 褐色土散乱。塊土散乱。塊土散乱。
- 38. 暗茶褐色土 褐色土散乱。塊土散乱。塊土散乱。
- 39. 暗茶褐色土 褐色土散乱。塊土散乱。塊土散乱。
- 40. 暗茶褐色土 褐色土散乱。塊土散乱。塊土散乱。
- 41. 暗茶褐色土 褐色土散乱。塊土散乱。塊土散乱。
- 42. 暗茶褐色土 褐色土散乱。塊土散乱。塊土散乱。
- 43. 暗茶褐色土 褐色土散乱。塊土散乱。塊土散乱。
- 44. 暗茶褐色土 褐色土散乱。塊土散乱。塊土散乱。

第55図 16D遺構実測図



第56図 16D遺物分布図



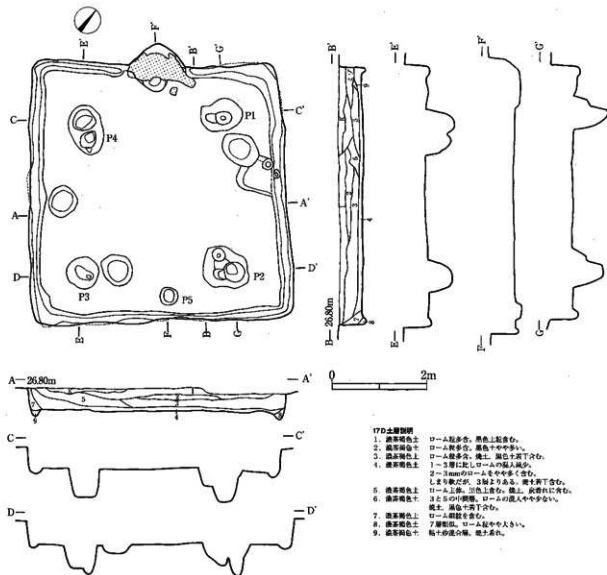
第57図 16D出土遺物

16D遺物観察表

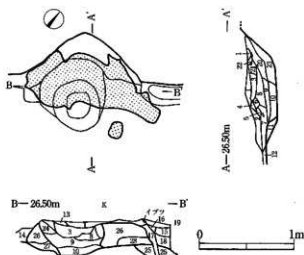
図番	部材	計測値 (cm)			色調	胎土	調査・文様等
		器高	口径	底径			
1	灰土器 椀 ~底部	3.7	13.4	8.6	灰色 ~黒灰色	黒色・白色粒 灰石 赤色スクリヤ少量	ロクロ成形。明確し不明。 底面隆起~身部下位へつ張り顕著。内外ロクロで。 内面に染状のいしテール状付着物ついている。
2	灰土器 椀 ~底部	3.9	14	8.4	淡緑灰色	石英 灰石、小石片	ロクロ成形。口縁部やや内寄。 体部中位~下縁位にへつ張り顕著。
3	灰土器 椀 ~底面	3.7	13.5	—	暗青灰色	灰石多量	ロクロ成形。体部と底部の境不明瞭。丸底状。内外ロクロで。 体部下部~底面へつ張り顕著。ロクロ目細かく明瞭。
4	灰土器 蓋	—	—	—	外縁青灰色 内縁黒灰色	霏母 白色粒	ロクロ成形。 かよりは弱い。
5	土師器 手づくね ~底部	4.1	9	7.8	淡緑灰色	白色粒 赤色スクリヤ	輪轆み成形。底面木炭質。 外側面で。内面へつないし木口状土質によるなど。
6	土師器 椀 ~胴上半部	5.5	13.4	—	淡褐色	霏母、白色粒 赤色スクリヤ	胴部外面縦位へつ張り後口縁部内外縁で。 内面など。
7	土師器 椀 ~胴上半部	5.1	22.4	—	淡褐色	灰石 霏母多量	輪轆み成形。 口縁部外縁で。口縁部顕著で。内外へつなど。
8	土師器 椀 ~胴上半部	7.8	20.1	—	淡褐色	霏母 灰石、小石片	口縁部内外縁で。 胴部外面縦位へつ張り。内面など。胴部外面にこげ状付着物。
9	土師器 椀 ~胴上半部	—	—	—	褐色 ~淡褐色	白色粒、石英 灰石、赤色 スクリヤ	口縁部顕著で。 胴部縦位~胴位へつ張り。内面へつなど。器壁うすい。
10	土師器 椀	—	—	10.2	外縁褐色 内縁褐色	灰石 霏母多量	輪轆み成形。 胴1/4半面縦位へつ張り。内面へつなど。底面木炭質。

17D (第58～62図 図版5・14・15)

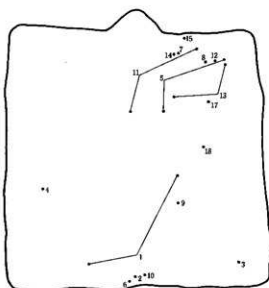
**位置** E3区-4Gで検出。**主軸方位** N-20°-Wで西方向に傾く。**重複関係** 見られない。  
**平面形** 方形。規模 5.42m×5.36m, 遺構確認面からの深さ0.5m。壁 垂直に立ち上がる。床 ハードロームを掘り込む。周溝 15～20cm, 深さ10cm。覆土はローム細粒を含む褐色土でやや軟質。  
**カマド** 北壁ほぼ中央にV字状に壁を掘り込んで構築する。袖部は天井部を含んで良好に遺存。焚口は10cmと浅い掘り込み。底面は手前部分でよく焼けている。煙道部は焚口奥から急傾斜で立ち上がる。  
**ピット** P1～P4が主柱穴, P5が入り口ピットである。覆土 濃茶褐色土主体の埋め戻し層が確認される。**遺物出土状態** カマド内は7.14, 床面上ないし覆土中のもの, 更に1.5.11.13のように覆土中離れた状態で出土したものが見られる。近接して主軸, 住居構築の近似した16Dが所在し, 奈良時代の帰属が遺物から想定される。戻って, 17Dの遺物はカマド内出土の7.14が16D出土遺物より古く同一奈良時代においても時期差が見られる。17D出土遺物を選別すると, 本跡に帰属する確実な遺物は1.7.9.10.11.14.15で, 他は17D埋め戻し時の混入遺物ないし16D廃絶時の廃棄遺物と考えられるか。17D廃絶→放置→16D構築時の17D埋め戻し→16D廃絶の経過が想定されよう。建て替え P1～4において柱の位置替えが見られ, 拡張が想定される。



第58図 17D遺構実測図(1)

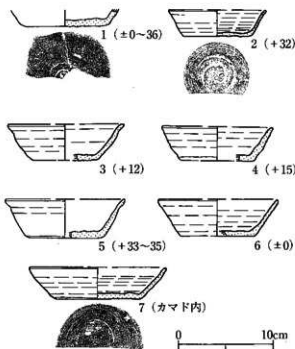


第59図 17D遺構実測図(2)



第60図 17D遺物分布図

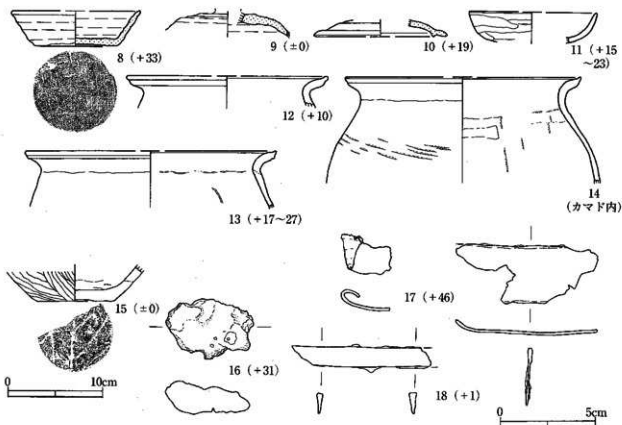
- 17Dオマド土層説明
1. 赤褐色土 腐葉土、ローム状、底土、幾十層入り。
  2. 暗褐色土 1に近似、ローム、底土砂少量含む。
  3. 灰褐色土 粘り砂土に暗褐色土上を被。
  4. 茶褐色土 粘り砂土上、ローム含む。
  5. 暗褐色土 粘り砂土、底土、幾十層入り含む。
  6. 赤褐色土 粘り砂土、4に近似。
  7. 黄褐色土 2mm以下の土層、赤化ローム含む。
  8. 赤褐色土 粘り砂土の層入りが多い。
  9. 赤褐色土 粘り砂土層。
  10. 暗褐色土 粘り砂土、2-3mmのローム含む。
  11. 茶褐色土 粘り砂土、ローム若干含む。
  12. 暗褐色土 7層位、粘り砂土。
  13. 赤褐色土 粘り砂土、2-3mmのローム含む。
  14. 黄褐色土 粘り砂土、しまり強い、2-3mmのローム含む。
  15. 赤褐色土 ローム上層、腐葉層十層入り。
  16. 暗褐色土 ローム、粘り砂、底土砂入り。
  17. 黄褐色土 底土、粘り砂、ローム粒点。
  18. 茶褐色土 15に近似、ローム上層層、底土、粘り砂入り。
  19. 暗褐色土 粘り砂土、底土砂入り。
  20. 暗褐色土 粘り砂土、底土、粘り砂、ローム、粘り砂含む。
  21. 暗褐色土 20に近似、粘り砂土。
  22. 暗褐色土 ローム粒点、粘り砂土。
  23. 暗褐色土 ローム、粘り砂土、粘り砂土、粘り砂土。
  24. 赤褐色土 粘り砂土、粘り砂土、粘り砂土。
  25. 暗褐色土 粘り砂土、ローム若干含む。
  26. 暗褐色土 粘り砂土、ローム若干含む。
  27. 赤褐色土 ローム若干含む、粘り砂土。
  28. 暗褐色土 ローム、底土に比べ、底土、粘り砂土少量含む。



第61図 17D出土遺物(1)

17D遺物観察表

層名	部位	計測値 (cm)		色調	粘土	調査・文様等
		層高	内径			
1 観察部 坪	底面1/3	1.8	—	9 黄褐色	黄砂多量 白色粒、石灰	ロクロ成形、切端し不明、切端へう張りか、 底面全面手持ちへう張り、内外ロクロなし。
2 観察部 坪	口面一底面	2.8	10.2	6.9 赤褐色	赤石、黄砂 石灰、黒色粒	ロクロ成形、切端し不明、底面全面手持ちへう張り、 内外ロクロなし、ロクロ目不明。
3 観察部 坪	口面1/3一底面	3.8	12.2	7 黄褐色	赤石 石灰多量、 黄砂	ロクロ成形、切端し不明、 底面全面手持ちへう張り、ロクロなし。
4 観察部 坪	口面一底面1/4	3.6	11.6	7.8 灰色 一暗灰色	黄砂 赤石多量	ロクロ成形、切端し不明、 底面全面手持ちへう張り、内外ロクロなし。
5 観察部 坪	口面一底面1/3	4.1	12.6	8.4 灰色	赤石 黄砂多量、 石灰	ロクロ成形、切端し不明、 底面全面手持ちへう張り、ロクロなし。
6 観察部 坪	口面一底面1/3	3.9	12.6	8 暗灰色 一黒灰色	黄砂多量 赤石	ロクロ成形、切端し不明、 底面全面手持ちへう張り、内外ロクロなし。
7 観察部 坪	口面一底面1/2	3.4	14.4	8.8 青灰色	石灰 長石、赤石	ロクロ成形、切端し不明、 底面全面手持ちへう張り、ロクロなし、ロクロ目不明。
8 観察部 坪	口面1/2一底面全層	3.8	13.6	8.6 黄褐色	黄砂多量 白色粒、小石 粒	ロクロ成形、切端し不明、底面全面手持ちへう張り、 底部7層部分にへう張り、内面ロクロ目不明。



第62図 17D出土遺物(2)

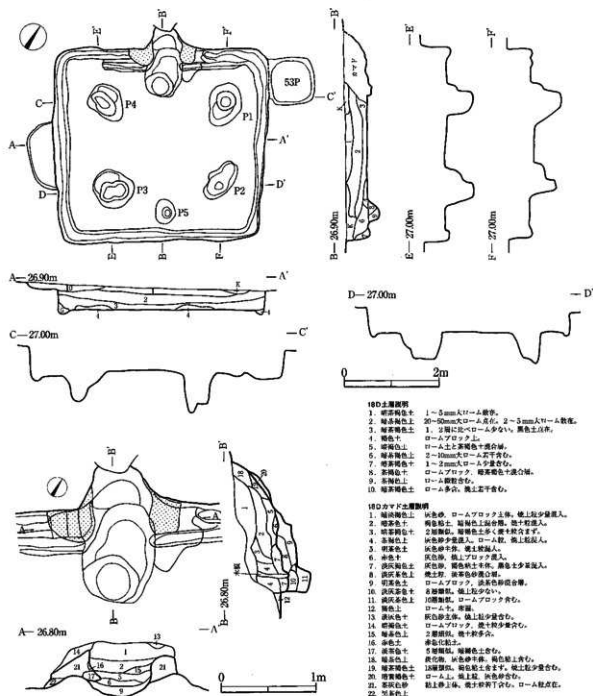
17D遺物観察表(2)

品目	部位	計測値 (cm)		色澤	胎土	調査・文献等
		断面	口径			
9 煎餅器 蓋	体部1/4	—	—	灰色 ～暗灰色	雲母、白色粒 多色スクリヤ	ロクロ成形。 天井経線軸へラ張り。内外ロクロなで。
10 煎餅器 蓋	口辺部 ～体部	1.8	14	淡黄褐色	雲母 磁石、石英	ロクロ成形。 天井経線軸へラ張り。内面のかよりは比較的粗悪である。
11 土師器 杯	口辺部 ～胴下平部	3.2	13.1	黄褐色	白色粒 小石粒	口辺部内外縁なで後外面縁軸へラ張り調整。 内面なで。
12 土師器 甕	口辺部 ～胴底	3.4	2.1	淡赤灰褐色	長石、雲母 石英、小石片	口辺部内外縁なで。胴外面なで。 内面へラなで。
13 土師器 甕	口辺部 ～胴上平部	6.2	3.6	外縁褐色 内縁灰褐色	雲母 長石、石英 赤土	輪削み成形。口辺部調整。 胴部外側なで。内面へラなで。口縁部つまみ上げ。
14 土師器 甕	口辺部 ～胴上平部1/3	11.2	2.4	外縁褐色 内縁灰褐色	雲母 長石、石英 赤土	口辺部調整なで。 胴部内外へラなで。口縁部つまみ上げ。
15 土師器 甕	底部2/3	1.9	—	8 外縁黄褐色 内縁灰褐色	長石 雲母多量	輪削み成形。 胴部下平～下通折方向へのラ張り。内面へラなで。胴部本車削。
16 煎餅 器	体部	幅 3.2 高さ 4.7	径 1.7 高さ 2.3	黄褐色	雲母 長石	気泡顕著。 磁化なし。
17 煎餅 器	基部・刃部	長さ 7.4	幅 3 高さ 0.2	黄褐色	雲母多量	長巻型の手り返し。
18 煎餅 刀子	柄～刃部 欠損	長さ 7.3	幅 1.1 厚 0.4-0.5	黄褐色	雲母多量	

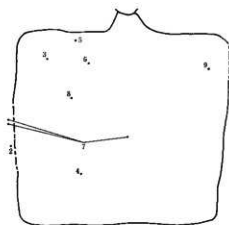
18D (第63～65図 図版5・15)

位置 E3区-1Gで検出。主軸方位 N-34°-Wでやや西に傾く。重複関係 53P・西壁ピットに切られる。平面形 北壁でやや広がる方形を呈する。規模 3.92m×4.16m。遺構確認面からの深さ45～50cm。壁 周溝からほぼ垂直に立ち上がる。床 ハードローンを掘り込んで床面としている。床は

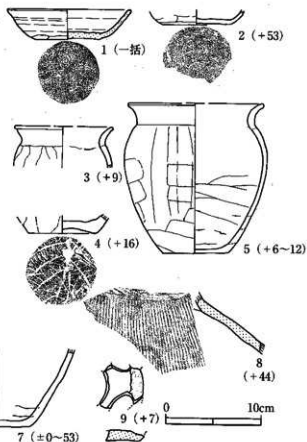
中央部でやや高く、壁寄りやや深い。周溝 全周する。幅20cm、深さ8cm程度である。カマド 北壁中央で、同位置での作り替えが見られる。拡張の際、当初の焚口を埋めかさ上げしている。煙道部は立ち上がり部でカクランを受けるが、焚口部奥からやや緩やかに立ち上がる。ピット P1~4が支柱穴で、50~60cmの深さである。P5が出入り口ピットで深さ22cmである。覆土 暗茶褐色土の埋め戻しを行う。遺物出土状態 全体に浮いて出土するが、2以外は本跡廃絶時に近い時期の遺物に想定されよう。2は浅い皿状ピットに伴う遺物である。建て替え カマド側において拡張を行っている。P1.4の柱位置の変更、当初の周溝とカマド焚口を埋め、北側に拡張している。



第63図 18D遺構実測図



第64図 18D遺物分布図



第65図 18D出土遺物

18D遺物観察表

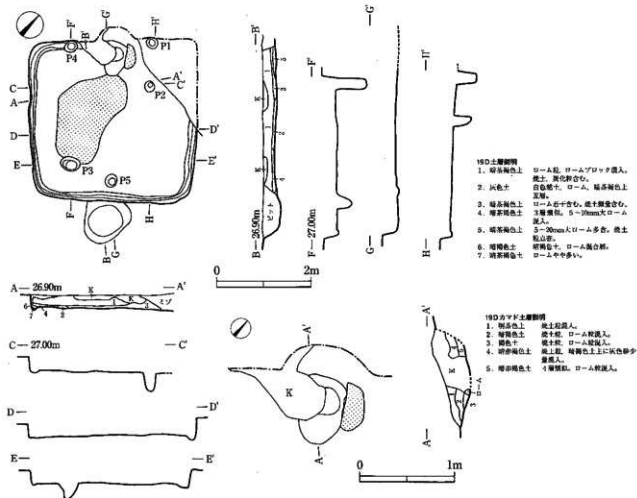
器種	部位	計測値 (cm)			色 調	材 質	観 察・文様等
		器高	口径	底径			
1 土師器 杯	底部 一部欠	3.1	12.8	6.6	淡黄褐色	白色粒 黒石	口口成部。初態不明。底面手持もへつ削り。杯部下縁4割で埋削する。手持ちへつ削り。口縁部内外彩色化重なり過ぎか。
2 土師器 杯	底縁部3	1.5	—	7	淡黄褐色	白色粒 黒石 赤色スクリヤ	口口成部。初態不明。底面手持もへつ削り。杯部下縁下部もへつ削り。長部外縁に二行段の彩色化付着。
3 土師器 片	口辺部一割上半部1/4	4.3	10.4	—	淡黄褐色	白色粒 小 石粒	1) 辺部成部。初態不明。底面手持もへつ削り。内面まで。
4 土師器 片	底部全周	2	—	7.2	赤褐色 ～褐色	長石 黒石 赤石 赤石 赤石 赤石	輪郭不明。底面全周。杯部下縁部へつ削り。
5 土師器 甕	口辺部一割上半部1/2 底部全周	16	13.8	6.7	赤褐色 ～淡黄褐色	赤色スクリヤ 赤石 赤石 赤石 赤石 赤石	輪郭不明。口辺部全周。杯部下縁部へつ削り。口辺部中央～下縁部中央へつ削り。内面はへつまで。で、外縁部中央～1) 辺部二次焼成の痕跡。
6 土師器 片	口辺部 ～割上半部1/2	7.4	3.4	—	褐色	白色粒 赤石 赤石 赤石 赤石 赤石	輪郭不明。口辺部全周。杯部下縁部へつ削り。内面はへつまで。
7 土師器 片	口辺部 ～底縁1/4	8.2	—	7	赤褐色 ～灰褐色 内面灰色	白色粒 長石 赤石 赤石 赤石 赤石	輪郭不明。口辺部全周。杯部下縁部へつ削り。内面はへつまで。底面はへつまで。で、底面中央～下縁部中央へつ削り。内面はへつまで。底面中央～下縁部中央へつ削り。内面はへつまで。
8 土師器 片	口辺部	—	—	—	赤褐色 ～赤褐色	赤石 赤石 赤石 赤石 赤石	輪郭不明。口辺部全周。杯部下縁部へつ削り。内面はへつまで。
9 土師器 片	口辺部	—	—	—	淡黄褐色	赤石 赤石 赤石 赤石 赤石	口口成部。初態不明。底面手持もへつ削り。杯部下縁部へつ削り。内面はへつまで。

19D (第66～68図 図版5・15)

位置 E3区-1Gで検出。主軸方位 N-40°-Wでやや西に傾く。重複関係 西壁ピットに切られる。北壁東コーナーでカクラン。平面形 北壁でやや広がる方角を呈する。規模 3.32m×3.06m。遺構確認面からの深さ30cm。壁 周溝からはほぼ垂直に立ち上がる。床 ハードルーム上で床面として



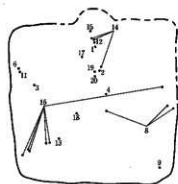
いる。床はほぼ平坦である。周溝 カクラン部分を除き全周する。幅15~20cm、深さ8cm程度である。カマド 北壁中央に作られる。左袖がカクランで消失する。焚口は部分的に遺存。焼土の堆積が見られる。煙道部はカクランを受け消失する。ピット P1.3.4が支柱穴。P5が出入り口ピットで深さ4cm程度である。覆土 暗茶褐色土の埋め戻しを行う。床面上において砂質粘土の広がりが確認された。遺物出土状態 ほぼ床面に近い高さから出土している。カマド内出土の1.12.14.15.16との比較においても全体に同時期であり、本跡に伴う遺物である。建て替え 見られない。



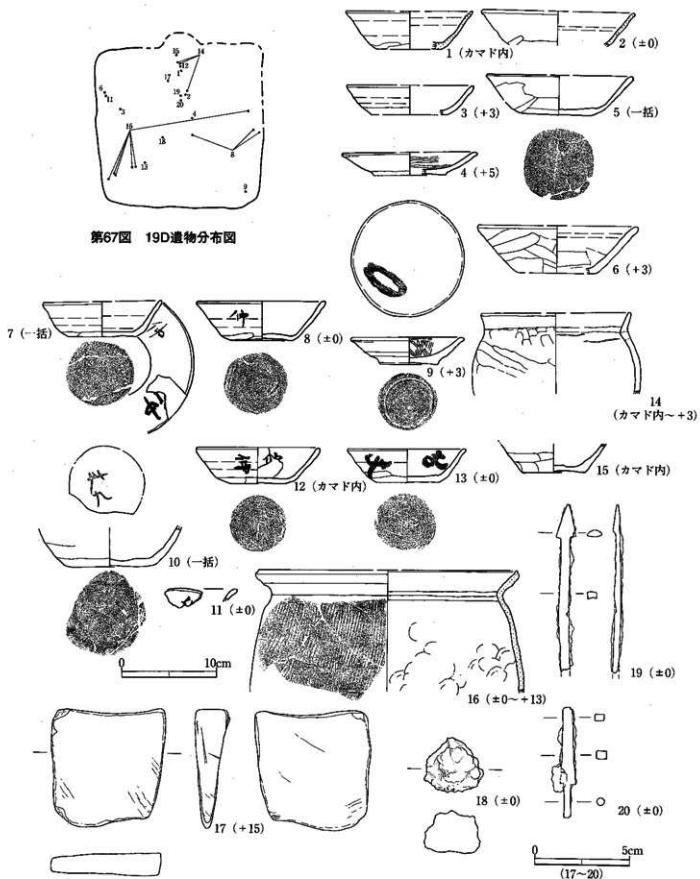
第66図 19D遺構実測図

19D遺物観察表

器種	部位	寸法 (cm)			色	土質	観察・説明等
		径	高さ	底径			
1 傾山部 環	口辺部 ~底面1/3	41	134	6.1	暗茶褐色色	蓋部 灰石、白色粒	ロクロ成形。切縁し不明。 底面及び体部下部手持ちへつ張り調整が。
2 傾山部 環	口辺部 ~底面1/3	36	156	6.1	淡茶褐色色	白色粒	ロクロ成形。 体部下部へつ張り調整。内面ロクロなで。
3 傾山部 環	口辺部 ~底面1/3	32	134	8	淡茶褐色色	白色粒、炭屑 赤色スロキヤ	ロクロ成形。 体部下部へつ張り調整。
4 土師器 環	口辺部 ~底面1/2	23	142	7.6	淡茶褐色色	白色粒 炭屑、砂粒	ロクロ成形。切縁不明。手持ちへつ張り調整。 切縁し不明。手持ちへつ張り調整。 内面ロクロなで。
5 土師器 環	口辺部2/3 底面全周	42	155	7.5	淡茶褐色色	白色粒 炭屑、赤色 スロキヤ	ロクロ成形。切縁し不明。手持ちへつ張り調整。 体部下部へつ張り調整。内面ロクロなで。
6 土師器 環	口辺部 ~底面1/4	5	166	8.4	淡茶褐色色	白色粒 炭屑	体部外周部へつ張り調整。 内面へつ張り調整。おそろくロクロ成形。
7 土師器 環	口辺部 ~底面一部欠	3.8	125	7.1	淡茶褐色色	白色粒 炭屑、赤色 スロキヤ	ロクロ成形。切縁し不明。手持ちへつ張り調整。 体部下部4面を調整する手持ちへつ張り調整。 体部中央外周に正位「脚」と90度平行する体部に「脚」の遺留。
8 土師器 杯	碗底部 口縁2ヶ所欠	4.15	135	6.8	暗茶褐色色	白色粒、小 石粒 赤色スロ キヤ、炭屑	ロクロ成形。 石粒未切縁し後、両端周縁と体部下部1/4に両面の手持ちへつ張り調整。



第67図 19D遺物分布図



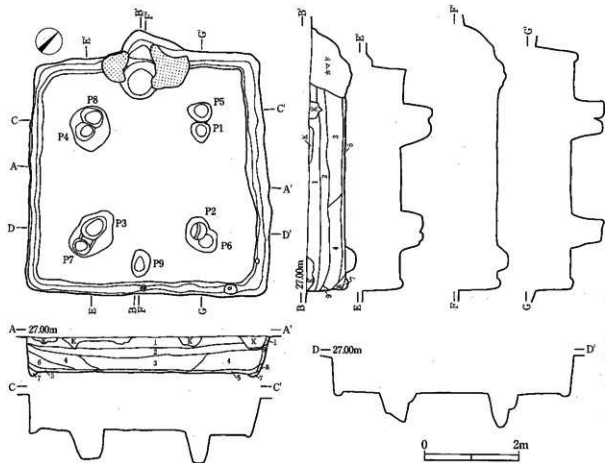
第68図 19D出土遺物

19D遺物観察表(2)

	遺器	部位	計測値 (cm)			色調	胎土	調査・文献等
			器高	口径	底径			
9	十部器 皿	丸形	2.85	11.6	6	淡黄褐色	薄胎、赤色 スコリヤ 白色胎	口口成形。右面転糸切離し後周縁へくまで。 底部下縁転糸へく有り。内面横位一部位へく有り。内面に帯有。
10	十部器 瓶	腹部 ～底部1/3	4.3	—	9.6	淡黄褐色	黄胎 白色胎	口口成形。右面転糸切離し後周縁へく有り。腹壁。 底部中央～下縁二部の転糸へく有り。 底部内面中央に焼成後の跡有。「赤丸」ないし「赤丸」か?
11	十部器 杯	口辺部片	—	—	—	淡黄褐色	白色胎、石黄 赤色スコリヤ	口口成形。 内面に「赤?」跡有あり。
12	十部器 杯	口辺 ～底部 一部欠損	3.8	13	5.9	淡黄褐色	白色胎、黄身 赤色スコリヤ	口口成形。切離し不明。底部外面手持ちへく有り。 体部1段4箇で転糸する手持ちへく有り。 各部外面中央と横位「律」と対面内面に正位「神」?の跡有。
13	十部器 杯	ほぼ丸形	3.5	12.2	6.5	淡黄褐色	白色胎 薄胎	口口成形。切離し不明。両手持ちへく有り。 体部1段手持ちへく有り。4箇で転糸する。 各部外面中央に横位「律」と対面内面に正位「文」の跡有。
14	十部器 壺	口辺部 ～底部1/3	8.6	15.8	—	茶褐色 ～暗褐色	白色胎、黄身 赤色スコリヤ	口口成形。切離し不明。底部外面手持ちへく有り。 体部1段4箇で転糸する手持ちへく有り。 内面転糸部で、腹部縦位へく有り後手持ちへく有り。 内面転糸部で、腹部縦位へく有り後手持ちへく有り。
15	十部器 壺	腹部1/4 ～底部	3	—	6.7	茶褐色 ～暗赤褐色	白色胎 赤色スコリヤ 小粒胎、黄身	腹部下縁位へく有り。 内面などで 転糸へく有り跡有。
16	灰器器 壺	口辺部 ～腹部1/3	12.8	26.7	—	暗褐色	赤色スコリヤ 赤胎、白色胎	口辺部内縁などで、腹部外面転糸有り跡有。 内面転糸とあおぶたで、新築内へくまで。
17	石器 砥石	下部欠損	縦 6.5	横 5.9	厚さ 1.7	灰白色	燧石	上面と側面に斜方向の傷痕が見られる。 重さ73g
18	洗埴		縦 2.9	横 3.1	厚さ 2.2	灰さ	白色粉状。灰 色むずみで見られる。磁質なし。	20に同。重さ135g。断面縦断面で3mm×5mm
19	灰器 洗埴	写部 ～腹部	縦 1.7	横 1.7	厚さ 0.35	灰さ	白色粉状。灰 色むずみで見られる。磁質なし。	20に同。重さ135g。断面縦断面で3mm×5mm
20	灰器 洗埴	腹部 ～底部	縦 9mm× 6mm の角断面	横 4mmの 1/4断面	厚さ 0.35	灰さ	白色粉状。灰 色むずみで見られる。磁質なし。	20に同。重さ135g。断面縦断面で3mm×5mm

## 20D (第69～73図 図版5・15)

位置 E4区3-4, E5区1-2Gで検出。主軸方位 N-45°-Wで、西に傾く。重複関係 単独。平面形 方形を呈する。規模 4.64m×4.98m。遺構確認面からの深さ0.78m。壁 ほぼ垂直に立ち上がる。床 ハードルームまで掘り込んで床面とし、概ね平坦である。周溝 カマド部分を除いて全周する。東壁下ものは、幅が一定せず、やや雑な掘り方となっている。南東隅から南壁付近を中心に、周溝内柱穴が見られる。カマド 北壁の中央部。両袖部と煙道部が残存し、焚口部はビット状に掘り込まれ、焼けている。煙道部は一段テラスを有し、比較的急傾斜で立ち上がる。ビット 9本検出。P1～P8が主柱穴。本跡は反復拡張が認められ、P1～P4は構築当初、P5～P8が拡張後のものである。P1～P5及びP4～P8は主軸方向、P2～P6及びP3～P7が対角線上に拡張を行っている。P9は出入口施設に伴うものと思われる。覆土 9層に分層できた。暗茶褐色土系を主とし、埋め戻しの可能性が高い。遺物出土状態 平面分布的には、万遍なく出土していると言える。個別資料の接合関係は、2mを越えるものが目立ち、最も離れた例は4に図示した土師器杯で、4.20mを測った。これにより、廃品の廃棄というよりは、むしろ個体を損壊してからばらまいた可能性が高い。これは、器種的に見て坏に目立つが、42は甕である。ただし、このことのみを取り上げて、廃棄に際して器種による規制がはたらいていたか否かを、断定することはできない。建て替え 主柱穴の知見から、いわゆる「反復拡張型」の建て替えが認められた。P1・P4個は主軸方向の拡張のため、東西方向の幅には影響が出ないが、P2・P3個では対角線上の拡張のため、幅が増えている。その結果として、本跡は方形プランではあるが、南半分が幅広の、やや台形気味の形状を呈することになった訳である。上記の東壁下の周溝がやや雑な掘り方となったのも、P2の掘り替えであるP6の掘削と、それに伴う住居の拡張による。なぜならば、P6は東方向への掘り込みが大きく、それに伴って東壁の南半分の形状が変わったからである。

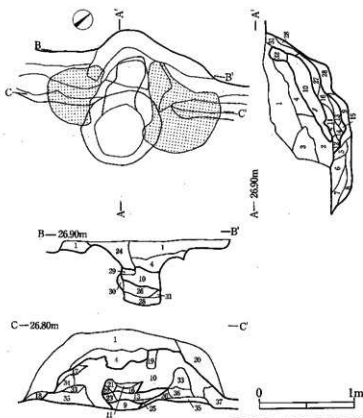


20D土層説明

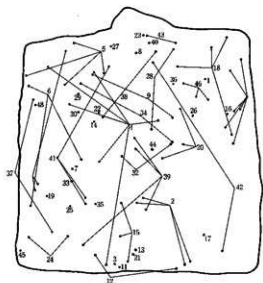
1. 埋込脚柱土 1~3mm大ワイヤ、壁土貼込。
2. 埋込脚柱土 1に比ベロム混入、壁土貼込若干。
3. 埋込脚柱土 ローム混、ロームブロック散在、機十混入。
4. 埋込脚柱土 ローム混多量、ロームブロック塊上存在。
5. 埋込脚柱土 ローム混多量、硬土多量混入。
6. 埋込脚柱土 1~3mm大ワイヤ、炭化粉混。
7. 埋込脚柱土 3~10mm大ワイヤ若干存在。
8. 埋込脚柱土 ロームブロック、埋込脚柱土若干混入。
9. 埋込脚柱土 ローム塊若干、埋込脚柱土混。

20Dホド土層説明

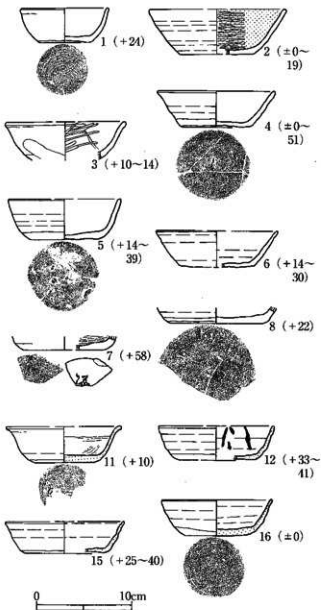
1. 埋込脚柱土 機十、炭化粉混入、埋込脚柱土散在。
2. 埋込脚柱土 1埋込脚柱土、炭化粉混。
3. 埋込脚柱土 埋込脚柱土、炭化粉混。
4. 埋込脚柱土 埋込脚柱土、炭化粉混。
5. 埋込脚柱土 埋込脚柱土、炭化粉混。
6. 埋込脚柱土 炭化粉、機十混、炭化粉混。
7. 埋込脚柱土 埋込脚柱土、炭化粉混。
8. 埋込脚柱土 炭化粉、機十混散在。
9. 埋込脚柱土 ロームブロック、機十混散在。
10. 埋込脚柱土 機十混。
11. 埋込脚柱土 埋込脚柱土、炭化粉混。
12. 埋込脚柱土 埋込脚柱土、炭化粉混。
13. 埋込脚柱土 機十。
14. 埋込脚柱土 炭化粉、機十混散在。
15. 埋込脚柱土 埋込脚柱土、炭化粉混。
16. 埋込脚柱土 埋込脚柱土、炭化粉混。
17. 埋込脚柱土 埋込脚柱土、炭化粉混。
18. 埋込脚柱土 埋込脚柱土、炭化粉混。
19. 埋込脚柱土 埋込脚柱土、炭化粉混。
20. 埋込脚柱土 埋込脚柱土、炭化粉混。
21. 埋込脚柱土 埋込脚柱土、炭化粉混。
22. 埋込脚柱土 埋込脚柱土、炭化粉混。
23. 埋込脚柱土 埋込脚柱土、炭化粉混。
24. 埋込脚柱土 埋込脚柱土、炭化粉混。
25. 埋込脚柱土 埋込脚柱土、炭化粉混。
26. 埋込脚柱土 埋込脚柱土、炭化粉混。
27. 埋込脚柱土 埋込脚柱土、炭化粉混。
28. 埋込脚柱土 埋込脚柱土、炭化粉混。
29. 埋込脚柱土 埋込脚柱土、炭化粉混。
30. 埋込脚柱土 埋込脚柱土、炭化粉混。
31. 埋込脚柱土 埋込脚柱土、炭化粉混。
32. 埋込脚柱土 埋込脚柱土、炭化粉混。
33. 埋込脚柱土 埋込脚柱土、炭化粉混。
34. 埋込脚柱土 埋込脚柱土、炭化粉混。
35. 埋込脚柱土 埋込脚柱土、炭化粉混。
36. 埋込脚柱土 埋込脚柱土、炭化粉混。
37. 埋込脚柱土 埋込脚柱土、炭化粉混。



第69図 20D遺構実測図



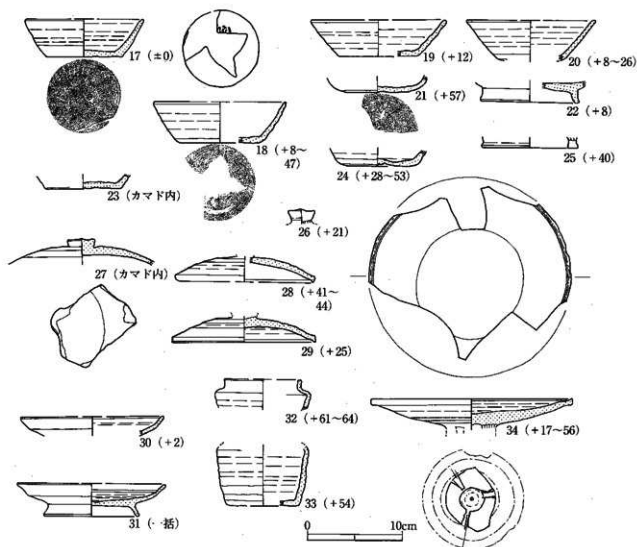
第70図 20D遺物分布図



第71図 20D出土遺物(1)

20D遺物観察表

群集	部位	計測値 (cm)			色 調	新 十	調査・文様等
		幅広	口徑	高さ			
1 土師器 杯	口縁突起	3.6	9.3	5.2	黒灰褐色 白色	番号 白色	ロクロ成形。右縁和未切離し、後部溝底、底部下縁部へハケ取り溝。内側面にケール縁付帯、灯明痕。
2 土師器 杯	口縁 -表部1/4	4.8	14.8	7.8	外縁褐色 -黒褐色 内縁黒色	番号 番号 黒石	ロクロ成形。 切離し不明。 内面へハケ取り溝。黒色地所。
3 土師器 杯	口縁部1/3	4	12.8	-	茶褐色	番号	ロクロ成形。 後部半切離しへハケ取り溝。内面削いへハケ取り溝。
4 土師器 杯	口縁突起	3.8	12.4	7.6	表縁褐色 -黒褐色	番号 番号 番号	ロクロ成形。切離し不明。 底縁部凹縁へハケ取り溝。
5 土師器 杯	口縁 -裏部2/3	4.3	11.8	7.2	表縁褐色 白色 赤色スコリヤ	番号 番号 番号	ロクロ成形。右縁和未切離し、後部溝底。 底部下縁部へハケ取り溝。
6 土師器 杯	口縁 -裏部1/2	3.8	12.6	8.2	表縁褐色	番号 番号 番号	ロクロ成形。切離し不明。 黒石。番号 白色 赤色スコリヤ



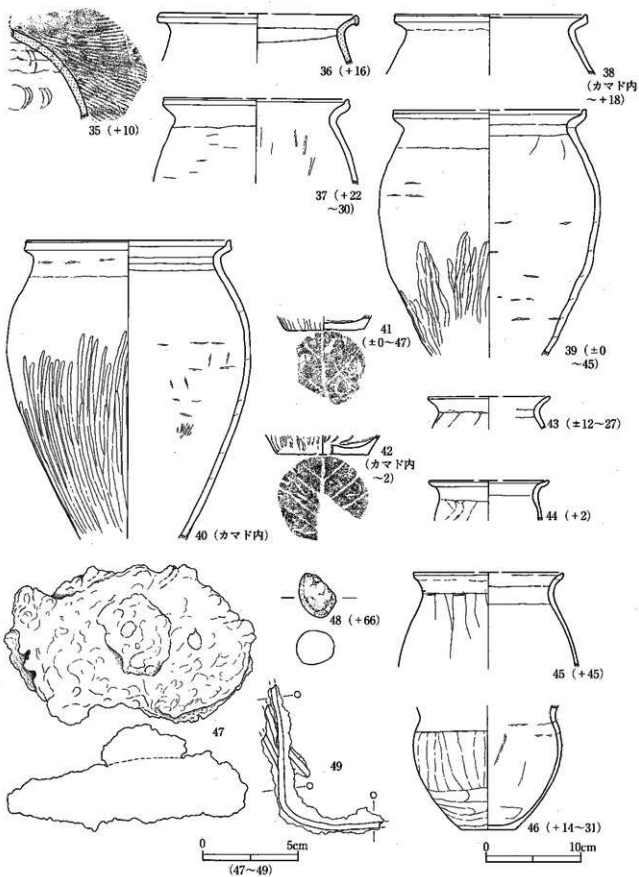
第71図 20D出土遺物(2)

20D遺物観察表(2)

7	器種	部位	計測値 (cm)			色調	胎土	調整・文様等
			径高	口徑	底径			
7	土師器	底部1/2	1.5	—	8.6	淡青褐色	白色粒	ロクロ成形。切縁不切り切縁は後部分のみに磨滅へたり。体部下部凹へたり磨り。内面凹へたり磨き。
8	土師器	底部	1.8	—	9.8	暗赤褐色	白色粒	ロクロ成形。内外面赤赤。切縁不明。手持ちへたり磨り調整。底部下部凹へたり磨り調整。
9	灰山器	口辺部 ～体部1/4	4.6	14.6	—	淡青灰色	雲母 長石、小石 砂	ロクロ成形。 体部下部凹へたり磨り調整。
10	灰山器	口辺部 ～底部1/6	3.6	14.4	8.2	淡青灰色	雲母 長石多量	ロクロ成形。体部下部凹へたり磨り調整。底面切縁不明。手持ちへたり磨り調整。
11	灰山器	口辺部 ～底部1/4	3.8	12	6	淡青褐色	白色粒 長石	ロクロ成形。底面切縁は切縁不明。体部下部凹へたり磨り調整。内面凹へたり磨きが見られる。
12	灰山器	口辺部 ～底部1/5	3.6	12.2	8.8	淡青灰色	白色粒 長石	ロクロ成形。切縁不明。 底面切縁。体部下部凹へたり磨り調整。内外面大ださず。
13	灰山器	口辺部 ～底部1/4	3.7	12.6	7.4	灰白色 ～淡青灰色	雲母 長石、白色 粒	ロクロ成形。切縁不明。底面中央外面に「×」の磨きあり。底面切縁。体部下部凹へたり磨り調整。
14	灰山器	口辺部	4.1	12.8	8	灰青白色	白色粒 長石	ロクロ成形。切縁不明。内外面に半乾きの火ださず磨滅調整。体部下部凹へたり磨り調整。
15	灰山器	口辺部一部 ～底部1/4弱	3.3	12.5	8.2	灰青色 ～淡青灰色	雲母 白色粒、長 石	ロクロ成形。切縁不明。 体部下部凹へたり磨り調整。
16	灰山器	碗状形	3.9	11.3	6.5	青灰色	白色粒少量 石英 雲母粒、砂粒	ロクロ成形。切縁不明。 体部下部凹へたり磨り。
17	灰山器	口辺部1/3 ～底部全周	4	12.5	8	灰色 一部灰色	白色粒 雲母	ロクロ成形。切縁不明。 底面。体部下部凹へたり磨り調整。

20D遺物観察表(3)

	母体	部位	寸法(㎝)			色調	胎土	調料・文様等
			器高	口径	底径			
18	須臾器 坏	口辺部2/3 ～底部	4.3	14	8.2	灰青白色	裏面 長石多含、 白色胎	口口成形。切端し不明。 底縁四隅石割れへう割り調整。底面外周に不明磨痕あり。
19	須臾器 坏	口辺部 ～底部1/4	3.9	14.2	8.2	灰白色	裏面多含 赤胎 長石多含	口口成形。切端し不明。 底縁す字ちへう割り調整。器部下縁部へう割り調整。
20	須臾器 坏	口辺部 ～体部1/5	4.3	13.2	—	灰色	裏面多含 長石多含 小石片	口口成形。底縁部へう割り調整。
21	須臾器 坏	底縁1/4 ～底部	1.8	—	6.6	灰色	裏面 赤胎多含	口口成形。切端し不明。 底縁中央、体部上縁部へう割り調整。
22	須臾器 高台付盤	高台部 ～裏部1/4	2.3	—	10.2	淡青灰色	器部多含 石灰、長石	高台部貼り付け。 内外両面など。
23	須臾器 坏	器部 ～底部1/5	1.6	—	8	青灰色	裏面 石灰多含	口口成形。切端し不明。へう割り調整。裏面外周中央に粘土小片貼り付け。体部下縁部へう割り調整。
24	須臾器 坏	一部体部1/2 ～底部	1.8	—	8	灰色	裏面、長石 石灰 白色胎	口口成形。切端し不明。 底縁四隅及び体部下縁部へう割り調整。
25	土師器 高台付輪 か	高台部1/5	1.1	10	10	赤褐色	裏面、白色胎 赤色スロリヤ	口口成形。裏面部分の一部のみ赤色。 底縁からすると高台付輪か？赤胎。
26	土師器 器	器全周	1.5	器径 2.8	—	赤褐色	白色胎	口口成形。 器底状つまみ。赤胎。
27	須臾器 器	器全周 天冲部1/4	—	—	—	淡青灰色	白色胎 長石多含 赤胎	器底状つまみ。 天冲部3/4部へう割り調整。内面中央地味している。
28	須臾器 器	天冲 ～口辺部1/4	2.3	14.8	—	青灰色	裏面 石灰	口口成形。 天冲部2/4部へう割り調整。裏面外周に粗らされる。
29	須臾器 器	天冲 ～口辺部2/3	2.7	15	—	青灰色	裏面 石灰多含	口口成形。天冲部3/4部へう割り調整。つまみ穴深。 ジョイント部高き状に磨かされる。
30	須臾器 高台付盤	口辺部 ～器部1/5	2	15	—	淡青灰色	裏面 長石	口口成形。 内外口口成形。
31	須臾器 高台付盤	口辺部1/3 高台部全周	3.5	13.5	10.7	外縁青灰色 内灰白色	器部多含 長石、石灰	高台部ジョイント、口口成形。 内面、口辺部と体部間に一色の化粧層。
32	須臾器 須臾器	口辺部 ～器部1/2	3.2	8.2	—	淡青灰色	裏面 赤胎	口口成形。器上平部で再直し、口辺部中央にのみ立ち上がる。
33	須臾器 器	器部 ～底部	6.3	—	7.6	淡青灰色	器色胎 長石、白色胎	口口成形。切端し不明。 手持ちへう割り調整。器部下縁部へう割り調整。内面など。
34	須臾器 高台付盤	器部2/3	3.2	31.3	—	青灰色	裏面 石灰多含 白色胎	口口成形。器部中央～下縁部へう割り調整。器部上縁部に透し孔3ヶ所あり。器底中央三角形。内面中央部磨痕あり。
35	須臾器 器	器部 ～器上平部破片	—	—	—	灰色	器部多含 白色胎	器部上縁部のみ直。器下がり。内面同心円文で調整。
36	須臾器 器	口辺部 ～器上平部1/5	5.3	21.2	—	淡青灰色	裏面 石灰多含	口辺部内外両面など。 器部外周で、内面無縁へう割り調整。口辺部縁部貼り付け。
37	土師器 器	口辺部 ～器上平部1/4	8.9	19.4	—	淡褐色	裏面 白色胎多含	口辺部縁部つまみ上げ。 口辺部縁で、器部内外両面へう割り調整。
38	土師器 器	口辺部 ～器上平部1/3弱	6.4	30	—	淡赤褐色	石灰 裏面、白色胎	口辺部つまみ上げ。 口辺部内外両面など。器部内外両面など。
39	土師器 器	口辺部 ～底部1/3	25.9	20.2	—	淡紫褐色	裏面 石灰、石灰	輪縁部成形。口辺部内外両面など。器部外周へう割り調整。器部中央～下縁部へう割り調整。内面など。外縁中央～下縁部磨痕。
40	土師器 器	口辺部 ～器部下縁全周	31.5	21.6	—	赤褐色 ～赤褐色	裏面 石灰多含	輪縁部成形。口辺部内外両面など。器部中央～下縁部へう割り調整。内面へう割り調整。器部外周磨痕あり。外周中央～下縁部磨痕及び器部付。
41	土師器 器	底部2/3	1.5	—	8.2	外縁赤褐色 内縁褐色	石灰、裏面 赤石多含	器部下縁部へう割り調整。 内面など。器部本磨痕。
42	土師器 器	器部	2	—	9.5	褐色	器部 石灰多含 石灰	内面へう割り調整。 器部下縁部へう割り調整。器部本磨痕。
43	土師器 器	口辺部 ～器上平部	3.3	13	—	赤褐色 ～赤褐色	石灰 白色胎、裏面	口辺部内外両面など。 器部外周部へう割り調整。内面など。
44	土師器 器	口辺部1/5	4.2	12.4	—	赤褐色	白色胎 裏面、石灰	口辺部縁で、器部外周部へう割り調整。 内面など。内面高台部付。
45	土師器 器	口辺部 ～器上平部1/4	10	15.7	—	淡赤褐色 ～淡赤褐色	石灰 赤胎	口辺部内外両面など。 器部外周部へう割り調整。



第73図 20D出土遺物 (3)

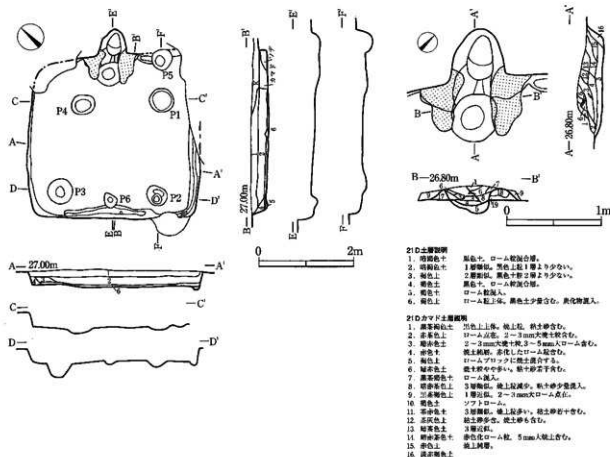


20D遺物観察表(4)

品類	部位	片径値 (cm)			色 調	材 質	調査・文様等
		器底	口径	底径			
46 上和器 壺	底部 ~底縁1/3	131	—	56	淡褐色 ~淡褐色	黄白、石灰 白色紋	口辺部破んで、胴上縁外周縁にへう割り、中央へド輪縁部へう割り。内面へう割で、胴部へ外周縁付着。
47 陶片等		87	132	厚さ 3~56	黄さ 161.5 g		遺埋時の状況が知られる。
48 使用痕あ る石	基壇穴深	縦 2.3	横 2	厚さ 1.8	重さ 9.4 g		先端部打痕あり。暗褐色 鉄色を受ける。
49 鉄製品 (不明)		縦 8.4	横 5.8		重さ 25.9 g		十字部に压した草書の棒状物に鉄の棒状物が付着している。 形状不明。

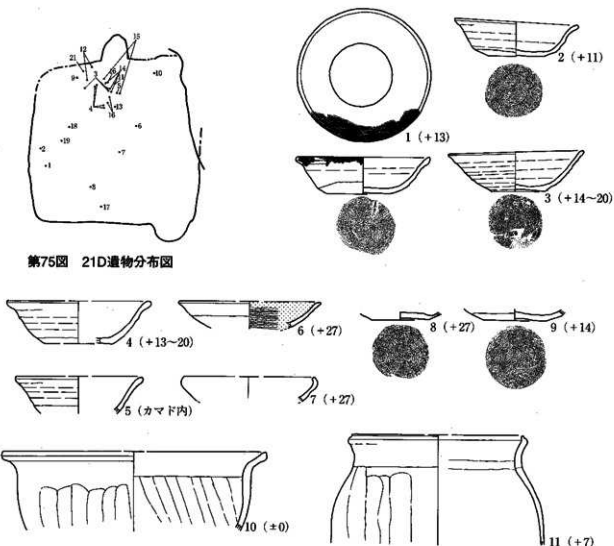
21D (第74~78図 図版6・16)

位置 D3区-1・2Gで検出。主軸方位 N-46°-Eで、東に傾く。重複関係 単独。平面形  
方形を呈する。規模 3.28m×3.48m。遺構確認面からの深さ0.36m。壁 垂直直味に立ち上がる。床  
ハードルームまで掘り込んで、床面とする。やや凹凸を有する。周溝 カマド東(右)脇及び東壁から  
南壁にかけて廻らす。南東隅に周溝内柱穴を1本穿つ。カマド 北壁の中央部。両袖部と煙道部が残存  
し、焚口部は焼けている。左袖は一段、右袖は二段ほど構築土を積んで作られている。煙道部の傾斜は、  
かなり急角度である。ピット 6本検出。P1~P4が主柱穴で、P5は上屋構築のための補助柱穴。  
いずれも掘り込みが浅いものである。P6は出入口施設に伴うピット。P2に主軸方向上の作り替への  
跡がある。覆土 6層に分層できた。暗褐色土系を主体とする。遺物出土状態 カマド前面付近に、や  
や集中が見られる。建て替え P2の見知から、部分的な拡張が認められた。



第74図 21D遺構実測図

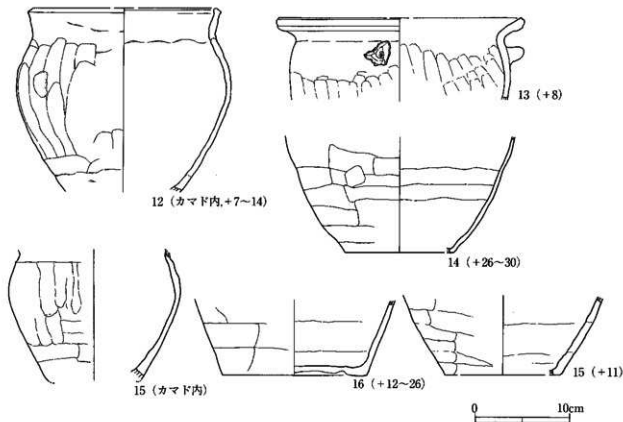
第75図 21D遺物分布図



第76図 21D出土遺物 (1)

21D遺物観察表

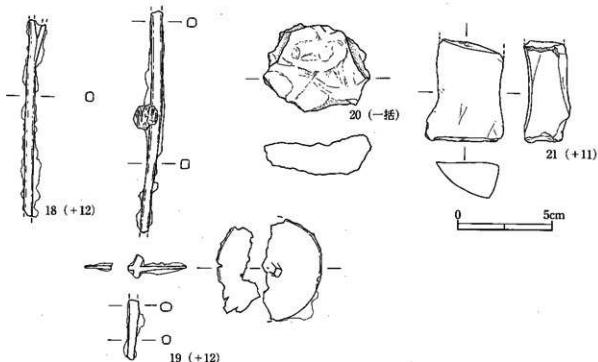
番号	器種	部位	寸法 (cm)			色 質	胎 土	調査・文様等
			高さ	口径	底径			
1	土師器 杯 (有柄)	ほぼ完整 口辺部1/3割欠	3.8	14	6.6	黄褐色 長石 灰質	長石 石質 微硬	ロクロ成形。 初焼しは煎飯糸切り後西縁と体部下縁回転へつ張り。 灯明臺として使用。
2	土師器 杯	口辺部 ～底部1/3	3.6	12.9	5.8	黄褐色 ～黒灰質	長石 雲母	ロクロ成形。 初焼しは煎飯糸切り。底縁周縁と体部下縁は回転へつ張り調整。
3	土師器 杯	口辺部 ～底部2/3	4.4	14.1	6	黄褐色 ～黒灰質	雲母・石英・ 長石	ロクロ成形。 初焼しは煎飯糸切り。
4	土師器 杯	口辺部 ～底部1/2強	4.6	15.3	7.3	黄褐色	長石 石英 雲母 (少量)	ロクロ成形。 煎飯糸切り。全周干付ちへつ張り調整 体部下縁回転へつ張り調整。
5	土師器 杯	口辺部 ～体部1/4片	3.9	13.6	—	黄褐色 黒灰あり	長石 雲母	ロクロ成形。 体部下縁回転へつ張り調整。
6	土師器 杯	口辺部 ～体部1/5	2.8	15	—	外周黄褐色 内周黒色	長石 石英	内面は口辺～体部まで調整。 外面は黒色肌層抽出へつ張り。外周非常に歪み。 内外縁部立で微明瞭ロクロ成形小?
7	土師器 鉢状杯	口辺部 ～体部1/5	2.6	13.7	—	黄褐色	石英・小石 赤土スコリキ	ロクロ成形。 初焼しは煎飯糸切り後西縁回転へつ張り調整。 体部下縁回転へつ張り調整。
8	土師器 杯	底部全周	0.8	—	6	黄褐色	雲母 長石 石英	ロクロ成形。 初焼しは煎飯糸切り後西縁回転へつ張り調整。 体部下縁回転へつ張り調整。



第77図 21D出土遺物(2)

21D遺物観察表(2)

品目	部位	計測値 (cm)			色調	胎土	調査・文様等
		高さ	口径	口径			
9 上脚部 牙	底部 ～一部縁部	1.2	—	66	黄褐色	灰白・黄緑 小豆粒	クロコ成部。赤切り縁部縁と縁部す通り縁へう削り調整。
10 土師器 罌	口辺部 ～胴部上半部1/4	8.3	27.6	—	淡黄褐色	黄緑・白色粒 赤色スコリヤ	口辺部内外縁まで。胴部外縁削削へう削り。 内面削削へう削り。
11 土師器 罌	口縁 ～胴中央部1/4	11.5	18.8	—	淡黄褐色	灰石・雲母 赤色スコリヤ	口辺部内外縁まで。胴部内面削削へう削り。 胴部外縁削削へう削り。内面削削へう削り。
12 土師器 罌	口縁 ～胴下部1/3	19.4	19	—	黄褐色	灰石 雲母	口辺部縁まで。外縁削削へう削り。 胴部外縁削削へう削り。内面削削へう削り。
13 土師器 罌	口縁 ～胴1/4	8.7	25.3	—	黄褐色	赤色スコリヤ ヤ雲母	口辺部内外縁まで。胴部外縁削削へう削り。 胴部外縁削削へう削り。内面削削へう削り。
14 土師器 罌	胴中央部 ～底部	12.2	—	11.4	黄褐色	灰石 雲母	外縁削削へう削り 内面削削へう削り。
15 土師器 罌	底部 ～胴下部1/3	13.8	—	—	黄褐色	白色粒 雲母	胴部下手～中央削削へう削り後、中央～上半部削削へう削り。 内面削削へう削り。
16 土師器 罌	底部 ～胴部1/3	8	—	15	淡黄褐色	石英 雲母	外縁削削へう削り。 内面削削へう削り。
17 土師器 罌	胴部1/6 ～底部	8.4	—	12	外縁黄褐色 内面 淡黄褐色	灰石 雲母 赤色スコリヤ	外縁削削へう削り。 内面削削へう削り。
18 鉄製品 銅線穿飾		10.4	断面 0.4		灰色 10.7g		銅線穿飾部か。 口辺部で分岐するが鋭利としない。 断面は直角部で1.5mm。
19 鉄製品 銅線穿飾	約全長1/2	厚さ 0.1cm	全長 5.7cm		灰色 11.5g		輪部欠損。
20 灰洋		長さ 4.7	厚さ 3.6		厚さ 2.1 重さ 30.4g		白色粒が両面に付着し、やや砂状じり。 白化なし。輪部破片。
21 石器 砥石		長さ 3.4cm	幅 4.3cm	厚さ 1.9cm			上部欠損だが上面も使用される。



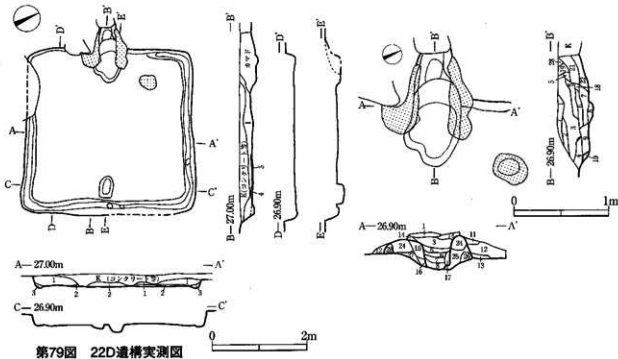
第78図 21D出土遺物(3)

22D (第79~82図 図版6・16・17)

位置 C3区-1・2Gで検出された。主軸方位 N-65°-Wで、西に傾く。重複関係 単独。平面形 方形を呈する。規模 3.31m×3.50m。遺構確認面からの深さ0.27m。壁 垂直気味に立ち上がる。床 ハードルームまで掘り込んで床面とする。比較的平坦である。カマド右脇の床面上に粘土が分布する。周溝 北東コーナー付近から西壁の途中まで廻らせる。周溝内柱穴3本を穿つ。カマド 北壁の中央部。両袖部と、先端を一部攪乱で失うものの、煙道部が残存し、焚口部は焼けている。左袖で5ブロック、右袖が三段ほど構築土を積んで作られており、基部は煙道部にかかる。ピット 1本のみ検出され、出入口施設に伴うものである。覆土 5層に分層できた。濃茶褐色土系を主体とした埋め戻し土。遺物出土状態 カマド前面付近にやや集中するが、平面分布的には、やや散漫であると言える。垂直分布的には、カマド内及び床面という廃屋直後のものと、覆土上層の二者がある。前者では、1が床面直上である。後者では、2(1m)、10(2m)のように、接合資料の破片間の距離が、比較的長いものを含んでいる。建て替え 認められなかった。

22D遺物観察表

図番	部位	計測値 (m)		色調	粘土	調査・文様等	
		器高	口径				
1	土師器 杯	ほぼ定形 一般欠	4	13.1	6	淡褐色 石灰	ロクロ成形。 物置しは回転へつり無調整。体部下部回転へつり調整。
2	土師器 杯	ほぼ定形 一般欠	3.4	13.5	6.2	淡褐色 黄石・石膏 雲母 赤色スリヤ	ロクロ成形。切欠し不明。 底部全面子持ちへつり調整。体部下層も同様調整。 体部外周に凸出で「天」の遺構あり。
3	土師器 杯	口径1/4	3.8	14.5	—	淡褐色 黄石 雲母	ロクロ成形。 体部下部回転へつり調整。
4	土師器 杯	L1線 へ体厚1/8	3.5	13.6	—	茶褐色 石灰・雲母 赤色スリヤ	ロクロ成形。 体部下部へつり調整。L1線体部外反。
5	土師器 杯	口縁 へ体厚1/8	3.2	16	—	褐色 石灰・雲母 白色粒	ロクロ成形。 体部下部へつり調整。



第79図 22D遺構実測図

22D土層説明

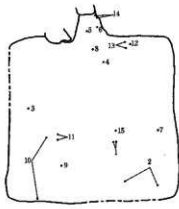
1. 濃茶褐色土 1~10mm大ローム、地上若干含む、炭化物少量含む。
2. 濃赤褐色土 1層程度、粘土砂質面に黒く見られる。
3. 黒褐色土 ローム土と1層の混合層。
4. 黒褐色土 ローム若干含む。
5. 黒褐色土 ローム土層、1層とローム土層。

22Dカマド土層説明

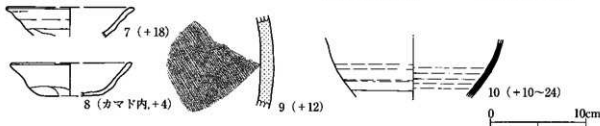
1. 濃茶褐色土 ローム土、炭化物少量含む。
2. 濃赤褐色土 炭褐色粘土中に鉄褐色土少量混入。
3. 濃茶褐色土 1層程度、粘土プロック少量含む。
4. 濃茶褐色土 ローム若干含む、炭化物少量混入。

5. 濃茶褐色土 1層程度、粘土若干含む。
6. 濃茶褐色土 5層程度、粘土若干含む。
7. 濃茶褐色土 地上プロック、地上鉄屑土。
8. 赤褐色土 7層程度、粘土プロック混入多い。
9. 暗赤褐色土 密な砂、プロック、黒色土混入層。
10. 暗褐色土 黒褐色土、ローム程度分層。
11. 濃茶褐色土 炭褐色、地上少量混入。
12. 黒褐色土 ローム混入、炭質層。
13. 褐色土 ローム程度、暗褐色土少量混入。
14. 濃褐色土 炭褐色土、暗褐色土少量含む。
15. 濃赤褐色土 炭褐色、粘土混入層、カマド層。
16. 暗茶褐色土 炭褐色、ローム程度分層、カマド層。
17. 赤褐色土 少量の粘土に粘土塊含む。

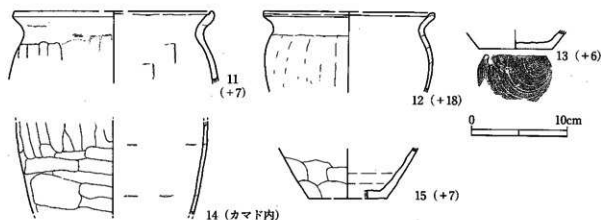
18. 濃赤褐色土 地上土質褐色砂混入。
19. 濃茶褐色土 炭褐色土少量混入。
20. 濃茶褐色土 炭褐色、粘土混入。
21. 濃茶褐色土 ローム土層、地上土混入。
22. 濃茶褐色土 ローム土層、黒色土混入層。
23. 濃茶褐色土 炭褐色砂質面、炭けた炭褐色砂混入、粘土少量。
24. 炭褐色土 地上土層。
25. 暗茶褐色土 地上砂の層、暗褐色土若干含む。
26. 暗茶褐色土 暗茶褐色土に、黒色土、粘土少量混入。
27. 暗茶褐色土 2層より粘土若干含む。
28. 暗茶褐色土 粘土層、地上土若干含む。



第80図 22D遺物分布図



第81図 22D出土遺物(1)



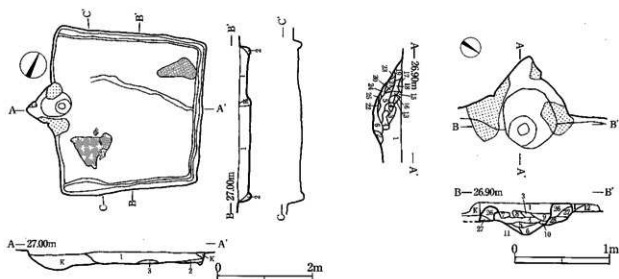
第82図 22D出土遺物(2)

22D遺物観察表(2)

器種	層位	計測値 (cm)			色 質	胎 土	調査・文様等
		器高	口径	高さ			
6 土師器 杯	L1層 ～唇部片1/5	3.9	15.8	—	暗褐色	炭灰・灰石 石灰	ロクロ成形。 唇部下段手持ちへつ割り調整。内部内面下に横いへつ磨き。
7 土師器 杯	L1層 ～唇部片1/4	3.1	13.4	—	淡褐色	炭灰 灰石	ロクロ成形。 唇部下段手持ちへつ割り調整。
8 土師器 杯	白土層 ～底部	3.3	12.6	6.8	淡褐色	炭灰・石灰 炭灰 赤色スコリヤ	ロクロ成形。底面磨り磨し不明。へつ割り調整。 唇部下段傾斜へつ割り調整。
9 土師器 壺	頸部片	—	—	—	淡青灰色	灰石 小石	ロクロ成形。 頸部外面平行印き付文。
10 土師器 底面片	頸下平部 小片	—	—	—	灰白色	ちり	ロクロ成形。 頸下平部傾斜へつ割り調整。自然焼。
11 土師器 壺	L1層 ～胴上平部全周	7.6	20.8	—	淡褐色	炭灰・石灰 炭灰	L1層前後のみ上げ。L1層前後で調整。 胴部外面傾斜へつ割り調整。内面傾斜へつ割りで。
12 土師器 壺	L1層 ～L1層部	8.4	17.8	—	暗褐色	炭石 炭灰	L1層前後のみ上げ。L1層前後で調整。 胴部外面傾斜へつ割り調整。内面傾斜へつ割りで。
13 土師器 底片1/2	—	1.9	—	7.6	暗褐色	炭石 炭灰	立ち上がり外面へつ割り。内面で調整。 底面磨り磨し不明。へつ割り調整。
14 土師器 壺	頸部1/3	—	—	—	内外暗褐色	炭石 炭灰	胴中央～下平部。中央傾斜へつ割り後下平部傾斜へつ割り。 内面で調整。
15 土師器 壺	底面1/3	5.3	—	3.2	外淡暗褐色 内淡暗褐色	炭灰 炭灰	胴下平部傾斜へつ割り調整。内面で調整。 底面磨り磨し不明。へつ割り調整。

23D (第83～85図 図版6・17)

位置 C4区-3・4, D4区-1・2Gで検出。主軸方位 W-26°-Sで、西に大きく傾いている。重複関係 単独。平面形 方形(やや台形気味)を呈する。規模 3.20m×3.60m。遺構確認面からの深さ0.23mを測る。壁 垂直気味に立ち上がる。床 ハードルームまで掘り込み、床面とする。北壁側一帯の床面が一段高く、有段構造となっている。南西及び北東隅の床面上に焼土・炭化材が分布する。周溝 西壁下を除き、他は廻らせる。(カマド 西壁の中央部(いわゆる西カマド)。両袖部と煙道部が残存し、焚口部は焼けている。焚口部は浅めの擋鉢状に掘りくぼめており、煙道は緩傾斜となる。構築法は、左袖で二段、右袖で三段の構築土を積んで行くというものである。左右袖部ともに、基底部は28層とした暗茶褐色土で、この上に粘土主体の茶灰色土を積み上げている。ピット 検出されず。覆土 3層に分層でき、暗茶褐色土の1層を大量に投げ込んで埋め戻している。遺物出土状態 ほとんどが1層中である。このうち、土師器杯の1と土師器壺の9は、破片が広範囲に分布し、かつ個々の破片のレベル差もある。この他の遺物とは、廃棄行為そのものや、背景が異なる可能性を指摘できる。覆て替え なし。



第83図 23D遺構実測図

23D土層説明

1. 礫層褐色土 1層肥土。ローム状土層。未熟含む。
2. 礫層褐色土 1層にローム状土層が多い。
3. 礫層褐色土 1層に礫が多く混入した層。

23Dカマド土層説明

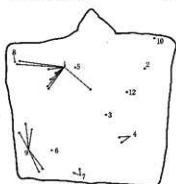
1. 礫層褐色土 粘土。粘土。炭化層。ローム層を含む。
2. 礫層褐色土 2-10mm大ロームを含む。炭層。
3. 礫層褐色土 礫層上部。粘土。炭層。熟土を含む。
4. 礫層褐色土 粘土層。3-5mm大礫層。ローム層を含む。炭化層を含む。
5. 礫層褐色土 熟土層。礫層土層入。

6. 礫層褐色土

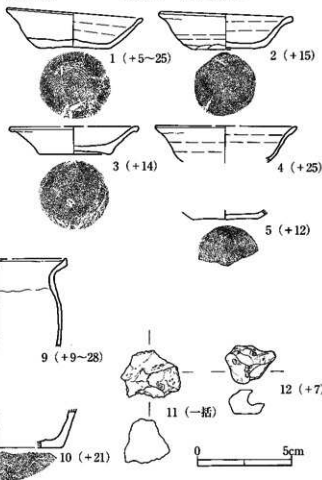
7. 礫層褐色土 礫層褐色土。2-3mm大礫土層を含む。
8. 礫層褐色土 礫層褐色土。ローム層を含む。
9. 礫層褐色土 礫層褐色土。炭層。炭層を含む。
10. 礫層褐色土 礫層褐色土。炭層。炭層を含む。
11. 礫層褐色土 10-20mm大ローム層を含む。
12. 礫層褐色土 1-5mm大ローム層を含む。
13. 礫層褐色土 礫層上部。粘土層。炭層を含む。
14. 礫層褐色土 礫層上部。炭層を含む。
15. 礫層褐色土 礫層上部。炭層を含む。
16. 礫層褐色土 15層肥土。炭化層を含む。

17. 礫層褐色土

18. 礫層褐色土 礫層褐色土。炭層。炭層を含む。
19. 礫層褐色土 礫層褐色土。炭層。炭層を含む。
20. 礫層褐色土 礫層褐色土。炭層。炭層を含む。
21. 礫層褐色土 礫層褐色土。炭層。炭層を含む。
22. 礫層褐色土 礫層褐色土。炭層。炭層を含む。
23. 礫層褐色土 礫層褐色土。炭層。炭層を含む。
24. 礫層褐色土 礫層褐色土。炭層。炭層を含む。
25. 礫層褐色土 礫層褐色土。炭層。炭層を含む。
26. 礫層褐色土 礫層褐色土。炭層。炭層を含む。
27. 礫層褐色土 礫層褐色土。炭層。炭層を含む。
28. 礫層褐色土 礫層褐色土。炭層。炭層を含む。



第84図 23D遺物分布図



第85図 23D出土遺物

## 23D 遺物観察表

器種	部位	計測値 (cm)			色調	胎土	調整・文様等
		器高	口径	底径			
1 十割鉢 坏	口辺 ～底部	42	144	73	淡褐色 赤黄・赤石・ 黒母 赤色スコリヤ	ロクロ成形。 切離しは石臼転糸切り。裏部縁端と底部下縁同へう割り調整。	
2 十割鉢 坏	完形	37	138	66	褐色 ～暗褐色	ロクロ成形。切離しは石臼転糸切り。 切離しは石臼転糸切り。裏部縁端と底部下縁同へう割り調整。	
3 土師器 罎	底蓋 ～口辺2/3	29	132	74	淡褐色 赤母	ロクロ成形。 切離しは石臼転糸切り後調整。	
4 土師器 坏	口辺 ～底部	38	15	—	赤褐色 ～黒色	ロクロ成形。 内外面にタール吹付物が見られる。	
5 土師器 坏	底蓋1/2弱	09	—	68	淡褐色 赤石・赤黄 白色粒	ロクロ成形。 切離しは石臼転糸切り後、ほぼ全面にわたり縁同へう割り調整。 底蓋下縁へう割り調整。	
6 須恵器 罎	胴部	—	—	—	青灰色	割外面平行明き目文。内面凹形状の透て具痕跡明確。	
7 土師器 罎	底蓋1/4	23	—	112	茶褐色 ～淡褐色	底蓋立ちあがりへう割り調整。 内面などで調整。	
8 土師器 罎	口辺1/6	21	244	—	褐色 赤黄・赤母 白色粒	口辺部のみ。 口縁部つまみ上げ。	
9 土師器 小形罎	口辺 ～底蓋1/3	93	144	—	赤褐色 ～淡茶褐色	口辺部のみ。裏上平縁縁同へう割り。中央部縁同へう割り。 口縁部つまみ上げ。内面などで調整。	
10 土師器 罎	底蓋一部	41	—	136	淡茶褐色 内淡褐色	底蓋切離しは石臼転糸切り調整。 立ち上がり外面は削付へう割り。内面はなで整形	
11 鉄滓	幅 31 厚 24	縦 31 横 26	厚 24 高さ 125g	—	—	—	
12 礫石	縦 19	横 26	厚 13 高さ 132g	—	—	—	

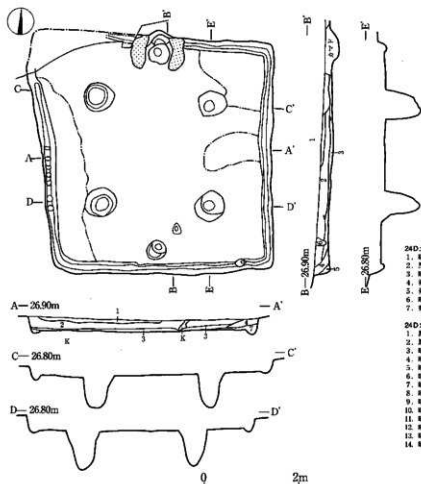
## 24D (第86～89図 図版6・17)

位置 B4区-3・4, C4区-1・2Gで検出された。主軸方位 N-4°-Wで、やや西に傾く。重複関係 単独。平面形 やや不整な方形を呈する。本跡は、北壁側が南壁側よりも長い、やや台形気味となる。規模 5.05m×5.06m。遺構確認面からの深さ0.26m。壁 ほぼ垂直に立ち上がる。床 ハードルームまで掘り込んで、床面とする。北東部と南西部を除き、ほぼ全面が硬化している。周溝 カマド前面を除いて全周する。西壁下を中心に周溝内柱穴が見られる。カマド 北壁の中央部。両袖部と煙道部が残存し、焚口部は焼けている。焚口部は浅めの掘鉢状に掘りくぼめており、煙道は緩傾斜となる。左右両袖の基底部はルーム掘り残しで、この上に構築土を積み上げている。ピット 6本検出。P1～P4が主柱穴で、P5は出入口に伴うものである。P6は性格不明。覆土 7層に分層できた。2層とした黒褐色土を主体とする。遺物出土状態 平面分布的には、床面中央付近にやや集中する傾向がある。1・2の土師器坏は、小片がばらまかれた状況で出土し、9の小形罎は3m以上離れた物同士が接合する。垂直分布的には、ほとんどが2層の上部である。建て替え 認められない。

## 24D 遺物観察表

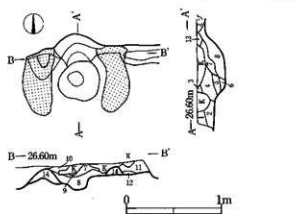
器種	部位	計測値 (cm)			色調	胎土	調整・文様等
		器高	口径	底径			
1 十割鉢 坏	口辺 ～底蓋2/3	45	141	—	淡褐色 赤黄 白色粒	口辺部内外縁などで。 底蓋外面へう割り調整。内面下縁へう割り。	
2 土師器 坏	口辺部 ～底蓋2/3	4	126	—	赤褐色 赤色スコリヤ 白色粒	口辺部のみ。 底蓋外面縁同へう割り。内面縁同へう割り。 内面茶色処理か？	
3 土師器 坏	口辺部 ～底蓋1/3	48	14	—	褐色 白色粒	口辺部のみ。 内面縁同へう割り。茶色処理か？底蓋外面縁同へう割り。	
4 須恵器 罎	底蓋 ～底部	22	—	56	黄青灰色	底蓋立ちあがり。 底蓋立ちあがり後縁同縁端と底部下縁同へう割り調整。	
5 須恵器 罎	口辺部 ～底部1/8	1.05	15.2	—	黄青灰色	底蓋立ちあがり。 口辺部のみ。 口辺部内面に黄い膜。天井部内面は縁同へう割り調整。青粒粒。	
6 須恵器 罎	口辺 ～底部1/6	—	—	—	青青灰色	ロクロ成形。 底蓋下縁へう割り調整。底蓋下縁へう割り調整。	



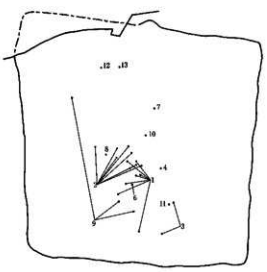


- 24D土層説明**
- |         |   |
|---------|---|
| 1. 暗褐色土 | ローム層、黄褐色土層、ロームブロック含む、少量のローム泥、炭化跡、地上に散見。 |
| 2. 暗褐色土 | ローム層にローム土少量含む。                          |
| 3. 暗褐色土 | ローム土層、黄褐色土層を含む。                         |
| 4. 暗褐色土 | ローム土層、黄褐色土層を含む。                         |
| 5. 暗褐色土 | ローム土層、黄褐色土層を含む。                         |
| 6. 暗褐色土 | ローム土層、黄褐色土層、赤褐色土層を含む。                   |
| 7. 暗褐色土 | ローム土層にロームブロック部分を含む。                     |

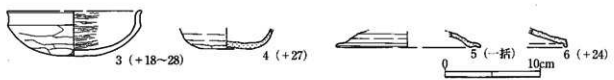
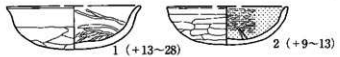
- 24Dカマド土層説明**
1. 暗褐色土 1-2mm大ローム泥、黄褐色土層、地上、粘土砂を含む。
  2. 暗褐色土 1-2mm大ローム1より目立つ。
  3. 暗褐色土 2-3mm大ローム、粘土砂、炭を含む。
  4. 暗褐色土 粘土砂層、2-3mm大土層を含む。
  5. 暗褐色土 粘土砂、2-3mm大土層を含む。
  6. 暗褐色土 暗褐色土層人形、炭を含む。
  7. 暗褐色土 4層に比べ粘土少ない、暗褐色土層土層。
  8. 暗褐色土 ロームブロックを含む、その他に暗褐色土層土層。
  9. 暗褐色土 5-10mm大土層を含む。
  10. 暗褐色土 地上部、粘土砂を含む。
  11. 暗褐色土 6層に似、20-30mm大ロームブロック多量、ローム土層を含む。
  12. 暗褐色土 粘土砂、地上部、粘土砂を含む。
  13. 暗褐色土 粘土砂、地上部、粘土砂を含む。
  14. 暗褐色土 ロームブロック、暗褐色土層土層。



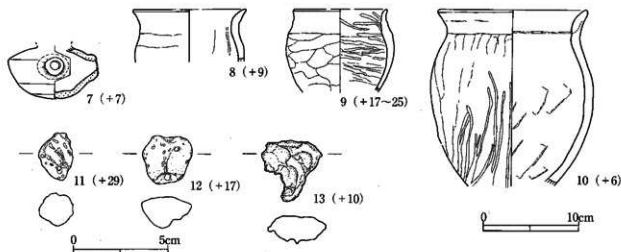
第86図 24D遺構実測図



第87図 24D遺物分布図



第88図 24D出土遺物



第89図 24D出土遺物(2)

24D遺物観察表(2)

図番	部位	計測値 (cm)			色調	附土	調査・文様等
		器高	口径	底径			
7	器底跡 胴部全周遺存	5.9	胴部径5.4 胴部径9.1	—	暗青灰色 黄土・ちり 散断面に黒 い散り。	立ち上がり外面回転し回り裏物。 釘部付焼物。T5217群行。	
8	土師器 器 口辺部1/2部 —胴上手部	5.6	11.8	—	暗褐色 赤茶 黒石	口辺部内外縁などで、 内面黒部—唇部ヘラなどで焼成。外面黒部焼成と炭化物付着。	
9	土師器 器 口辺 —胴部1/2	8.8	9.8	—	赤茶褐色 内面茶褐色	口辺内外縁などで、 胴部外面は炭位ヘラ回り。内面炭位ヘラ焼き。	
10	土師器 器 口辺 —胴下手部全周遺存	18.4	15.6	—	淡青灰色 黄土・黒部 多含石英	口辺部炭位。胴部外面炭位ヘラ回り後、などで、中央—下位は炭位ヘラ 焼き。	
11	礫石	縦 2.5	横 1.8	厚さ 2.1g			
12	礫石	縦 2.6	横 2.7	重さ 1.4g			
13	礫石	縦 3.2	横 3.2	厚さ 1.4 重さ 15.7g		灰濁いやある。磁気なし。	

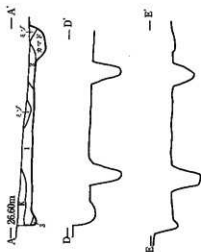
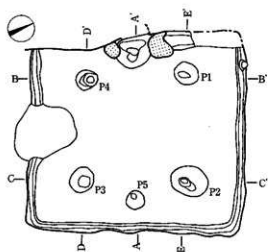
25D (第90~93図 図版7・17)

位置 B2区-4, B3区-3, C3区-1Gで検出。主軸方位 N-65°-Wで、西に傾く。重複関係 単独。平面形 方形を呈する。規模 4.26m×4.55m。遺構確認面からの深さ0.35m。壁 垂直気味に立ち上がる。床 ハードルームまで掘り込み、そこを床面とする。周溝 カマド部分を除き、全周していたと思われる。比較的幅員・深度とも均一である。北西隅付近に周溝内柱穴を1本穿つ。カマド

北壁の中央部。両袖部と煙道部が残存し、焚口部は焼けている。本跡は煙道部の掘り込みが小さい。ピット 5本検出。P1~P4が位置的・規模的に見て主柱穴で、P2は主軸に直交する形で、P4では対角線上の建て替えが見られる。また、柱穴底面の平面形が長楕円形を呈するP1も、建て替えによる可能性が高い。P5は出入口に伴うものと思われる。覆土 3層に分層できた。1層とした茶色土が主体となる。遺物出土状態 平面分布的には、やや散漫な印象がある。垂直分布的には、ほとんどが1層上部に集中する。建て替え 柱穴の知見から、建て替えが認められた。ただし、住居跡の掘り方の形状や周溝には、ほとんど変化が認められない。このことから、壁外空間にからむ部分の拡張や、上屋構造などの改変であった可能性がある。その場合は、広義の建て替えとなろう。

25D遺物観察表

図番	部位	計測値 (cm)			色調	附土	調査・文様等
		器高	口径	底径			
1	土師器 器 口辺部 —底径1.4	5.2	18.4		赤褐色 黄土	口辺部焼成で、 外面へラ回り。内面へラ焼き。	
2	土師器 器 各部断片	2.2			赤褐色 黒色粒 黒色粒	外面などで、 内面焼成で後、煎射状焼成。丸底の坏	

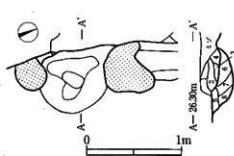
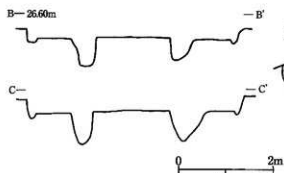


25D土層説明

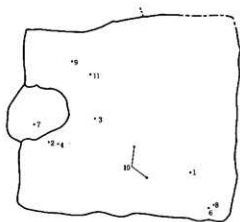
1. 赤褐色土 ローム主体、炭化物混入。
2. 赤色土 1層砂状、粘土砂含む。
3. 赤褐色土 ローム主体、1層とローム土の混合層。

25Dカマド土層説明

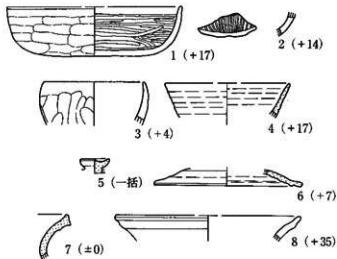
1. 明褐色土 炭十部少量含む。
2. 赤褐色土 焼土層主体に赤色土含む。
3. 赤褐色土 焼土層主体、炭土ブロック含む。
4. 明褐色土 1層砂状、黒色土含む。
5. 暗赤褐色土 ロームブロック部分物を含む。
6. 暗赤褐色土 ロームブロック、焼土粒部分物を含む。
7. 暗褐色土 ロームブロック主体、暗褐色土含む。
8. 暗褐色土 ローム砂、暗褐色土混合層。



第90図 25D遺構実測図



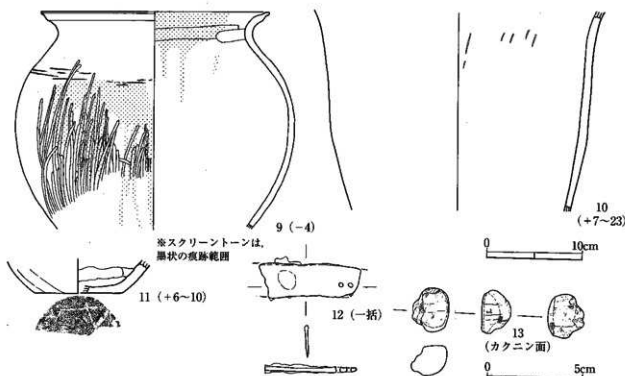
第91図 25D遺物分布図



第92図 25D出土遺物(1)

25D遺物観察表(2)

種別	部位	寸法値 (cm)			色調	胎土	調査・文様等
		高さ	口径	底径			
3	土師器 埴 埴	4.5	10.4		赤褐色	炭母 砂状	外周門沿部破んで、身部へテ張り。
4	煎茶器 埴	3.5	12.4		暗褐色	炭母 白色粒	内外面ロク口成形。
5	磁器類 壺	1.5	3.2		青灰色	灰質 赤色粒・白 色粒	内外面まで。



第93図 25D出土遺物 (2)

25D遺物観察表 (3)

図番	部位	寸法 (cm)			色調	粘土	調査・文様等
		高さ	口径	底径			
6	瓶身部 底	1.8	15.6	—	黄灰色	黄砂 白色粒・赤 包粒	内外面ロクロ成形。天井部面取ヘリ残り濃厚。 内面ロクロ面。
7	瓶身部 底	5.2			黄灰色	白色粒	内外面残面。
8	土師器 底	2.7	19.4		黄褐色	黄砂 白色砂粒	内外面残面。 武蔵草履。
9	土師器 底	22.8	31		黄褐色	黄砂 赤色粒、砂粒	口辺縁部残面。胴部下端ヘリ滑り(下から上方向) 空堀空堀。外面で、胴上平部ヘリ削り。内面で、胴部ヘリ削り。
10	土師器 底	21	胴上平部 21	—	明褐色	黄砂 砂粒	外面削り残面。 内面削り残。面で、胴部削り濃厚。
11	土師器 底	3.6	—	9	黄褐色	黄砂 砂粒	外ヘリ削り。内面で、 底縁木割。空堀空堀。
12	土師器 底	全長 5.3	幅 1.7	厚さ 0.25	黄さ 4.4g		鉄板に2mmの円孔を2箇所あける。 下部に刃をつける。髓線具とされるが不明。
13	軽石						長さ22cm 幅2cm 厚さ15cm 重さ11g

26D (第94~100図 図版7・17・18)

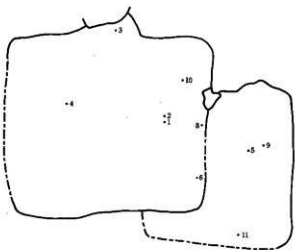
[26AD]

位置 C2区-1G。主軸方位 N-37°-E。重複関係 BDに切られる。平面形 方形。規模 3.87m×4.35m。遺構確認面からの深さ0.29m。壁 垂直気味。床 ハードルームまで掘り込む。周溝 カマド前面を除いて全周。周溝内柱穴あり。カマド 北壁の中央部。両袖部と煙道部が残存し、焚口部は焼けている。ピット 8本検出。P1~P4が主柱穴で、P2・P3に建て替えの形跡あり。P5は出入口に伴い、P6~P8はその他の柱穴。遺物出土状態 平面分布的には、やや散漫。建て替え 認められた。

[26BD]

位置 26ADと同じ。主軸方位 同左。重複関係 ADを切り、CDに切られる。平面形 方形。規模 3.55m×(3.15m)。深さ0.27m。壁 垂直気味。床 ハードルームまで掘り込む。周溝 ほぼ26ADと同じであるが、南東コーナーで一端途切れる。カマド 北壁の中央部。両袖部が残存。ピット 3本検出。P3は出入口に伴う。遺物出土状態 平面分布的には、やや散漫。建て替え 認められない。

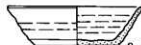




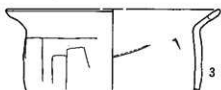
第95図 26ABD遺物分布図



1 (+16)



2 (+16)



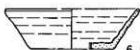
3 (カマド内)



4 (+16~42)



5 (+16)



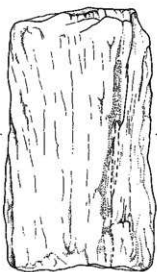
6 (+28)



9 (+22)



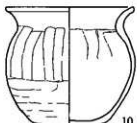
7 (一括)



11 (±0)



8 (AD厨溝内)



10 (+6)



第96図 26ABD出土遺物

## 26A B D遺物観察表

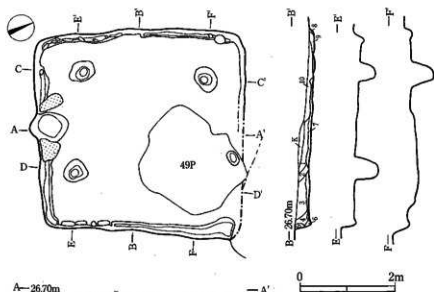
図種	部位	計測値 (m)			色調	胎土	調査・文様等
		器高	口径	底径			
1 須恵器 杯 口縁一部欠		4.2	13.9	8	淡古灰色	霏母、長石 石英	ロクロ成形。 口縁へ切り傷調整。底部が隆起部へ切りか?
2 須恵器 杯 口縁一部欠		4.2	14	8.6	淡黒褐色	霏母多量 石英、長石	ロクロ成形。調整し不明。 底部中央部へ切り調整。底部下通口へ切り調整。
3 土師器 甕 口辺部 ～唇部1/5		8.7	29	—	茶褐色 一部黒褐色	赤色スコリア 白色砂	口辺部まで。 胴部外面縦にへり。内面へりまで。
4 土師器 甕	口辺部1/5	2.4	22.6	—	茶褐色	黒炭層 長石	口辺部内外縦線まで。
5 土師器 甕	口辺部～唇部1/8	2.3	16.4	—	赤褐色	長石 小石粒	内外面を調整。 内外面直線。
6 須恵器 杯 口縁部 ～底面1/4		4.2	14.2	9	淡青灰色	長石、石英 小石粒	ロクロ成形。 底部下通口へ切り。底部調整し不明。へり調整。
7 須恵器 杯 底面1/5		1.8	—	8.4	青灰色	白色砂 長石	外面底部下隆起部へ切り。 底部調整し不明。へり調整。
8 須恵器 杯 口縁部～唇部1/5		3.8	14.4	—	暗青灰色	長石	ロクロ成形。 底部調整し不明。
9 土師器 杯 口縁部		4	12	6.6	茶褐色	長石、霏母 赤色スコリア	ロクロ成形。底縁調整し調整し不明。 底縁調整し調整し不明。調整し不明。
10 土師器 甕 口縁部～唇部		12.4	13.3	7.8	淡茶褐色	長石、石英 赤色スコリア	口辺部内外縦線まで。胴下部中央部隆起部へ切り。 胴下部～底面へ切り調整。内面へりまで。内面調整調整。
11 灰石 下部欠		真 13.9	幅 7.9	厚 3.5			上面と右側面に滑らかな面が見られる。 片断状 (観察図片付)。

## 〔26C D〕

位置 C 2区-2Gで検出された。主軸方位 S-24°-W。重複関係 26BDを切る。49Pに切られる。平面形 方形を呈する。規模 4.46m×4.40m。遺構確認面からの深さ0.24m。壁 比較的ゆるやかに立ち上がる。床 ハードルームまで掘り込んで、床面とする。やや凹凸に富んでいる。周溝 カマド前面と北壁を除いた他は廻らせているが、西壁の中央部で幅0.5mほど途切れる箇所がある。出入口施設は見つかっていないが、この部分が該当する可能性が高い。西壁下と東壁下では、周溝内柱穴が見られる。カマド 南壁の中央部。両袖部と煙道部が残存し、焚口部は焼けている。焚口部は指針状に掘り込まれ、煙道部は緩傾斜となる。ピット 4本検出。いずれもが主柱穴である。覆土 8層に分層してきた。暗褐色土系を主体とする。遺物出土状態 平面分布的には、後世に掘られた49Pと、その周辺に集中する。そのため、49Pの覆土中に多くが流入し、本来的な同跡の共存遺物は第67図4のみである。建て替え 認められなかった。備考 本跡は3軒重複の最新期である。26BDとの重複部分の北壁にはカマドや出入口を設けず、前者はほぼ180°後者で90°振り替えている。

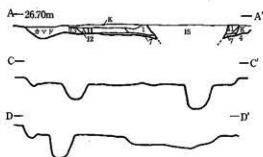
## 26C D遺物観察表

図種	部位	計測値 (m)			色調	胎土	調査・文様等
		器高	口径	底径			
1 須恵器 杯 口縁部 ～唇部1/4		4	13.6	—	淡茶褐色	長石、石英	ロクロ成形。 底部下通へり調整。
2 土師器 甕 口辺部 ～唇部1/5		6.2	13.4	—	淡茶褐色	長石、石英	ロクロ成形。 底部下通口へ切り。内面を調整。
3 土師器 甕 口辺部 ～唇部1/5		5.1	14.1	—	淡茶褐色	長石、石英	ロクロ成形。 底部下通口へ切り調整。
4 土師器 甕 口辺部 ～唇部1/5		3.6	13.2	6.2	茶褐色	白色砂	ロクロ成形。 底部調整し調整し不明。調整し不明。
5 須恵器 甕 口縁部 ～唇部2/3		2	—	—	淡茶褐色	長石、石英 霏母 小石 粒	ロクロ成形。 天舟部隆起部へ切り。つまみ部は唇部調整後貼り付け。
6 須恵器 甕 口縁部 ～唇部1/8		4.6	—	—	茶褐色	長石、石英	口辺部縦線まで。 胴部～底面を平行削き目立。
7 土師器 甕 口縁部 ～唇部1/5		—	—	—	茶褐色	長石、霏母 石英多量	口辺部内外縦線まで。内外面を調整。 内面に炭化物が付着。



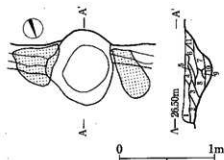
26CD土層説明

- 1 埋め土 埋め土層内層、灰化土少量含む。
- 2 埋め土 ローム状、埋め土層外層、割合約ロームブロック含む。
- 3 埋め土 ローム状、埋め土層外層に含む。
- 4 埋め土 ローム状、埋め土層外層に含む。
- 5 埋め土 ローム状、埋め土層外層に含む。
- 6 埋め土 ローム状、埋め土層外層に含む。
- 7 埋め土 ローム状、埋め土層外層に含む。
- 8 埋め土 ローム状、埋め土層外層に含む。
- 9 埋め土 ローム状、埋め土層外層に含む。
- 10 埋め土 ローム状、埋め土層外層に含む。
- 11 埋め土 ローム状、埋め土層外層、30mm大ロームブロック含む。
- 12 埋め土 埋め土層外層、埋め土層外層に含む。
- 13 埋め土 埋め土層外層、埋め土層外層に含む。
- 14 埋め土 埋め土層外層、埋め土層外層に含む。
- 15 埋め土 埋め土層外層、埋め土層外層に含む。

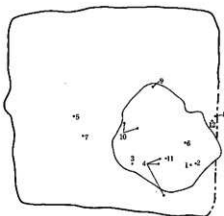


26CDカマド土層説明

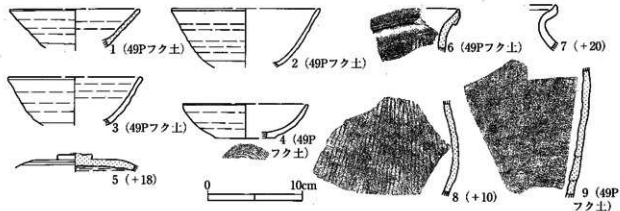
1. 埋め土 ローム状、埋め土層外層、埋め土層外層に含む。
2. 埋め土 埋め土層外層、5-8mm大ローム点含む。
3. 埋め土 埋め土層外層、埋め土層外層に含む。
4. 埋め土 ローム状、埋め土層外層、埋め土層外層に含む。
5. 埋め土 埋め土層外層、埋め土層外層に含む。
6. 埋め土 埋め土層外層、埋め土層外層に含む。
7. 埋め土 埋め土層外層、埋め土層外層に含む。
8. 埋め土 埋め土層外層、埋め土層外層に含む。
9. 埋め土 埋め土層外層、埋め土層外層に含む。
10. 埋め土 埋め土層外層、埋め土層外層に含む。
11. 埋め土 埋め土層外層、埋め土層外層に含む。



第97図 26CD遺構実測図



第98図 26CD遺物分布図



第99図 26CD出土遺物(1)





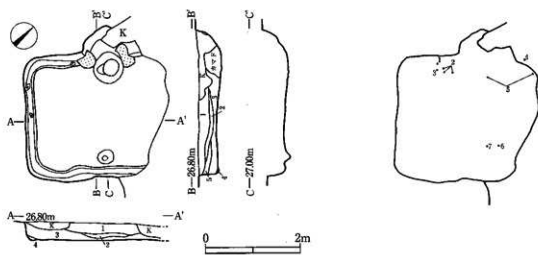
第100図 26CD出土遺物(2)

26CD遺物観察表

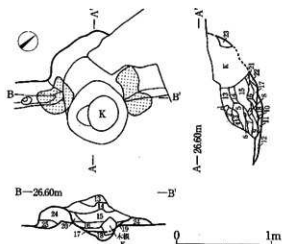
図号	部名	部位	寸法値 (cm)			色調	胎土	観察・文様等
			器高	口径	底径			
8	須臾部 要	胴上半部	—	—	—	外周暗褐色 内面赤褐色	長石、石英、 雲母	胴部～胴上半部の外周平行等き目文。内面はなで彫製。
9	須臾部 要	胴部片	—	—	—	黒褐色	長石、石英、 雲母	外周は縦位平行等き目文。内面はなで彫製。
10	下部部 要	上縁部 ～胴下半1/5	10.5	17.2	—	外周赤褐色 内面暗褐色	雲母、長石、 石英、 赤色スコリヤ	口辺部磨んで、胴外周へラ磨り状。ていねいなで彫製。 内面はなで彫製。
11	土師部 要	胴部 ～底部	3.1	6.8	—	淡緑褐色	長石 赤色スコリヤ	ロクロ成形。底部磨り難しは凶動赤切り無調整。 胴下半外周はへラ磨り。内面はなで調整。
12	土師部 要	底部 ～胴下半部全周	2	—	6.6	暗褐色	長石、石英 白色胎	胴下半外周はへラ磨り。内面はなで調整。

27D (第101～103図 図版7・18)

位置 E2区-1・2Gで検出された。主軸方位 N-48°-Wで、西に傾く。重複関係 単独。平面形 長方形を呈するか。規模 2.65m×(3.05m)。遺構確認面からの深さ0.42m。東半を掘乱により消失しているため、規模は不明となる。壁 ほぼ垂直に立ち上がる。床 ハードルームまで掘り込んで、床面とする。床面の南半がやや盛り上がる。周溝 カマド前面を除いて全周か(東壁は不明)。比較的浅めで、幅はやや広めである。北壁下及び西壁下に周溝内柱穴あり。カマド 北壁の中央部。両袖部と煙道部が残存し、焚口部は焼けている。焚口部は挿鉢状に掘り込まれ、煙道部の立ち上がりは、やや緩傾斜となる。ピット 1本検出。南壁中部の直下で、出入口に伴うものと思われる。覆土 5層に分層できた。周溝覆土の4層以外は埋め戻しである。遺物出土状態 平面分布的には、カマド両脇付近にやや目立つ。垂直分布的には、覆土中層～上層に集中する。建て替え 認められなかった。

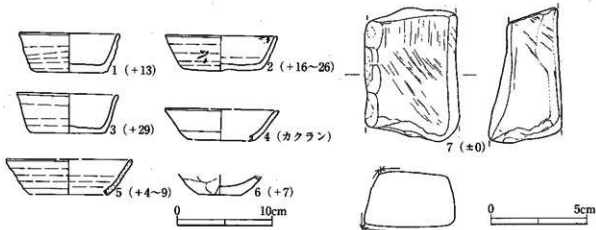


第101図 27D遺構実測図(1)



第102図 27D遺構実測図(2)

- 27D土層説明
1. 暗褐色土 ローム多量、土上若干内む。褐色土質状に含む。
  2. 黄褐色土 褐色土質。暗褐色土混合。ローム散在。
  3. 暗茶褐色土 5~20mm大ローム散在。ローム個数多量。
  4. 褐色土 ロームプロット主体。
  5. 暗茶褐色土 1と3との中間層。2~3mm大ローム多量。
- 27Dカマド土層説明
1. 灰褐色土 ローム多量。見上。見下。焼土含む。
  2. 黄褐色土 ローム状。粘土質。焼土散在含む。
  3. 暗茶褐色土 焼土斑点。粘土質。ローム含む。
  4. 暗茶褐色土 焼土多量。1~2mm大ローム散在含む。
  5. 暗茶褐色土 焼土多量。暗茶褐色土質。焼土散在含む。
  6. 暗茶褐色土 若干灰質多量。ローム含む。
  7. 暗茶褐色土 焼土の層。焼土散在含む。
  8. 暗茶褐色土 6層層。同層中ローム多量。
  9. 暗茶褐色土 1mm大ローム。焼土若干含む。
  10. 暗茶褐色土 3mm大ローム若干。焼土。灰化物散在含む。
  11. 灰褐色土 暗茶褐色土混合層。1~3mm大ローム中多量。
  12. 暗茶褐色土 灰質層。1~3mm大ローム。灰化物含む。
  13. 暗茶褐色土 1~2mm大ローム含む。
  14. 暗茶褐色土 1層層。ローム散在減少。
  15. 暗茶褐色土 1層層。ローム散在さらに減少。
  16. 赤色土 焼土多量。暗茶褐色土混入。
  17. 赤色土 焼土。焼上プロット含む。
  18. 暗茶褐色土 10~20mm大ロームプロット。暗茶褐色土灰質層。
  19. 暗茶褐色土 焼土。焼土。灰化物散在含む。
  20. 暗茶褐色土 暗茶褐色土に粘土質混入。
  21. 暗茶褐色土 10層層。焼土。焼土減少。
  22. 暗茶褐色土 赤化(シドロム)。灰質層。
  23. 暗茶褐色土 ローム土質。粘土質に粘りつく。
  24. 暗茶褐色土 ローム。暗茶褐色土混入。
  25. 暗茶褐色土 ロームプロット混入。



第103図 27D出土遺物

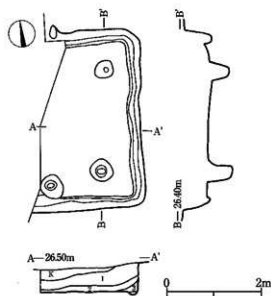
27D遺物観察表

器種	部位	計測値 (cm)			色調	胎土	調査・火痕等
		高さ	口径	底径			
1 土師器 杯	先形	4.1	10.6	7	淡褐色	赤色スロウ	球形ロクロ土師器。 底部下地。底部全面子持ちヘリ有り。
2 土師器 杯	先形	3.7	11.9	8.3	淡褐色	赤石 小石、草茎	ロクロ土師器。底部切筋。ほこ明。ほぼ全面にヘリ有り。調査。 底部の部に確認不明箇所あり。引明として使用。
3 土師器 杯	先形	4.1	10.5	7.6	淡褐色	赤石・雲母 石灰	ロクロ土師器。 底部下地と底部全面子持ちヘリ有り調査。
4 土師器 杯	口辺部 ~体部1/5	3.3	12.9	7	黄褐色	灰石 小石散	ロクロ土師器。 内外面まで調査。
5 赤土器 杯	口辺部~体部1/5	3.7	13	8.4	灰白色	赤土	ロクロ土師器。 底部下地と底部全面子持ちヘリ有り。
6 土師器 壺	底部全面	2.1	-	4.5	外淡褐色 内淡褐色	赤色スロウ 雲母・石灰 灰石	胴下全面外周ヘリ有り。 内面ヘリまで調査。
7 磁石		全長 7.1cm	幅 4.8cm	厚さ 2.9cm	重さ 185.4g		三面に使用肌。面・面に磨打痕。

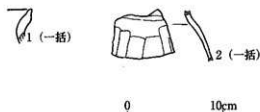
28D (第104~105図 図版7)

位置 B3区-4, B4区-2Gで検出された。主軸方位 N-6°-E。重複関係 単独。平面形 方形を呈する。規模 3.80m×(1.90m), 遺構確認面からの深さ0.50m。壁 ほぼ垂直に立ち上がる。床 ハードルームまで掘り込んで、床面とする。やや凹凸を有し, P1の周囲がくぼむ。周溝 調査範囲内では廻らせている。カマド 北壁の中央部か。右袖部が残存する。ピット 3本検出。P1・P2

が主柱穴で、P 3は出入口に伴うものと思われる。覆土 3層に分層できた。最上部に攪乱の土層が載るが、その下は埋め戻し土である。遺物出土状態 覆土中から、土師器片が少量出土した。遺物分布図を作成する程のものはなかった。建て替え 認められなかった。



第104図 28D遺構実測図



第105図 28D出土遺物

28D土層説明  
 1. 赤系褐色土 5~10mm大ローム片散見。焼土若干含む。  
 2. 暗赤褐色土 1層厚。5~10mm大ローム少ない。  
 3. 褐色土 ローム主成分。暗赤褐色土混入。

### 28D遺物観察表

品目	部位	野燻層 (cm)		色調	粘土	調査・文様等
		部高	口径			
1 土師器 壺	北壁部	3.8	—	淡赤褐色	小石殻 白色粒	内外磨損など。
2 土師器 壺	扉部	5.3	—	淡赤褐色	赤色スリヤ 白色粒	内面磨損など、底部磨損へず磨り。 内面磨損など。

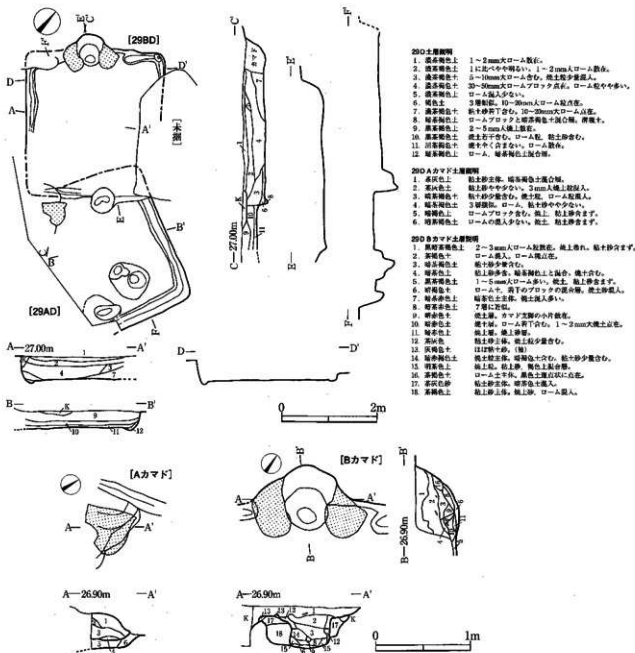
### 29D (第106~110図 図版8・18)

[29AD]

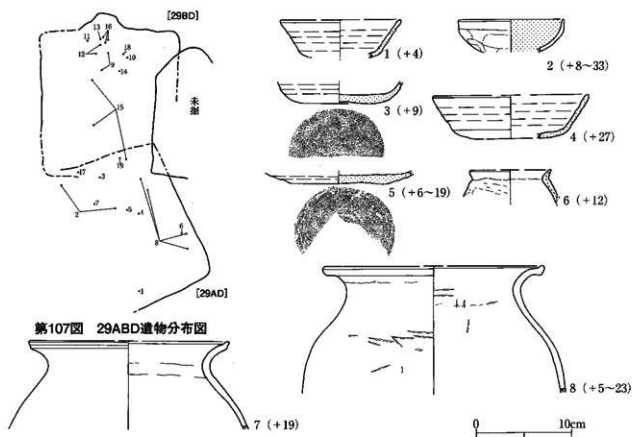
位置 C5区-2Gで検出。主軸方位 N-67°-W。重複関係 BDに切られる。平面形 方形。規模 (3.28m) × (2.75m)、深さ0.34m。壁 ほぼ垂直。床 ハードルームまで掘り込む。周溝 廻らせている。カマド 北壁の中央部。右袖部が残存。ピット 4本検出。P1~P3が主柱穴。P1に建て替への形跡。P3はP2の建て替え。P4は出入口。覆土 3層に分層できた。埋め戻しか。遺物出土状態 垂直分布的には、上層に集中し、2と8は接合距離が長い。建て替え 建て替えが認められた。  
 [29BD]

位置 C5区-1Gで検出。主軸方位 N-43°-W。重複関係 ADを切る。平面形 方形。規模 2.94m × 3.20m。遺構確認面からの深さ0.46m。壁 ほぼ垂直に立ち上がる。床 ハードルームまで掘

り込んで、床面とする。周溝 カマド前面を除いて全周か。カマド 北壁の中央部。両袖部と煙道部が  
残存し、焚口部は焼けている。ピット 検出されず。覆土 9層に分層できた。濃茶褐色土系が主体。  
遺物出土状態 平面分布的には、カマド内及び前面付近に集中する。垂直分布的には、カマド内、床面  
及び覆土上層の三者がある。接合関係は、15のみ広範囲で接合する。建て替え 認められず。



第106図 29ABD遺構実測図

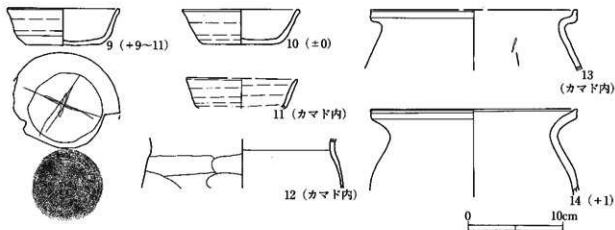


第107図 29ABD遺物分布図

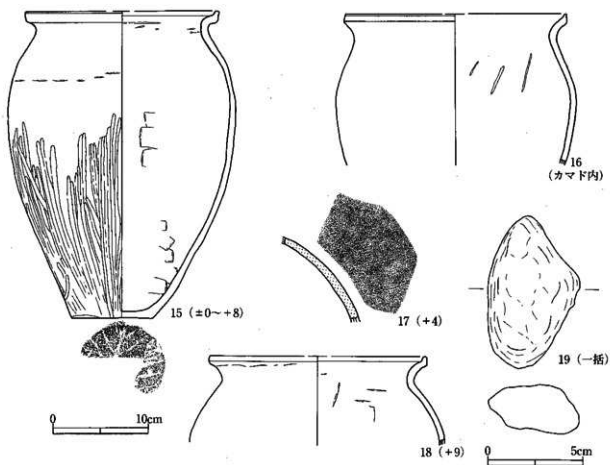
第108図 29AD出土遺物

29D 遺物観察表

種類	部位	寸法 (cm)		色調	胎土	調査・文様等
		高さ	口径			
1 須恵器 鉢	口辺部 ～底部1/4	4	12.6	～ 赤灰色	雲母 白色胎	ロタロ底形。 内外面全で。
2 須恵器 鉢	口辺部	3.4	11.2	～ 赤褐色	白色胎	口辺部横全で。 内面赤色地厚少。外面へり削り。
3 須恵器 鉢	底部	2.3	—	～ 灰白色	雲母 小石胎	ロタロ底形。 内外面全で。
4 須恵器 鉢	口辺部 ～底部1/5	4.6	16.2	7.4 赤灰色	雲母 小石胎	ロタロ底形。 内外面全で。縁部下葉。底部縁部手押しへり削り。
6 須恵器 鉢	全体	1.4	—	10 灰白色	雲母 小石胎	ロタロ底形。 内外面全で。底部縁部へり削り顕然。
6 土師器 蓋	口辺部 ～底部1/5	3.6	8.2	～ 赤褐色	赤色スリヤ 白色胎	口辺部内面横全で。胴部へり削り。手すくね風。 外面が薄く削がれる。



第109図 29BD出土遺物 (1)



第110図 29BD出土遺物(2)

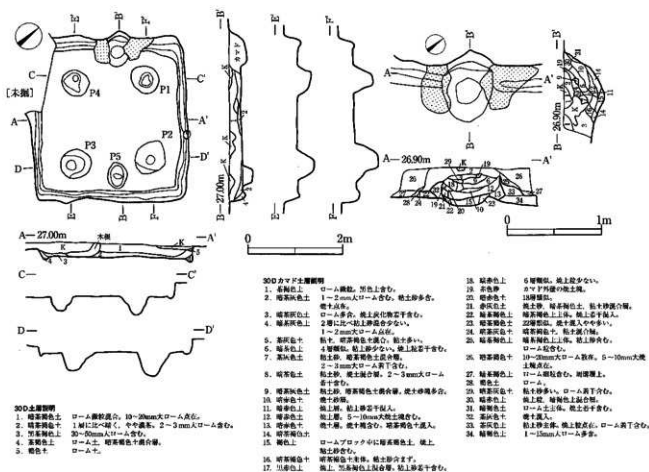
29D遺物観察表(2)

番号	部位	計測値 (mm)			色調	胎土	調査・文様等
		高さ	口径	底径			
7	土師器 甕	92	208	—	淡褐色 黒色 白色粒	器底内面に輪文。 口辺器内外面なし。	
8	土師器 甕	133	226	—	外淡黄褐色 内淡茶褐色	器底・小石粒 内面なし。	
9	土師器 甕	39	115	7.6	褐色 赤色スクリヤ 白色粒 小石粒	口クロ痕跡。内外面なし。 底部切離しは回転ヘラ切り後で、底部下縁ヘラ削り調整。	
10	土師器 甕	37	121	7.3	淡黄褐色 赤色スクリヤ 白色粒	口クロ痕跡。 内外面なし。底部切離しは、回転ヘラ切り。面なし。	
11	土師器 甕	32	114	—	淡赤褐色 茶色、砂粒	口クロ痕跡。 内外面なし。底部下縁ヘラ削り。	
12	土師器 甕	32	109	9	赤褐色 砂粒	器底面なし。外面ヘラ削り。内面なし。	
13	土師器 甕	64	216	—	淡黄色 茶色 砂粒	器底に器方面のヘラ削りによる白色がある。底面調整。 内外面なし。	
14	土師器 甕	92	203	—	淡黄褐色	内外面なし。常態調整。 口辺器内外面なし。	
15	土師器 甕	323	204	8.5	淡赤褐色 茶色 黒色粒	外周切離しヘラで。器底中央へ下通ヘラ削り。器底本調整。 内面ヘラなし。器底中央部へ下通ヘラ削り。側部下縁へ下通ヘラなし。	
16	土師器 甕	16	23	—	淡褐色 赤色スクリヤ 茶色、砂粒	常態調整。口辺器なし。 内面ヘラ削り後なし。	
17	土師器 甕	175	—	—	外淡古灰色 内青灰色	外面は滑り目文。内面にて具成 内面にて調整。自然物が少からず。	
18	土師器 甕	94	228	—	外淡赤褐色 内淡赤褐色	小石粒 白色粒	口縁直下に輪文が調整。 内外面ともなし調整。
19	磁石	全長 8.1	幅 4.7	厚さ 2.6	—	砂粒	

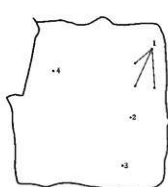
備考 本跡は住居跡2軒が重複したものである。時期的には、ADが八千代NH1期（7世紀末葉～8世紀前半）で、BDは八千代NH4期（8世紀第IV四半期）と、近接した時間内における重複例となる。住まいの流れとしては、AD（旧）→BD（新）となり、BDの構築はADが埋め戻され、更地に戻ってから後のことである。

### 30D（第111～113図 図版8）

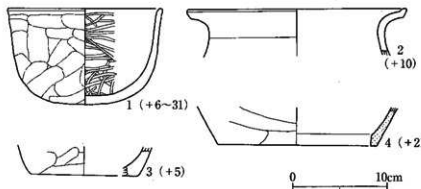
位置 C5区-1・3・4Gで検出された。主軸方位 N-50°-Wで、西に傾く。重複関係 単独。平面形 方形を呈する。規模 3.50m×3.26m。遺構確認面からの深さ0.29m。壁 ほぼ垂直に立ち上がる。床 ハードルームまで掘り込んで、床面とする。周溝 カマド前面を除いて全周か。北東コーナーを除いて、幅はほぼ均一で、きっちりと掘られている。東壁下に周溝内柱穴を1本穿つ。カマド 北壁の中央部。両袖部と煙道部が残存し、焚口部は焼けている。両袖部とも二段ほど構築土を積み上げて作られている。焚口部は皿状を呈し、煙道部は急斜面となる。ピット 5本検出。P1～P4が主柱穴である。P5は出入口に伴うものと思われる。P1及びP4に建て替えの形跡ありか。覆土 5層に分層でき、暗茶褐色土系を主体とした埋め戻し土である。遺物出土状態 平面分布的には、散漫。垂直分布的には、上層が目立つ。接合関係は、1が約1.5m離れて接合する。建て替え 可能性がある。



第111図 30D遺構実測図



第112図 30D遺物分布図



第113図 30D出土遺物

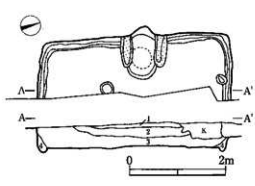
### 30D遺物観察表

品種	部位	計測値 (cm)		色調	胎土	調査・文様等
		長さ	口径			
1 土師鉢 鉢	口縁部一断面1/3	10	16	— 外縁赤褐色 内面色	赤色粒 白色粒	外縁へう張り。 内面などで、磨き。
2 土師器 蓋	口縁部1/5	49	22.8	— 淡赤褐色	黄母、赤粒	口縁部内外面などで、 断面内外面などで、常態集塊。
3 土師器 蓋	底部小片	3	—	11.4 淡褐色 内面赤褐色	白色粒 赤色粒	外縁へう張り。内面などで、 常態集塊部。
4 土師器 蓋	底部片1/5	4	—	16.6 淡赤褐色	赤粒、白色粒 赤母、赤色粒	外縁へう張り。内面などで、 断面内外面などで、A孔式。

### 31D (第114図)

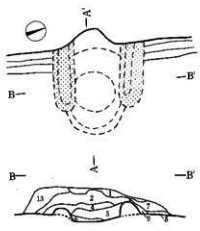
**位置** C10区-4Gで検出された。主軸方位 N-68°-Wで、西に傾く。重複関係 本跡は半分弱の調査であるが、単独と思われる。平面形 方形を呈する。規模 4.00m×(1.43m)、遺構確認面からの深さ0.46m。壁 ほぼ垂直に立ち上がる。床 ハードロームまで掘り込んで、床面とする。周溝 カマド前面を除いて全周か。幅はやや狭いが、全体的にきっちりと掘られている。カマド 北壁の中央部。両袖部と煙道部が残存し、火床部は焼けている。両袖部は、一段ほど構築土を積んで作り上げている。焚口部は皿状に掘り込まれ、煙道部は急傾斜となる。ピット 2本検出。P1が主柱穴である。P2は補助的な柱穴の類と思われる。覆土 4層に分层できた。暗褐色土系を主体とし、埋め戻し土である。2層中には炭化材が含まれることから、廃屋後に廃材類の焼却処理を行った可能性が高い。埋め戻しはこの後に行ったものである。遺物出土状態 覆土中から土器小片が少量出土したが、図化できるものはなかった。建て替え 認められなかった。備考 本跡は、廃屋後に廃材の焼却処理を行った後、埋め戻された。ただ、炭化材は平面図に図化する程ではないため、焼却した廃材は比較的少量であったと思われる。また、覆土中の遺物は、土器小片が少量出土したのみであることから、使用可能な「器(うつわ)類」は、ことごとく移転先へ持ち去った可能性を指摘しておく。





31D土層説明

1. 暗褐色土 ローム多量、炭土少量含む。
2. 暗褐色土 ローム多量、ロームブロック散在含む。焼土、炭化物少量含む。
3. 褐色土 ローム、ロームブロック多量、焼土、炭化物含む。
4. 暗褐色土 褐色土少量含む、ローム散在含む。



31Dカマド土層説明

1. 暗褐色土 灰白色粘土まばら、ロームやや多い。
2. 暗褐色土 暗褐色、灰白色粘土やや多い、焼土少ない。
3. 暗褐色土 暗褐色、灰白色粘土、ロームブロックまばら。焼土、炭化物少ない。
4. 灰白色粘土 暗褐色土、炭土少量含む。
5. 暗褐色土 暗褐色、灰白色粘土層まばらに含む。焼土やや多い。
6. 焼上ブロック 焼上ブロック層。ロームブロック散在含む。

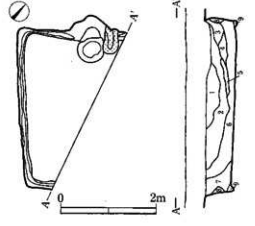
7. 暗褐色土

8. 暗褐色土 ローム、ロームブロック多量、焼土、炭化物散在含む。
9. 暗褐色土 灰白色粘土多量含む、焼土、炭化物少ない。
10. 暗褐色土 焼土、暗褐色土多量。
11. 暗褐色土 灰白色粘土層多量、焼土、炭化物散在含む。暗褐色土まばらに含む。灰白色粘土、焼土少ない。
12. 暗褐色土
13. 暗褐色土 ローム、ロームブロック多量。

第114図 31D遺構実測図

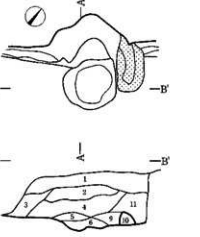
32D (第115図)

位置 B6区-4Gで検出された。主軸方位 N-40°-Wで、西に傾く。重複関係 単独。平面形方形を呈する。規模 3.33m×(2.30m)。遺構確認面からの深さ0.60m。壁 垂直気味に立ち上がる。床 ハードルームまで掘り込んで、床面とする。周溝 カマド前面を除いて全周か。カマド 北壁の中央部。右袖部と煙道部が残存し、焚口部は焼けている。袖部は構築土を一段積んで作られている。煙道部は急傾斜となる。ピット 調査部分からは検出されず。覆土 9層に分層できた。暗褐色土系を主体とし、埋め戻し土である。遺物出土状態 覆土中から土器小片が少量出土したが、図化できるものはなかった。建て替え 認められなかった。



32D土層説明

1. 暗褐色土 暗褐色、黒褐色土層含む。焼土、炭化物少量含む。
2. 暗褐色土 ローム、ロームブロック多量、焼土、炭化物散在含む。
3. 暗褐色土 ローム多量、焼土少ない。
4. 暗褐色土 ローム多量、ロームブロック少量含む。粘土層入。
5. 暗褐色土 暗褐色土層点状に散入。ロームブロック焼土散在含む。
6. 暗褐色土 ローム、ロームブロック多量、焼土少ない。
7. 暗褐色土 暗褐色土少ない。ローム、ロームブロック散在含む。
8. 暗褐色土 ローム、ロームブロック多量。
9. 暗褐色土 焼土上土層。ローム、ロームブロック散在含む。



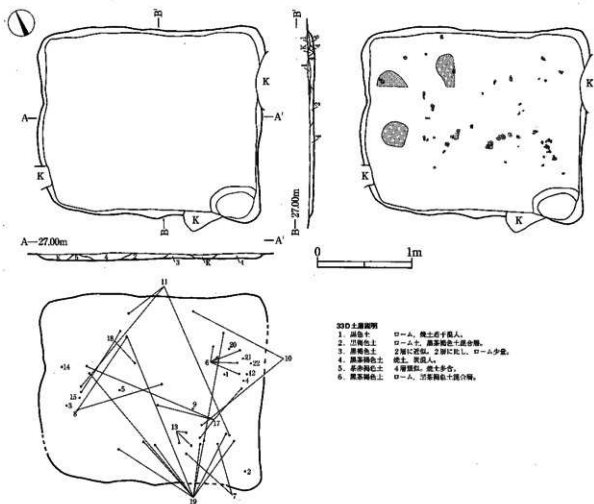
32Dカマド土層説明

1. 暗褐色土 灰白色粘土を裏点状に含む。ローム、ロームブロック多量。焼土、炭化物少量含む。
2. 灰白色粘土 暗褐色土、ロームブロック散入。
3. 暗褐色土 暗褐色、灰白色粘土。焼土、炭化物少量含む。
4. 暗褐色土 灰白色粘土多量、ローム、ロームブロック散入。
5. 暗褐色土 暗褐色土多量。灰白色粘土多量。焼土、焼上ブロック含む。

6. 焼土

7. 暗褐色土 灰白色粘土多量、焼土少ない。
8. 暗褐色土 暗褐色土層点状に含む。灰白色、ローム少量含む。
9. 暗褐色土 灰白色粘土多量、暗褐色土、ローム散在含む。
10. 灰白色粘土 ロームブロック散在含む。
11. 灰白色土 ローム、ロームブロック多量、焼土散在含む。

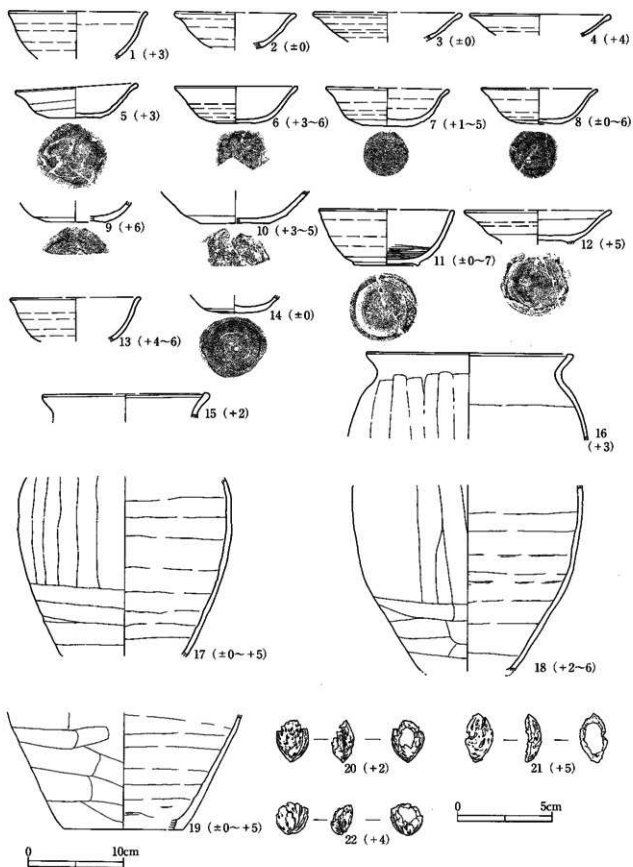
第115図 32D遺構実測図



第116図 33D遺構実測図

### 33D (第116・117図 図版18)

位置 D5区-2Gで検出された。主軸方位 N-25°-Eで、東に傾く。重複関係 単独。平面形 やや不整な長方形を呈する。規模 4.02m×4.70m。遺構確認面からの深さ0.15m。壁 比較的ゆるやかに立ち上がる。床 ソフトロームまで掘り込んで、床面としているため、浅い。周溝 廻らせていない。カマド 明瞭なものとは検出されていないが、南東コーナーの浅い皿状のピットが、焚口部か。ピット 調査部分からは検出されず。覆土 6層に分層できた。黒褐色土系主体とし、埋め戻し土と思われる。焼土・炭化材が分布するため、廃屋後に廃材などの焼却行為を行った可能性が高い。遺物出土状態 平面分布的には、床面東・南・西の3ブロックが認められる。垂直分布的には、床面レベルから覆土下層覆土中に集中する。接合関係を見ると、少なくとも8・10・11・19は廃棄、しかもばらまかれた状態を示唆している。このため、離れた破片同士が接合する。その他では、覆土中から、モモ類の種子が3点出土している。建て替え 認められなかった。備考 本跡は、廃屋後に廃材の焼却処理を行い、しかる後に多量の土器類とモモの種子を廃棄したようである。この後埋め戻しを行って、更地に戻したのであろう。炭化材の出土状態を見ると、細かく割れて散乱気味であるので、ある程度下火になる頃に土砂をかけて消したものと思われる。そして、土器類に二次焼成や、ケロイド状の焼けただれが見られないことから、消火後の廃棄行為と捉えられよう。モモは刀子などで果肉を抉り取るように食べた痕跡がある。



第117图 33D出土遺物

## 33D 遺物観察表

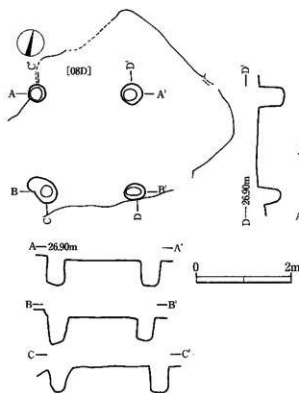
群種	部位	計測値 (cm)			色調	粘土	調査・文様等
		長さ	口径	底径			
1 土師器 魂	口辺部 ～体部1/5	4.9	14.2	—	黄褐色	砂粒	コクロ成形。
2 土師器 杯	口辺部 ～底部1/5	3.7	12.6	—	外淡褐色 ～淡灰褐色 内淡褐色	砂粒 炭粒	コクロ成形。 底部下縁凹陥ヘリ有り。
3 土師器 杯	口辺部 ～体部1/5	2.8	15.6	—	淡褐色	石灰 白色粒	コクロ成形。 口縁外直す。内外直す。
4 土師器 杯	口辺部 ～体部1/5	2.2	19.8	—	淡褐色 ～淡褐色	白色粒	コクロ成形。
5 土師器 杯	口辺部 ～底部3/4	3.6	12.7	5.6	淡褐色 ～淡褐色	麻目 白色粒	コクロ成形。切縁し小形。全面凹陥ヘリ有り調査。 口縁部に凹。体部下縁ヘリ有り調査。
6 土師器 杯	口辺部 ～底部1/3	3.9	12.6	4	外淡褐色 ～淡褐色	白色粒 小石粒	コクロ成形。底面周縁凹陥ヘリ有り直す。 口辺部まで。体部下縁ヘリ有り。
7 土師器 杯	口辺部 ～底部3/4	4	12.8	4.8	外淡褐色 ～淡褐色	白色粒	コクロ成形。 口縁部切縁し底面凹陥ヘリ有り調査。体部下縁ヘリ有り調査。
8 土師器 杯	口辺部 ～底部1/3	3.7	12	4.1	外淡褐色 内淡褐色	白色粒 小石粒	コクロ成形。口辺部内外直す。体部下縁ヘリ有り。 口縁部切縁し底面凹陥ヘリ有り直す。
9 土師器 高台付物	体部 ～底部1/5	2.2	—	6	淡褐色	白色粒 小石粒	コクロ成形。 底面。体部下縁ヘリ有り直す。内直す。
10 土師器 杯	口辺部 ～体部1/5	3.4	7.4	—	淡褐色	白色粒	コクロ成形。口縁部切縁し底面凹陥ヘリ有り直す。 体部下縁ヘリ有り直す。
11 土師器 高台付物	口辺部 ～底面1/4	5.9	14	6.4	淡褐色 ～淡褐色	白色粒 炭粒	コクロ成形。底面凹陥ヘリ有り。付け高台内ヘリ有り。 体部下縁ヘリ有り。外直す直す。
12 土師器 高台付物	口辺部 ～底面1/2	3.5	15.4	5.5	外淡褐色 内淡褐色 ～淡褐色	赤色スコリア 白色粒	コクロ成形。底面切縁し底面凹陥ヘリ有り直す。 体部下縁ヘリ有り。
13 土師器 碗	口辺部 ～体部	4.6	13.2	—	淡褐色	黄緑 白色粒	コクロ成形。
14 土師器 杯	底面	1.9	—	5	淡褐色	小石粒 白色粒	コクロ成形。底面切縁し凹陥ヘリ有り直す。 体部下縁ヘリ有り直す。
15 土師器 杯	口辺部1/4	2.5	17.6	—	淡褐色	赤色粒。白 色粒 石灰。小石粒	内外直す。 口縁内側に直す。
16 土師器 杯	口辺部1/3	8.9	21.8	—	外淡褐色 内淡褐色	小石粒 白色粒	口縁部直す。口縁内側に直す。 底面外直す直すのヘリ有り。
17 土師器 杯	胴部	18.8	22	—	淡褐色 ～淡褐色	白色粒 小石粒	胴部外直す直す。胴下平は直すのヘリ有り。底面あり 直す直すあり。内直す直す。
18 土師器 杯	口辺部 ～体部	19.5	24.2	—	淡褐色	砂粒	胴部外直す直す。胴下平は直すのヘリ有り。 内直す直す。
19 土師器 碗	体部 ～底面1/3	12.3	—	12.4	外淡褐色 内淡褐色 淡褐色	白色粒 小石粒	コクロ成形。 底面。胴部外直す直すのヘリ有り。 内直す直す。
20 灰化種子		全長 7.2	全幅 1.7	厚さ 1.1	褐色	直さ 1.1g	モモの種子か。 葉肉を削り取った後取り残した部分がある。
21 灰化種子		全長 2.6	全幅 1.5	厚さ 0.8	褐色	直さ 1g	モモの種子か。 葉肉を削り取った後取り残した部分がある。
22 灰化種子		全長 1.7	全幅 1.7	厚さ 1	褐色	直さ 1g	モモの種子か。 葉肉を削り取った後取り残した部分がある。

## 第4節 掘立柱建物跡 (H)・方形周溝墓 (HS)・ピット (P)

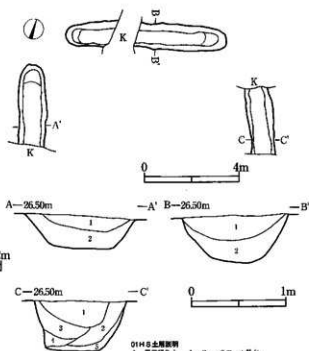
掘立柱建物跡はわずかに1棟のみであり、調査区の南半に位置する。方形周溝墓もわずかに1基のみであり、調査区の北東に位置する。ピットは、調査区北半のものは単独で、調査区中央から南半のものは、何群かに群在化し、F7・F8・F9区にその傾向が顕著である。

## O1H (第118図 図版8)

位置 E8区。重複関係 O8Dを切る。主軸 N-15°-E。構造 桁行が1間×梁間1間である。規模 桁行2.53m、梁間2.43mを測る。柱間距離 桁行2.05～2.07m、梁間1.95～1.85mを測る。桁行・梁間とも、比較的等間隔である。掘り方 1本を除き、他は略円形を呈するもので、径0.40～0.50mにおさまる。柱穴深度は、概ね0.60mを中心とし、南西のもののみ0.72mと、やや深くなっている。出土遺物 出土しなかった。備考 本跡は掘立柱建物ではなく、高床式倉庫などの可能性がある。



第118図 O1H遺構実測図



第119図 O1HS遺構実測図

- 01HS土層説明
1. 黄褐色土 1~2mmのローム混在。
  2. 暗褐色土 ローム土層(若干)混在。
  3. 暗褐色土 2層混在。2~5mm大ローム散在。
  4. 暗褐色土 2と3の中間層。2~5mm大ローム減少。
  5. 暗褐色土 10mm大ローム混在。

### O1HS (第119図 図版8)

位置 H3, I3区にまたがる。重複関係 単独。主軸 N-18°-E。形態 四隅に陸橋部を有するもの(南溝は未掘)。規模 10.80m×(5.40m)。周溝 北溝は6.68m×0.88m, 深さ0.45m。東溝は(2.80m)×1.04m, 深さ0.53m。西溝は(3.40m)×1.20m, 深さ0.33m。各溝ともほぼ直線状に掘られ、各々の横断面形は概ね逆台形。封土 なし。埋葬施設 検出されなかった。遺物 なし。

### O5P (第120図)

位置 F8区。重複関係 単独。長軸 N-89°-E。平面形 やや不整な「逆L字」形。壁・底面壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面は凹凸に富んでいる。規模 2.59m×0.75×1.81m, 検出面からの深さは0.54mを測る。遺物 なし。

### O6P (第120図 図版9)

位置 E9区。重複関係 単独。長軸 方位計測なし。平面形 上部, 底部とも不整形。壁・底面西壁はややゆるやかで, 他は垂直気味。規模 0.81m×0.78m, 検出面からの深さは0.38mを測る。覆土 3層に分層できた。遺物 なし。

### O7P (第120図)

位置 F9区。重複関係 単独。長軸 N-60°-E。平面形 上部楕円形, 底部円形。壁・底面壁は垂直気味に立ち上がるが, 西壁のみ緩傾斜部分を有する。底面は丸みを帯びる。規模 1.19m×0.86m, 検出面からの深さ0.53m。覆土 3層に分層でき, 埋め戻し土。遺物 なし。

### O8P (第120図)

位置 F9区。重複関係 単独。長軸 N-40°-W。平面形 上部はやや不整な瓢箪形。壁・底面西壁を除き, 他は垂直気味。西側の底面はテラス状となり, 東側はピット状に一段下がる。規模 (1.49

m×0.83m×0.64m, 検出面からの深さは0.67mを測る。備考 本跡は2基の重複か。

#### 09・10・13P (第120図)

位置 F9区。重複関係 09Pは10Pを切り, 10Pと13Pは一部重複。長軸 13PはN6° - E。平面形 09・10Pは上部, 底部とも略円形で, 13Pはやや不整な楕円形。壁・底面 09・10Pの壁は底面に向かって先ずはまり状となる。13Pの壁は垂直気味で, 底面はやや凹凸に富む。規模 09Pは1.10m×0.58m, 検出面からの深さ0.45m。10Pは0.62m×0.48m, 検出面からの深さ0.68m。13Pは1.10m×0.58m, 検出面からの深さ0.54mを測る。覆土 09Pは5層, 10Pが4層, 13Pは4層に分層できた。遺物 なし。備考 楕円形土坑(13P)と柱穴状ピット2基(09・10P)の重複。

#### 11P (第120図)

位置 F8区。重複関係 単独。長軸 方位計測はなし。平面形 不整な円形。壁・底面 壁は垂直気味に立ち上がる。底面は丸みを帯びる。規模 0.68m×0.56m, 検出面からの深さは0.38mを測る。覆土 2層に分層でき, 暗茶褐色土系が主体で, 1層はしまっている。2層はローム土充填で, とくに埋め戻しと思われる。遺物 図化したものは, 須恵器寛の口縁部片である。

#### 12P (第120図)

位置 F8区。重複関係 単独。長軸 方位計測はなし。平面形 略円形。壁・底面 壁は南壁では垂直気味に立ち上がり, その他はゆるやかに立ち上がる。底面はやや丸みを帯び, 比較的凹凸が少ない。規模 1.11m×1.07m, 検出面からの深さは0.35mを測る。遺物 なし。

#### 14P (第120図)

位置 F8区。重複関係 単独。長軸 方位計測はなし。平面形 円形。壁・底面 壁は垂直気味に立ち上がる。底面に向かって先ずはまり状となる。規模 0.45m×0.44m, 検出面からの深さは0.35mを測る。覆土 5層に分層でき, 埋め戻し。遺物 なし。

#### 15P (第120図)

位置 F8区。重複関係 単独。長軸 方位計測はなし。平面形 円形。壁・底面 壁は垂直気味に立ち上がる。底面は丸みを帯びる。規模 0.47m×0.43m, 検出面からの深さは0.42mを測る。覆土 4層に分層でき, 暗茶褐色土系が主体で, 埋め戻し。遺物 なし。

#### 16P (第121図 図版9)

位置 F8区。重複関係 単独。長軸 方位計測はなし。平面形 円形。壁・底面 壁は垂直気味で, 底面は丸みを帯びる。規模 0.59m×0.49m, 検出面からの深さは0.40mを測る。遺物 なし。

#### 17P (第121図 図版9)

位置 F8区。重複関係 単独。長軸 N-35° - W。平面形 不整な楕円形。壁・底面 壁はゆるやかに立ち上がる。底面は皿状で, 中央がピット状(径約0.50m)にくぼむ。規模 1.91m×1.18m, 検出面からの深さは0.32mを測る。覆土 6層に分層でき, 埋め戻しか。遺物 なし。

#### 18P (第121図 図版9)

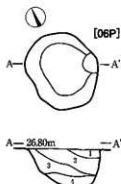
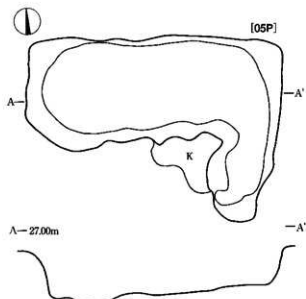
位置 F7区。重複関係 単独。長軸 方位計測はなし。平面形 円形。壁・底面 底面に向かって先ずはまり状となる。規模 0.48m×0.41m, 検出面からの深さは0.79mを測る。遺物 なし。

#### 19P (第121図)

位置 F7区。重複関係 単独。長軸 方位計測はなし。平面形 円形。壁・底面 底面に向かって先ずはまり状。規模 0.47m×0.45m, 検出面からの深さ0.77m。覆土 3層に分層できた。

#### 20P (第121図)

位置 F5区。重複関係 単独。長軸 方位計測はなし。平面形 円形。壁・底面 壁は垂直気味で,



06P土層説明

1. 基層褐色土 3mm大ローム散在。幾十片下含む。
2. 基層褐色土 3mm大、20mm大ローム多く混入。
3. 基層褐色土 1層に比し、ローム多い。
4. 褐色土 ロームブロック上存。基層褐色土混入。

07P土層説明

1. 基層褐色土 1~3mm大ローム若干含む。幾十少混入。
2. 基層褐色土 10~30mm大ローム散在。
3. 基層褐色土 ローム混入含む。

09P・10P・13P土層説明A-A'

1. 基層褐色土 ローム混入を点状に含む。
2. 褐色土 ロームと褐色褐色土の混在。
3. 基層褐色土 ロームを若干含む。
4. 基層褐色土 褐色土混在。ロームブロック混入。

09P・10P・13P土層説明B-B'

1. 基層褐色土 20mm大ローム点状。ローム散在混入。
2. 基層褐色土 5~30mm大ローム多量。
3. 基層褐色土 しまりなし。ローム散在少ない。
4. 基層褐色土 1層混在。しまりなし。
5. 褐色土 ローム若干含む。基層褐色土混入。
6. 基層褐色土 5~20mm大ローム少量含む。
7. 基層褐色土 6層に比し、ローム散在が多い。
8. 基層褐色土 10~20mm大ローム若干含む。しまっている。
9. 褐色土 11層上変換。

11P土層説明

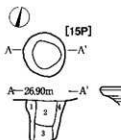
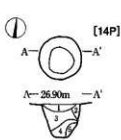
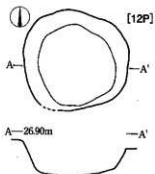
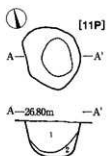
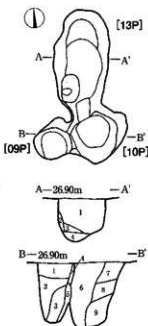
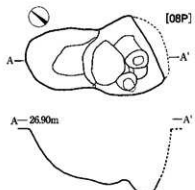
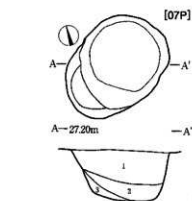
1. 基層褐色土 2~3mm大ローム、20~30mm大ローム点状。
2. 基層褐色土 10~30mm大ローム点状。ロームやや多い。

14P土層説明

1. 基層褐色土 ローム若干含む。
2. 褐色土 ローム土。
3. 基層褐色土 2~5mm大ローム多く含む。
4. 基層褐色土 10mm大ローム多く含む。
5. 基層褐色土 4層とロームの混在層。

14P土層説明

1. 基層褐色土 3~5mm大ローム多量。
2. 基層褐色土 ローム多量。
3. 褐色土 ローム若干含む。
4. 基層褐色土 1層に比し、ローム少ない。



第120図 05P~15P遺構実測図

底面は丸みを帯びる。規模 0.55m×0.53m, 検出面からの深さは0.51mを測る。遺物 なし。

#### 21・23P (第121図 図版9)

位置 F7区。重複関係 ともに単独であるが、近接している。22Pとも近接した位置関係。長軸方位計測はなし。平面形 円形。壁・底面 底面に向かって先ずはまり状となる。以上の3項目は、2基ともほぼ共通する。規模 21Pが0.42m×0.42m, 検出面からの深さ0.72mを測る。23Pは0.35m×0.31m, 検出面からの深さ0.49mを測る。遺物 なし。

#### 22P (第121図)

位置 F7区。重複関係 単独。長軸 方位計測はなし。平面形 略円形。壁・底面 壁は垂直気味に立ち上がる。底面はテラスを一段有する。規模 0.52m×0.41m, 検出面からの深さは0.53mを測る。覆土 3層に分層でき、暗茶褐色土系が主体。遺物 なし。

#### 25・26P (第121図)

位置 F7区。重複関係 単独。長軸 方位計測はなし。平面形 略円形。壁・底面 壁は垂直気味に立ち上がるが、壁の一部に緩傾斜を有する。以上5項目は、2基ともほぼ共通する。規模 25Pが0.43m×0.32m, 検出面からの深さは0.37mを測る。26Pは0.39m×0.35m, 検出面からの深さ0.47mを測る。覆土 ともに3層に分層でき、暗茶褐色土系が主体で、埋め戻し。遺物 なし。

#### 27P (第121図 図版9)

位置 F7区。重複関係 単独。長軸 N-55°-W。平面形 やや不整な楕円形。壁・底面 壁は垂直気味に立ち上がる。底面は北西に向かって深くなる。規模 0.64m×0.49m, 検出面からの深さは0.34mを測る。覆土 4層に分層でき、埋め戻し。遺物 なし。

#### 28P (第121図 図版9)

位置 F7区。重複関係 単独。長軸 N-36°-E。平面形 楕円形。壁・底面 壁は東壁を除き、垂直気味に立ち上がる。底面の西端はビット状にくぼむ。規模 1.27m×0.71m, 検出面からの深さは0.48mを測る。覆土 3層に分層でき、濃茶褐色土が主体で、埋め戻し。遺物 図示したのは、手づくね土器で、口縁端部などを欠損する。

#### 29P (第121図)

位置 F7区。重複関係 単独。長軸 方位計測はなし。平面形 円形。壁・底面 底面に向かって先ずはまり状となる。規模 0.47m×0.45m, 検出面からの深さは0.48mを測る。遺物 なし。

#### 31P (第122図 図版9)

位置 E6・E7区。重複関係 単独。長軸 方位計測はなし。平面形 円形。壁・底面 壁はゆるやかに立ち上がる。底面はやや丸み帯びる。規模 1.23m×1.21m, 検出面からの深さは0.39mを測る。覆土 4層に分層でき、黒茶褐色土系が主体。遺物 土師器坏を図示。外面に墨書文字あり。

#### 32P (第122図 図版10)

位置 E6区。重複関係 単独。長軸 方位計測はなし。平面形 円形。壁・底面 横断面形は「鍋底状」。規模 0.76m×0.68m, 検出面からの深さ0.17m。覆土 2層に分層できた。遺物 なし。

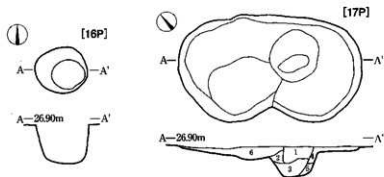
#### 33P (第122図)

位置 E6区。重複関係 単独。長軸 N-77°-E。平面形 やや不整な円形。壁・底面 壁はゆるやかに立ち上がる。底面は丸みを帯びる。規模 0.93m×0.85m, 検出面からの深さは0.16mを測る。覆土 3層に分層でき、埋め戻しか。遺物 なし。

#### 34P (第122図 図版10)

位置 E6区。重複関係 単独。長軸 方位計測はなし。平面形 略円形。壁・底面 壁は中段まで





17P土層説明

1. 赤褐色土 山砂多量、ローム散在。
2. 黒茶褐色土 3~5mm大ローム多量含む。
3. 黒茶褐色土 山砂を若干含む。
4. 緑土 緑茶褐色土の下部。
5. 緑褐色土 緑茶褐色土とロームの混合層。
6. 赤褐色土 1~3mm大ローム散在。

19P土層説明

1. 黒褐色土 1~5mm大ローム少量含む。
2. 黒褐色土 黒色土減少。
3. 緑茶褐色土 5~10mm大ローム含む。
4. 緑褐色土 ローム土層。

22P土層説明

1. 緑茶褐色土 2~5mm大ローム散在、山砂若干下混入。
2. 緑茶褐色土 3~10mm大ローム多量。
3. 緑茶褐色土 ローム混入少ない。

25P土層説明

1. 緑茶褐色土 2~5mm大ローム少量含む。
2. 緑茶褐色土 黒化沈殿。
3. 緑茶褐色土 5~10mm大ローム少量含む。

26P土層説明

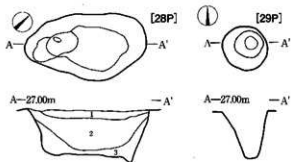
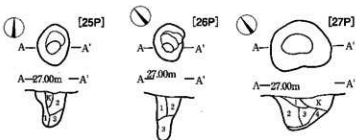
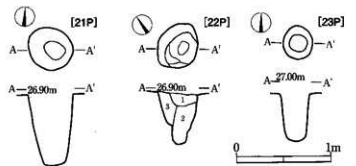
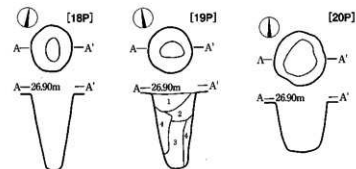
1. 緑茶褐色土 ローム散在、黒点状に含む。
2. 緑茶褐色土 砂とローム混入含む。
3. 緑茶褐色土 2mm大ローム若干含む。

27P土層説明

1. 赤茶褐色土 ローム、粘土、緑褐色土若干含む。
2. 赤茶褐色土 1層散在、ロームやや多い。
3. 赤茶褐色土 ローム若干下混入。
4. 赤茶褐色土 2層散在、ロームやや多い。

28P土層説明

1. 赤茶褐色土 1~2mm大ローム散在、黒色土黒点状混入。
2. 赤茶褐色土 3~7mm大ローム散在。
3. 褐色土 ローム土層、緑褐色土混入。



第121図 16P~29P遺構実測図

は垂直気味で、上部はゆるやかとなる。底面はやや凹凸に富み、中央がピット状にくぼむ。規模 1.18 m×1.06m, 検出面からの深さ0.37m, 最深部で0.55m。覆土 4層に分層できた。遺物 なし。

#### 36P (第122図)

位置 E6区。重複関係 単独。長軸 N-10° -W。平面形 楕円形。壁・底面 壁はゆるやかに立ち上がる。底面は丸みを帯びると思われるが、中央部分一帯が未掘のため、詳細は不明である。規模 (1.39m)×0.77m, 検出面からの深さ (0.17m)を測る。遺物 土師器坏1点を図示した。

#### 37P (第122図)

位置 E7区。重複関係 単独。長軸 N-24° -E。平面形 楕円形。壁・底面 壁は垂直気味に立ち上がる。底面は比較的平坦。規模 1.40m×0.79m, 検出面からの深さ0.08m。覆土 黒茶褐色土の単一土層。遺物 土師器坏1点を図示。萱田編年分類上の「土師器坏Ⅷ類」に該当する。

#### 38P (第122図)

位置 E8区。重複関係 単独。長軸 N-68° -W。平面形 楕円形。壁・底面 壁はゆるやかに立ち上がり、底面は凹凸少ない。規模 0.92m×0.72m, 深さ0.18m。覆土 2層に分層できた。

#### 39P (第122図)

位置 E8区。重複関係 単独。長軸 方位計測はなし。平面形 略円形。壁・底面 壁は垂直気味で、底面は一端がくぼむ。規模 0.55m×0.45m, 深さ0.09m。覆土 2層に分層できた。

#### 41P (第123図 図版10)

位置 F6区。重複関係 単独。長軸 N-72° -E。平面形 楕円形。壁・底面 横断面形は皿状を呈する。規模 1.72m×0.84m, 検出面からの深さは0.09mを測る。遺物 なし。

#### 42P (第123図 図版10・19)

位置 F6区。重複関係 単独。長軸 N-12° -E。平面形 隅丸長方形。壁・底面 壁は垂直に立ち上がる。底面はやや凹凸あり。規模 2.25m×1.07m, 検出面からの深さ0.71m。覆土 1層は自然堆積で、以下は埋め戻し。遺物 高台付塊を1点図示。備考 土壌墓。

#### 45P (123図 図版10)

位置 E8区。重複関係 単独。長軸 N-80° -W。平面形 不整楕円形。壁・底面 東壁は垂直気味、西壁は一部テラス状。底面は凹凸少ない。規模 1.67m×0.77m, 深さ0.23m。遺物 なし。

#### 46P (第123図 図版10)

位置 E5区。重複関係 単独。長軸 方位計測はなし。平面形 円形。壁・底面 壁はゆるやかに立ち上がる。底面は比較的平坦。規模 0.41m×0.41m, 検出面からの深さ0.13m。遺物 なし。

#### 48P (第123図 図版10)

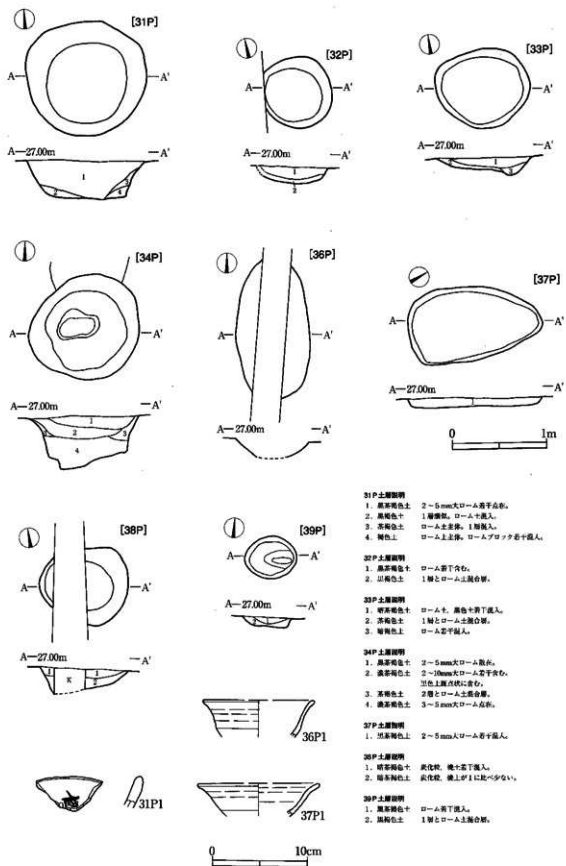
位置 F5区。重複関係 単独。長軸 N-67° -E。平面形 楕円形。壁・底面 壁は垂直気味に立ち上がる。底面はやや凹凸を有する。規模 0.91m×0.78m, 検出面からの深さは0.49mを測る。覆土 5層に分層でき、暗茶褐色土系が主体で、埋め戻し。遺物 なし。

#### 49P (第123図)

位置 C2区。重複関係 26CDを切る。長軸 N-70° -E。平面形 不整な隅丸長方形。壁・底面 壁は垂直気味で、底面は比較的平坦である。規模 2.07m×1.42m, 深さ0.20m。遺物 土師器7点。

#### 53P (第124図)

位置 E2区。重複関係 18Dを切る。長軸 N-36° -W。平面形 隅丸方形。壁・底面 壁は垂直に立ち上がる。底面は概ね平坦。規模 1.01m×0.80m, 検出面からの深さは0.53mを測る。覆土 3層に分層でき、茶褐色土系が主体で、埋め戻し。遺物 なし。



31P土器説明

- 1. 黒茶褐色土 2-5mm大ローム若干混入。
- 2. 黒褐色土 1層薄切。ローム下混入。
- 3. 赤褐色土 ローム土混層。1層混入。
- 4. 褐色土 ローム上土層。ロームブロック若干混入。

32P土器説明

- 1. 黒茶褐色土 ローム若干混入。
- 2. 黒褐色土 1層とローム土混層。

33P土器説明

- 1. 赤茶褐色土 ローム土。黒色土若干混入。
- 2. 赤褐色土 1層とローム土混層。
- 3. 褐色土 ローム若干混入。

34P土器説明

- 1. 黒茶褐色土 2-5mm大ローム散在。
- 2. 赤茶褐色土 2-10mm大ローム若干混入。
- 3. 赤褐色土 2層とローム土混層。
- 4. 赤茶褐色土 3-5mm大ローム混在。

37P土器説明

- 1. 赤茶褐色土 2-5mm大ローム若干混入。

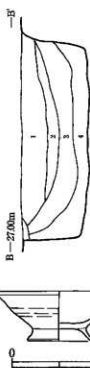
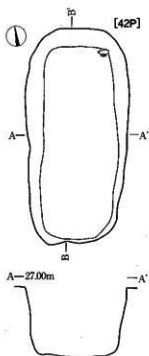
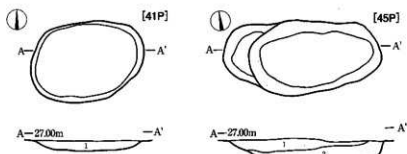
38P土器説明

- 1. 赤茶褐色土 灰化状。焼土若干混入。
- 2. 赤茶褐色土 灰化状。焼土若干に比べ少ない。

39P土器説明

- 1. 黒茶褐色土 ローム若干混入。
- 2. 黒褐色土 1層とローム土混層。

第122図 31P~39P遺構実測図



41P土層説明

1. 黒系褐色土 黒色上層、緑系褐色土を含む。

42P土層説明

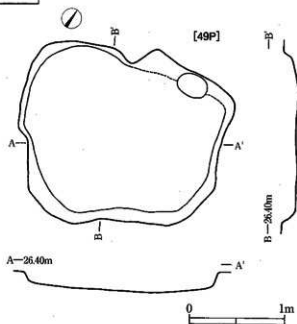
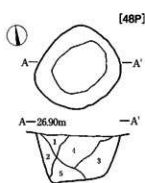
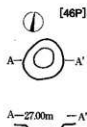
1. 黒色土 1~2mm大ローム散在。
2. 黒色土 5~10mm大ローム散在。
3. 黒系褐色土 黒色上層ローム、10~30mm大ローム多量。
4. 緑系褐色土 10~30mm大ローム少量含む。

43P土層説明

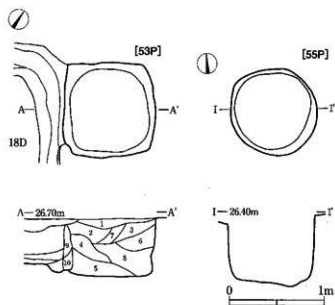
1. 黒系褐色土 ローム若干含む。
2. 黒系褐色土 ローム土主体。

48P土層説明

1. 黒系褐色土 ローム、緑系褐色土の混合層。
2. 緑系褐色土 ローム主体、黒系褐色土混入。
3. 緑系褐色土 2層相成。ローム少量、緑系褐色土主体。
4. 緑系褐色土 2~10mm大ローム散在。
5. 緑系褐色土 4層相成。5~15mm大ローム上層若干含む。



第123図 41P~49P遺構実測図



第124図 53P・55P遺構実測図

- 53P土層説明
1. 赤褐色土 5～10mm大ローム混入部上絶少混入。
  2. 赤褐色土 1以下、ローム多い。ローム部最上層。
  3. 赤褐色土 2層加積。1以下ロームやや少ない。
  4. 赤褐色土 30～50mm大ローム散在。
  5. 赤褐色土 30～50mm大ローム散在。しまりやや強い。
  6. 赤褐色土 3以下、ローム少なくなる。
  7. 暗褐色土 ローム散在。
  8. 暗褐色土 ローム混入部少ない。
  9. 褐色土 ロームブロック完備。
  10. 褐色土 ローム混入部土化層。

55P (第124図)

位置 G3区。重複関係 13BDを切る。長軸 方位計測はなし。平面形 円形。壁・底面 壁は垂直気味で、底面はやや凹凸に富む。規模 0.96m×0.90m。最深部で0.71m。遺物 なし。

ピット遺物観察表 (1)

層位	種類	部位	測定値 (cm)			色 調	附 土	観察・文様等
			長さ	口径	底径			
11P	1	11P遺構小片	2.4	17.5	—	外縁赤褐色 内縁赤褐色	小石散	ロクロ底形。
25P	1	11P遺構 手平くね	2.4	8.4	6.4	外縁赤褐色 内縁赤褐色	白色粘	合で、輪痕み成形。
31P	1	31P遺構小片	1.5	—	—	暗褐色	白色粘	ロクロ底形。麻骨あり。
30P	1	30P土層部	3.9	11.5	—	外縁赤褐色 内縁赤褐色	白色粘	ロクロ底形。口縁部外反。
37P	1	37P土層部	3.4	12.5	—	赤褐色	褐色粘 赤色スコリア	ロクロ底形。口縁部外反。
42P	1	42P土層部	5.2	13.2	6.7	赤褐色	白色粘。赤 色スコリア 小石散	ロクロ底形。両台縁取り付け。距離不明。 ロクロ片明瞭。

第5節 中世以降

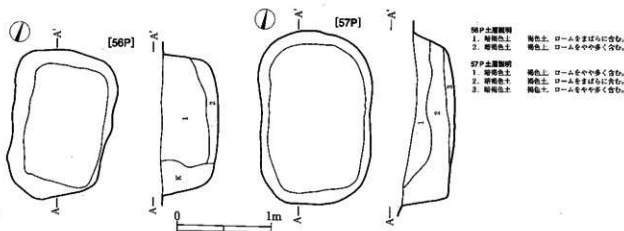
中世以降の遺構群は調査区西部に展開する。それらは、2条の溝に沿って土坑が縦列し、北群 (56P・57P) と南群 (58P・59P・60P) の二群に分かれ、各々の群の中では規模なども規格化している。

56P (第125図)

位置 A5区。重複関係 単独。長軸 N-10° -W。平面形 隅丸長方形。壁・底面 壁は垂直気味に立ち上がり、底面は丸みを帯びる。規模 1.55m×1.08m。検出面からの深さは0.58mを測る。覆土 2層に分層でき、暗褐色土系の土で埋め戻し。遺物 なし。備考 土壌墓と思われる。

57P (第125図)

位置 A6・B6区。重複関係 単独。長軸 N-12° -W。平面形 隅丸長方形。壁・底面 壁は垂直気味に立ち上がり、底面はやや丸みを帯びる。規模 1.84m×0.86m。検出面からの深さは0.45mを測る。覆土 3層に分層でき、暗褐色土系の土で、埋め戻し。遺物 なし。備考 土壌墓と思われる。



第125図 56P・57P遺構実測図

58P (第126図)

位置 B8・C8区にまたがる。重複関係 単独。長軸 N-9°-W。平面形 やや不整な隅丸長方形。壁・底面 壁は垂直気味に立ち上がる。規模 3.38m×1.45mを測る。遺物 なし。備考 土墳墓か。

59P (第126・127図)

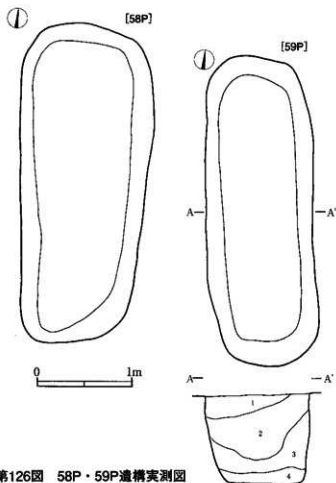
位置 C8区。重複関係 単独。長軸 N-9°-W。平面形 隅丸長方形。壁・底面 壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面は比較的平坦。規模 3.38m×1.14m, 検出面からの深さは0.94mを測る。覆土 4層に分層でき、暗褐色土系の土による埋め戻し。遺物 1は銅製品。煙管の雁首で、火皿を欠く。2は鉄製品。3~9は銭貨。「寛水通寶」で、上段から中段左が古寛水、その他は新寛水。備考 土墳墓。

60P (第128・129図)

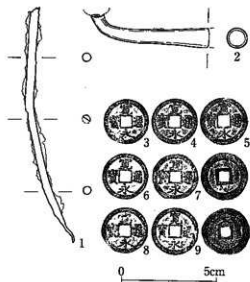
位置 C9区。重複関係 単独。長軸 N-12°-E。平面形 隅丸長方形を基本とする。壁・底面 壁は垂直気味に立ち上がる。底面は比較的平坦。規模 3.61m×(1.46m), 検出面からの深さは0.88m。覆土 4層に分層でき、埋め戻し土。遺物 1は鉄滓。2~4は銭貨で、寛水通寶。備考 土墳墓。

ビット遺物観察表 (2)

ビット名	種別	計測データ・手法上の特徴
59P1	鉄器釘か	縦12.4cm, 幅4.5mm, 重さ8.1g 断面円形
2	銅製品煙管	雁首部。火皿欠く。孔径1.0cmの円形。横長6.3cm, 重さ5.5g
3	銭貨	寛水通寶。縁外径2.41cm, 郭外径0.7cm, 重さ3.8g
4	銭貨	寛水通寶。縁外径2.46cm, 郭外径0.76cm, 重さ3.7g
5	銭貨	寛水通寶。縁外径2.5cm, 郭外径0.81cm, 重さ3.1g
6	銭貨	寛水通寶。縁外径2.42cm, 郭外径0.72cm, 重さ3.0g
7	銭貨	寛水通寶。縁外径2.5cm, 郭外径0.72cm, 重さ3.9g
8	銭貨	寛水通寶。縁外径2.45cm, 郭外径0.75cm, 重さ3.7g
9	銭貨	寛水通寶。縁外径2.53cm, 郭外径0.72cm, 重さ3.7g
60P1	鉄滓	縦6.4cm, 横5.5cm, 厚さ2.3cm, 重さ84.6g, 気泡目立つ。磁気なし。
2	銭貨	寛水通寶。縁外径2.55cm, 郭外径0.75cm, 重さ3.4g
3	銭貨	寛水通寶。縁外径2.49cm, 郭外径0.76cm, 重さ2.8g
4	銭貨	寛水通寶。縁外径2.53cm, 郭外径0.76cm, 重さ3.9g
5	銅製品煙管	雁首部。火皿欠く。折れ曲がる。孔径1.0cmの円形。遺存長3.9cm, 重さ4.4g
6	銅製品煙管	雁首部。両端欠損。孔径0.4cmの円形。遺存長2.5cm

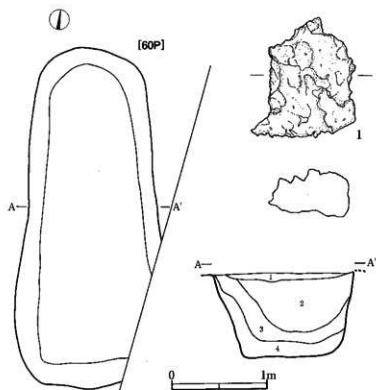


第126図 58P・59P遺構実測図

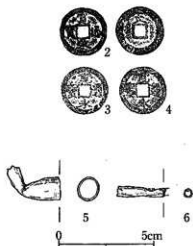


第127図 59P出土遺物

- 59P土層説明  
 1. 暗褐色土 ロームブロック多く含む。  
 2. 暗褐色土 ローム少量含む。  
 3. 暗褐色土 ロームブロックやや多く含む。  
 4. 暗褐色土 ローム少量含む。



第128図 60P遺構実測図



第129図 60P出土遺物

- 60P土層説明  
 1. 暗褐色土 ローム多量、炭化材少量含む。しる。ローム少量含む。しる。  
 2. 暗褐色土 ローム少量含む。しる。  
 3. 暗褐色土 ローム・ロームブロック多量、炭化材ごく少量含む。しる。  
 4. 暗褐色土 ローム・小ロームブロック多量、炭化材ごく少量含む。しる。

第6節 遺構外出土遺物 (第130図 図版19)

奈良・平安時代 1~3・5・6は土師器。1~3は坏で、1は井戸向遺跡分類 (以下省略) の「坏Ⅶc類」、2が「坏Ⅶ類」に相当する。5・6は甕である。4は緑釉陶器。高台付堦で、内外面に施軸する。7~10は須恵器。7・10は甕で、ともに頸部に櫛指波状文を施す。8・9は瓶で、8は五孔式の底部片、9は外面に平行タタキ目がみられる。11は鉄器。本製品は鎌で、刃先を僅かに欠失する。右利き用である。中・近世 12は石製品で、砥石。13・18~21は銭貨。13は大観通寶。これ以外は寛永通寶で、18・19が「波銭 (四文)」。14は内耳土器。15・16はかわらけ。17は陶器。瀬戸・美濃大窯製品の挿鉢である。22は銅製品。煙管の雁首。23は土製品。いわゆる「泥めんこ」の面形で、狐。近 代 24金属製品。消防ポンプの登録商標 (岡崎屋茂兵衛)。25は銭貨。一銭硬貨である。

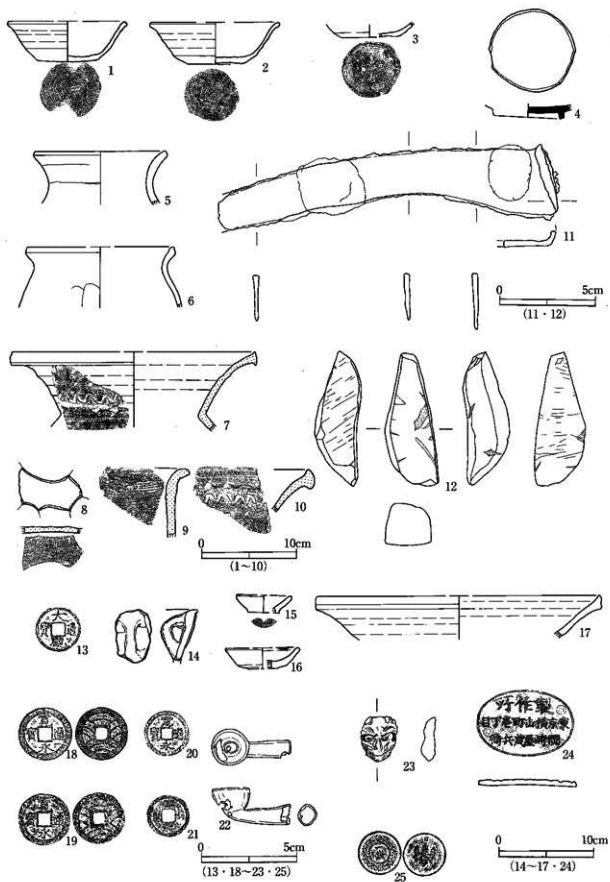
遺構外遺物観察表 (1)

器種	部位	計測値 (cm)			色 調	胎 土	調整・文様等
		器高	口径	底径			
1 土師器 坏	口辺部1/5 ~裏部	4.3	12	6.4	赤褐色色	灰石、赤色 スコリア	ロクロ成形。切廻し不明。底部縁部へ方折り返り。底部下半部縁部へ方折り返り。
2 土師器 坏	口辺部1/4 ~底部	4.3	13.2	3.9	赤褐色色	灰石、赤色 スコリア 石灰	ロクロ成形。切廻し不明。底部縁部へ方折り返り。底部下半部縁部へ方折り返り。
3 土師器 坏	底部1/2	1.4	—	6	赤褐色色	灰石、赤色 スコリア 細砂粒	ロクロ成形。底部4板糸切廻し後縁部・底部下縁部縁部へ方折り返り。
4 緑釉陶器 瓶	底部分	1.6	—	7.5	淡灰緑色	ちり粉	ロクロ成形。高台部縁部付け。円形に打ち欠いて甕える。内面磨られる。磨り粉。
5 土師器 甕	口辺部1/6	6.5	13.8	—	黒褐色	灰石、赤色 スコリア	口辺部内外面などで、内外面などで。
6 土師器 甕	口辺部 ~体部上半	6.4	15	—	—	—	口辺部内外面などで。体部外側縁部へ方折り返り。
7 須恵器 甕	口辺部1/4	7.9	23.2	—	赤褐色色	灰石、赤色 スコリア	口辺部外面に櫛・太直状文の縁文。体部外側縁部平打り目付。
8 須恵器 瓶	底部小片	—	—	—	外淡黄褐色 内淡褐色	灰石、灰石	底部4板糸切廻し後縁部へ方折り返り。
9 須恵器 瓶	口辺部小片	—	—	—	—	—	口辺部外に、外面縁部付平行目付。
10 須恵器 瓶	口辺部小片	—	—	—	淡青灰色	白色粉	口辺部外に櫛・太直状文の縁文。
15 土器 かわらけ	口辺部 ~底部	1.8	5.4	3.2	黒色	ちり粉、灰石	内外面などで。底縁部状の縁部。
16 土器 かわらけ	口辺部1/4 ~底部	2.2	7.8	3.5	淡褐色色	灰石、赤色 スコリア	口辺部内外面などで。底部縁部糸切廻し。灯明風。
17 陶器 挿鉢	口辺部	4.5	30	—	黒褐色	白色粉	瀬戸・美濃大窯製品。

遺構外遺物観察表 (2)

種別	計測データ・手法上の特徴
11 鉄器 鎌	横17.9cm、幅15cm、厚さ6.5mm、重さ78.7g。先端部欠損。右側に折込みあり。
12 砥石	楕円形。全長7.1cm、幅2.8cm、凹部に使用痕跡明確。彫彫形状。
13 銭貨	大観通寶。縁外径2.35cm、縁内径1.8cm
18 銭貨	寛永通寶。縁外径2.81cm、縁内径2.08cm、重さ4.4g、四文銭
19 銭貨	寛永通寶。縁外径2.81cm、縁内径2.08cm、重さ4.3g、四文銭
20 銭貨	寛永通寶。縁外径2.46cm、縁内径1.77cm、重さ2.8g
21 銭貨	寛永通寶。縁外径2.32cm、縁内径1.67cm、重さ2.0g
22 銅製品 煙管	雁首部。火室径2.0cm、孔径1.0cmの円形。通管径1.3cm
23 泥面子	縦2.1cm、横2.0cm、厚さ0.7cm、重さ2.5g。
24 金属製品 消防用ポンプ	消防用ポンプの登録商標。岡崎屋茂兵衛製作所製造。縦7.3cm、横10.3cm。
25 銭貨	昭和8年一銭硬貨。縦2.3cm、重さ3.7g





第130图 遺構外出土遺物

## 第3章 ま と め

### 第1節 旧石器時代

抽出された2点の石器のうち、周縁調整のみを施した槍先形尖頭器は、その属性から、橋本勝雄氏が「千葉県の歴史」中で、萱田遺跡群を時期区分したところの、「V期」に相当し、本来的な産出層準は、立川ロームⅢ層下部からⅣ・Ⅴ層中となろう。槍先形尖頭器の残欠なので、狩猟時の未回収の可能性が高い。その背景に「V期」とは、石器の量や遺物集中地点が爆発的に増える時期であるということも、無視できない。ちなみに、近隣の村上込の内遺跡でも、ほぼ同一の槍先形尖頭器が単独出土している。

### 第2節 縄文時代

遺物出土総数は、土器2点、石器類4点、土製品1点である。これから見て、殿内遺跡(殿内小支台)は、約一万年に及ぶ縄文時代の中で、居住域として利用されることが極めて稀であったと考えられる。それは、隣接する浅間内遺跡(浅間内小支台)と比較した場合、その差は歴然としている。このことは、隣接する小支台であっても、土地利用の状況が全く異なるということを示しており、調査の成果として評価したい。ただし、それが何に起因するのかは、今後の課題としておく。

1点のみ出土した田戸下層式土器は、諸属性から見て、その新しい部分に位置づけられる。八千代市内では、沈線文系土器群の出土自体が稀で、村上台での確実な報告例となると、「保品・神野遺跡群」の上谷遺跡に次いで2例目である。

### 第3節 弥生時代

方形周溝墓1基が検出された。01HSは全体の北半分程度しか調査できなかったが、その属性から見て「四隅陸橋型」に相当する。だが、墳丘は確認されず、方形台状部から埋葬施設は検出されなかった。加えて、周溝からの出土遺物もなく、時期決定をするための要素は、極めて乏しい。ただ、「四隅陸橋型」は弥生時代中期に盛行する形状なので、大枠的には同期で大過ないと思われる。近隣での弥生時代中期の遺跡を見ると、浅間内遺跡と村上向原遺跡で、宮ノ台式土器が遺構を伴わずに出土しており、本例もまた、当該期に相当する可能性が高い、とだけ指摘しておく。

### 第4節 古墳時代

堅穴住居跡1軒が検出された。02Dは前期で、裝飾壺の円形文・棒状浮文・肩部の縄文等施文や台付寛の口唇部刻み目等の形態から前半に位置づけられる。06D覆土中から当該時期の遺物が出土しており調査範囲外においても、遺構の広がりも想定されよう。近隣では、村上宮内遺跡・西山遺跡において同時期の住居跡が検出されている。

### 第5節 奈良・平安時代

詳細は第6節に譲るが、ここでは藤岡氏による萱田編年に従って、堅穴住居跡の時期を決定していく。

萱田Ⅰ期以前(7世紀末葉～8世紀前葉) 04CD・05D・06AD・13AD・14D・17D・24D・25D・29AD・30D

萱田Ⅰ期(8世紀Ⅱ四半期) 15D・16D・18D?・26AD

萱田Ⅱ期(8世紀Ⅲ四半期) 04BD・20D・27D

壹田Ⅲ期（8世紀第Ⅳ四半期）04CD・07D・26BD・29BD  
壹田Ⅳ期（9世紀第Ⅰ四半期）11D・26CD？  
壹田Ⅴ期（9世紀第Ⅱ四半期）19D  
壹田Ⅵ期（9世紀第Ⅲ四半期）12BD・13BD  
壹田Ⅶ期（9世紀第Ⅳ四半期）23D  
壹田Ⅷ期（10世紀代）08D・09D・10D・21D・22D・33D  
壹田Ⅸ期（10世紀代）12AD  
不明期 31D・32D

このように細分すると、本遺跡の動態がおぼろ気ながら見えてくる。壹田Ⅰ期以前の段階に10軒の人々が入植し、Ⅰ～Ⅲ期に分散しながらも3軒から4軒の人々が継続的に集落を営んでいる。9世紀代のⅣ～Ⅶ期には1から2軒程度と集落の規模は縮小するが、10世紀代のⅧ期に6軒とまとまった規模で活況を呈している。通常の集落では、古墳時代ないし奈良時代以降9世紀代に集落の消長を辿れ、10世紀代には規模が著しく縮小する例が多い。本遺跡の特異性は、奈良時代初頭の計画の人員配置後、規模が徐々に縮小し、10世紀代に再度まとまった形態をなす点である。続くⅨ期には1軒であるが、土坑墓も検出されており、縮小しながらも土地利用は見られる。以上、本遺跡の動態について概観を試みた。

## 第6節 奈良・平安時代の時間軸について

壹田地区遺跡群では、昭和50年代から10年以上に亘り発掘調査が進められた。奈良・平安時代の8世紀第Ⅱ四半期から10世紀代に至る土器の編年については、藤岡氏による綿密な推察を重ねた編年観が壹田Ⅰ期～Ⅶ期及びⅧ期・Ⅸ期の画期の設定として平成2年（1990）提示された（注1）。その後、平安時代施釉陶器の年代観の修正や10世紀以降の発掘調査事例による資料の蓄積により、氏による編年の提示に補強でき得る状況となった。藤岡氏の編年提示後19年が経過しているが、現時点においてもその内容に齟齬は生じていない。この点から、今回壹田Ⅰ期以前（注2）及びⅧ期・Ⅸ期について資料を提示しながら、各期の器種構成について触れていきたい。

注

- （1）藤岡孝司「八千代市壹田地区遺跡群の歴史時代土器」『研究連絡誌』第30号 財団法人千葉県文化財センター 1990 の中で、最終的編年に至る経緯が述べられている。
- （2）壹田Ⅰ期以前については、大野康男『八千代市白幡前遺跡』財団法人千葉県文化財センター 1991の中で、氏により壹田0期として設定されている。今回、更に器種構成について肉づけが可能となった。

### 壹田Ⅰ期以前 [第131図1～67]

器種構成は、坏類では古墳時代後期の系譜をひく丸底土師器坏と常陸産・東海産の須恵器坏・蓋がみられ、須恵器主体である。甕類では常陸型・武蔵型・在地型の土師器甕を主体とし、常陸産・東海産の須恵器甕が客体的に搬入される。その他土師器盤・高坏が偏在してみられる。

土師器坏は①口辺部外反の丸底坏（2.31,61,62）、②口辺部直立で稜をもつ塊タイプ（12,33,34,37,60）；③②に似るが、稜をもたない塊タイプ（1,32,50,51）の三者がみられる。内外面黒色処理を施すタイプ（37,60）や、内外面赤彩（12）、暗文を施文するタイプ（13）がみられる。口径は②、③では、14cm内外と大振りである。

甕は、常陸型（7,21,40,55,56）と、在地型の古墳時代後期の系譜をひくタイプ（20,38,39,42）、口縁端部を緩やかにつまみだし、断面がやや角頭状で胴部縦位へラケズリを施すタイプ（15,54）の三者が主

体である。他に武蔵型(16,52,53)と同模倣形態の(66,67)がみられる。

盤は、非ロクロ整形で内外面赤彩されたもの(36)1点で、図示していないが回住居跡より暗文を施したタイプが出土している。

高杯は、胴部末端内面に稜をもち、外面にヘラケズリされたタイプ(35)のみであるが、今回の報告中、04D49に類例がみられる。

手づくねは、形が整えられたタイプ(3,4,5)と、粗雑なタイプ(14,63~65)がみられる。

須恵器環は、常陸産の無高台タイプ(9,10,19,25,26,29,48,49)を主として、東海産の有高台タイプ(30)がみられる。11は不明であるが、形態から常陸産か。常陸産は①底部と体部の境が明瞭で直線的に外反するタイプ(9,10,25)、②厚い底部と体部の境が不明瞭で外反するタイプ(19,48,49)、③②に類似するが、口唇部で外反するタイプ(26,29)がみられる。②は新治窯跡群一町田窯に類例がある。口径は13~15cm範囲に収まる。

須恵器蓋は、常陸産で内面にかえりのあるタイプ(8,17,18,23,24,27,28,45,46,57~59)が主体を占め、東海産のかえりを持たないタイプ(47)は客体的である。前者は新治窯跡群一町田窯に類例がみられる。口径は16cm程度に収まる。

須恵器甕は、常陸産・東海産の両者がみられる。41は常陸産である。

#### 萱田Ⅶ期 [第132図68~134]

器種構成は、坏類ではⅦ期のⅦc類の延長上にあるⅦ類、Ⅸc類、新たに内面黒色処理の高台付塊及び坏、高台付塊がみられる。甕類では、Ⅶ期のⅡa類と共に、新たにⅡb類と口唇部断面が角頭状をなすタイプが加わる。他に須恵器環・甕も極少量みられる。Ⅶ期に残存していたⅢは本期ではみられない。

土師器環は①口唇部が肥厚し、体部下端回転ヘラケズリ調整のⅦ類(68,69,73,81~84,94~100,102,116~119)や②無高台塊のⅨc類(85,101,103,121,125)がみられる。新たに③高台部断面がラップ状に広がる高台付塊(74,87,104)や④体部下端から口縁部まで直線状に開き、高台部断面がハの字状となる高台付塊(126)がみられる。また、⑤内面黒色処理で非常に低い削りだし高台をもつ塊(86)がみられる。③~⑤は灰釉陶器模倣形態と考えられ(注3)、本期の新しい構成要素といえよう。なお、①②④は藤岡氏により認識されていた器種である。

甕は①口唇部つまみ上げ・胴部ヘラケズリ調整のⅡa類(89,91)が残存する。新たに②口唇部内側に凸帯を張付ける形態のⅡb類(76,88,109,110,112,130,133等)と同形態の③小型甕Ⅱb類(75,77,128等)が出現する。更には、④口唇部断面が角頭状で、胴部ヘラケズリ調整(77,127,131,134)の甕が新しい要素といえる。①~③は藤岡氏により認識されていた器種である。主体はⅡb類、Ⅱb類である。

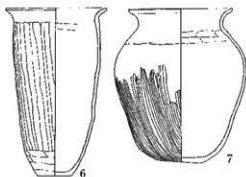
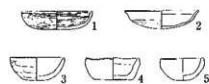
注

(3) 松本太郎・松田礼子「下総国府跡」 市川市教育委員会 2001 松田礼子氏が③について、灰釉模倣形態の器種としてI類として位置づけている。p81

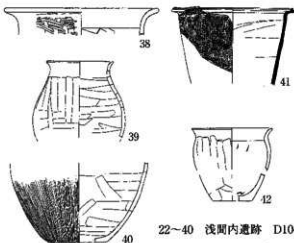
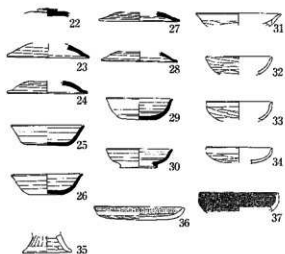
#### 萱田Ⅷ期 [第133図135~165]

器種構成は、坏類では藤岡氏設定の回転糸切り無調整坏・高台付塊・無高台塊とⅦ期に示した③の高台付塊の4器種である。甕類はほぼⅦ期継承で、Ⅱa類・Ⅱb類・Ⅱb類・Ⅶ期に示した④の4器種で、Ⅱb類主体である。

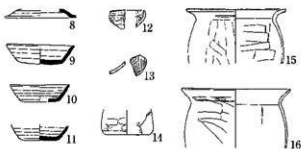
土師器環は①口径11cm前後、底部回転糸切り無調整、体部下半に丸みを持ち、口唇部がやや肥厚している形態で胎上は精選されている等の特徴をもつ坏(135,140,141,148,149,161)で、本期に出現する。



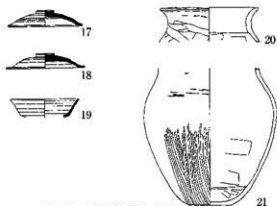
12 白轆前遺跡D195 3~7 D170



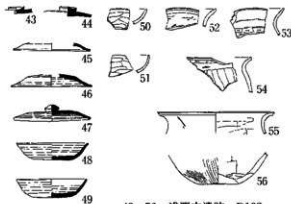
22~40 浅間内遺跡 D104B



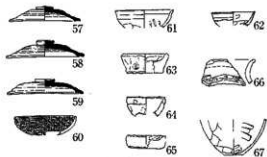
8~16 浅間内遺跡 D17



17~21 浅間内遺跡 D95



43~56 浅間内遺跡 D102



57~67 浅間内遺跡 D87 (S=1/8)

第131図 八千代市内の萱田1期以前の遺物

また②無高台埴は、口径14cm前後、体部下半で丸みをもって立ち上がるタイプ(136,137,151,152)、③②と同形態で高台部断面がハの字状となる高台付埴(142,143,162,163)で、内面黒色処理の有無がみられる。また、Ⅷ期出現の③高台付埴(153)は、ほとんど形態を変えずにみられる。Ⅷ期に主体であった坏Ⅷ類はこの段階ではみられない。

甕は、Ⅱa類(155)、Ⅱb類(154,156~159,165)、Vb類(145)とⅧ期④(138,139,144)がみられる。なお、Ⅱb類には、胴部が張るタイプ(157,158)がみられる。

#### 萱田Ⅸ期以降 [第134図166~190]

本期は、市内における資料は現在確認されておらず、今後の資料の蓄積をまって決定したい。予察として、本市行政境に隣接する佐倉市先崎西原遺跡、やや離れるが同市高岡大山遺跡の資料を掲げる。

坏類は、Ⅸ期①の器高が浅い形態(180~182,184~186)(注4)や、Ⅲ(166)、大小の高台付埴がみられる。

甕は、Ⅷ期④の口唇部角頭状断面形態(177,178)や、Ⅱa類(190)がみられる。

皿及び大小の高台付埴は、新器種として出現している。ただ、甕類やⅨ期①の延長線上に位置づけられる坏が見られることから、Ⅸ期継承の時期設定が可能と考える。

#### 注

(4)①石坂雅樹「印内台遺跡群(20)」財団法人 船橋市文化・スポーツ公社埋蔵文化財センター 2001Ⅵまとめの中でL群、M群としている。

②宮内勝巳「古代下総国東部の土師器について」『財団法人東総文化財センター設立10周年記念論集』財団法人東総文化財センター 2002

#### 各期の年代

萱田Ⅰ期以前 7世紀末葉~8世紀前葉

指標は、須恵器蓋で内面に緩いかえりをもつタイプで、新治窯跡群一丁田段階で8世紀第1四半期に位置づけられる(注5)。また本遺跡05D1は畿内産土師器の飛鳥Ⅴ段階で、同遺構からかえりをもつ須恵器蓋が共存している。

#### 注

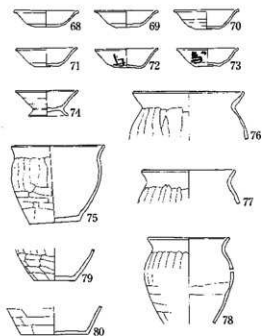
(5)吉澤 悟「律令制成立期の須恵器の系譜」『東国の須恵器-関東地方における歴史時代須恵器の系譜-』古代生産史研究会 1997

萱田Ⅷ期 10世紀前半代

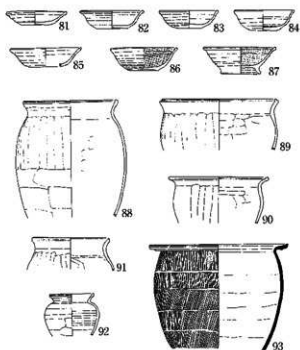
指標はおおむね灰軸陶器となるが、今回の資料においてはみられない。高橋照彦氏は東国の東海遺跡で、10世紀以降灰軸陶器の流通量が著しく減少することを指摘されている(注6)。ここでは灰軸陶器模倣の土師器埴を参考としたい。高台付埴の高台部は比較的長く、体部は直線的に立ち上がる(87,104)は折戸53号窯式1型式の埴Aに類似している。また高台付埴ではないが、削りだし高台埴(86)は同窯式深埴の口縁部外反の形態に類似する。具体的年代観としては10世紀初頭~中葉(注7)を考えたいが、今後細分が可能と判断されるため現時点では10世紀前半代とする。

萱田Ⅸ期 10世紀後半代

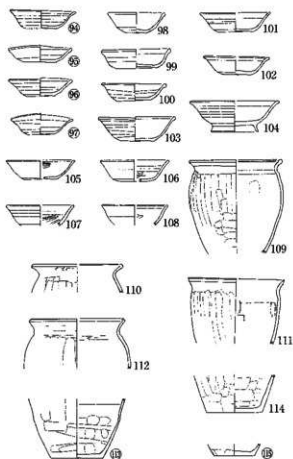
灰軸陶器模倣の土師器埴主体で、Ⅷ期に主体的だった坏Ⅷ類が完全に消滅する。甕類は、前段階を踏襲しており、Ⅷ期に続く年代が想定されよう。本期に出現した坏①も腰の丸み、体部下端の処理等灰軸模倣の特徴が見出される。本期の土師器埴は高台の有無はあるが、深埴の器形、腰の丸みの強調、外反する口唇部等の形態を示す。具体的年代観としては東山72号窯式の10世紀中葉~末葉(注8)を考えた



68~80 白幡前遺跡 D163

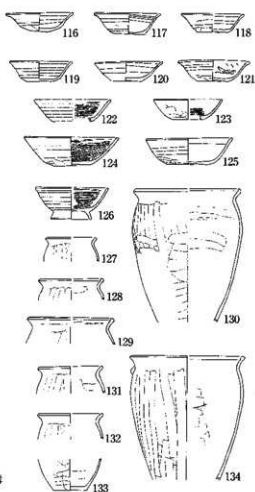


81~93白幡前遺跡 D030



94~115 間見穴遺跡 122住

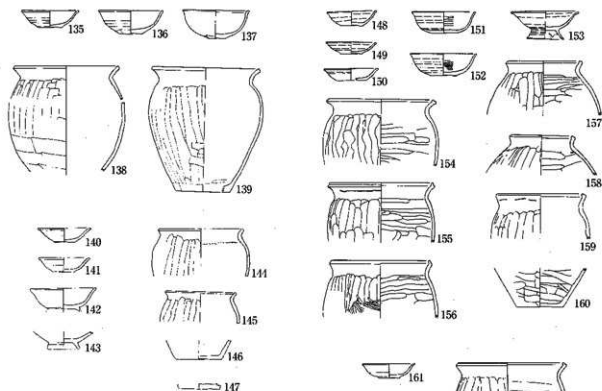
○数字は本遺標床直出土で、他は本遺標  
廃絶時の土器層より出土の遺物



166~134 間見穴遺跡 166A住

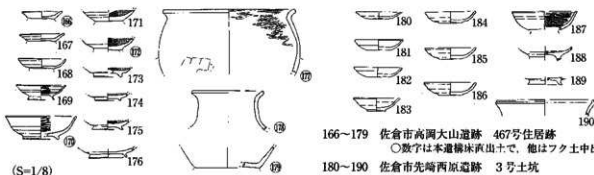
(S=1/8)

第132図 八千代市内の萱田Ⅱ期の遺物



135～139 白幡前遺跡 D149  
 140～147 仲ノ台遺跡 13住  
 148～160 栗谷遺跡 A103  
 161～165 佐倉市先崎西原遺跡 12号住居跡

第133図 八千代市内・周辺の豊田区期の遺物



166～179 佐倉市高岡大山遺跡 467号住居跡  
 ○数字は本遺構床直出土で、他はフク土中出土の遺物  
 180～190 佐倉市先崎西原遺跡 3号土坑

第134図 八千代市周辺の豊田区期以降の遺物

いが、今後細分が可能と判断されるため現時点では10世紀後半代とする。

豊田区期以降 11世紀代

指標は区期環①の器高を減じた皿と大小の高台付碗の出現で、具体的年代については11世紀前半～中頃に想定されている(注9)。本期については、市内の資料の蓄積をまって考えていきたい。

注

(6) 高橋照彦「東国の施軸陶器」『古代の土器研究-律令の土器様式の西・東3 施軸陶器-』1994 古代の土器研究会編 p19

(7) 齊藤孝正「東海地方の施軸陶器生産-猿投窯を中心に-」『古代の土器研究-律令の土器様式の西・東3



(8) (6) に同じ。

(9) 長内美知枝「3. 下総国 東京湾沿岸地域」『神奈川考古第21号 シンボジウム古代末期～中世における在地系土器の諸問題』1986 神奈川考古同人会 p116～117

以上、7世紀末葉から8世紀前半代及び10世紀代について言及してきた。藤岡氏が萱田地区遺跡群において提示された8世紀第Ⅱ四半期から10世紀代に亘る編年については、今後共八千代市内の時間軸として採用していきたいと考えている。更に今回筆者が8世紀第Ⅱ四半期(萱田Ⅰ期)以前の資料を提示したことにより、八千代市内の奈良・平安時代(7世紀末葉～10世紀末葉)について継続的時間軸の設定が可能である。藤岡氏が萱田Ⅰ期～Ⅸ期を、八千代市内の奈良・平安時代の統一の名称に変更したい旨打診したところ御了承いただいたので(注10)、以下のようにする。

萱田Ⅰ期以前→八千代NH1期(7世紀末葉～8世紀前半)

萱田Ⅰ期→八千代NH2期(8世紀第Ⅱ四半期)

萱田Ⅱ期→八千代NH3期(8世紀第Ⅲ四半期)

萱田Ⅲ期→八千代NH4期(8世紀第Ⅳ四半期)

萱田Ⅳ期→八千代NH5期(9世紀第Ⅰ四半期)

萱田Ⅴ期→八千代NH6期(9世紀第Ⅱ四半期)

萱田Ⅵ期→八千代NH7期(9世紀第Ⅲ四半期)

萱田Ⅶ期→八千代NH8期(9世紀第Ⅳ四半期)

萱田Ⅷ期→八千代NH9期(10世紀前半代)

萱田Ⅸ期→八千代NH10期(10世紀後半代)

## 注

(10) 藤岡氏には、記して感謝の意を表したい。八千代NH1期・9期・10期の年代観は、氏とのすりあわせによるものではなく、筆者の判断による。今回提示した年代観については、補正する必要性が生じた場合には速やかに対応していきたい。それが責務であり、市内を主体とした地域研究をすすめるための基本的事項と捉え、日々研鑽に努めていく所存である。

## 参考文献(併せて紹介した以外のもの)

- 藤岡幸司 1985 『八千代市北海道遺跡』 財団法人 千葉県文化財センター  
古今内誌・ 1986 「(5) 下総・上総間における古代末期の土器様相」『神奈川考古』第21号  
長内美知枝・ 「シンボジウム 古代末期～中世における在地系土器の諸問題」 神奈川考古同人会  
月口 崇 1977頁～129頁  
藤岡幸司 1987 「Ⅲ 下総編 3 八千代市北海道遺跡(旧田原部)」『1) 歴史学考古学研究 第1編  
下総における歴史時代土器の研究』161頁～180頁  
藤岡幸司 1987 「第三章 まとめ 第1節 奈良・平安時代の土器様相」『八千代市井戸川遺跡』  
財団法人 千葉県文化財センター 650頁～666頁  
藤岡幸司 1990 『八千代市萱田遺跡群の歴史時代土器』『研究通覧』第30号 財団法人 千葉県文化財センター  
10頁～20頁  
人原隆男 1991 『八千代市白幡前遺跡』 財団法人 千葉県文化財センター  
阿部幸彦他 1993 『1) 調査報告書』 財団法人 千葉県文化財センター  
栗 定史 1995 『千葉県八千代市 竹ノ倉遺跡・ワイン作遺跡発掘調査報告書』 八千代市西八千代遺跡調査委員会  
寺本和久他 2001 『千葉県佐倉市 矢崎西風遺跡』 財団法人 千葉県市文化財センター  
栗 定史 2001 『千葉県八千代市 粟作遺跡 -第1分集-』 八千代市遺跡調査委員会  
松田礼子 2001 「3. 下総回廊の土器編年」『千葉県市川市「下総回廊跡」-国府台遺跡緊急発掘調査報告書-』  
市川市教育委員会 73頁～117頁  
石原隆男 2001 『千葉県船橋市 印内倉遺跡(20)』 財団法人 船橋市文化・スポーツ公社船橋文化財センター  
岸本雅人他 2006 『船橋市印内倉遺跡文化財調査報告書5 -八千代市島田込ノ内遺跡(2)・阿見沢遺跡(3)・  
蓮地遺跡(2)-』 財団法人 千葉県文化財センター  
菅谷成久他 2007 『千葉県八千代市 浅瀬内遺跡・白船遺跡・所蔵遺跡』 八千代市遺跡調査委員会  
中野野舟他 2008 『千葉県八千代市 ワイン作遺跡より出土品調査報告書』 八千代市遺跡調査委員会

# 報告書抄録

ふりがな	ちばけんやちよし とのうちいせきびーちてん
書名	千葉県八千代市 殿内遺跡b地点
編集者名	森 竜哉 中野 修秀
編集機関	八千代市教育委員会
所在地	〒276-0045 千葉県八千代市大和田138-2 TEL.047(481)0304
発行年月日	西暦 2009年(平成21年)3月30日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
		市町村	遺跡番号					
殿内遺跡b地点	千葉県八千代市村上 1170-2	12221	203	35度 43分 36秒	140度 7分 16秒	19901022 ～ 19920910	5350㎡	市立郷土博物館建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
殿内遺跡b地点	包蔵地	旧石器時代		槍先形尖頭器	
	包蔵地	縄文時代		早期・中期土器、石鏃、土器片 鎌	
	墳墓	弥生時代	方形周溝墓 1基		
	集落跡	古墳時代	竪穴住居跡 1軒	古墳時代前期土師器	
	集落跡	奈良平安時代	竪穴住居跡 36軒 独立柱建物跡 1棟 ピット 40基	奈良・平安時代土師器、須恵器、 鉄器、青銅製品	
	墳墓	近世	墓坑 5基	煙管、銭貨	

要約	<p>市立郷土博物館建設に先行して八千代市教育委員会が、発掘調査を実施した殿内遺跡b地点本調査の発掘調査報告書である。</p> <p>検出した遺構は弥生時代中期に想定可能な形態の方形周溝墓1基、古墳時代前期前半の竪穴住居跡1軒、奈良・平安時代の竪穴住居跡36軒・独立柱建物跡1棟・墓坑を含むピット40基等である。</p> <p>遺構・遺物では、古墳時代前期の竪穴住居跡において、装飾壺・台付甕・埴輪の良好なセット形態が把握された。奈良・平安時代では、奈良時代初頭から10世紀後半の竪穴住居跡の検出と土器類の出土により、本遺跡の居住にかかる動態が把握された。</p>
----	--

# 写 真 图 版

---



02D遺物出土状態



04D完掘



02D遺物出土状態 一付甕一



04DAカマド完掘



04D遺物出土状態



04DBカマド完掘



04D遺物出土状態 一高環一



04DCカマド完掘



05D完掘



07D完掘



05Dカマド完掘



07Dカマド完掘



06D完掘



08D炭化物・遺物出土状態



06Dカマド完掘



07D完掘



09D完掘



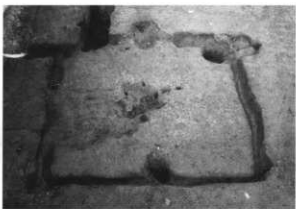
12A・BD完掘



09Dカマド遺物出土状態



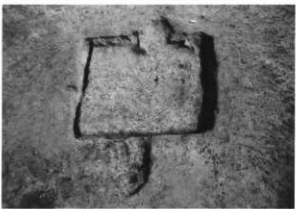
12BD完掘



09Dカマド袖部除去状態



12BDカマド遺物出土状態



10D完掘



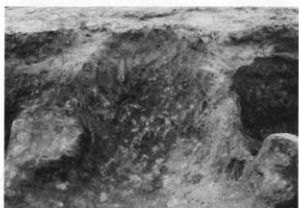
12BDカマド完掘



13D完掘



15D完掘



13Dカマド完掘



15Dカマド完掘



14D完掘



16D完掘



14Dカマド土層断面



16Dカマド完掘



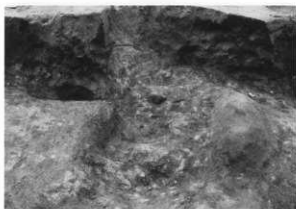
17D完掘



19D完掘



17Dカマド完掘



19Dカマド完掘



18D完掘



20D完掘



18Dカマド完掘

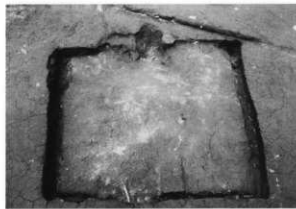


20Dカマド完掘





21D完掘



23D完掘



21Dカマド完掘



23Dカマド完掘



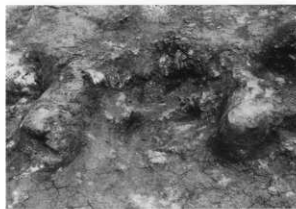
22D完掘



24D完掘



22Dカマド完掘



24Dカマド完掘



25D完掘



26B・CD完掘



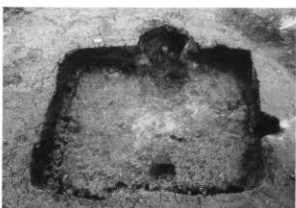
25Dカマド完掘



26BDカマド完掘



26A・B・CD完掘



27D完掘



26A・BD完掘



28D完掘



29AD完掘



30D完掘



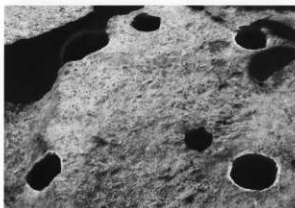
29BDカマド完掘



30Dカマド完掘



29A・BD, 30D完掘



掘立柱建物跡完掘



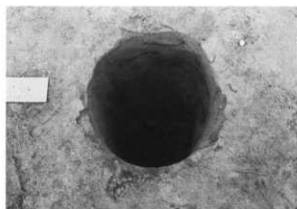
29BDカマド完掘



方形周溝墓完掘



6P完掘



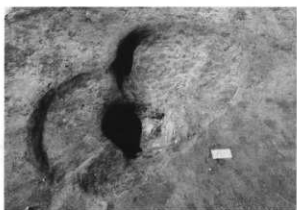
23P完掘



16P完掘



27P完掘



17P完掘



28P完掘



18P完掘



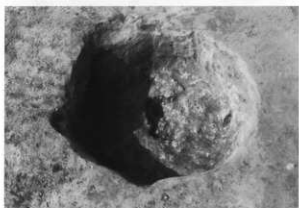
31P完掘



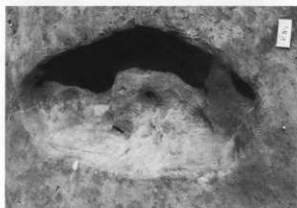
32P完掘



41P完掘



34P完掘



45P完掘



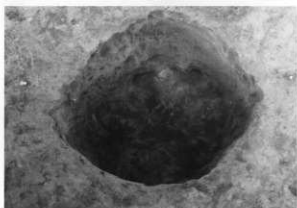
42P遺物出土状態



46P完掘



42P遺物出土状態 (拡大)



48P完掘





04D13



04D46



04D14



04D35



04D42



04D46



04D49



04D53



05D1 (畿内産土師器)



05D6



06D3



06D5



06D9



06D14



07D6



07D11



07D12 (側面)



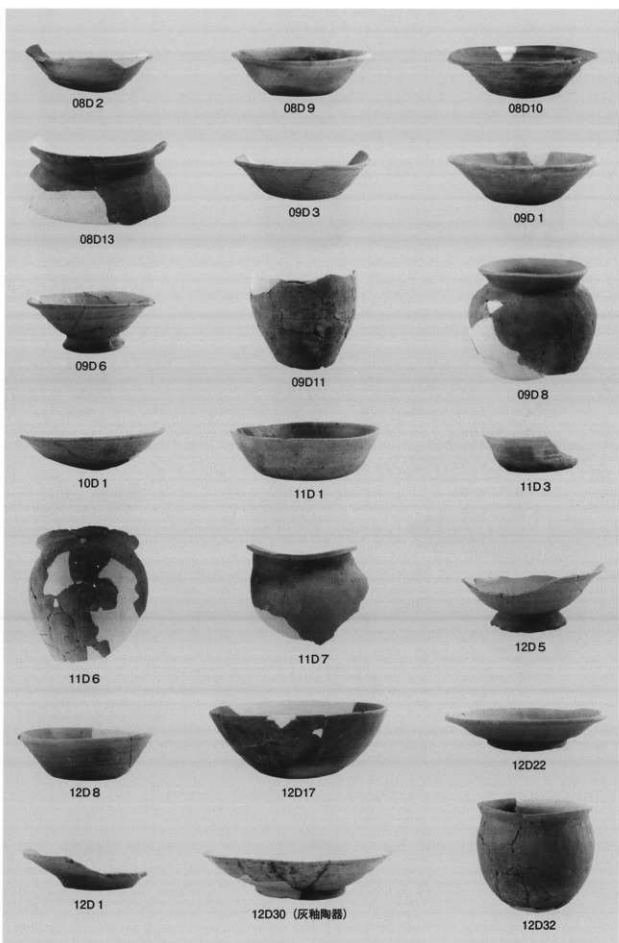
07D12 (底面)



07D16



07D







13D 5 (55P遺物)



13D 9



13D 12



13D 17



13D 18



13D 13 (灰釉陶器)



13D 3



14D 2



14D 4



14D 7



14D 10



15D 1



15D 2



15D 3



15D 10



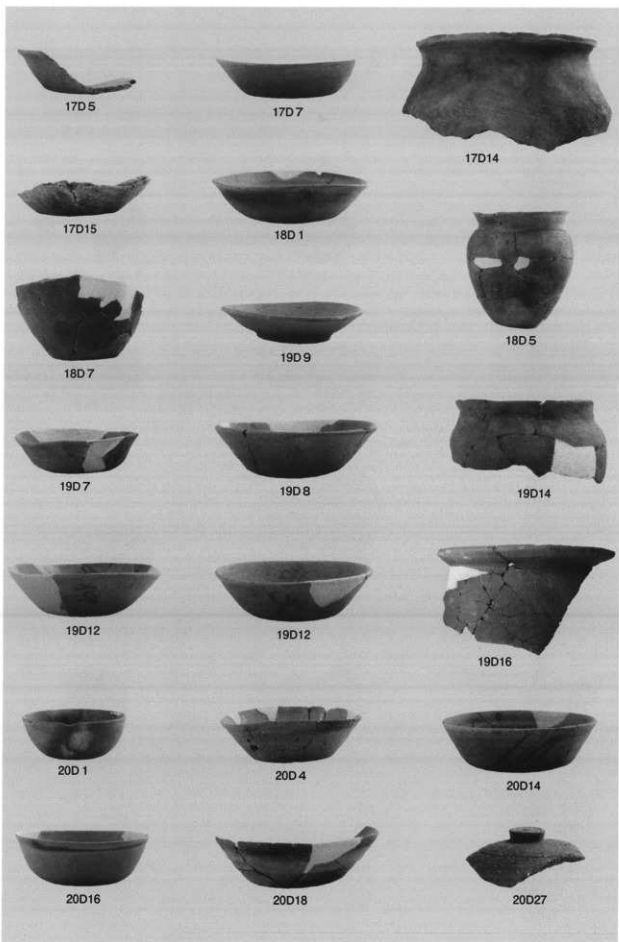
15D 12



16D 5



17D 2





20D34



20D29



20D31



20D32



20D33



20D39



20D40



内面 (スス付着状況)



21D2



20D27



20D27



21D4



21D11



21D13



22D1



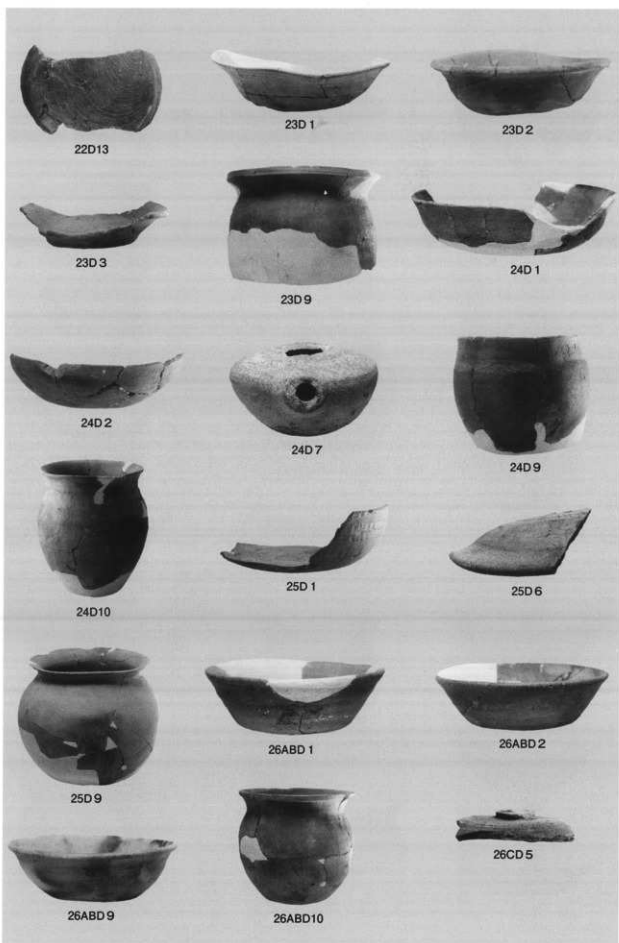
22D11



22D12



22D2





26CD12



27D 1



27D 5



29D 1



29D 4



29D10



29D 9



29D18



29D15



底面



29D12



33D19



33D18



33D17



42P1



内面



08D19



08D20



19D19



第130图4 (绿釉陶器)



26D11



21D21



33D22



33D20



第130图23 (泥面子)

千葉県八千代市  
殿内遺跡b地点

2009 (平成21年)

印刷日 2009年 3月28日

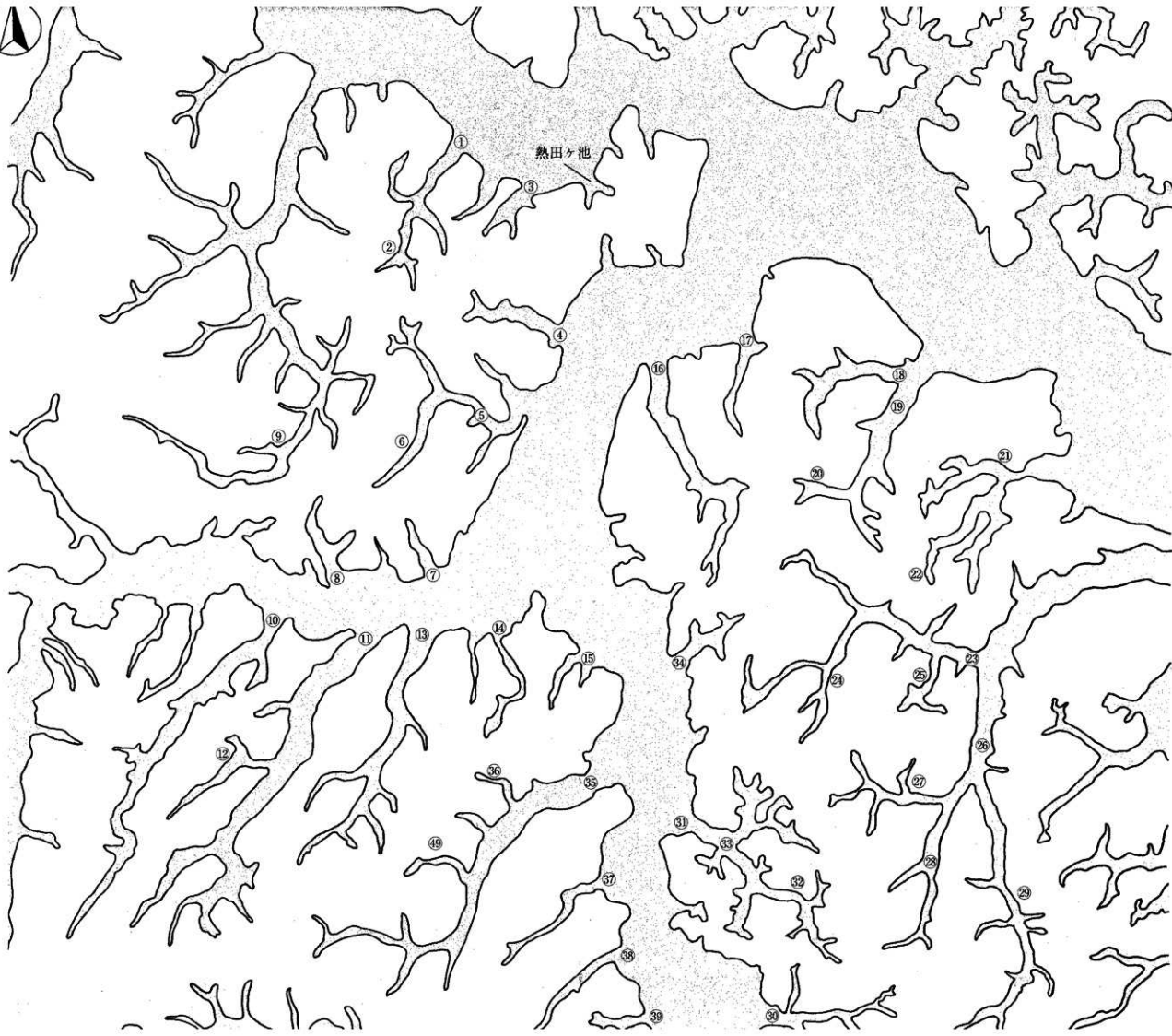
発行日 2009年 3月30日

編集 八千代市教育委員会

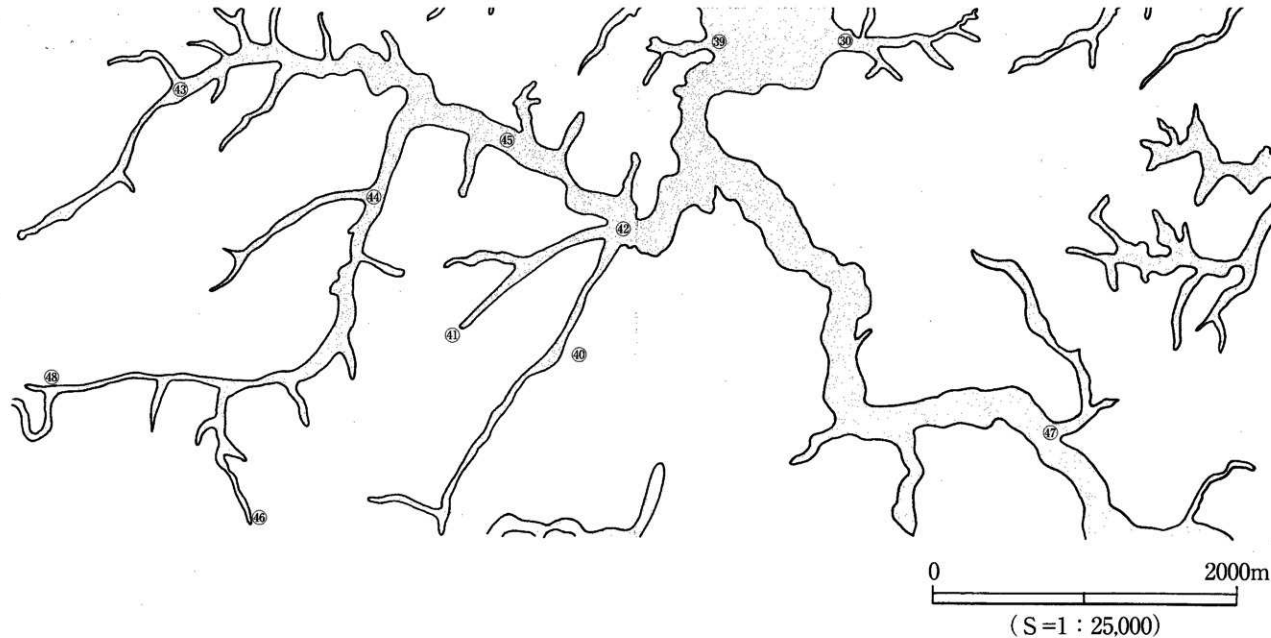
〒276-0045 八千代市大和田138-2

TEL.047-481-0304

発行 八千代市教育委員会



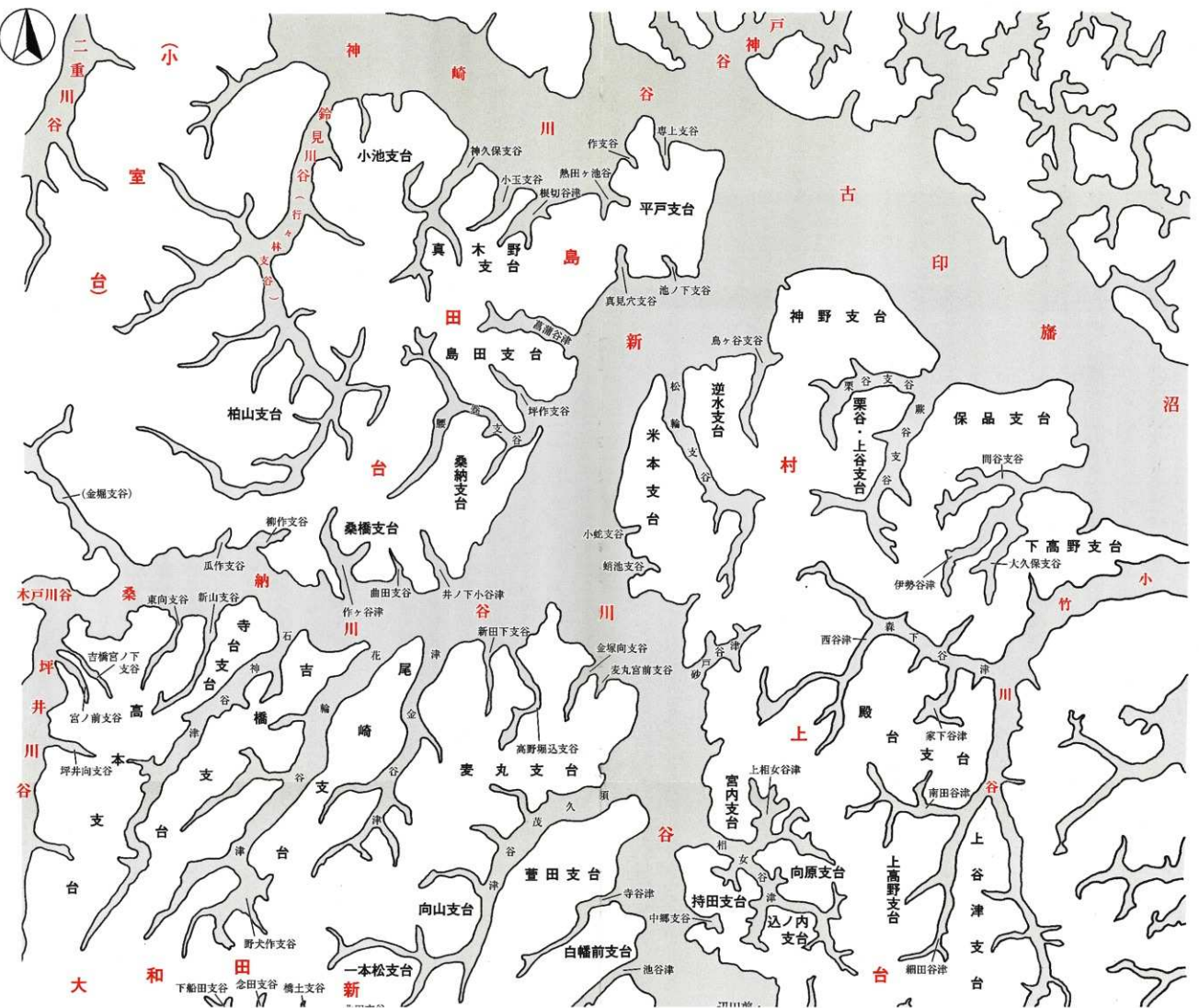


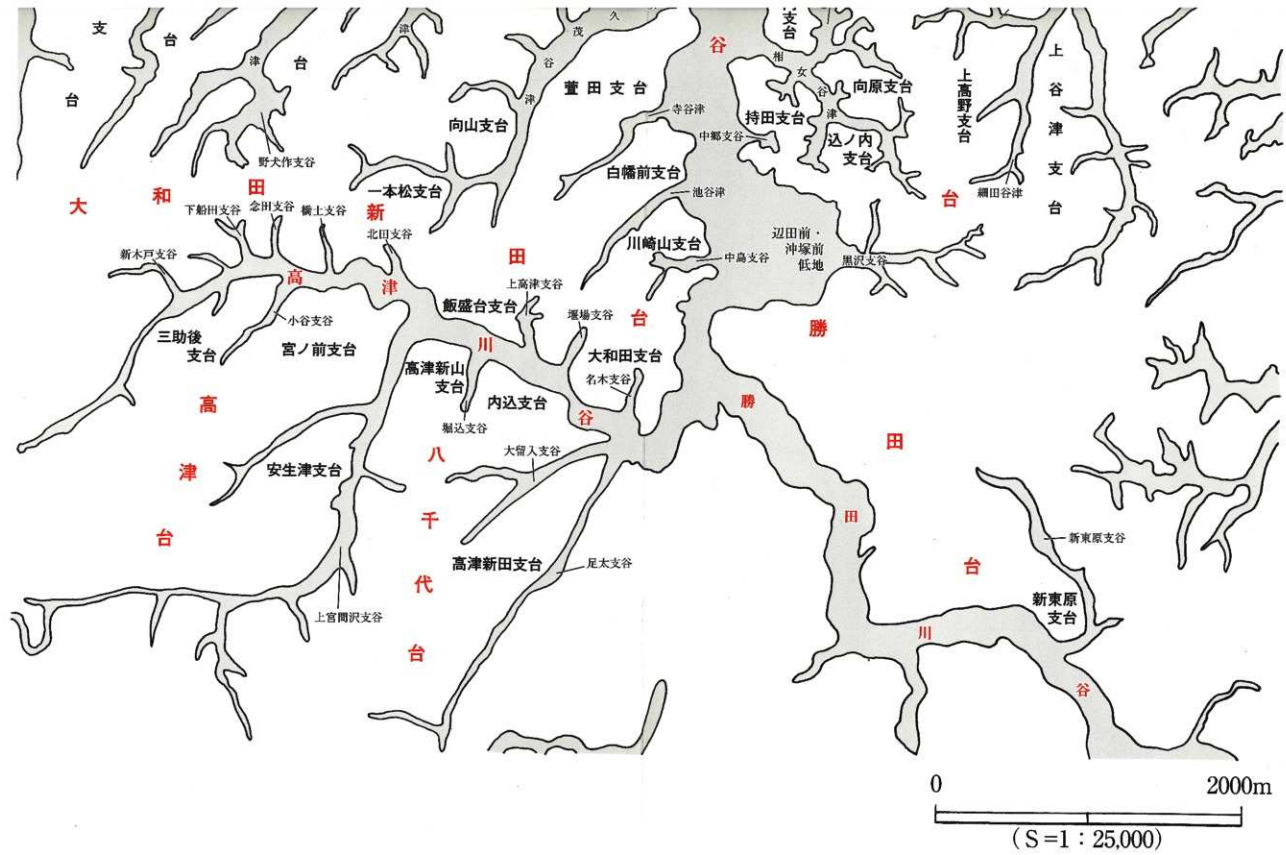


附図1 八千代市域における谷津名称 (暫定版)

- |             |             |           |             |
|-------------|-------------|-----------|-------------|
| 1 北ノ谷津      | 14 甚左衛門谷津   | 27 南田谷津   | 40 葦(足)太谷津  |
| 2※島田上谷津     | 15 宋重谷津     | 28 細田谷津   | 41 深作谷津     |
| 3※島田根切谷津    | 16※村上根切谷津   | 29※井野上谷津  | 42 ケイガラ谷津   |
| 4 菖蒲谷津      | 17 鳥ヶ谷津     | 30 黒沢谷津   | 43※大和田新田西谷津 |
| 5 島田谷津      | 18 栗谷津      | 31 相女谷津   | 44 大和田谷津    |
| 6 西ノ谷津      | 19 藤(和良比)谷津 | 32 向原谷津   | 45 高津谷津     |
| 7 井ノ下小谷津    | 20※村上上谷津    | 33 宮内谷津   | 46 愛宕沢      |
| 8 作ヶ谷津      | 21 間谷谷津     | 34 砂戸谷津   | 47※勝田上谷津    |
| 9 柏谷津       | 22 伊勢谷津     | 35 須久茂谷津  | 48 駒留谷津     |
| 10 石神谷津     | 23 森下谷津     | 36 入谷津    | 49 スウメノ谷津   |
| 11 花輪谷津     | 24 西谷津      | 37 寺谷津    |             |
| 12※大和田新田上谷津 | 25 家下谷津     | 38 池ノ谷津   |             |
| 13 津金谷津     | 26 毘沙谷津     | 39 (中島支谷) |             |

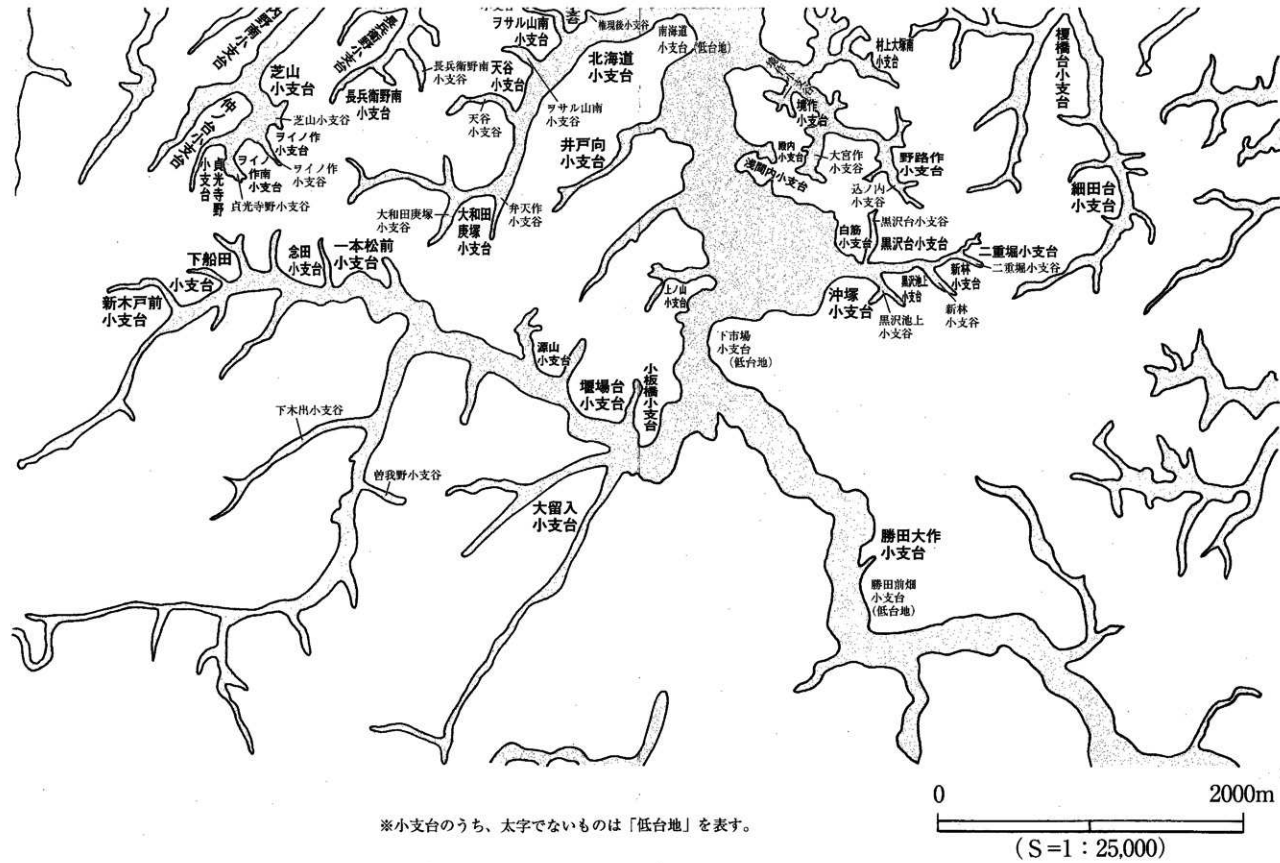
※は混乱をふせぐため、措置として頭に台名を冠した。





附図2 八千代市域における台・谷・支台・支谷名称





附図3 八千代市域における小支台・小支谷名称